

佐世保市
食育に関するアンケート調査
結果報告

令和7年11月

目次

I アンケートの目的と結果の概要	1
A. 調査の概要	2
B. アンケート調査結果の概要	4
1. 回収状況の数	4
2. 有意差検定「検定評価」について	4
3. 前回の報告書とは分析方法が異なる項目	5
4. 調査結果	6
C. 佐世保市食育推進計画 基本目標「食育を推進するための達成状況について」	10
II アンケート調査結果	12
A. 回答者の属性	13
(1) (小学5年生、中学2年生、成人) 男女比	13
(2) (成人) 年代	13
(3) (成人) 職業等	15
(4) (成人) 世帯構成	15
(5) (小学5年生、中学2年生、成人) 体格	17
(6) (小児) 生活リズム	24
B. 基本目標1 食育の認知度を向上させる	26
(1) (成人) 食育の認知度	26
(2) (成人) 食育の取り組み	30
(3) (成人) 食育に関する取り組みを行わない理由	34
(4) (成人) 情報の取得先	38
C. 基本目標2 朝食の欠食について (欠食する市民の割合の減少)	44
(1) (成人) 朝食の摂取状況	44
(2) (小児) 朝食の摂取状況	49
(3) (成人) 朝食を食べるためには必要なこと	54
D. 基本目標3 栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす	57
(1) (成人) 栄養バランス	57
(2) (成人) 主食、主菜、副菜のうち食べられていないもの	62
(3) (成人) 栄養バランスに配慮した食事を増やすために必要なこと	64
(4) (成人) 食事指針の認知度	67
(5) (小児) 魚摂取状況	69
(6) (小児) 野菜摂取状況	70
(7) (小児) 野菜摂取不足の理由	71
(8) (成人) 外食・中食の頻度	73

(9) (成人) メニュー選択の条件	77
E. 基本目標4 生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけ、実践する市民を増やす	81
(1) (成人) 生活習慣病の予防や改善に関する実践	81
(2) (小学5年生、中学2年生) 体型を気にする割合	88
(3) (小学5年生、中学2年生) ふだんの生活に気をつけている割合	90
(4) (小学5年生、中学2年生) ふだんの生活で気をつけている内容	91
(5) (未就学児) お子様の生活で気をつけている内容	92
(6) (成人) 栄養成分表示を見ている人	93
F. 基本目標5 噉ミング30の推進について (ゆっくりよく噉んで食べる市民を増やす)	96
(1) (成人) 噉むことへの意識	96
(2) (小児) 噉むことへの意識	98
G. 基本目標6 家族そろっての食事の機会を増やす	102
(1) (成人) 共食の頻度	102
(2) (小児) 孤食の頻度	105
(3) (小学5年生、中学2年生) 孤食の頻度 (ご飯の調理)	106
(4) (小学5年生、中学2年生) 孤食の頻度 (購買)	107
H. 基本目標8 食育の推進にかかるボランティアの数を増やす	109
(1) (成人) ボランティアの参加	109
(2) (成人) 食育の推進に関わるボランティア活動に参加していない理由	110
I. 基本目標9 地産地消の推進について (地場産物を認知している市民を増やす)	115
(1) (小学5年生、中学2年生、成人) 地場産物を認知している市民の割合	115
(2) (成人) 地場産物を選択する市民の割合	117
(3) (中学2年生、成人) 特産品の認知状況	119
J. 基本目標10 食文化 (伝統的な料理や作法など) を継承し、伝えている市民を増やす	121
(1) (小児) おはしの持ち方	121
(2) (小児) 食事の際の習慣	123
(3) (成人) 郷土料理に関心を持つ人	125
(4) (成人) 食文化を受け継ぐことの意識	127
(5) (成人) 食文化を受け継いでいるか	129
(6) (成人) 食文化を伝えているか	131
(7) (成人) 食文化を受け継ぐために必要なこと	133
K. 基本目標11 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民を増やす	136
(1) (成人) 食品ロス問題の認知度	136

(2) (成人) 食品ロスの取り組み.....	138
(3) (成人) 何らかの行動をしている人.....	142
L. 基本目標 1.2 食品の安全性に関する基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合の増加.....	144
(1) (小児、成人) 自ら判断する市民の割合.....	144
(2) (成人) 食品の安全性に関する知識.....	148
(3) (成人) 食品の安全性に対する判断.....	149
(4) (成人) 非常食の用意.....	151
III アンケート調査用紙.....	153

I アンケートの目的と結果の概要

A. 調査の概要

1. 調査の目的

令和3年度に策定した「第4次佐世保市食育推進計画（令和4～8年度）」に掲げる基本目標の達成度を把握するとともに、次期食育推進計画策定に向けた基礎資料として、アンケート調査を実施し、その調査結果の集計・分析を行い、報告書を作成し、次期食育推進計画に反映させて更なる食育の推進と健康を資することを目的とする。

2. 調査の対象

調査地区：佐世保市

調査対象： i) 佐世保市民 16～79 歳 4,000 名

ii) 佐世保市内の施設に通園する全未就学児 1,769 名

iii) 佐世保市内の公立小学校 2 年生 409 名

佐世保市内の公立小学校 5 年生 453 名

佐世保市内の公立中学校 2 年生 551 名

対象の抽出方法：

「佐世保市が行うアンケート調査にかかる住民基本台帳情報の利用に関する規則」に基づき年齢層及び性別を除き無作為に抽出

3. 調査の実施時期

令和 7 年 7 月 15 日～9 月 15 日

4. 調査方法

- i) 佐世保市民 16～79 歳は、郵送にて調査票配布、及び Web 回答にて回収、もしくは返送により回収
- ii) 全未就学児は各施設に郵送し、施設から保護者へ調査票配布、及び Web 回答にて回収
- iii) 公立小学校 2 年生・5 年生は各小学校から児童へ調査票配布、及び Web 回答にて回収
公立中学校 2 年生は各中学校から生徒へ調査票配布、及び Web 回答にて回収

5. 調査の設計

- i) 企 画 立 案 : 佐世保市 保健福祉部 健康づくり課
佐世保市食育推進会議
- ii) 調 査 票 作 成 : 佐世保市 保健福祉部 健康づくり課
- iii) 調査票配布・回収 : 佐世保市 保健福祉部 健康づくり課
- iv) 入力・集計・作表・解析・報告書作成・編集 : 株式会社ジオ・クリエイト

6. 個人情報の取り扱いについて

個人情報保護法、各省庁が作成した個人情報に関するガイドライン、佐世保市個人情報保護条例等を遵守し、アンケート等のため佐世保市が提供した個人情報については、受託者は受託業に基づき、適正な管理・運営を行う。

7. 統計処理上の数値について

回答は回答者を基数とした百分率で表し、本報告書では小数第2位を四捨五入して表記した。そのため、図中の合計が100.0%とならない場合がある。

B. アンケート調査結果の概要

1. 回収状況の数

対象者	対象者数 (人)	回答者 (人)	回収率 (%)	有効回答数 (人)	有効回答率 (%)
成人（16～79歳）	4,000	1,265	31.6%	1,265	100.0%
未就学児	1,769	409	23.1%	409	100.0%
小学2年生	409	409	100.0%	409	100.0%
小学5年生	453	399	88.1%	399	100.0%
中学2年生	551	465	84.4%	465	100.0%

2. 有意差検定「検定評価」について

本報告書では、前回調査である令和2年度の結果値と、今回調査を行った令和7年度の結果値を比較し目標に対する達成分析を行っており、そのため有意差検定を実施した。

有意差検定の計算方法は以下の通り。

例 (成人) 食育の認知度

	年度	意味も含めて知っている	聞いたことはあるが、意味は知らない	知らない	無回答	合計
実測値	7	733	464	59	9	1265
	2	948	723	116	5	1792
	計	1681	1187	175	14	3057
期待値	7	695.6052	491.1858	72.41577	5.793261	1265
	2	985.3948	695.8142	102.5842	8.206739	1792
	計	1681	1187	175	14	3057

① 実測値から期待値を算出

R7年度の「意味を含めて知っている」の期待値 = 「意味を含めて知っている」計 × R7年度の合計 ÷ 計の合計

$$= 1,681 \times 1,265 \div 3,057$$

$$= 695.6052$$

これと同じ計算にて全項目で実施する。

② p 値の算出

実測値及び計測値から計と合計を除いた値をそれぞれ対象範囲とし、数式で p 値を算出。

$p \text{ 値} = \text{CHISQ. TEST} (733: 5, 695.6052: 8.206739)$

$p \text{ 値} = 0.00409882$

≈ 0.00 (0.00 は「0」ではなく、0.01 より小さい値という意味)

③ p 値の値から検定評価

有意水準 5% = p 値 0.05 であることから

$p \text{ 値} < 0.05 \quad \bigcirc : \text{有意差あり}$

$P \text{ 値} > 0.05 \quad \triangle : \text{有意差なし}$

よって、(成人) 食育の認知度の検定評価は

$p \text{ 値} \approx 0.00$ であるから

「 $\bigcirc : \text{有意差あり}$ 」という結果となる。

3. 前回の報告書とは分析方法が異なる項目

① BMI の算出方法

厚生労働省「日本人の食事摂取基準(2025 年版)」に基づき、今回調査では、60 歳代を 60~64、65~70 の二つに分割し BMI の値を算出した。

なお、前回調査結果も、今回の変更に従って再計算を行い、今回の調査結果と比較検討を行っている。

年齢(歳)	目標とする BMI(kg/m ²)
18~49	18.5~24.9
50~69	20.0~24.9
70以上	21.5~24.9

年齢(歳)	目標とする BMI(kg/m ²)
18~49	18.5~24.9
50~64	20.0~24.9
65~74	21.5~24.9
75以上	21.5~24.9

やせ	目標とする BMI の範囲未満の場合
普通	目標とする BMI の範囲内の場合
肥満	目標とする BMI の範囲を超える場合

② (小学5年生、中学2年生) 体格の算出方法

前回調査では、「肥満度」による体格を算出する事にしていたが、算出に必要な「性別」を取集していなかったため、「肥満度」の算出ができなかった。

そこで、今回調査では、「性別」が必要ない「ローレル指数」で算出した。

$$\text{ローレル指数} = \frac{\text{体重} \quad (\text{kg})}{\text{身長} \quad (\text{cm})^3} \times 10^7$$

[ローレル指数の分類]

やせすぎ	99以下
やややせている	100～114
標準準	115～144
やや太っている	145～159
太りすぎ	160以上

なお、前回調査結果も、今回の変更に従って再計算を行い、今回の調査結果と比較検討を行っている。

4. 調査結果

(1) 「食育」の認知度を向上させる

「『食育』という言葉を知っていますか」という質問に対し、全体の94.6%が「意味も含めて知っている」または「聞いたことはあるが、意味は知らない」と回答した。前回調査結果より5.0%上昇したが、「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(80.0%)は達成できていない。年代別性別で見ると、最も高い割合を示したのが、50代女性であり、次いで40代女性だった。

食育の取り組みの内訳では、最も高く「継続して取り組んでいる」と回答したのは、前回調査と同じで「食品の安全性に配慮すること」であった。「取り組んでいないが、今後取り組んでみたい」では、「郷土料理などに关心を持つこと」であった。「取り組む予定はない」の割合が高かったのが「子どもに食べ物に関する話をする」と「食に関するイベントに参加すること」以外は、全体的に「継続して取り組んでいる」と「ときどき取り組んでいる」の合計の割合が減少している。

「食育」に関する取り組みを行っていない理由を年代別に分析すると、10代～50代は、「他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」を最も多く選択している。また、60代では、「他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」と「食育を始めるきっかけがないから」、70代では「食育について身近に教わる人がいないから」が最も多く選択されている。

情報の取得先として回答した割合が最も高かったのは、「テレビ」であった。年代別に見ると、60代や70代は、「テレビ」「新聞・雑誌」を多く選択しているが、30代や40代では、「インターネット上のニュースサイト」「YouTube等の動画サイト」「ブログ・SNS」を選択する傾

向がある。

(2) 朝食を欠食する市民を減らす

朝食を「全く食べない」と回答した割合は、6.3%だった。性別で見ると、男性の方が、女性より高い割合を占めた。今回の調査結果は、0.9%減少したが目標である「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(5.0%)を上回り、目標を達成できていない。

年代別では、朝食を「全く食べない」と回答した割合は、男性では40代が最も高く、続いて50代となった。女性では20代が最も高かった。

小児では、小学2年生で1.1%、小学5年生で0.2%減少したが、未就学児で0.1%、中学2年生で1.1%増加し、「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(0.0%)を達成できていない。

(3) 栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす

主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが「ほとんど毎日」と回答した割合は、前回調査より7.7%増加し52.6%だった。しかし、目標である「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(60.0%)は達成できなかった。一方、若い世代(20~30代)では、10.6%増加し42.8%となり、目標(40.0%)を上回り達成した。

魚及び野菜の摂取状況では、「ほとんど毎日」と回答した学年は、小学2年生だが、同時に「ほとんど食べない」と回答した割合も最も高かった。野菜を食べない理由は、未就学児、小学2年生では、「味がきらいだから」「見た目がきらいだから」が高いが、小学5年生、中学2年生では、「食事の時に出てこないから」となる。

外食・中食の頻度では、最も割合が高かったのが「やせ」の男性であり、続いて「肥満」の男性となった。

(4) 生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけ、実践する市民を増やす

生活習慣病の予防や改善に関する実践では、男性、女性ともに7割近くが「いつも実践している」「ときどき実践している」と回答した。前回調査結果より4.4%増加し73.0%だったものの、「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(75.0%)を達成できなかった。

年代別に見ると、年代が上がるにつれ「いつも実践している」と回答する割合が増加する傾向がある。

小児において、体型を気にする割合やふだんの生活に気をつけている割合では、男性は学年が上がってあまり変化がないが、女性は回答する割合が高くなる。

栄養成分表示を見ている人では、今年度は、19.2%増加し51.7%となり、「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(45.0%)を達成した。

(5) 噙ミング30の推進について（ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす）

噛むことに意識して行動している割合は、成人で74.7%となり、前回調査結果より7.6%増加したものの、「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(80.0%)を達成できなかった。

一方、小児では、未就学児は減少し目標(80.0%)を達成できなかった。小学2年生・中学2年生は増加したものの目標(90.0%、80.0%)は達成できなかった。小学5年生は、増加し目標(80.0%)を達成できた。

(6) 家族そろっての食事の機会を増やす

成人における共食の頻度で、「3日」以上と回答した割合は、80.3%だった。前回調査結果より1.7%増加したが、「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(90.0%)を達成できなかった。年代別では、「3日」以上と回答した割合が高かったのは40代だった。性別で見ると女性の方が高い。

小児における孤食の頻度では、中学2年生の約半数が「ときどきある」「ほとんど毎日」と回答している。

(7) 食育の推進にかかるボランティアの数を増やす

食育の推進に関わるボランティア活動に参加していない理由で、最も割合が高かったのが「活動の存在を知らなかったから」、続いて「他の事で忙しいから」、そして「特に理由はない」であった。これら項目を20代、40代、70代で比較すると、「活動の存在を知らなかったから」は20代が、「他の事で忙しい」は40代が、「特に理由はない」は70代の割合が最も高くなっている。

(8) 地産地消の推進について（地場産物を認知している市民を増やす）

小学5年生は、今回の調査結果では前回調査結果より5.5%減少し「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(76.0%)を達成できなかった。中学2年生、成人では、前回より5.6%、8.0%増加し、目標(57.0%、83.0%)を達成できた。

地場産物を選択する割合は、女性の方が高かった。また、年代別では、50代が最も高い割合だった。

特産品の認知状況では、最も割合が高かったのは、「西海みかん」であり、続いて「世知原茶」「長崎和牛」だった。

(9) 食文化（伝統的な料理や作法など）を継承し、伝えている市民を増やす

小児について、食事の時に正しく箸を「持っている」と回答した割合は、前回調査より増加している。小学2年生(81.4%)、小学5年生(80.7%)で、「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(75.0%、80.0%)を達成できた。しかし、中学2年生(87.1%)は、目標(90.0%)を達成できなかった。

食事の際の習慣は、全学年とも「『いただきます』『ごちそうさま』と言う」が最も高い割合だった。

「郷土料理に関心を持つこと」を「継続して取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」と回答した割合は、46.1%だった。前回調査結果より上昇したが、「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(50.0%)を達成できなかった。

「食文化を受け継ぐことは大切だと思うか」の質問に対し、「とてもそう思う」「そう思う」の合計の割合は、85.7%だった。また、「食文化を受け継いでいますか。」では、58.8%の人が「受け継いでいる」と回答した。さらに、「食文化を伝えているか」では、7割の方が「伝えている」と回答した。性別では、いずれも「女性」の方が高い割合となった。

(10) 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民を増やす

食品ロス問題の認知度を「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した割合は、96.2%だった。また、「『食品ロス』を減らすために取り組んでいることはありますか。」の質問に対し最も回答した割合が高かったのは、「残さず食べる」で、続いて「料理を作り過ぎない」だった。

食品ロス問題に対する何らかの行動をしている人の割合では、前回調査結果より3.0%上昇し90.0%だったが、「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(95.0%)は達成できていない。

(11) 食の安全性に関する基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民を増やす

「食事の前に必ず手を洗う、または、アルコール消毒をする」と回答した割合は、成人では66.9%だが、小児では50.0%以下であり、特に未就学児は26.2%にとどまっている。全世代合計は50.8%で、前回調査結果より0.3%減少し、「第4次佐世保市食育推進計画」の目標(70.0%)は達成できていない。

「食品の安全性に関する基礎的な知識があると思いますか」という質問に対して8割が「十分にあると思う」「ある程度あると思う」と回答した。また、「食品の安全性に対する判断」でも8割が「いつも判断している」「判断している」と回答している。

非常食については、何らかの量を確保しているのは、女性の方の割合が高いが、自助の「3日分」は、男性の方が高い。年代別に見ると、「全く用意していない」の割合はいずれの年代でも3割程度を占めている。

C. 佐世保市食育推進計画 基本目標「食育を推進するための達成状況について」

「第4次佐世保市食育推進計画」の基本目標の達成状況を把握することができた項目を次ページに一覧表で示した。

その結果達成したものは「栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす（若い世代20～30代）」「生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけ、実践する市民を増やす（栄養成分表示を確認する市民の割合）」「噛みング30の推進について（小学5年生）」「地産地消の推進について（中学2年生・成人）」「食文化を継承し、伝えている市民を増やす（正しい箸の持ち方ができる子どもの割合 小学2年生・小学5年生）」であった。

また、目標値には達成してはいないが、令和2年度の現状値から改善している項目は、「食育の認知度を向上させる」「朝食を欠食する市民を減らす（小学2年生・小学5年生・成人）」「栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす（成人）」「生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけ、実践する市民を増やす（適正体重の維持や減塩に気をつけた食生活を実践する市民の割合）」「噛みング30の推進について（小学2年生・中学2年生・成人）」「家族そろっての食事の機会を増やす」「食文化を継承し、伝えている市民を増やす（正しい箸の持ち方ができる子どもの割合 中学2年生）」「食文化を継承し、伝えている市民を増やす（郷土料理などに関心を持つ市民の割合）」「食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民を増やす」であった。

一方、目標値を達成できず、令和2年度の現状値より悪化しているのは、「朝食を欠食する市民を減らす（未就学児・中学2年生）」「噛みング30の推進について（未就学児）」「地産地消の推進について（小学5年生）」「食の安全性に関する基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民を増やす」であった。

今回の調査結果の特徴としては、「未就学児」に関する結果が悪化した点にある。例えば「食の安全性」において「食事の前に必ず手を洗う、または、アルコール消毒をする」では、全体的に見ると0.3%と僅かな減少となった。しかし、成人と小児で分けて分析すると、成人は7.0%増加の66.9%、小児は減少し50.0%以下となった。特に未就学児は12.9%も減少し26.2%にとどまっている。つまり、成人の衛生管理の視点での食の安全性の意識は高まっているが、小児はそうではなく、小児への食育に今後も充実した取り組みが不可欠といえる。

また、別の側面として「食の安全性」において「非常食の準備」に関する注意すべき点である。全国と比較すると、11.7%低い20.0%にとどまっている。さらに「自助」である3日分、及びそれ以上確保している割合は、合計で29.2%に過ぎない。これは、災害があまり発生しない佐世保という地域性からくるものと思われるが、今後の普及啓発活動により、自ら判断して行動する市民を増やす事が必要と思われる。

表 1 第4次佐世保市食育推進計画 目標値及び実績値

番号	基本目標	推進項目	推進項目	現状値 令和2年度	目標値 令和8年度	調査 結果 令和7年度	目標 評価	有意差 検定 (p 値)	検定 評価
1	食育の認知度を向上させる	「食育」を知っている人の割合		52.9%	80.0%	57.9%	△	0.00	○
2	朝食を欠食する市民を減らす	欠食する市民の割合	未就学児	0.1%	0%	0.2%	×	0.68	△
			小学2年生	2.3%	0%	1.2%	△	0.50	△
			小学5年生	2.0%	0%	1.8%	△	0.69	△
			中学2年生	0.6%	0%	1.7%	×	0.12	△
			16~79歳	7.2%	5.0%	6.3%	△	0.02	○
3	栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	16~79歳	44.9%	60.0%	52.6%	△	0.00	○
			若い世代 20~30代	32.3%	40.0%	42.8%	◎	0.02	○
4	生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけ、実践する市民を増やす	生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や減塩に気をつけた食生活を実践する市民の割合		68.6%	75.0%	73.0%	△	0.04	○
		栄養成分表示を確認する市民の割合		32.5%	45.0%	51.6%	◎	---	---
5	嗜ミング30の推進について(ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす)	ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合	未就学児	70.1%	80.0%	68.7%	×	0.41	△
			小学2年生	84.3%	90.0%	85.6%	△	0.00	○
			小学5年生	68.4%	80.0%	83.0%	◎	0.00	○
			中学2年生	65.0%	80.0%	72.9%	△	0.00	○
			16~79歳	67.1%	80.0%	74.7%	△	0.00	○
6	家族そろっての食事の機会を増やす	1週間のうち家族そろって食事する日が3日以上ある市民の割合		78.6%	90.0%	80.3%	△	0.24	△
7	学校における食育の取り組みなどを増やす(充実させる)	学校給食に地場産物(佐世保産)を使用する割合(重量比)		50.6%	55.0%	---	---	---	---
		食育の視点を踏まえた各教科などにおける授業実践(栄養教諭及び学校栄養職員の参画を含む)を行っている学校の割合		100%	100%	---	---	---	---
8	食育の推進にかかるボランティア団体等において活動している人数			220人	264人	---	---	---	---
9	地産地消の推進について(地場産物を認知している市民を増やす)	佐世保市や長崎県産の農畜産物・水産物を認知している市民の割合	小学5年生	69.4%	76.0%	63.9%	×	0.03	○
			中学2年生	52.5%	57.0%	58.1%	◎	0.06	△
			16~79歳	75.7%	83.0%	83.7%	◎	0.00	○
10	食文化(伝統的な料理や作法など)を継承し、伝えている市民を増やす	正しい箸の持ち方ができる子どもの割合	小学2年生	68.4%	75.0%	81.4%	◎	0.57	△
			小学5年生	71.8%	80.0%	80.7%	◎	0.00	○
			中学2年生	82.4%	90.0%	87.1%	△	0.01	○
		郷土料理などに関心を持つ市民の割合		43.7%	50.0%	46.1%	△	0.00	○
11	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民を増やす	食品ロス削減のために何らかの行動をする市民の割合		87.0%	95.0%	90.0%	△	0.00	○
12	食品安全性に関する基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民を増やす	食事前の正しい手洗いを実践する市民の割合		51.1%	70.0%	50.8%	×	0.89	△

目標評価：◎ 目標値を達成したものの △ 前回調査結果より改善したが目標値が達成していないものの × 前回調査結果より改善しなかったもの
検定評価：○ 有意差あり(p値0.05以下) △ 有意差なし(p値0.05以上)

--- 前回調査と基準や取集方法が異なるため、今回の調査では判断できないもの

Ⅱ アンケート調査結果

A. 回答者の属性

(1) (小学5年生、中学2年生、成人) 男女比

(成人) F1 あなたの性別を教えてください。

(小学5年生、中学2年生) 問12 (1) あなたの性別についての質問です。

(2) (成人) 年代

(成人) F2 あなたの年齢を教えてください。

回答者の男女比は、10代のみ男女の比率は同じだが、これ以外の年代では女性の方が高い結果となり、全年代では、男性：女性=4：6であった。

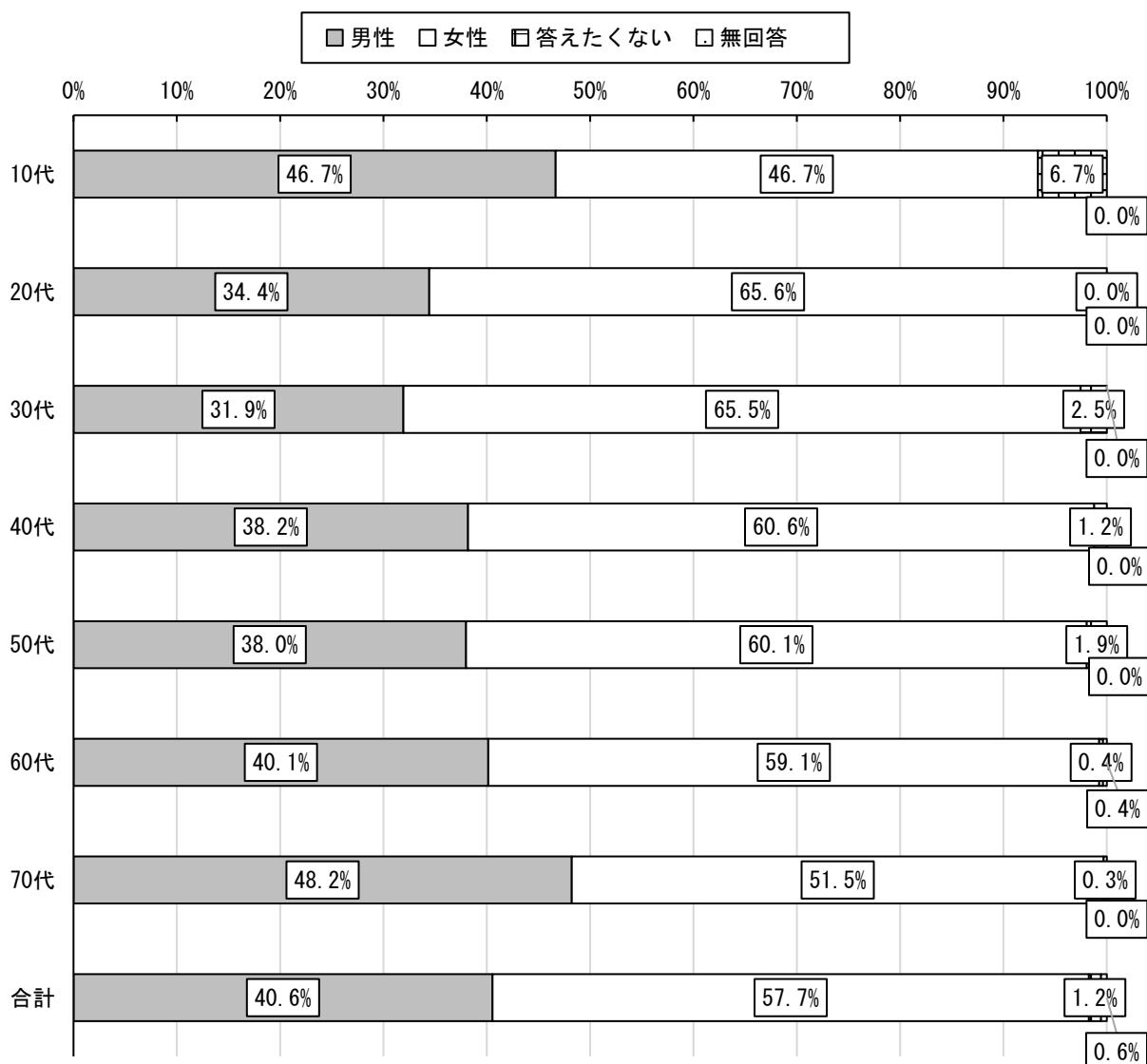


図1 (成人) 性別、年代

男女ともに、「70代」が最も高かった。

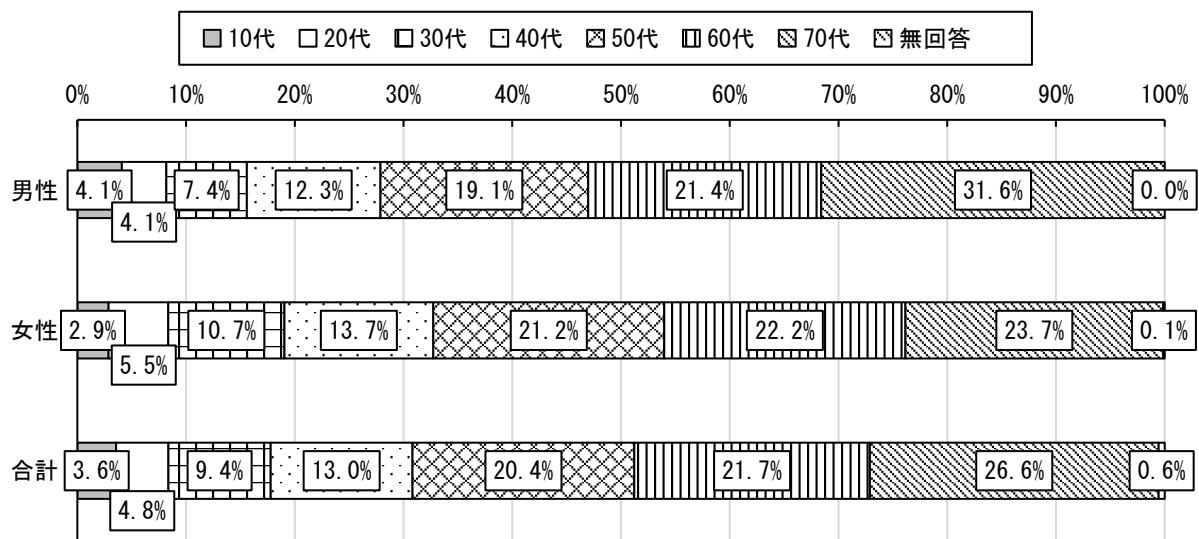


図 2 (成人) 年代、性別

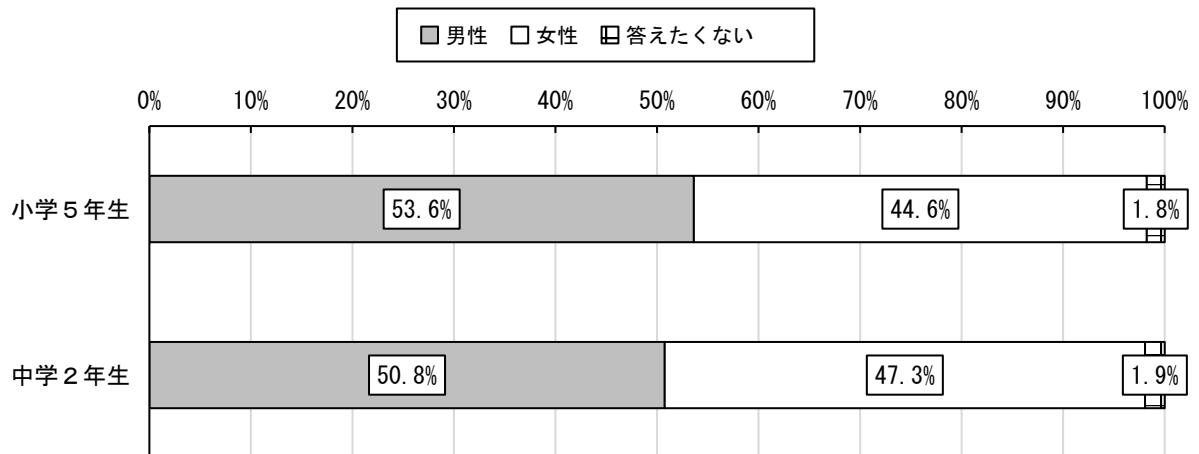


図 3 (小学5年生、中学2年生) 性別、学年

(3) (成人) 職業等

(成人) F3 あなたの「主な職業」または「現在の状況」は、次のうちどれにあてはまりますか。

職業別に見た回答者の割合は、男女ともに「勤め人」が最も高かった。前回調査では、女性で最も高い職業は「学生・専業主婦」であった。

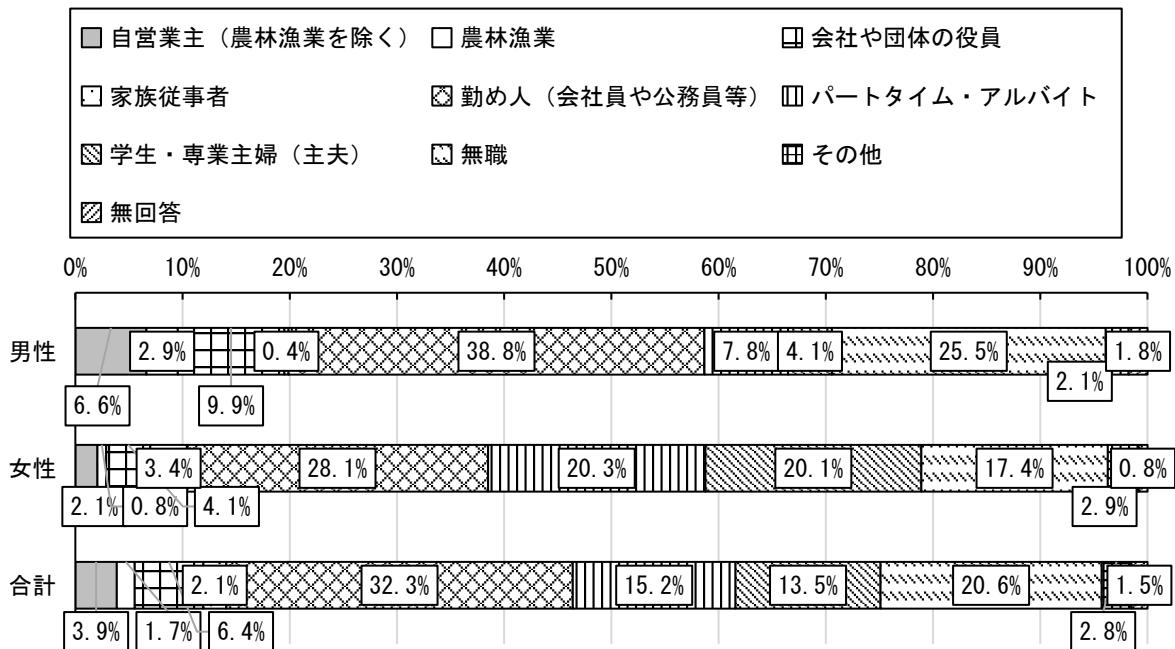


図 4 (成人) 職業、性別

(4) (成人) 世帯構成

(成人) F4 あなたの世帯構成は次のうちどれにあてはまりますか。

世帯構成別に見た回答者の割合は、「親子」が最も高かった。

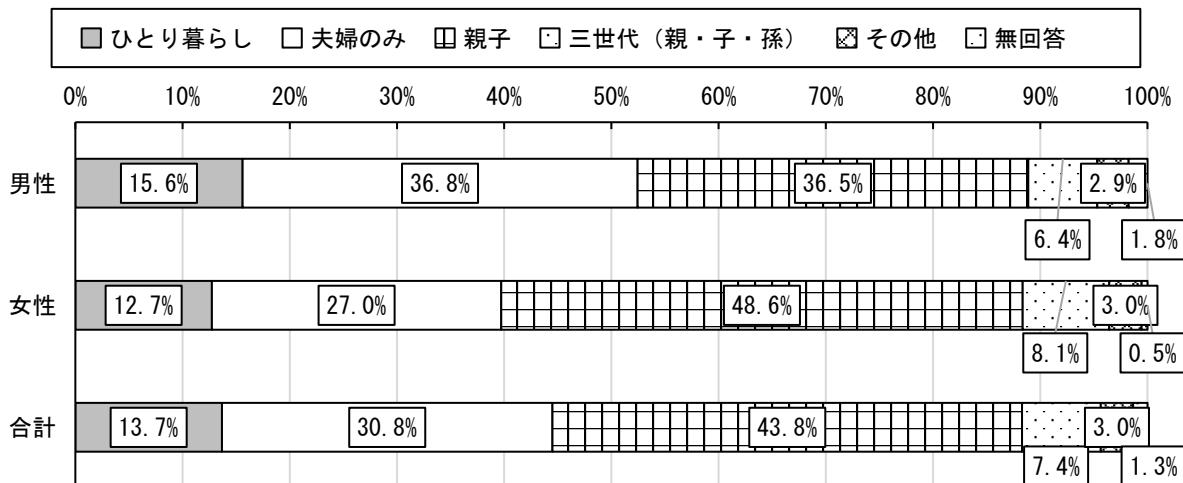


図 5 (成人) 世帯構成、性別

「ひとり暮らし」の最も高い割合を示したのが「20代」であった。次に割合が高かったのが「70代」であった。50代から「ひとり暮らし」および「夫婦のみ」の占める割合が増加する傾向にある。

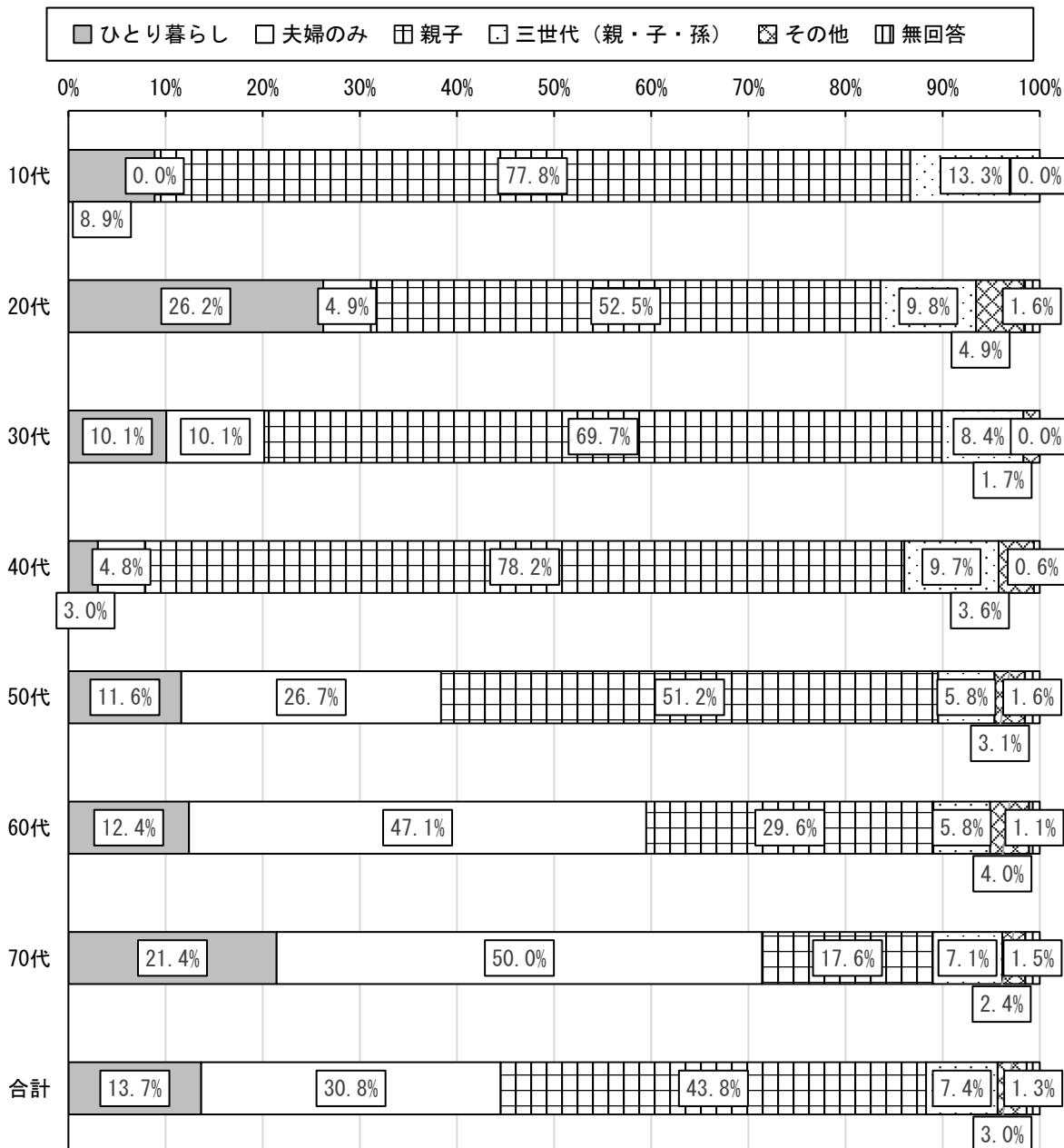


図 6 (成人) 年代、世帯構成

(5) (小学5年生、中学2年生、成人) 体格

(成人) F 5 あなたの身長と体重を教えてください。

(小学5年生、中学2年生)

問12 (2) あなたの身長を下記に整数で記入してください。

問12 (3) あなたの体重を下記に整数で記入してください。

体格別に見た回答者の割合は、「標準」が最も高かった。性別で見ると、男性の方が女性よりも「やせ」の割合が低く、「肥満」の割合が高くなる傾向がある。

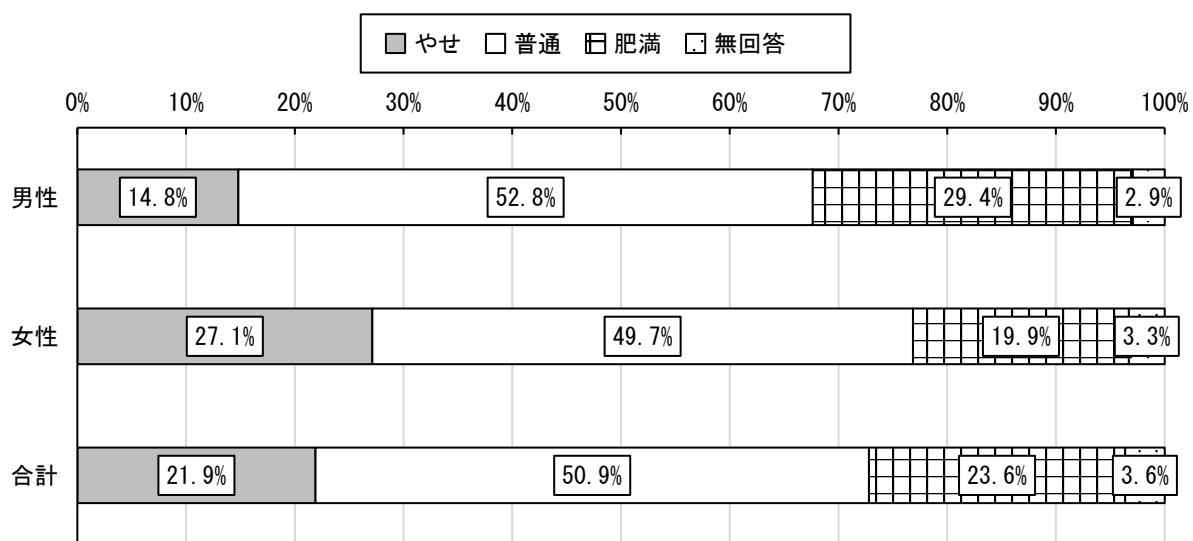


図7 (成人) 体格、性別

年代別では、「やせ」が最も高いのは「70代」、続いて「60代」「20代」であった。
「肥満」が最も高い年代は、「50代」であり、続いて「70代」「60代」であった。

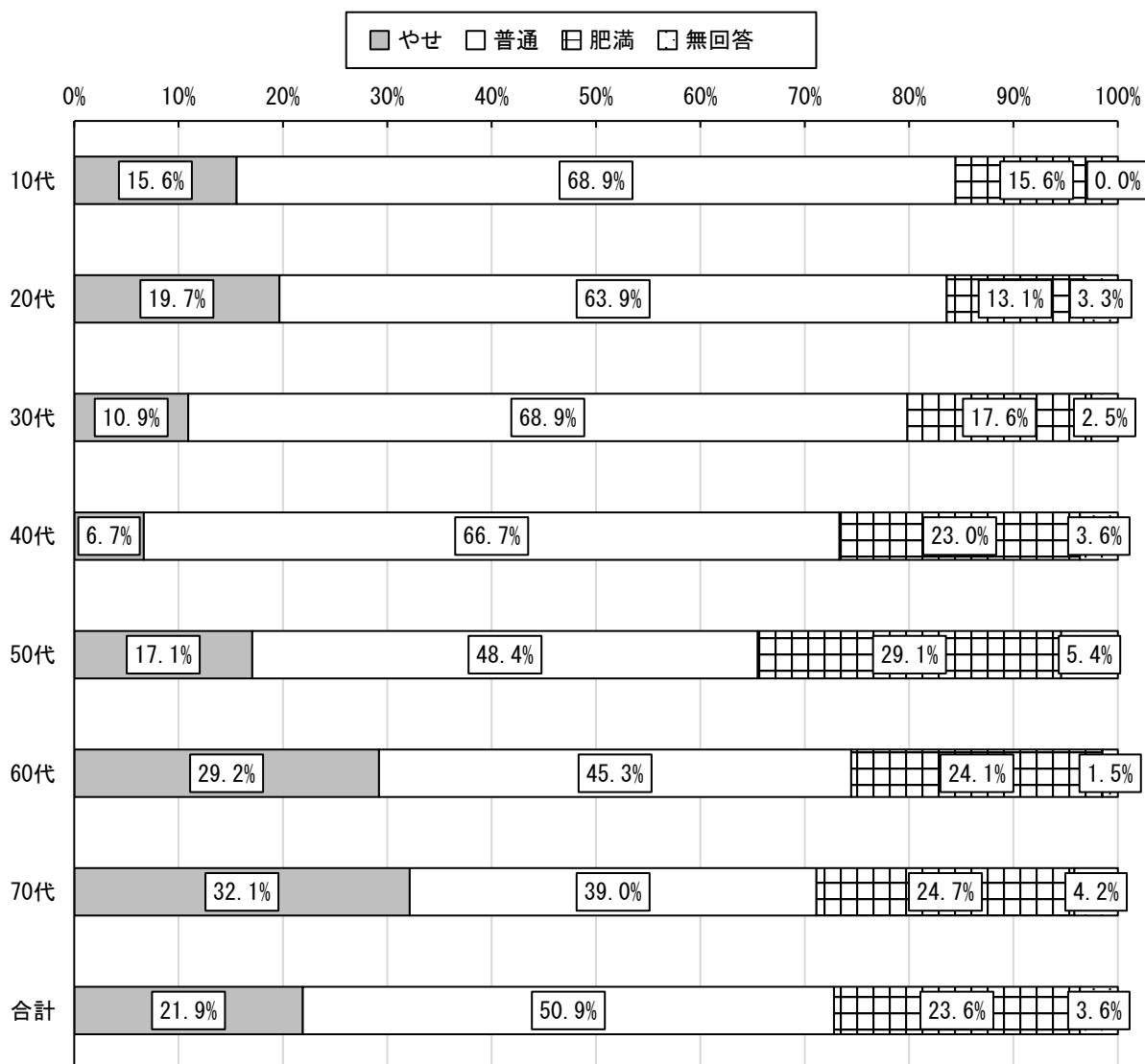


図 8 (成人) 体格、年代

＜全国との比較＞

比較対象とした全国における BMI に関する状況の情報は、以下の値を参照した。

出典元：令和5年国民健康・栄養調査報告（厚生労働省）第2部身体状況調査の結果 P109

表 2 第17表の1 BMIの状況一年齢階級、肥満度（BMI）別、人数、割合－総数・男性・女性、15歳以上〔妊婦除外〕

	件数				割合			
	男性	やせ	普通	肥満	合計	やせ	普通	肥満
10代	15	52	9	76	19.7%	68.4%	11.8%	100.0%
20代	13	93	32	138	9.4%	67.4%	23.2%	100.0%
30代	10	124	58	192	5.2%	64.6%	30.2%	100.0%
40代	6	145	79	230	2.6%	63.0%	34.3%	100.0%
50代	15	200	115	330	4.5%	60.6%	34.8%	100.0%
60代	8	232	129	369	2.2%	62.9%	35.0%	100.0%
70代	31	408	179	618	5.0%	66.0%	29.0%	100.0%
計	98	1254	601	1953	5.0%	64.2%	30.8%	100.0%
女性	やせ	普通	肥満	合計	やせ	普通	肥満	合計
10代	15	64	3	82	18.3%	78.0%	3.7%	100.0%
20代	29	76	14	119	24.4%	63.9%	11.8%	100.0%
30代	39	152	27	218	17.9%	69.7%	12.4%	100.0%
40代	32	190	52	274	11.7%	69.3%	19.0%	100.0%
50代	44	261	98	403	10.9%	64.8%	24.3%	100.0%
60代	44	259	101	404	10.9%	64.1%	25.0%	100.0%
70代	68	490	159	717	9.5%	68.3%	22.2%	100.0%
計	271	1492	454	2217	12.2%	67.3%	20.5%	100.0%
合計	やせ	普通	肥満	合計	やせ	普通	肥満	合計
10代	30	116	12	158	19.0%	73.4%	7.6%	100.0%
20代	42	169	46	257	16.3%	65.8%	17.9%	100.0%
30代	49	276	85	410	12.0%	67.3%	20.7%	100.0%
40代	38	335	131	504	7.5%	66.5%	26.0%	100.0%
50代	59	461	213	733	8.0%	62.9%	29.1%	100.0%
60代	52	491	230	773	6.7%	63.5%	29.8%	100.0%
70代	99	898	338	1335	7.4%	67.3%	25.3%	100.0%
計	369	2746	1055	4170	8.8%	65.9%	25.3%	100.0%

※ 元データから抜粋して編集を行った。

体格の性別における全国との比較では、男女ともに佐世保市の方が「やせ」の割合が高くなる傾向がある。

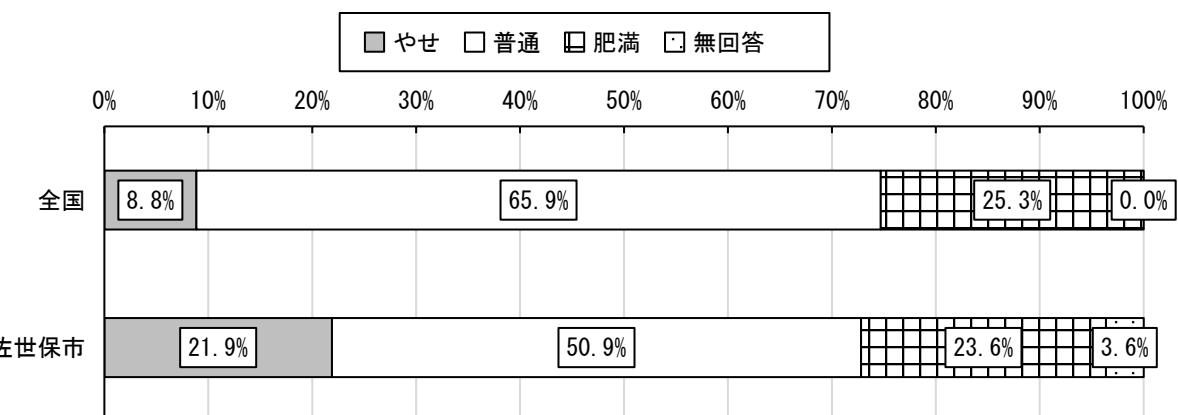


図 9 (成人) 体格、全国との比較

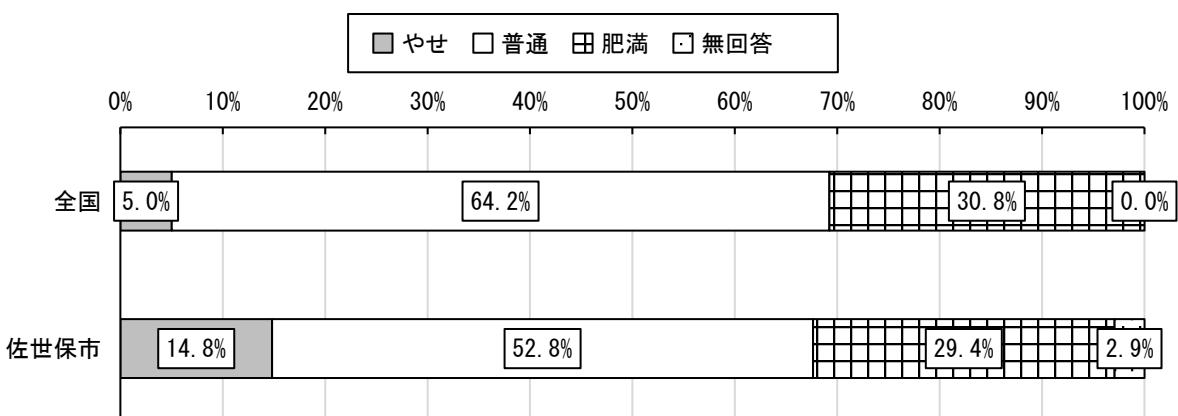


図 10 (成人) 体格、男性、全国との比較

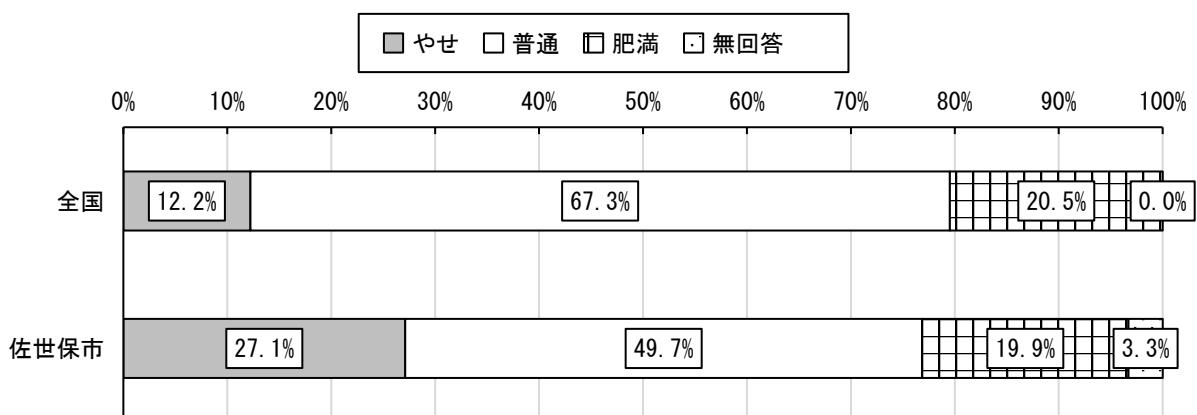


図 11 (成人) 体格、女性、全国との比較

「男性」における年代別に全国と比較すると、「50代」以降で「やせ」の割合の差が高い結果となった。

これに対し「肥満」では、「50代」で全国より高い割合を示しているが、それ以外の年代では「全国」より低い傾向を示している。

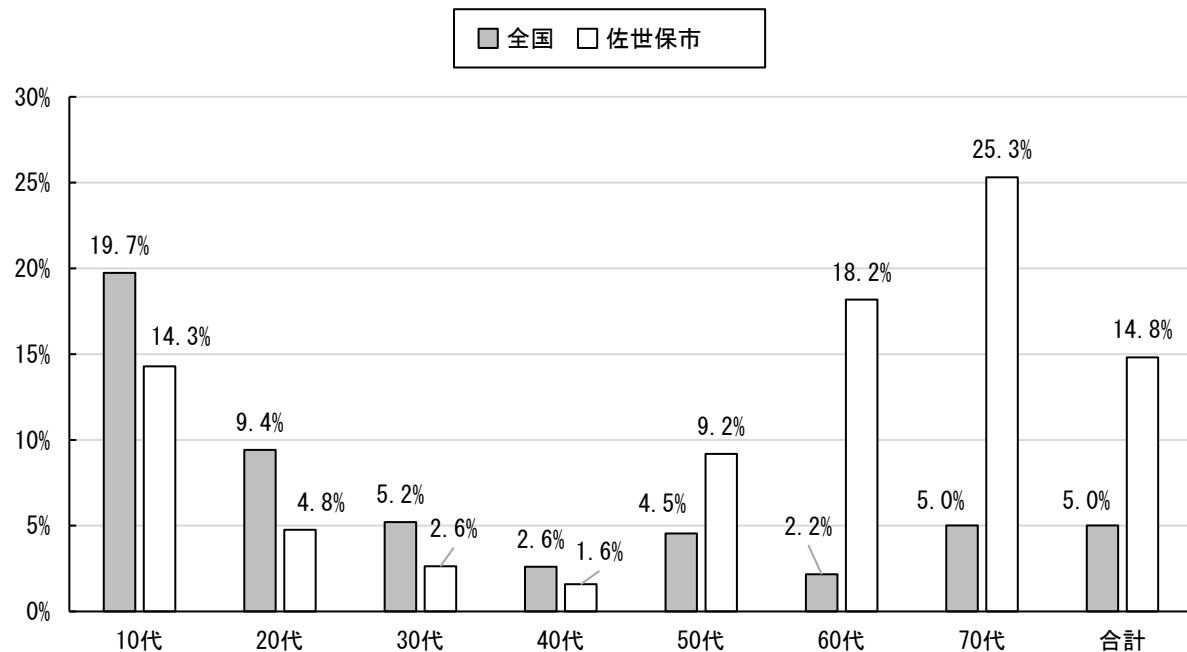


図 12 (成人) 男性、年代、体格【やせ】、全国との比較

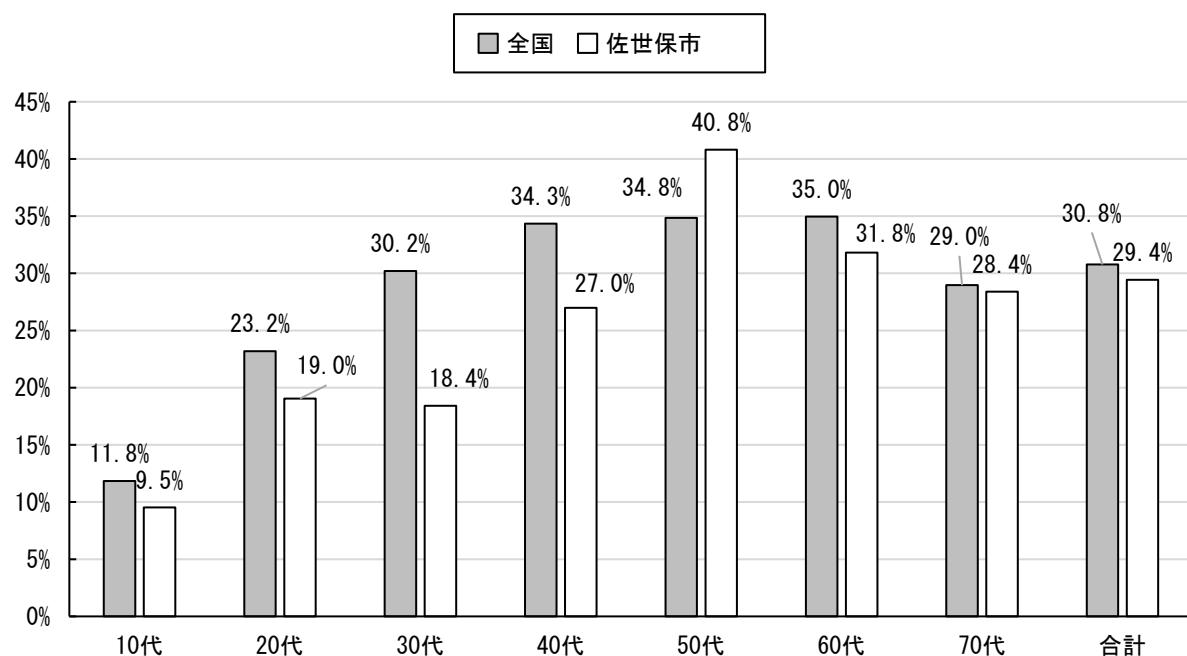


図 13 (成人) 男性、年代、体格【肥満】、全国との比較

「女性」における年代別に全国と比較すると、「50代」以降で、「やせ」の割合の差が高い結果となった。男性のように「10代」での差はなかった。

これに対し「肥満」では、「10代」のみで大きな差がみられる。後は、「全国」と同じ傾向を示している。

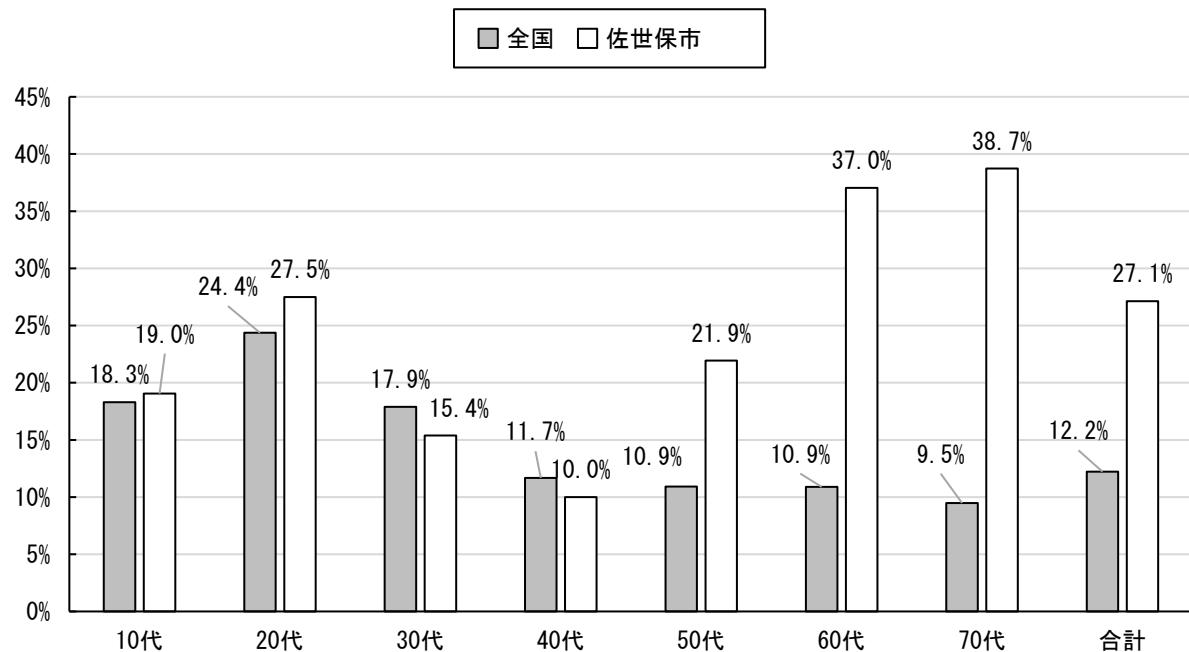


図 14 (成人) 女性、年代、体格【やせ】、全国との比較

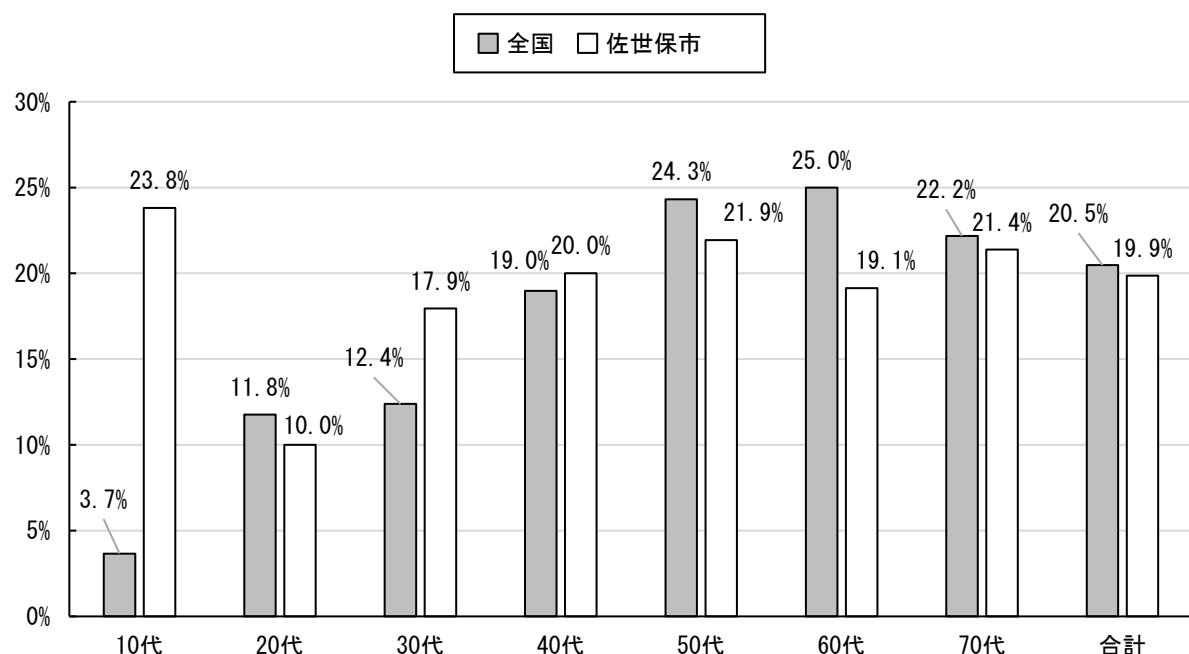


図 15 (成人) 女性、年代、体格【肥満】、全国との比較

「小学5年生」では、男女の差は、それほどなかった。しかし、「中学2年生」では、「男性」の方が「やせすぎ」と「やややせている」の割合が、「女性」に対して大きな差が生じた結果となった。

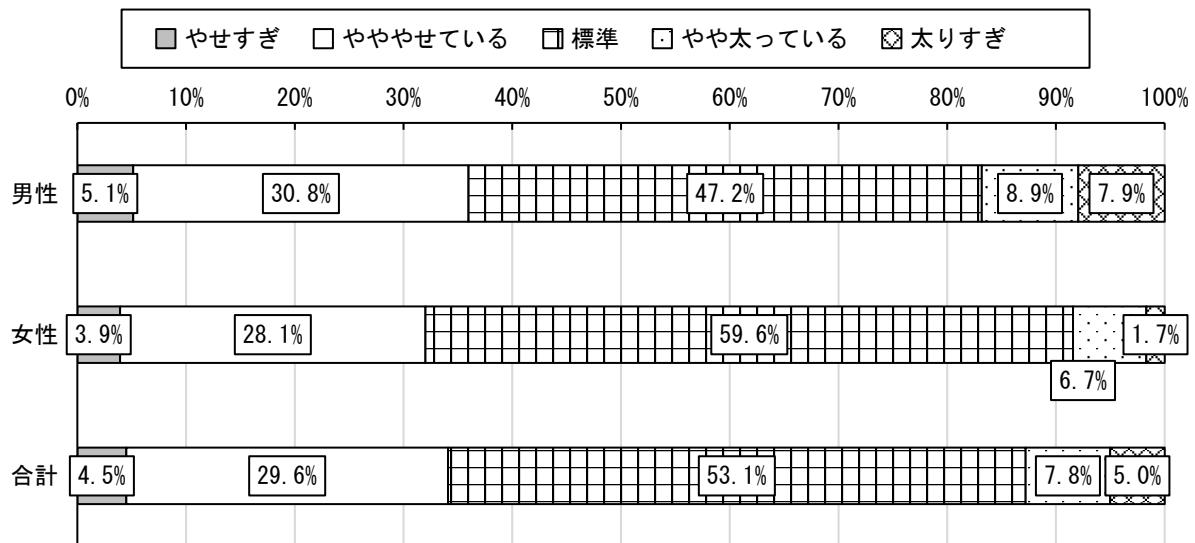


図 16 (小学5年生) 体格、性別

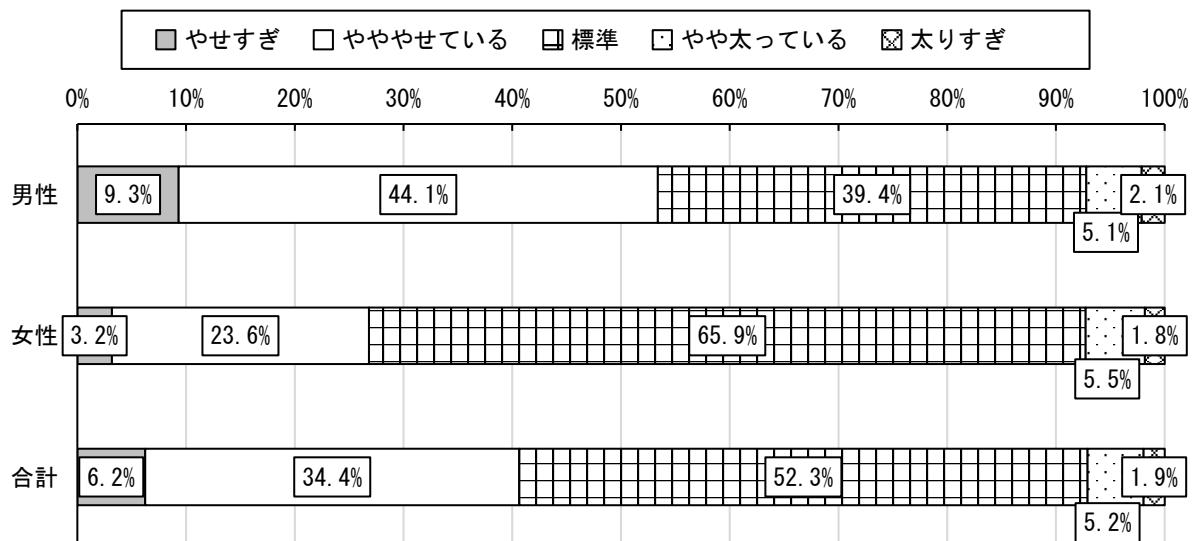


図 17 (中学2年生) 体格、性別

(6) (小児) 生活リズム

(小児) 問4 (1) あなたの学校に行く日の就寝時刻は何時頃ですか。

問4 (2) あなたの学校に行く日の起床時刻は何時頃ですか。

問4 (3) あなたの学校に行く日の家を出る時刻は何時頃ですか。

<就寝時刻>

「未就学児」～「小学5年生」は、「21時～」、中学2年生は「23時～」が最も高かった。

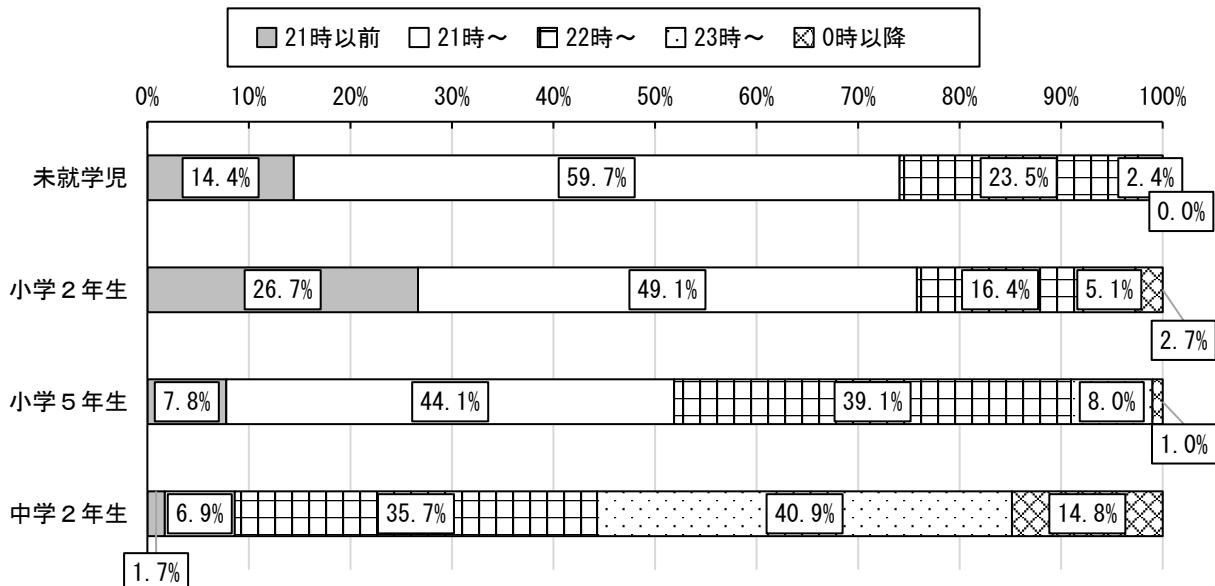


図18 (小児) 就寝時刻、学年別

<起床時刻>

全学年において「6時～」が最も高かった。

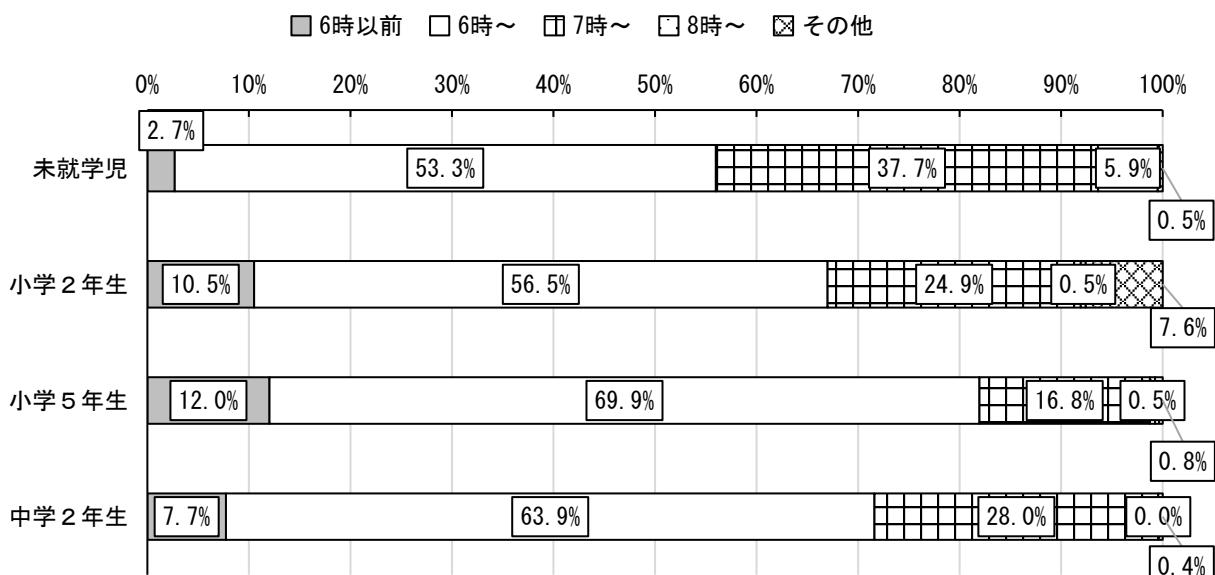


図19 (小児) 起床時刻、学年別

<睡眠時間>

「未就学児・小学2年生」では「9～10時間」が、「小学5年生」では「8～9時間」が、そして「中学2年生」では「7～8時間」が最も高かった。

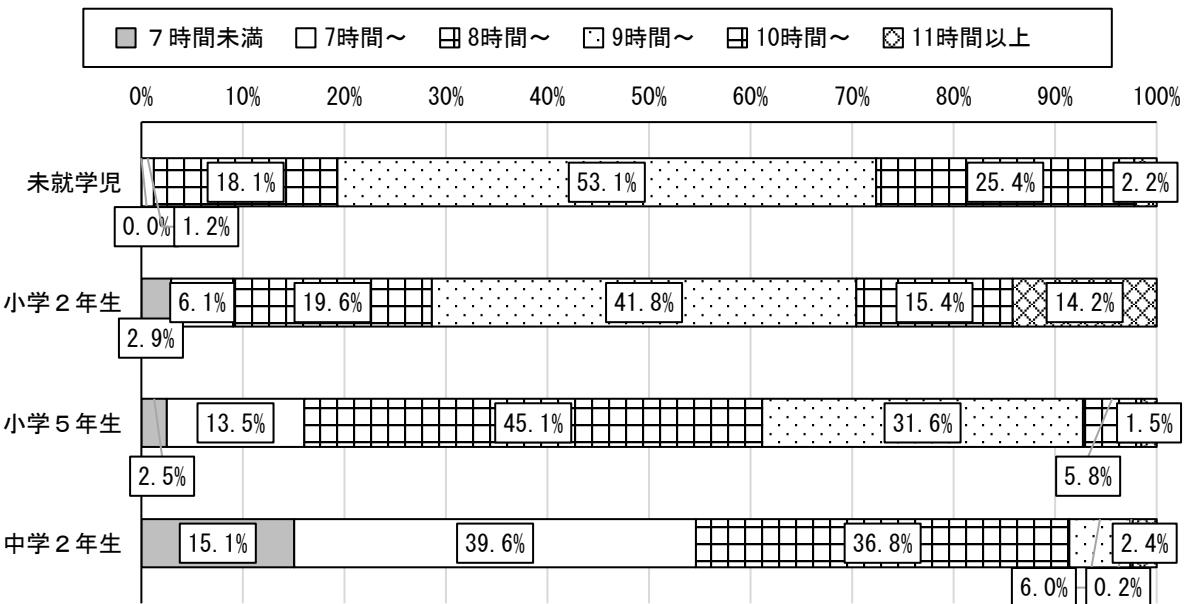


図 20 (小児) 睡眠時間、学年別

<準備時間>

「未就学児」では「1～1.5時間」が、「小学2年生・小学5年生・中学2年生」では「0.5～1時間」が最も高かった。

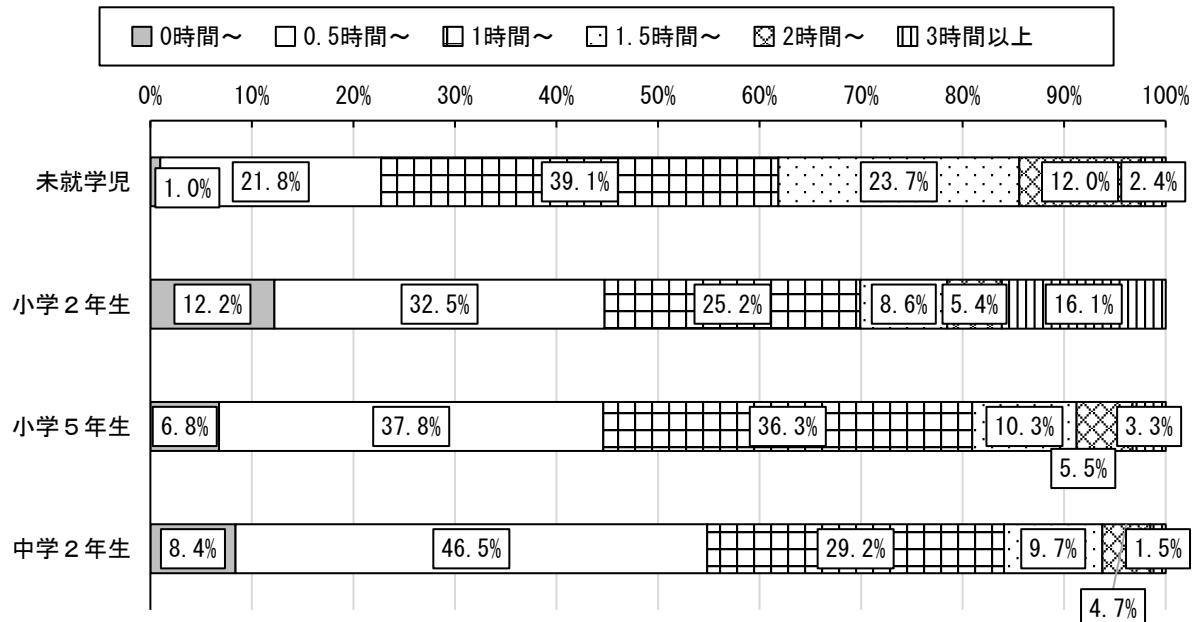


図 21 (小児) 準備時間、学年別

B. 基本目標 1 食育の認知度を向上させる

(1) (成人) 食育の認知度

(成人) 1 あなたは、「食育」という言葉を知っていますか。(○はひとつ)

全体の 94.6% が「意味も含めて知っている」または「聞いたことはあるが、意味は知らない」と回答した。性別では、「女性」の方が「意味も含めて知っている」と回答した割合が高かった。

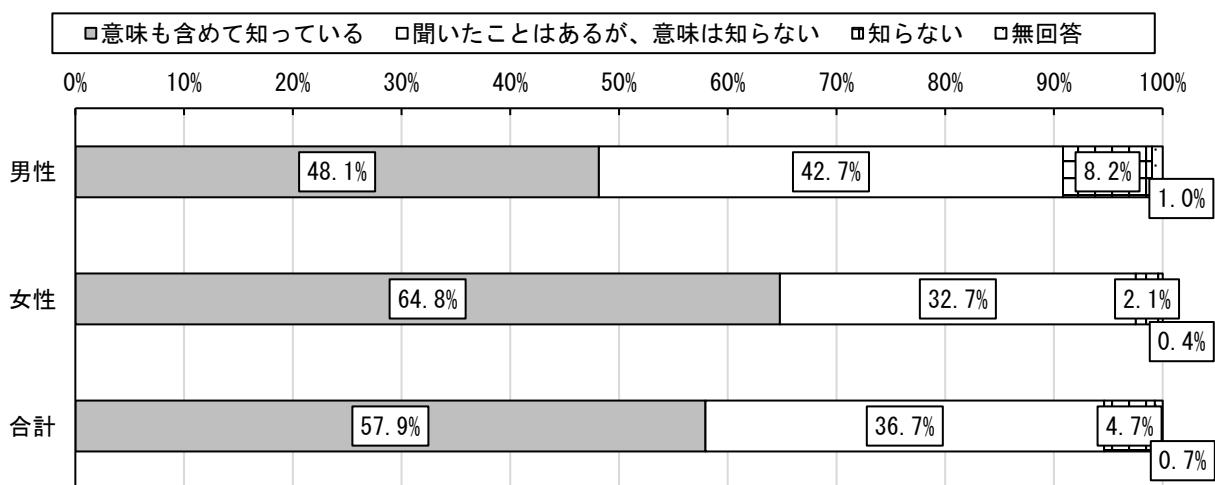


図 22 (成人) 食育の認知度、性別

<全国との比較>

この「意味も含めて知っている」または「聞いたことはあるが、意味は知らない」の合計を、「全国」と「佐世保市」で比較すると、「全国」が 82.7% に対し、「佐世保市」は 94.6% で 11.9% 「佐世保市」の方が高い割合となっている。

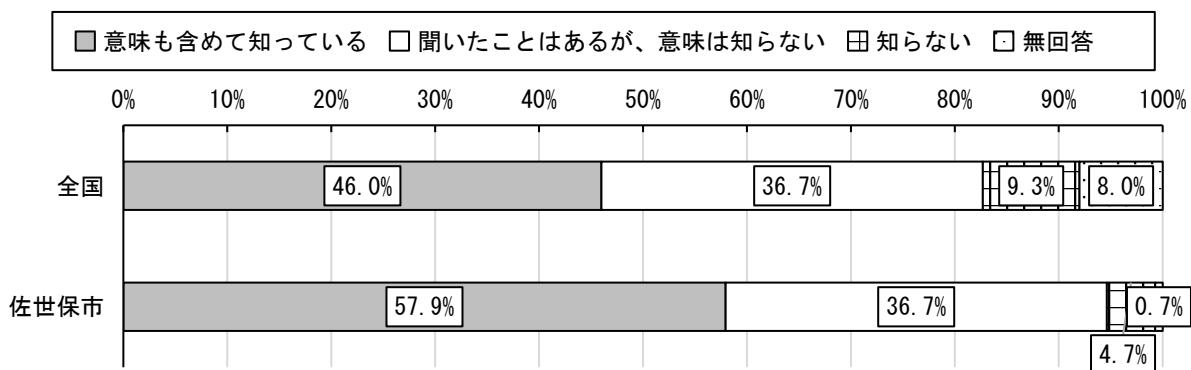


図 23 (成人) 食育の認知度、全国との比較

表 3 全国と佐世保市における「食育の認知度」

	意味も含めて 知っている	聞いたことは あるが、意味 は知らない	知らない	無回答	合計
全国	46.0%	36.7%	9.3%	8.0%	100.0%
佐世保市	57.9%	36.7%	4.7%	0.7%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 1 食育への関心について P6

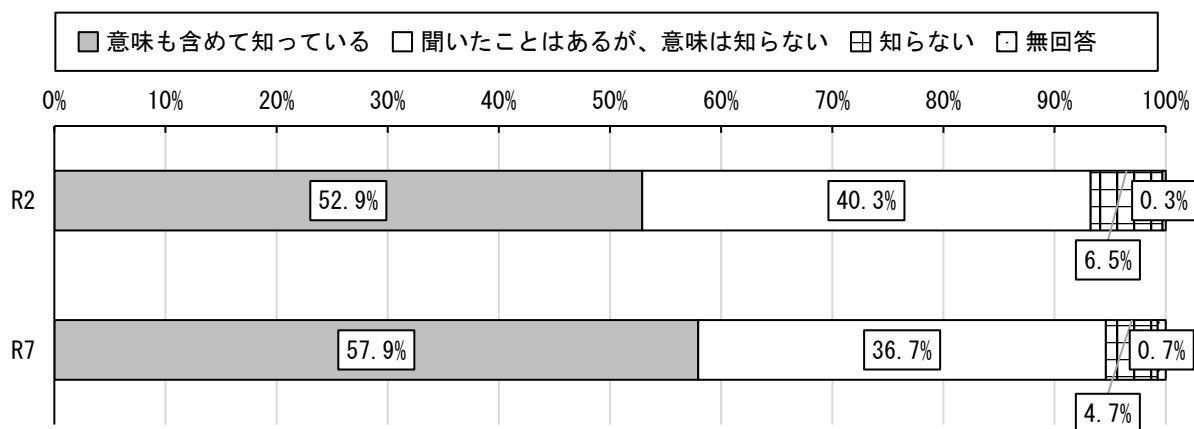


図 24 (成人) 食育の認知度、前回調査結果(令和2年度)との比較

食育の認知度（前回調査結果[令和2年度]との比較）

基本目標1「食育」の認知度を向上させる

【推進項目】「食育」を知っている人の割合

＜算出方法＞

1 「あなたは、「食育」という言葉を知っていますか。」で「意味も含めて知っている」の回答数／アンケート全回答数×100

＜結果＞

	R2	R7	目標
割合 (%)	52.9	57.9	80.0

前回調査結果より 5.0% 上昇したが、目標値は達成できていない。

年代別で見ると、「意味を含めて知っている」と回答した割合は、「50代」が最も高く、逆に最も低いのが「10代」であった。

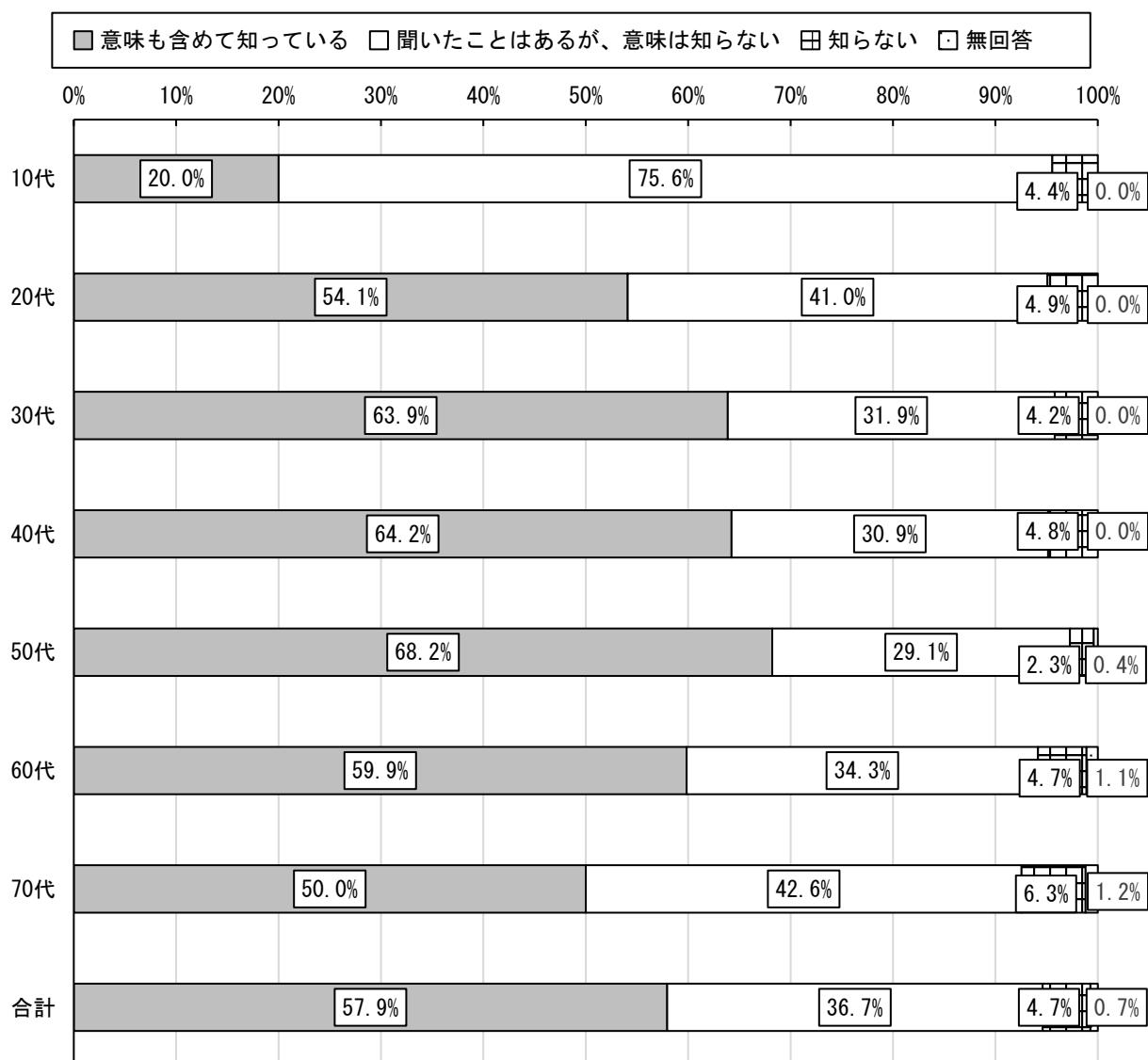


図 25 (成人) 食育の認知度、年代

年代別、性別でみると「意味を含めて知っている」と回答した割合は、「50代女性」が最も高く、次いで「40代女性」だった。

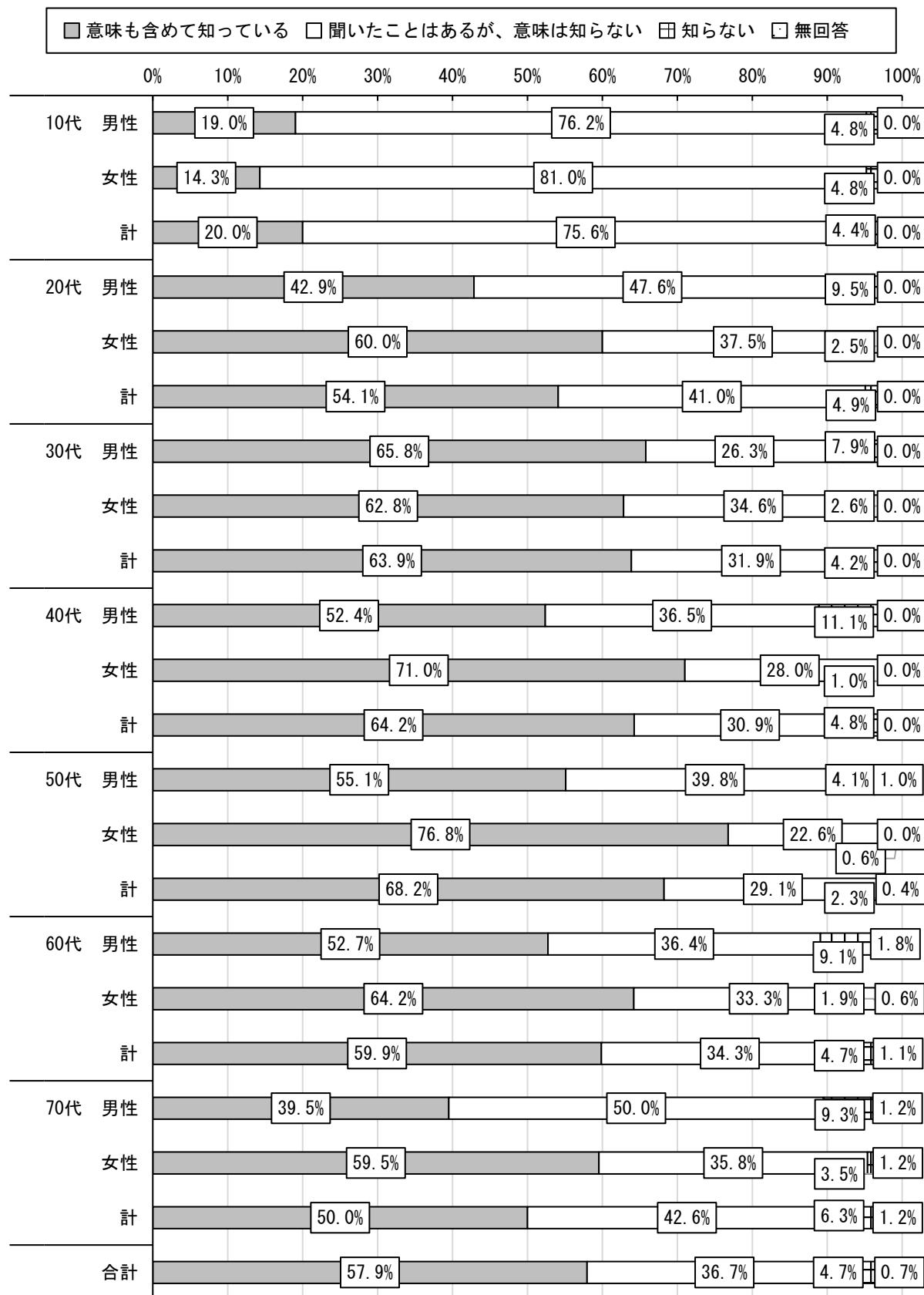


図 26 (成人) 食育の認知度、年代、性別

(2) (成人) 食育の取り組み

(成人) 2 あなたは下記の「食育」に関する項目に取り組んでいますか。各質問項目にあてはまる番号を記入してください。

「継続して取り組んでいる」の回答で最も高かったのは、前回調査と同じで「食品の安全性に配慮すること」であった。「取り組んでいないが、今後取り組んでみたい」では、「郷土料理などに关心を持つこと」であった。「取り組む予定はない」では「子どもに食べ物に関する話をする」ということであり、26.3%だった。

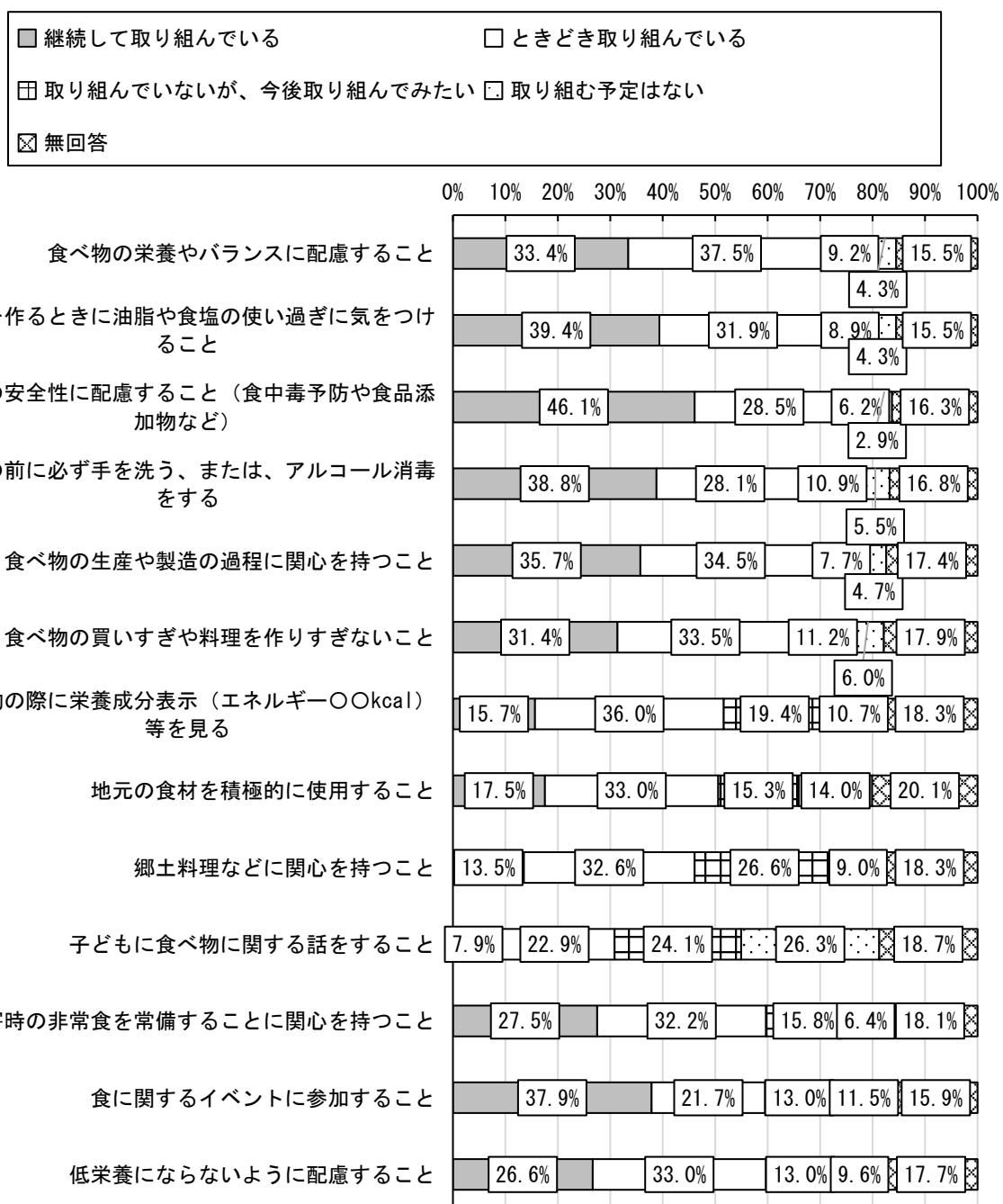


図 27 (成人) 食育の取り組み内容、取り組みの程度

この傾向は、食育の認知度「意味も含めて知っている」と回答した方のみに限定しても同じ傾向を示す。

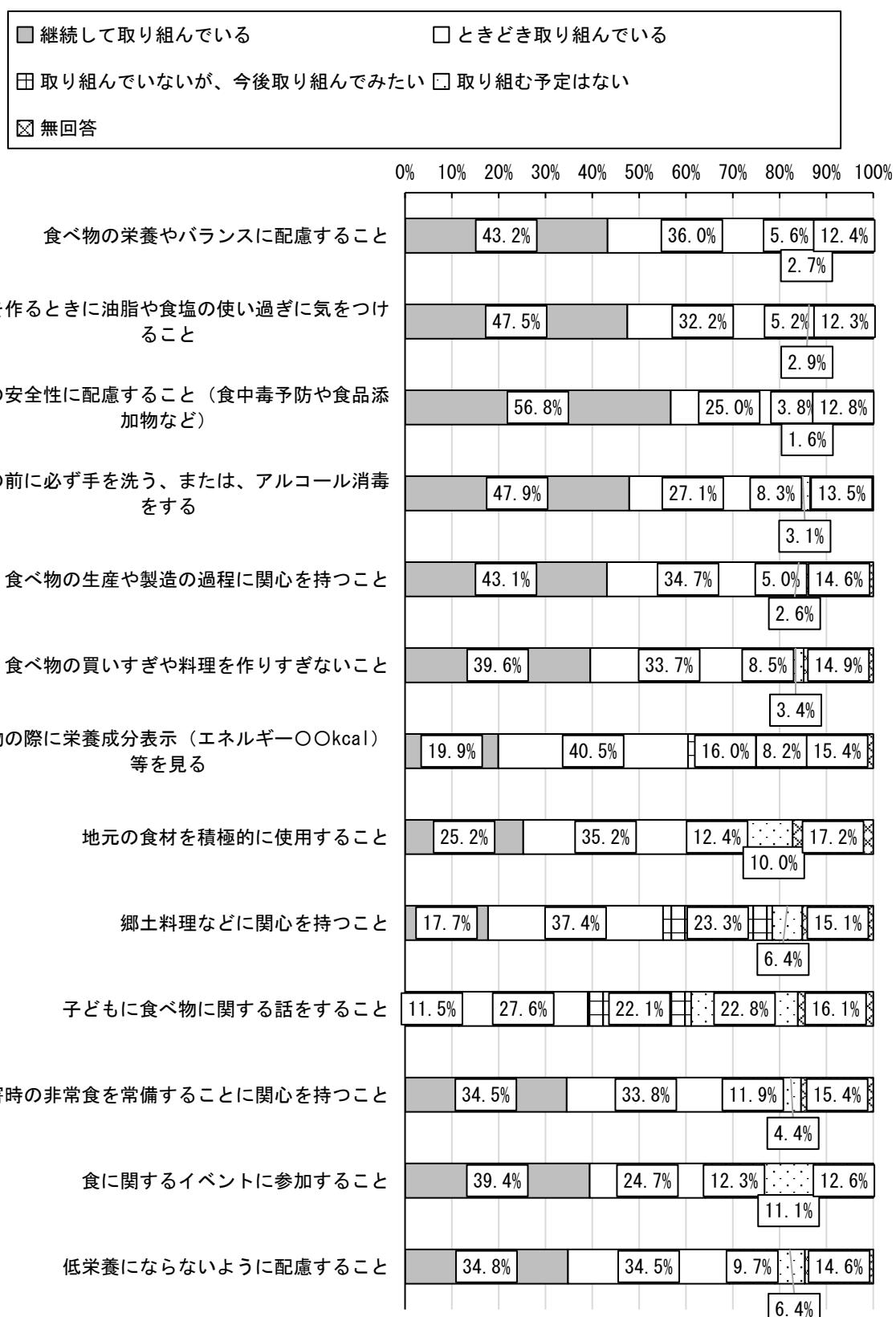


図 28 (成人) 食育の取り組み内容、取り組みの程度

1 食育の認知度「意味も含めて知っている」と回答した方のみ (n=733)

＜前回調査結果との比較＞

前回調査結果と比較すると、「災害時の非常食を常備することに关心を持つこと」と「食に関するイベントに参加すること」以外では、「継続して取り組んでいる」と「ときどき取り組んでいる」の合計の割合が減少している。

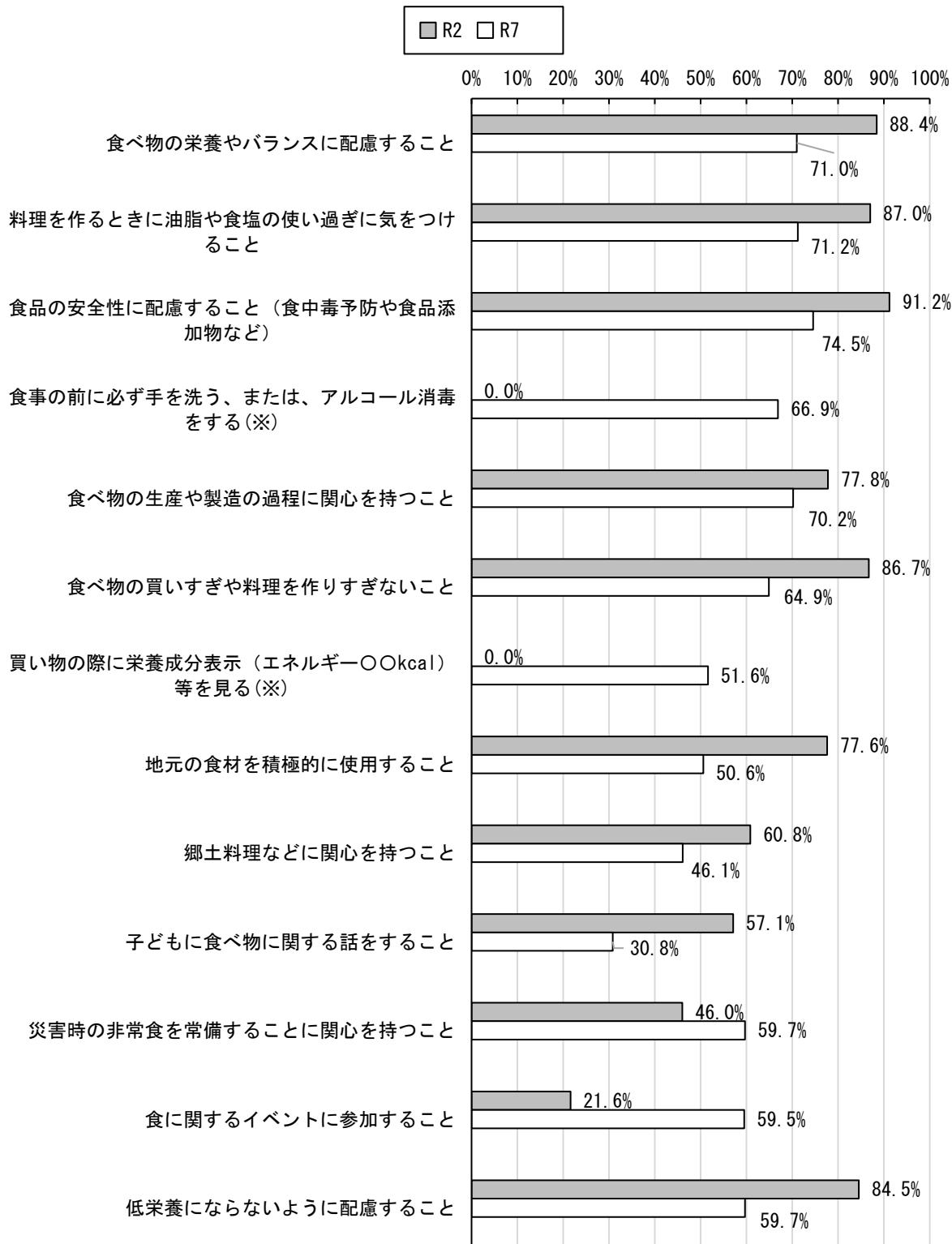


図 29 (成人) 食育の取り組み、各内容の「継続して取り組んでいる」と「ときどき取り組んでいる」の合計における前回調査との比較

(※) 前回調査（令和2年度）において実施がない質問

表 4 (成人) 食育の取り組み内容別 (その他コメント)

カテゴリ	コメント内容	件数
調理		21
	お年寄りへの食事内容等	1
	ジャンクフード、インスタント食品をなるべく食べない	1
	タンパク質 減塩 良質の油摂取	9
	バランスの良い食事を作るよう心掛けている	2
	国産の食材を優先する	2
	今後 意識して食材を購入して食事をしていきたい	1
	自分自身で野菜を作っている	1
	旬の物を食べる	1
	消費、賞味期限を考慮して食事を作る	1
	食品ロスをなくす事	1
	毎日納豆、豆乳を摂取している	1
食育		11
	グリーンコープ生協を利用しているので、生協で時どき食育の勉強会などがあるので参加して勉強させてもらっています	1
	我が家の中の伝承	1
	介護老人保健施設では、他職種と共に取り組んでいます	1
	学校の食育に協力	1
	子どもと一緒に味噌を手作りしている	1
	子ども達には少しでも食べるものに対して興味と感謝を教えたくて、時間がある時は、一緒に料理をします	1
	自宅でパン・料理教室を自己開催している	1
	食に関する本を読んだりする	1
	食事がとれることに感謝して食べるようになっている	1
	地域主催の料理教室などに積極的に参加している	1
	年齢を重ねる度に落ちる筋力低下に対して、食も重要である事を調べる	1
食事		4
	なるべく家族で食卓をかこむ	1
	食べ過ぎないように気をつけている	2
	毎朝、朝食をとること	1
治療		4
	生活習慣病のため	1
	糖尿病	2
	薬の副作用で体重増加なのでカロリーには気をつける	1
できない理由		4
	仕事をしている	1
	食べたいと思ったものを食べるようになっている	1
	青年部にいて、食育はしているが、本当はやりたくない	1
	特に自ら積極的に取り組むことはない	1
その他		7
	イベントに参加していないだけで、「食育に関する取り組み」を行っていない訳ではない。従って、この2-1の設問自体が不適切だと思う	1
	お金をかけられないので、なるべく料理は薄味にしている	1
	スーパー、食材	1
	ひとり親家庭に食料を配るボランティアをした	1
	子どもがいない	1
	生活費によゆうがないので食費はきりつめている	1
	免疫が落ちないように心がけています（免疫療法）	1
総計		51

(3) (成人) 食育に関する取り組みを行わない理由

(成人) 2-1 「食育」に関する取り組みを行っていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

「食育」に関する取り組みを行っていない理由で、最も回答されたのが「他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」であった。前回調査では、30.5%であったが、今回の調査では13.2%増えている。また、「食育について身近に教わる人がいないから」も前回調査より、10.0%増えている。他は、ほぼ同じ割合となっている。

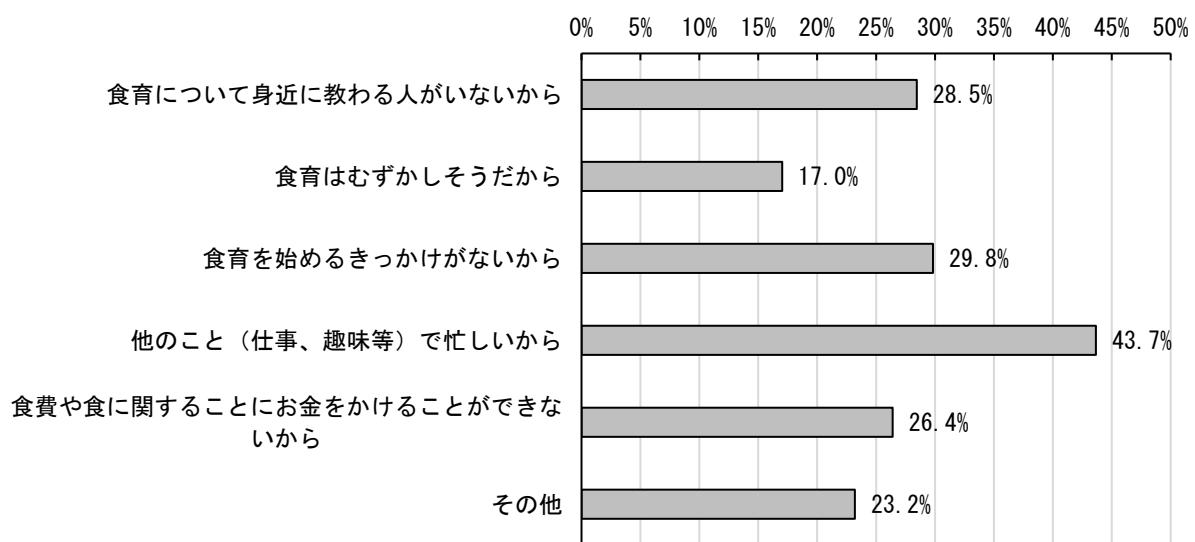


図 30 (成人) 食育の取り組みを行わない理由

「食育」に関する取り組みを行っていない理由で、「食育について身近に教わる人がいないから」「食育はむずかしそうだから」「食育を始めるきっかけがないから」を選択した人は、食育の認知度で「聞いたことはあるが、意味は知らない」と回答した割合が高い。

これに対し、「他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」「食費や食に関することにお金をかけることができないから」を選択した人は、食育の認知度で「意味も含めて知っている」と回答した割合が高い。

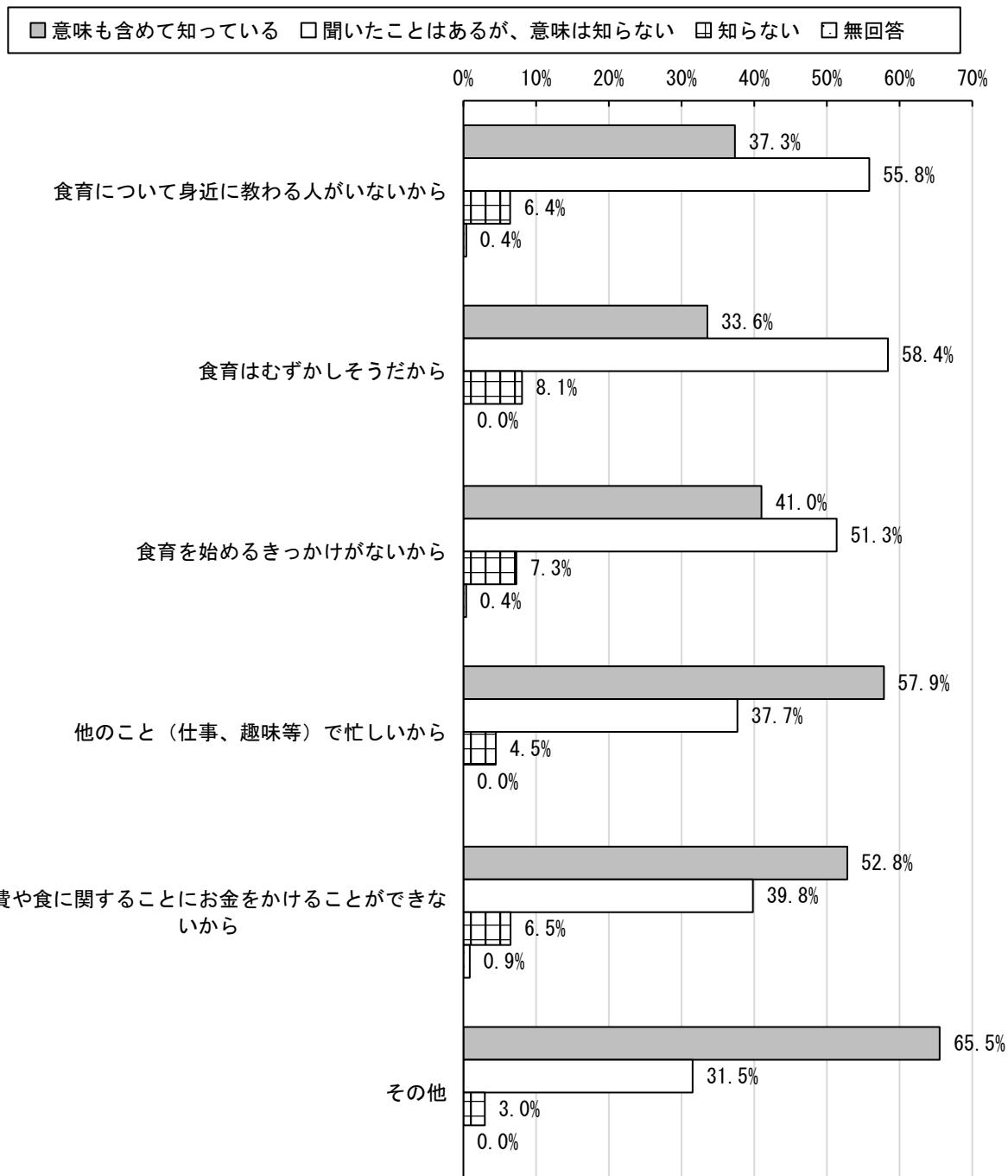


図 31 (成人) 食育の認知度、食育の取り組みを行わない理由別

「食育」に関する取り組みを行っていない理由を年代別に分析すると、「10代」～「60代」は、「他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」を最も多く選択している。しかし、「60代」では、「食育を始めるきっかけがないから」も多く選択されており、「70代」では、「食育について身近に教わる人がいないから」を最も多く選択している。

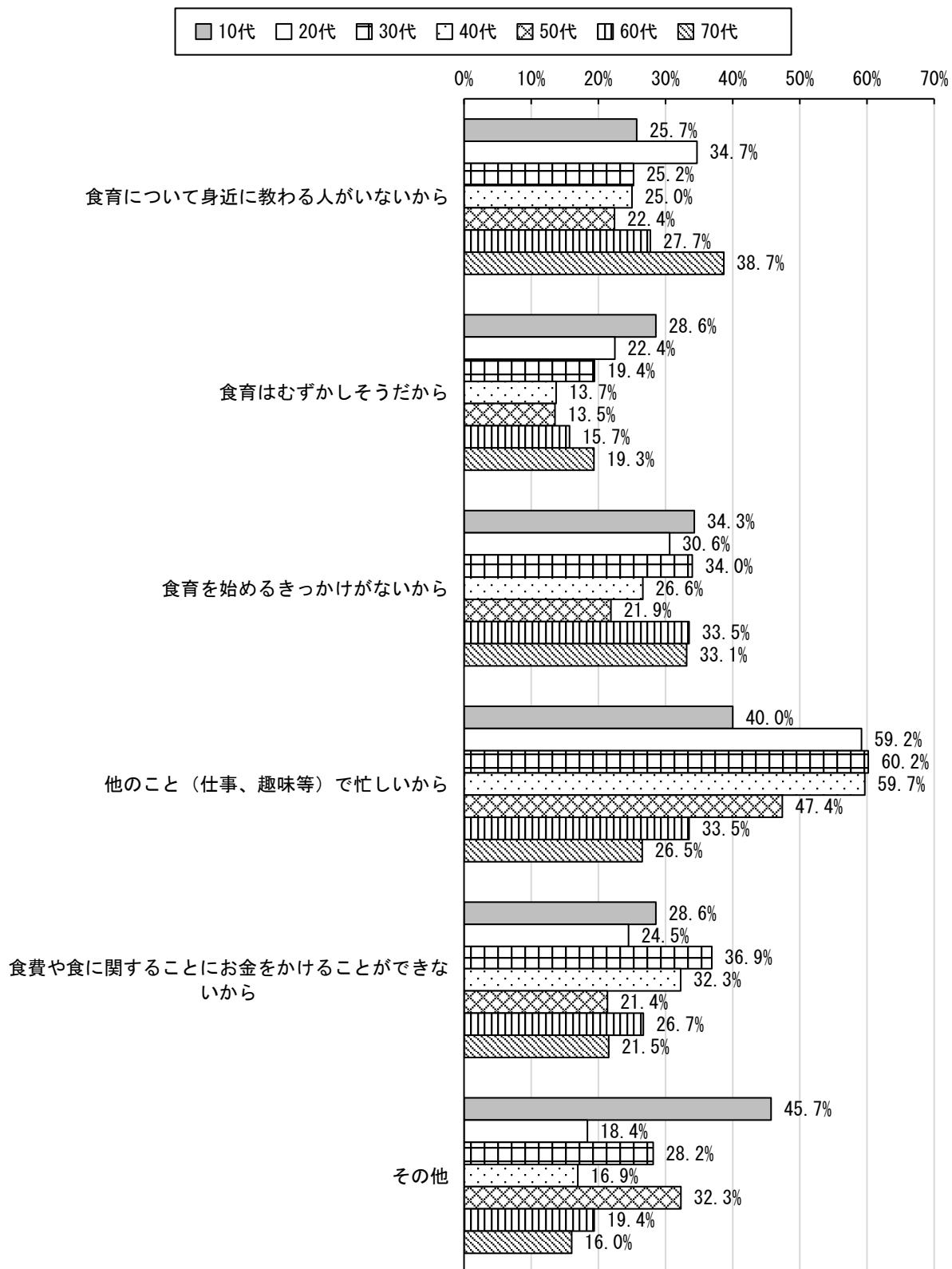


図 32 (成人) 年代、食育の取り組みを行わない理由別

表 5 (成人) 食育の取り組みを行わない理由 (その他コメント)

カテゴリ	件数
(子どもがいないから)話す必要のある子どもがいないから	67
関心、興味、意識、必要性がないから	65
イベントを知らない・興味がない	31
地産のものを知らない、気にしない、必要性を感じない	19
自分が料理しないから	18
ある程度の知識を持っているから	15
災害がないから	13
時間がない	9
1人ぐらしだから	8
金銭的な理由	5
病気のため	3
特に理由はない	2
その他	4

(4) (成人) 情報の取得先

(成人) 3 あなたは食育に関する情報をどこから（または、どのように）入手していますか。（○はいくつでも）

情報の取得先として回答した割合が最も高かったのは、「テレビ」であった。男女合計は59.8%であり、次に高かった「新聞・雑誌」の34.5%に対して25.3%上回っている。

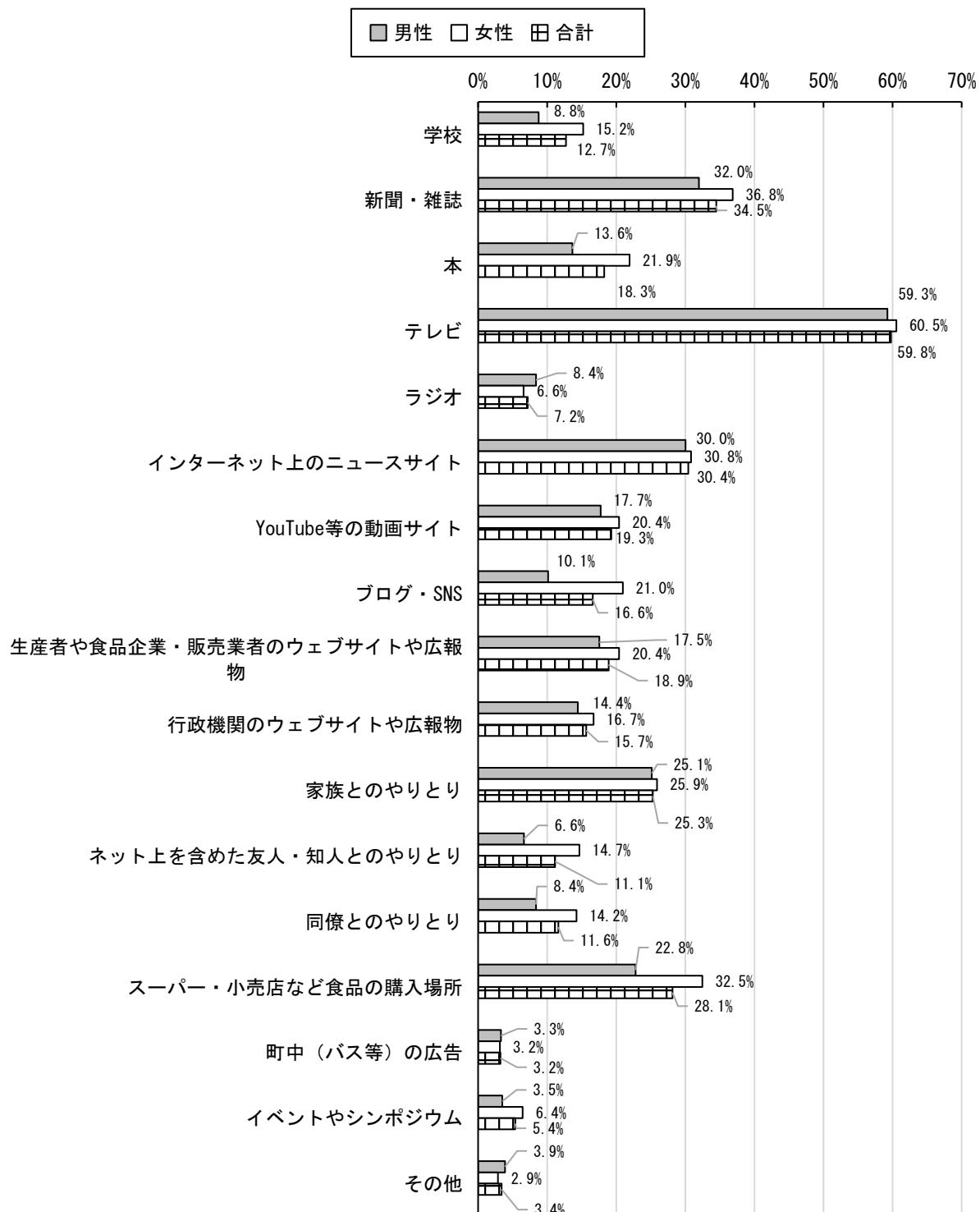


図 33 (成人) 情報の取得先、性別

<全国との比較>

「全国」「佐世保市」とともに、「テレビ」が最も高い割合であった。また、「学校」「新聞・雑誌」「テレビ」は全国の方が、「インターネット上のニュースサイト」「YouTube等の動画サイト」「ブログ・SNS」「家族とのやりとり」「スーパー・小売店など食品の購入場所」などは「佐世保市」の方が高い割合を示す。

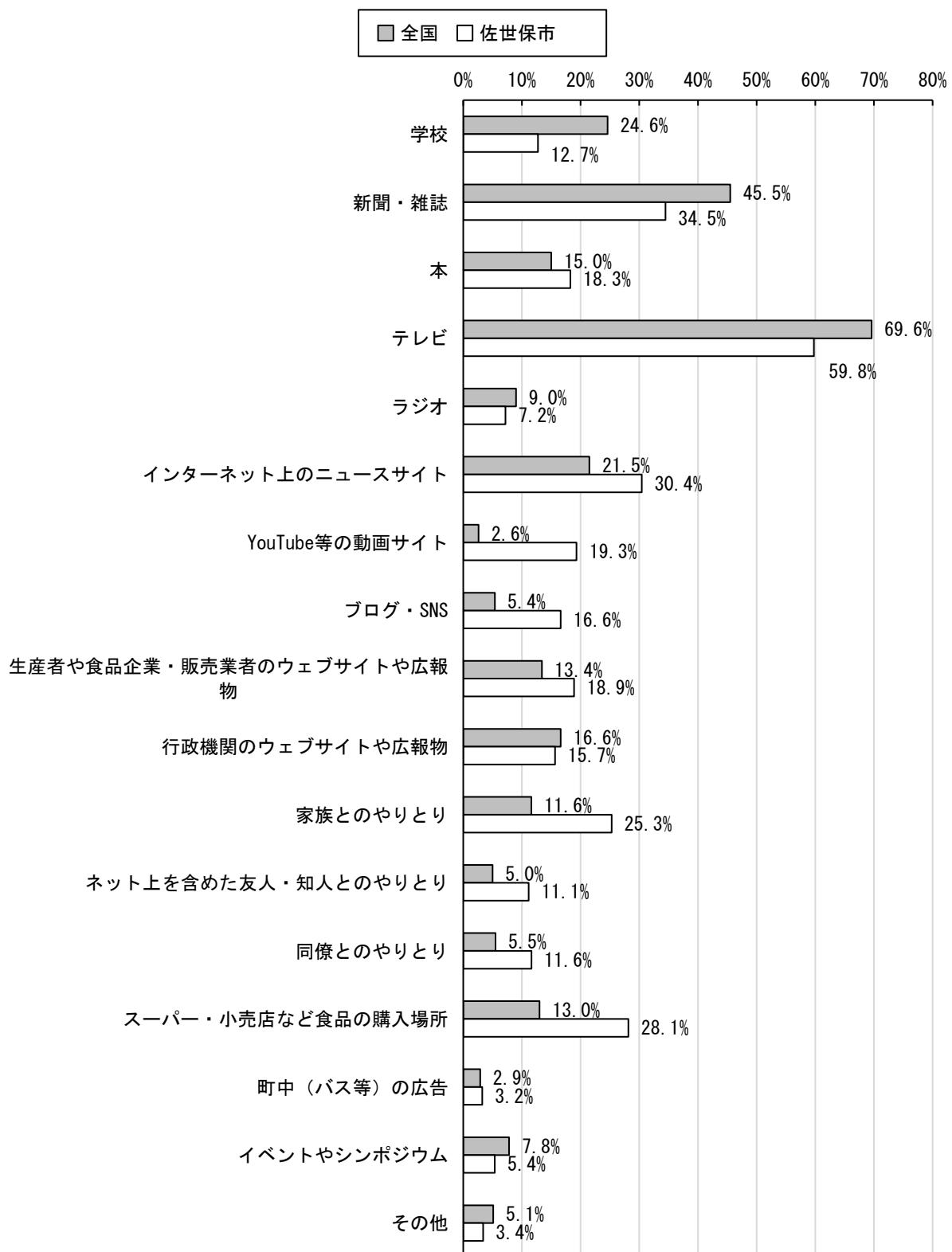


図 34 (成人) 情報の取得先、全国との比較

表 6 全国と佐世保市における「情報の取得先」

項目	全国	佐世保市
学校	24.6%	12.7%
新聞・雑誌	45.5%	34.5%
本	15.0%	18.3%
テレビ	69.6%	59.8%
ラジオ	9.0%	7.2%
インターネット上のニュースサイト	21.5%	30.4%
YouTube 等の動画サイト	2.6%	19.3%
ブログ・SNS	5.4%	16.6%
生産者や食品企業・販売業者のウェブサイトや広報物	13.4%	18.9%
行政機関のウェブサイトや広報物	16.6%	15.7%
家族とのやりとり	11.6%	25.3%
ネット上を含めた友人・知人とのやりとり	5.0%	11.1%
同僚とのやりとり	5.5%	11.6%
スーパー・小売店など食品の購入場所	13.0%	28.1%
町中（バス等）の広告	2.9%	3.2%
イベントやシンポジウム	7.8%	5.4%
その他	5.1%	3.4%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 1 食育への関心について P8

年代別に見ると、「60代」や「70代」は、「テレビ」「新聞・雑誌」を多く選択しているが、「30代」や「40代」では、「インターネット上のニュースサイト」「YouTube等の動画サイト」「ブログ・SNS」を選択する傾向がある。

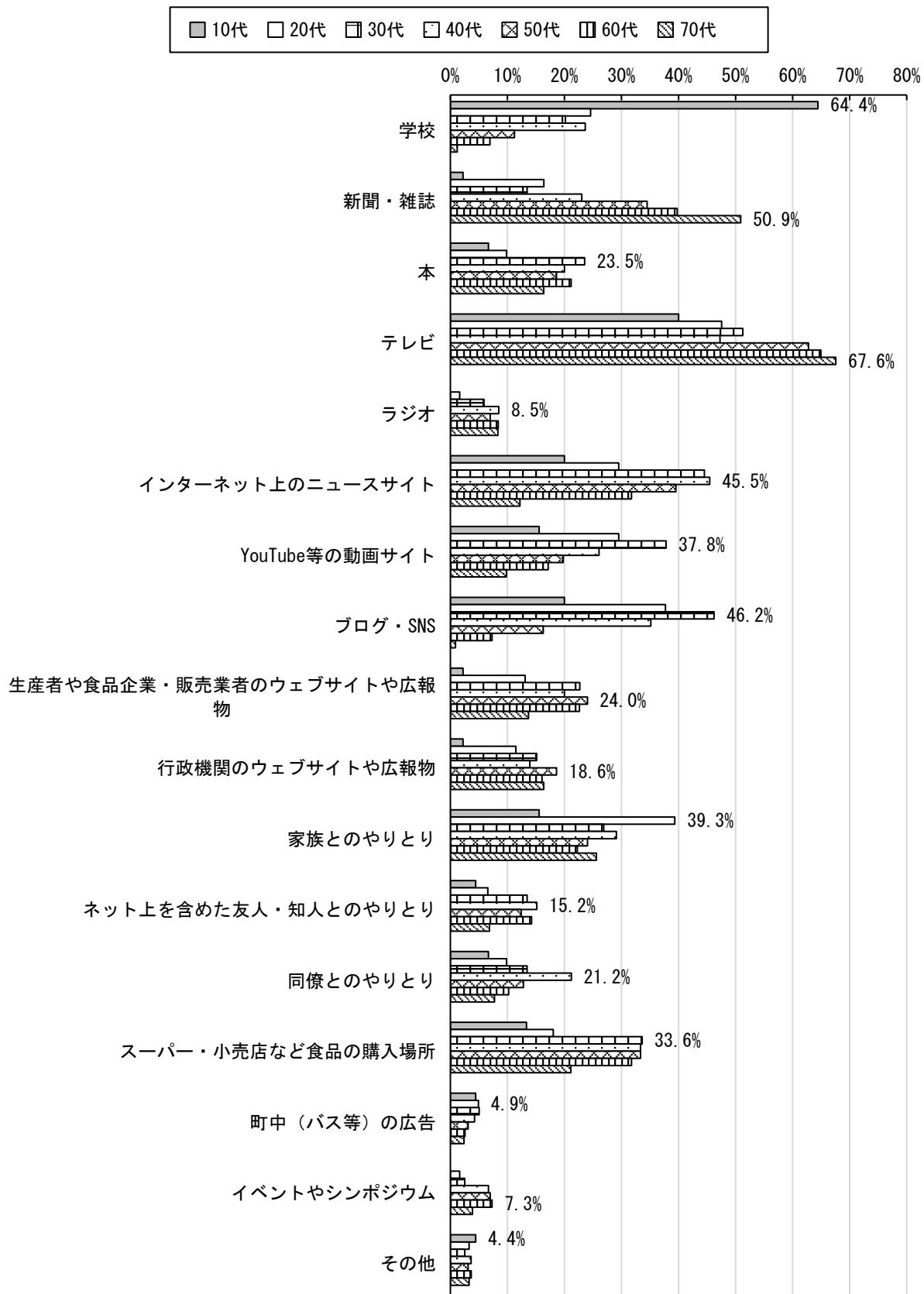


図 35 (成人) 情報の取得先、年代

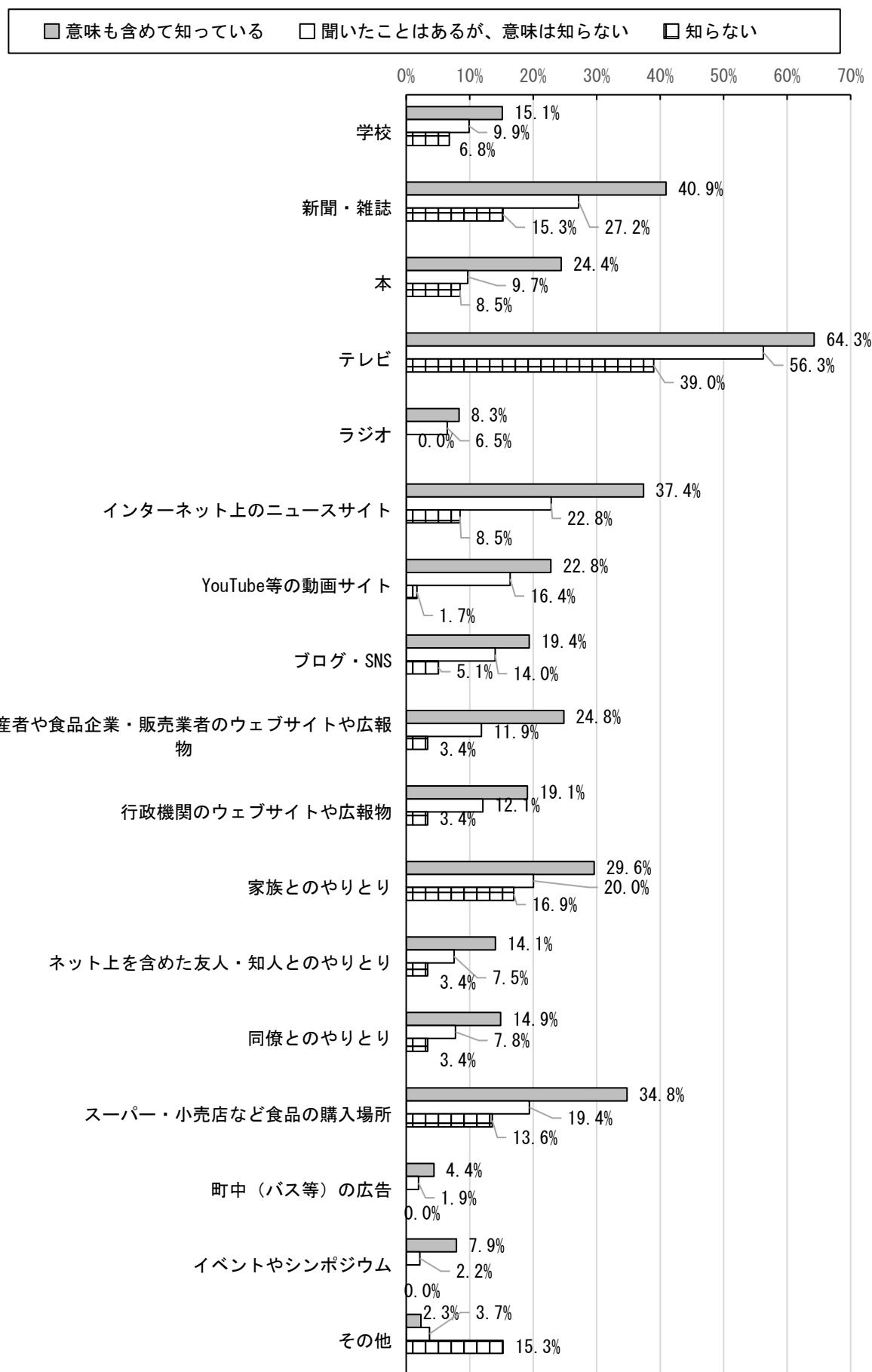


図 36 (成人) 情報の取得先、食育の認知度別

表 7 (成人) 情報の取得先 (その他コメント)

カテゴリ	コメント内容	件数
職場		7
病院		6
団体		6
	JA の活動	2
	過去、料理会等で耳にした	1
	佐世保市役所の近くのエールという店。大地といのちの会。吉田俊道さんなど	1
	施設の職員から	1
	食生活改善推進員	1
親		1
	親の食生活を手本にしている	1
入手していない		19
	どこからも入手していない	6
	知らない	4
	あまり目にする事がない	1
	興味をもって情報を取りに行ったことはない	1
	好きに類理するから	1
	自分の感性、今までの知識	1
	積極的に入手したことがない	1
	適当	1
	特にない	1
	難しいのでわからない	1
	不要	1
総計		39

C. 基本目標2 朝食の欠食について（欠食する市民の割合の減少）

(1) (成人) 朝食の摂取状況

(成人) 9 あなたは、朝食を食べていますか。(○はひとつ)

朝食を「全く食べない」と回答した割合は、6.3%だった。性別で見ると、男性の方が女性より高い割合を占めた。

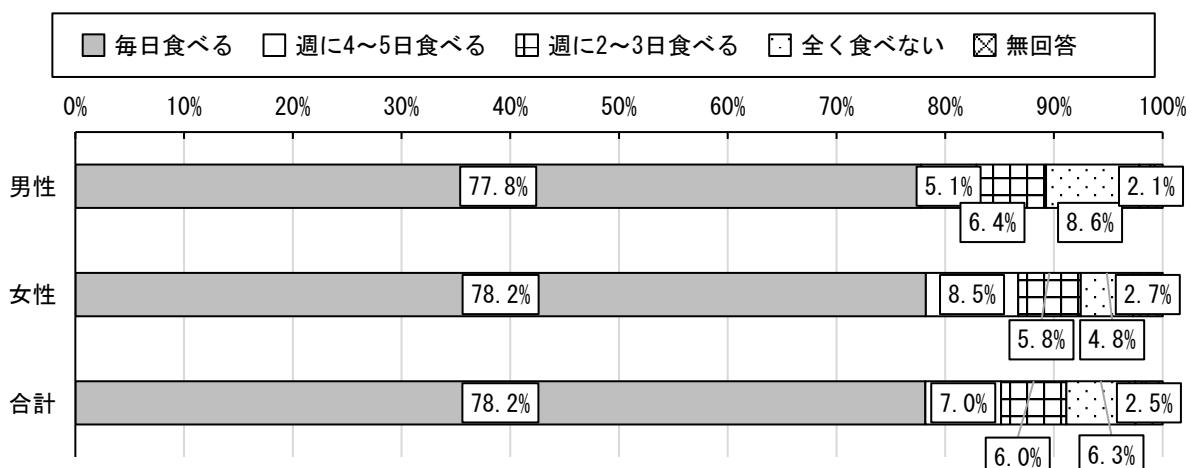


図 37 (成人) 朝食の摂取状況、性別

<全国との比較>

佐世保市と全国を比較すると、あまり差がない結果となった。

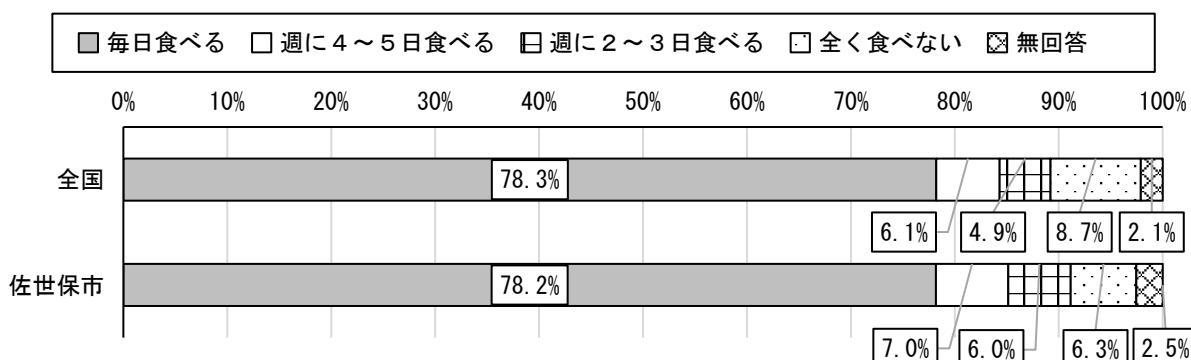


図 38 (成人) 朝食の摂取状況、全国との比較

表 8 全国と佐世保市における「朝食の摂取状況」

	毎日食べる	週に4～5日食べる	週に2～3日食べる	全く食べない	無回答	合計
全国	78.3%	6.1%	4.9%	8.7%	2.1%	100.0%
佐世保市	78.2%	7.0%	6.0%	6.3%	2.5%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 2 現在の食生活について P24

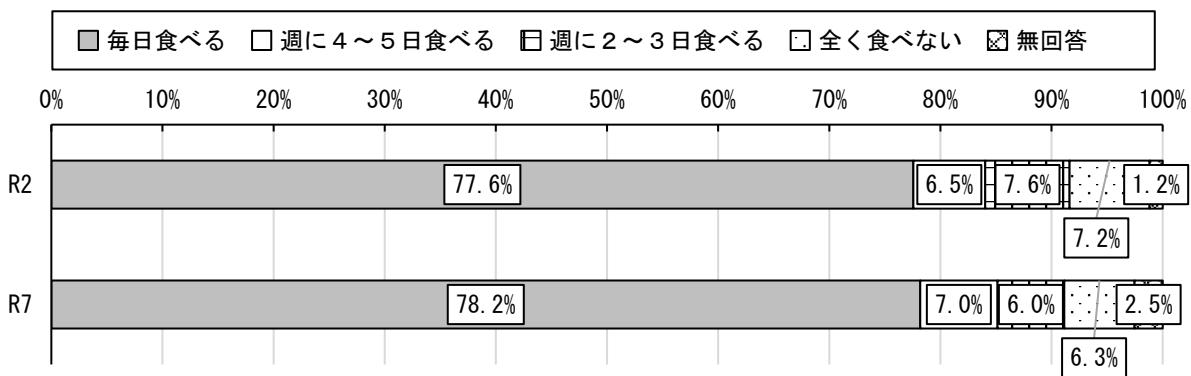


図 39 (成人) 朝食の摂取状況、前回調査結果(令和2年度)との比較

朝食の摂取状況（前回調査結果[令和2年度]との比較）

基本目標2 朝食の欠食について（欠食する市民の割合の減少）

【推進項目】成人

<算出方法>

(成人) 9 「あなたは、朝食を食べていますか。」で、「全く食べない」の回答数／アンケート全回答数×100

<結果>

	R2	R7	目標
割合 (%)	7.2	6.3	5.0

今回の調査結果は、0.9%減少したが目標である5.0%を上回り、目標を達成できていない。

朝食を「全く食べない」と回答した割合は、男性では「40代」が最も高く、続いて「50代」となった。女性では「20代」が最も高かった。

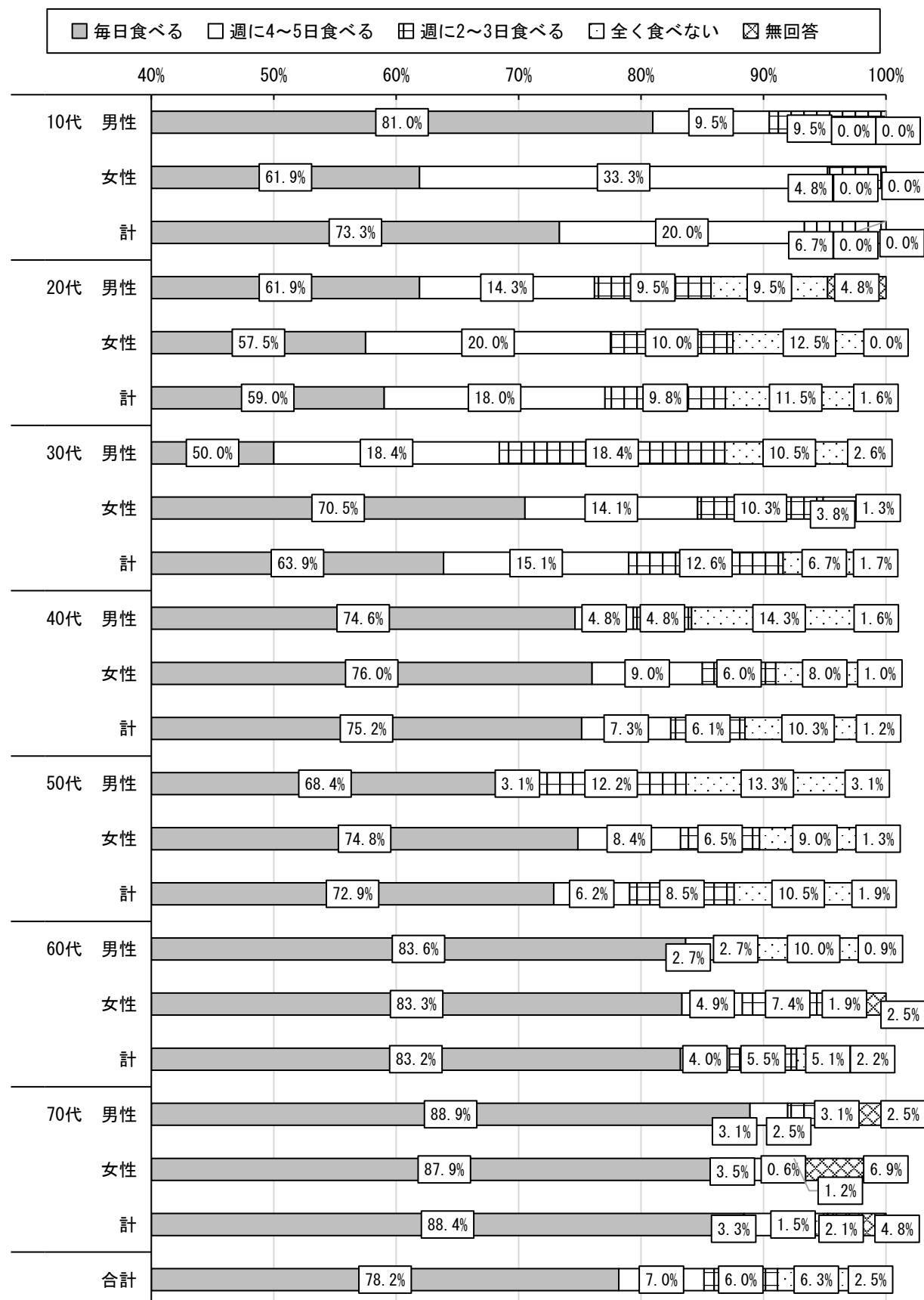


図 40 (成人) 朝食の摂取状況、年代、性別

職業別で見ると、「全く食べない」と回答した割合が高かったのは「会社や団体の役員 男性」であり、続いて「勤め人 男性」「会社や団体の役員 女性」であった。

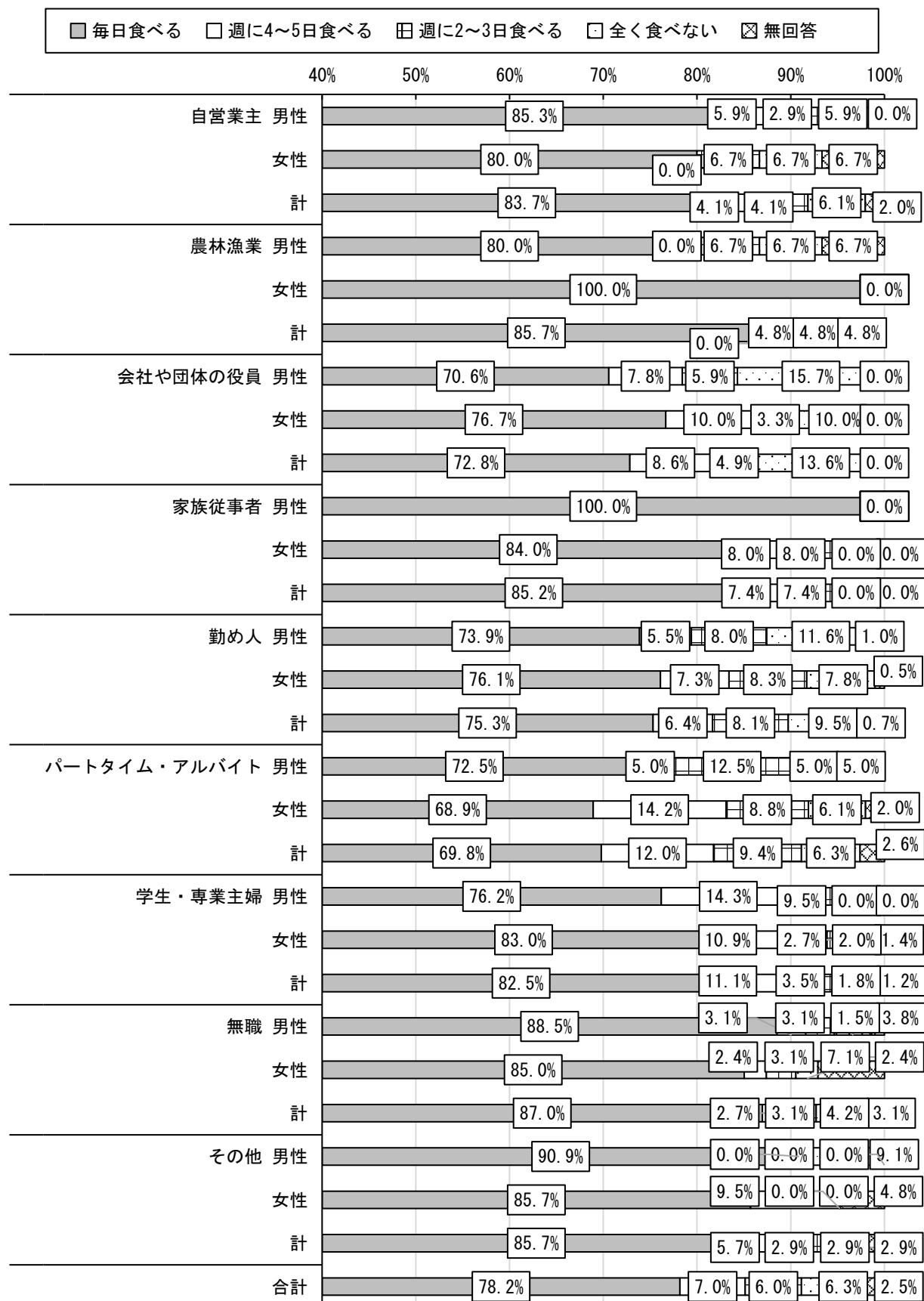


図 41 (成人) 朝食の摂取状況、職業別、性別

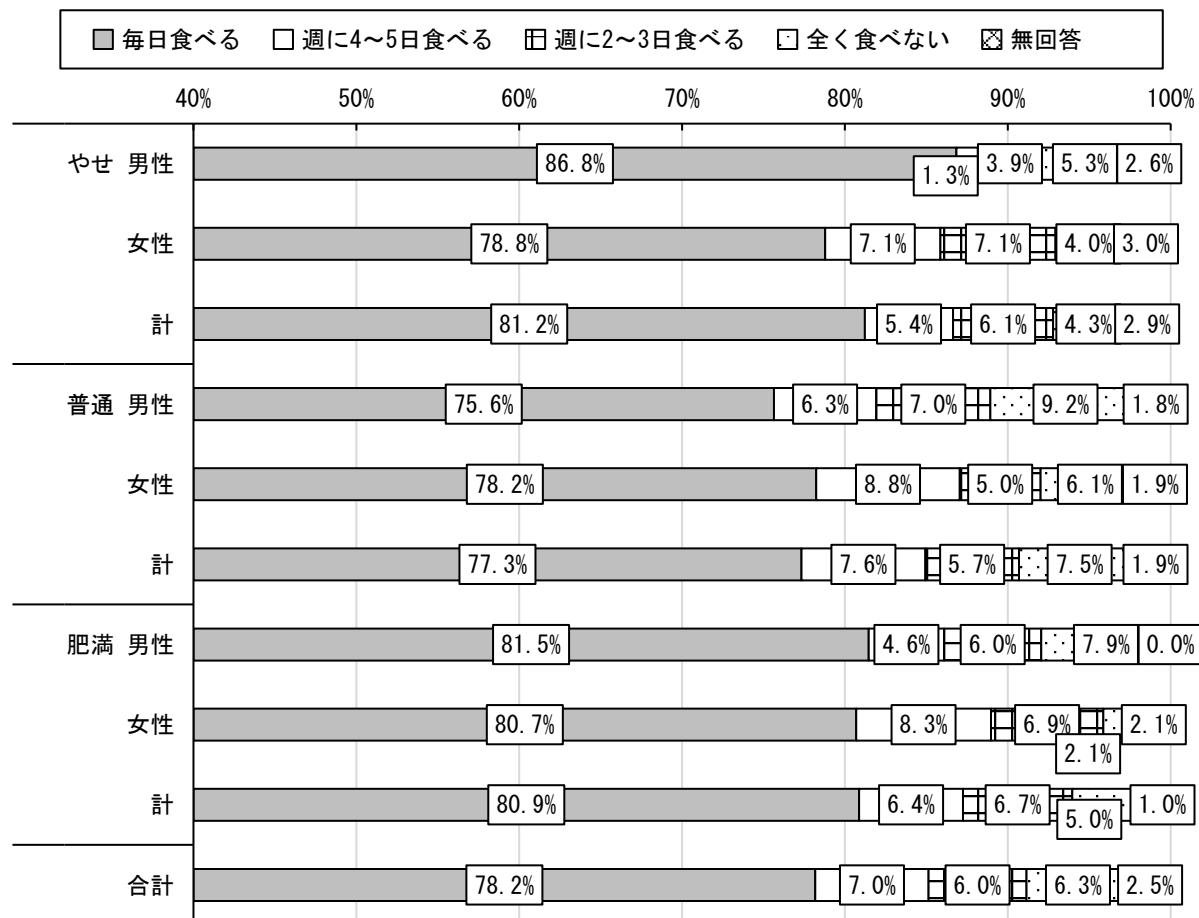


図 42 (成人) 朝食の摂取状況、体格、性別

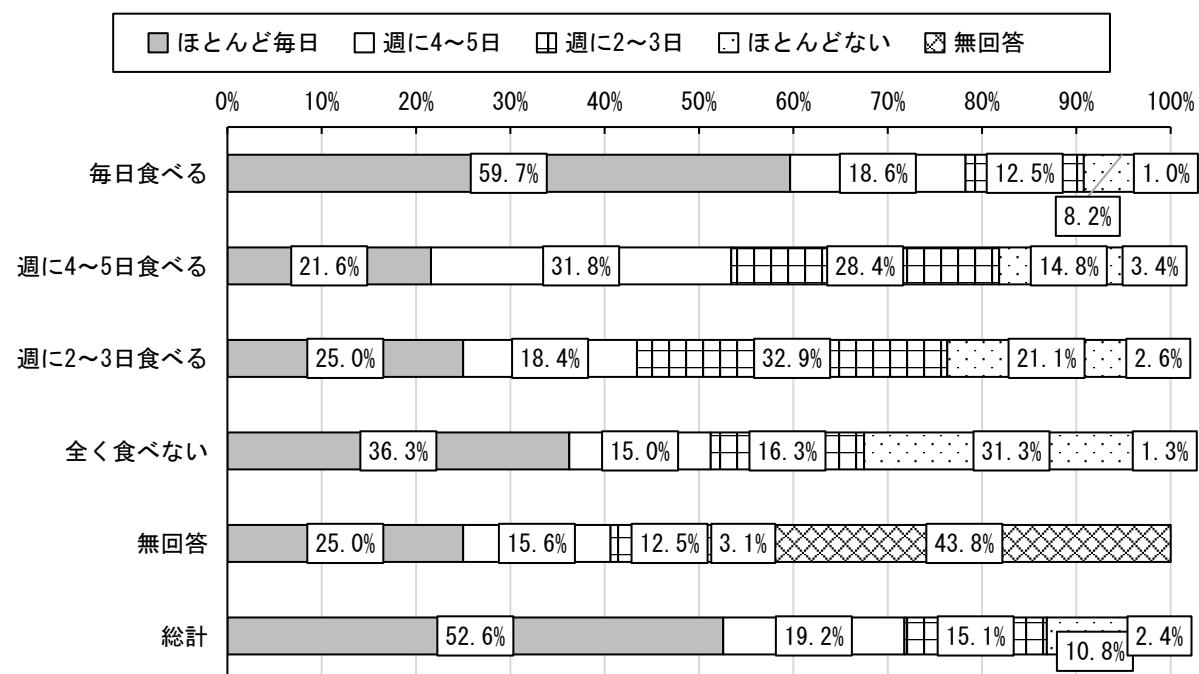


図 43 (成人) 栄養バランス、朝食の摂取状況

※「栄養バランス」とは、問10「あなたは、主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが、1日に2回以上ある日は週に何日ありますか。」という質問。基本目標3の(1) (成人) 栄養バランス 参照

(2) (小児) 朝食の摂取状況

(未就学児) 問1 お子様は朝食を食べていますか。

(小学2年生) 問1 あなたは、あさごはんをたべていますか。

(小学5年生) 問1 あなたは朝食を食べていますか。

(中学2年生) 問1 あなたは朝食を食べていますか。

朝食を「全く食べない」と回答した人の割合は、「未就学児」が0.2%で最も少なく、最も高い「小学5年生」においても1.8%であり、前回調査結果より下回っている。

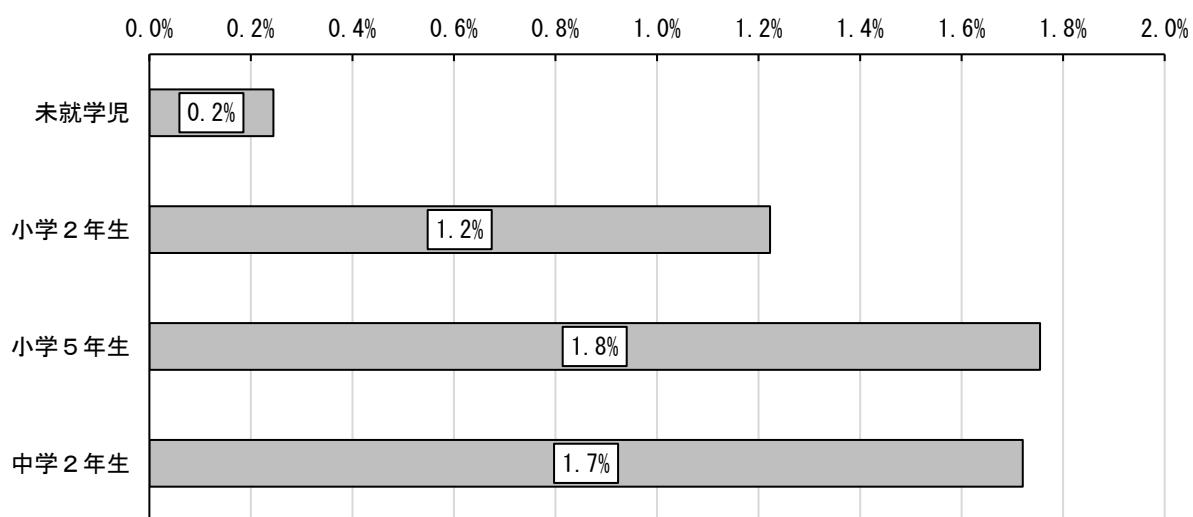


図44 (小児) 朝食の摂取状況（「全く食べない」と回答した人の割合）

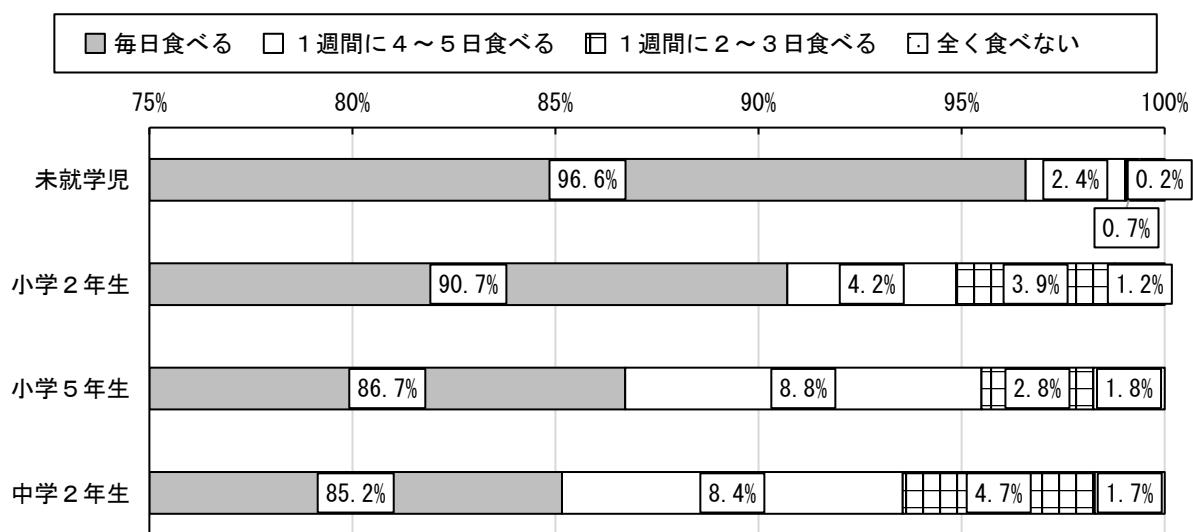


図45 (小児) 朝食の摂取状況、学年別

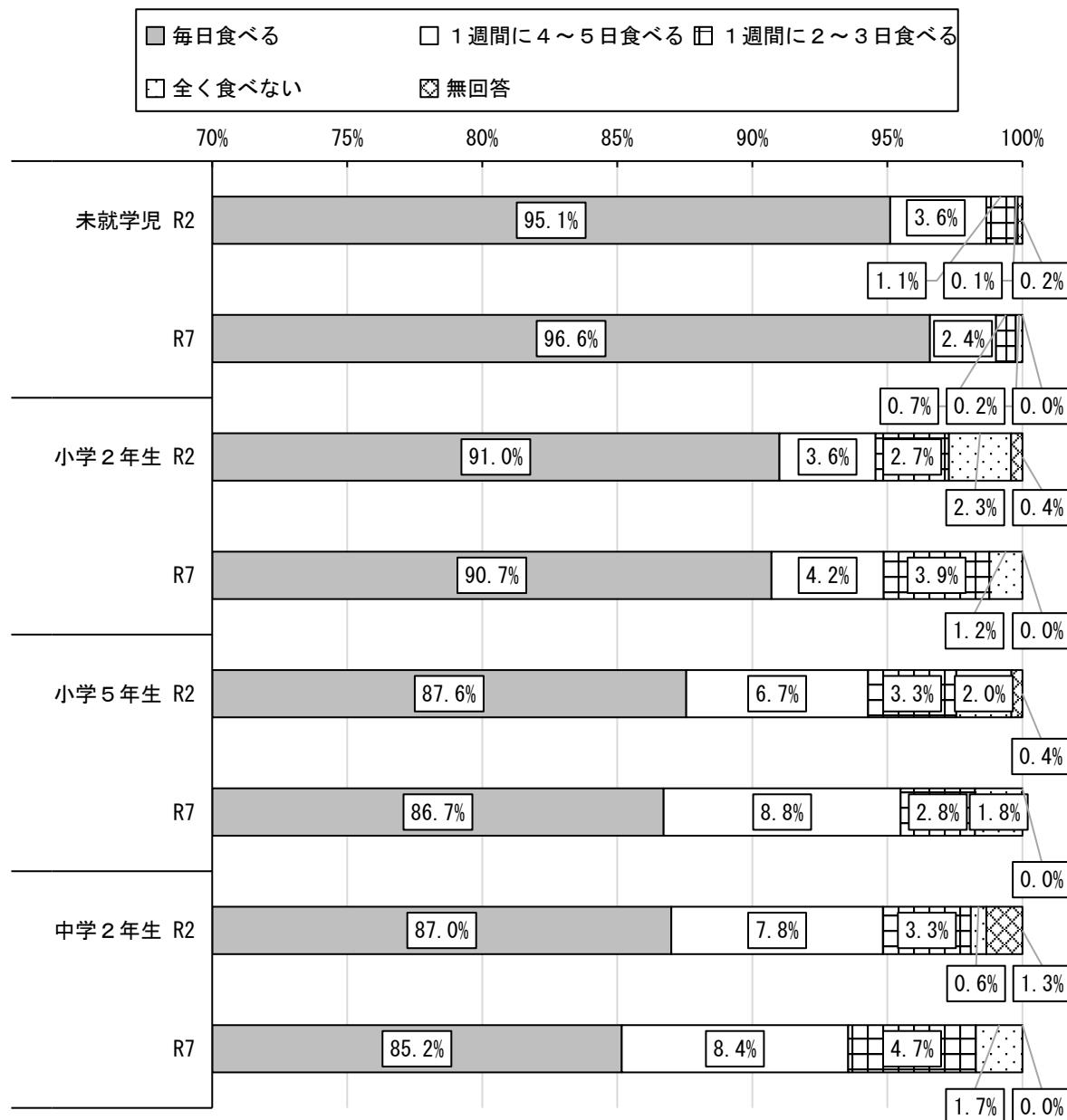


図 46 (小児) 朝食の摂取状況、前回調査結果(令和2年度)との比較

朝食の摂取状況（前回調査結果[令和2年度]との比較）

基本目標2朝食の欠食について（欠食する市民の割合の減少）

【推進項目】未就学児、小学2年生、小学5年生、中学2年生

＜算出方法＞

（未就学児）問1 お子様は朝食を食べていますか。

（小学2年生）問1 あなたは、あさごはんをたべていますか。

（小学5年生）問1 あなたは朝食を食べていますか。

（中学2年生）問1 あなたは朝食を食べていますか。

（成人）9 あなたは、朝食を食べていますか。（○はひとつ）

これらの質問で、「全く食べない」の回答数／アンケート全回答数×100

＜結果＞

割合 (%)	R2	R7	目標
未就学児	0.1	0.2	0.0
小学2年生	2.3	1.2	0.0
小学5年生	2.0	1.8	0.0
中学2年生	0.6	1.7	0.0

今回の調査結果は、小学2年生で1.1%、小学5年生で0.2%減少したが、未就学児で0.1%、中学2年生で1.1%増加し、目標を達成できていない。

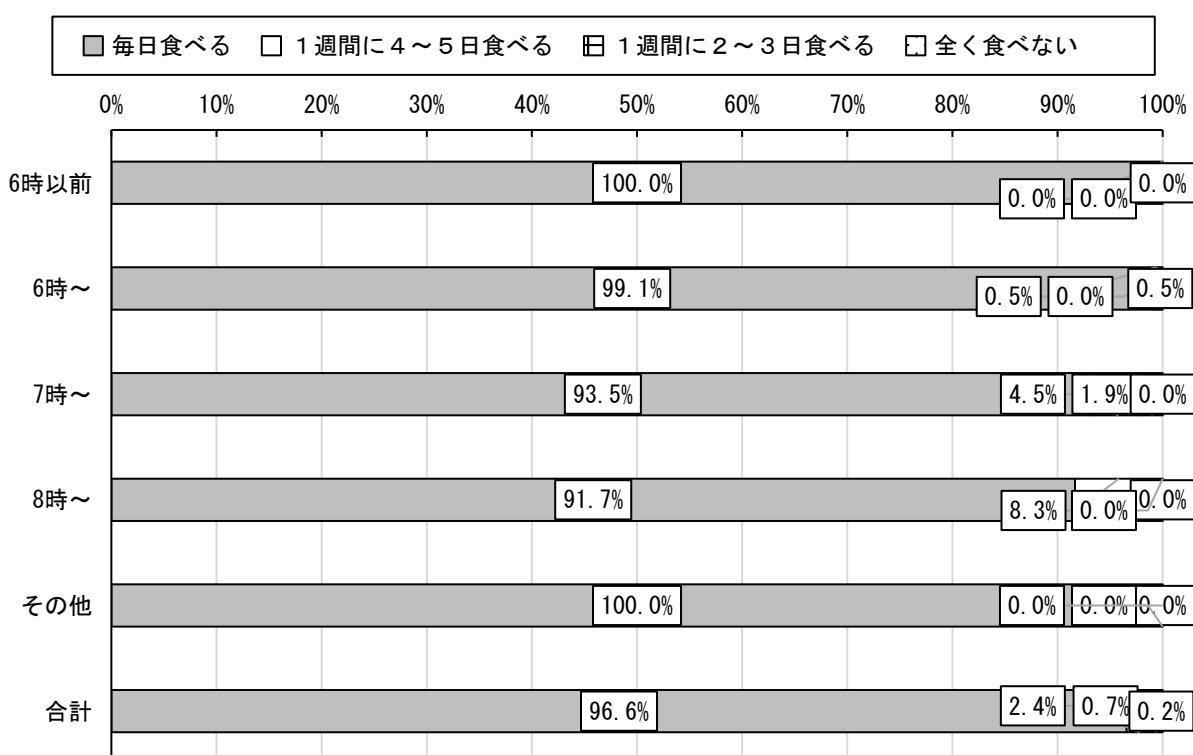


図47（未就学児）朝食の摂取状況、起床時刻

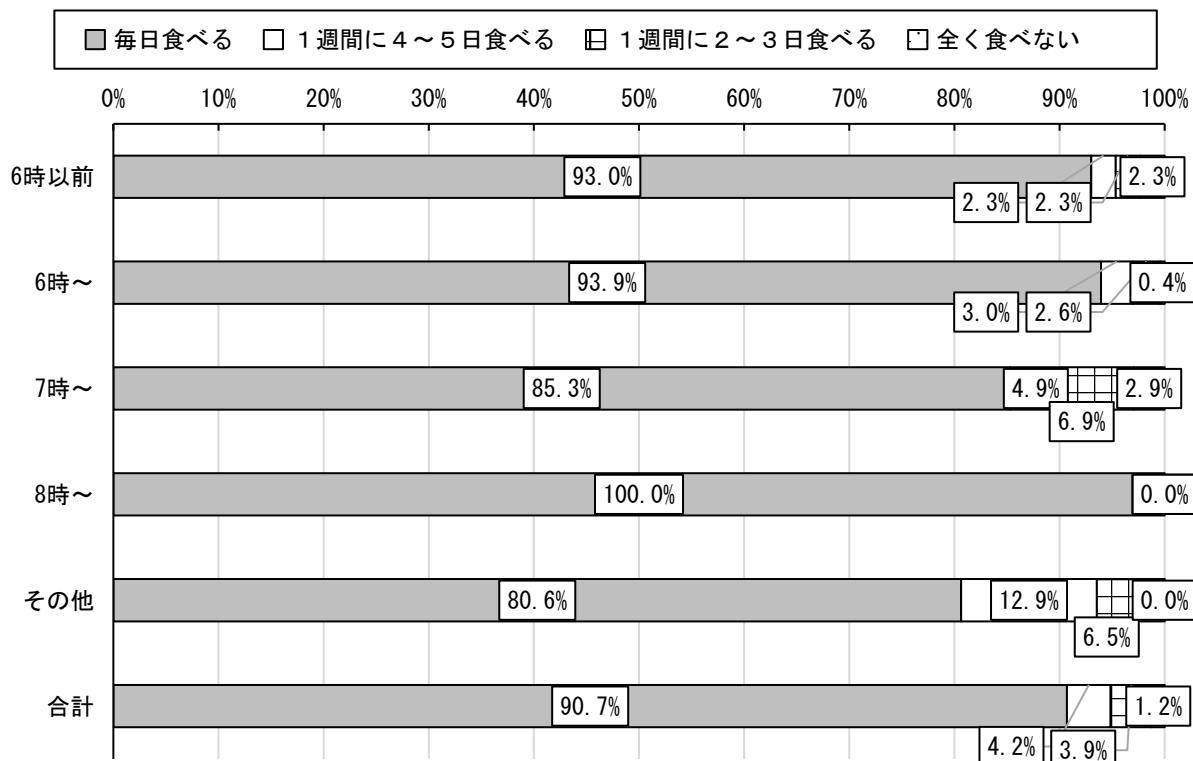


図 48 (小学2年生) 朝食の摂取状況、起床時刻

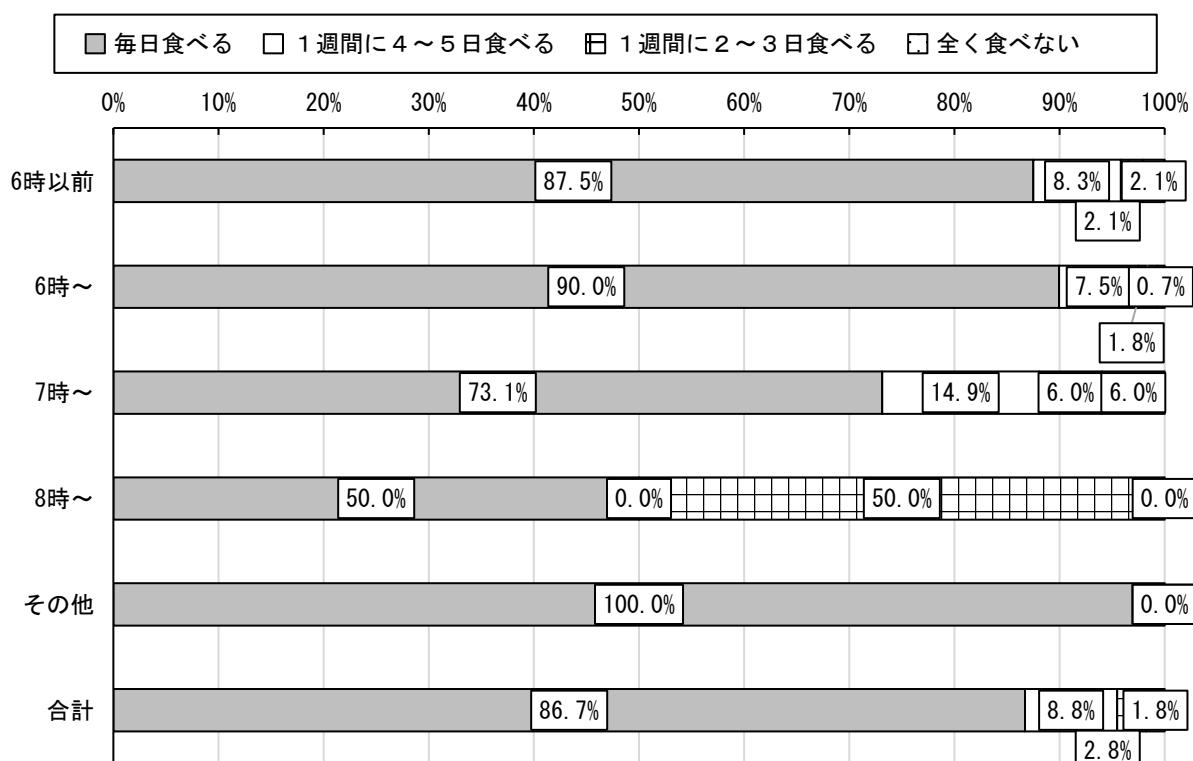


図 49 (小学5年生) 朝食の摂取状況、起床時刻

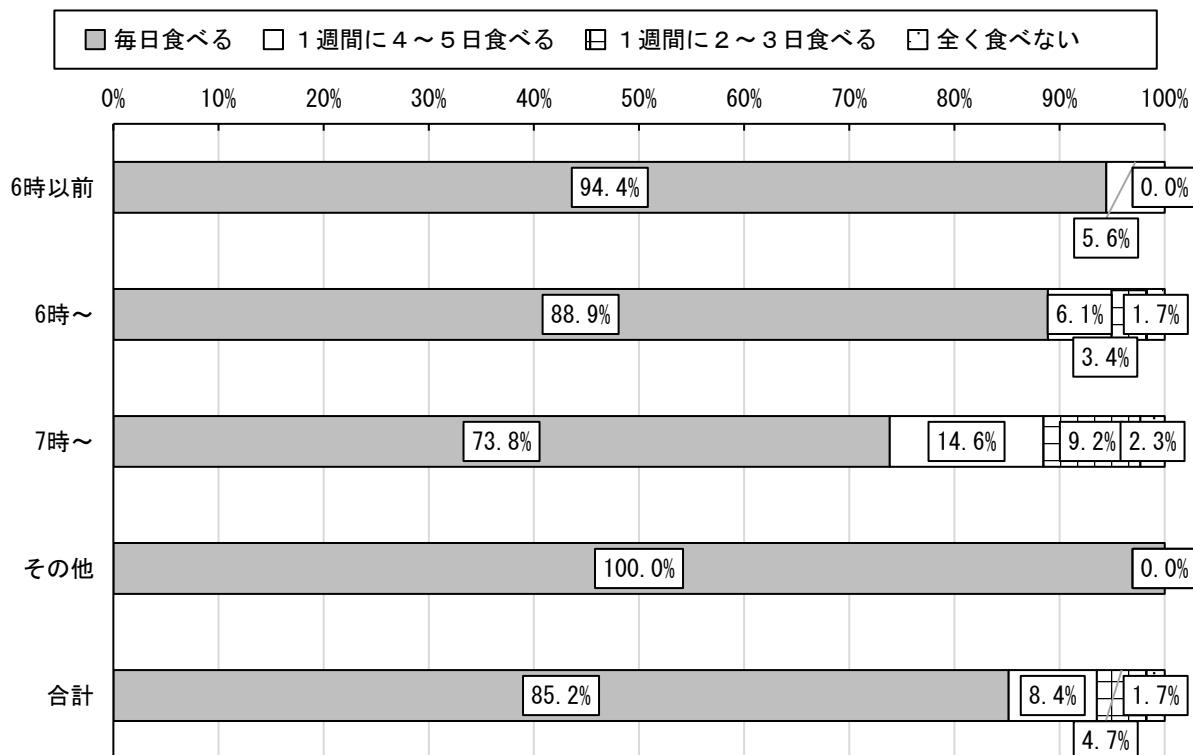


図 50 (中学2年生) 朝食の摂取状況、起床時刻

(3) (成人) 朝食を食べるためには必要なこと

(成人) 9-1 あなたが朝食を食べるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

「朝食を食べるためには必要なこと」として、男性は「朝食を食べる習慣があること」、女性は「朝、食欲があること」に回答が集まった。

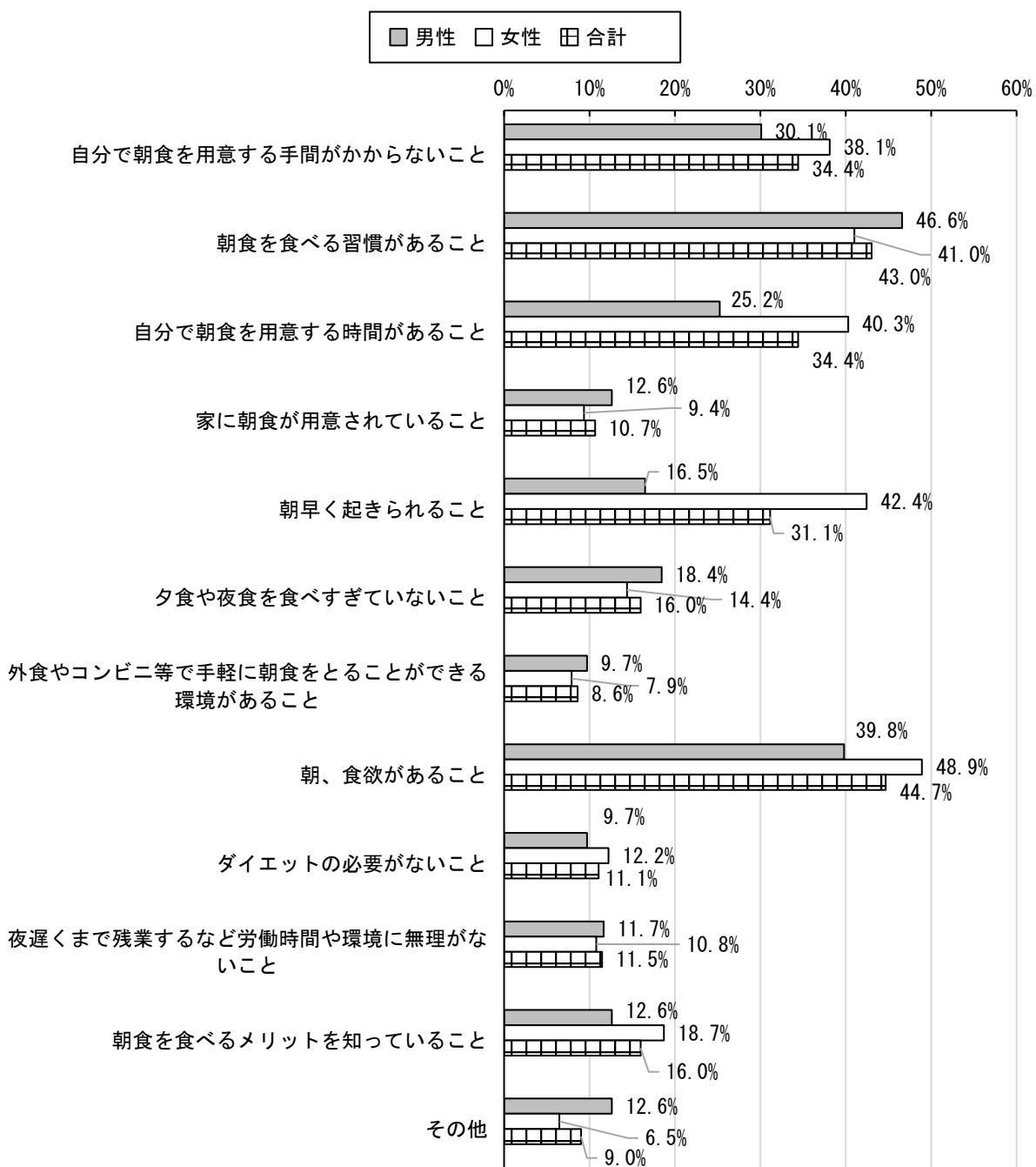


図 51 (成人) 朝食を食べるためには必要なこと、性別

その他コメントは、「朝食は必要でない」という回答がほとんどであった。

<全国との比較>

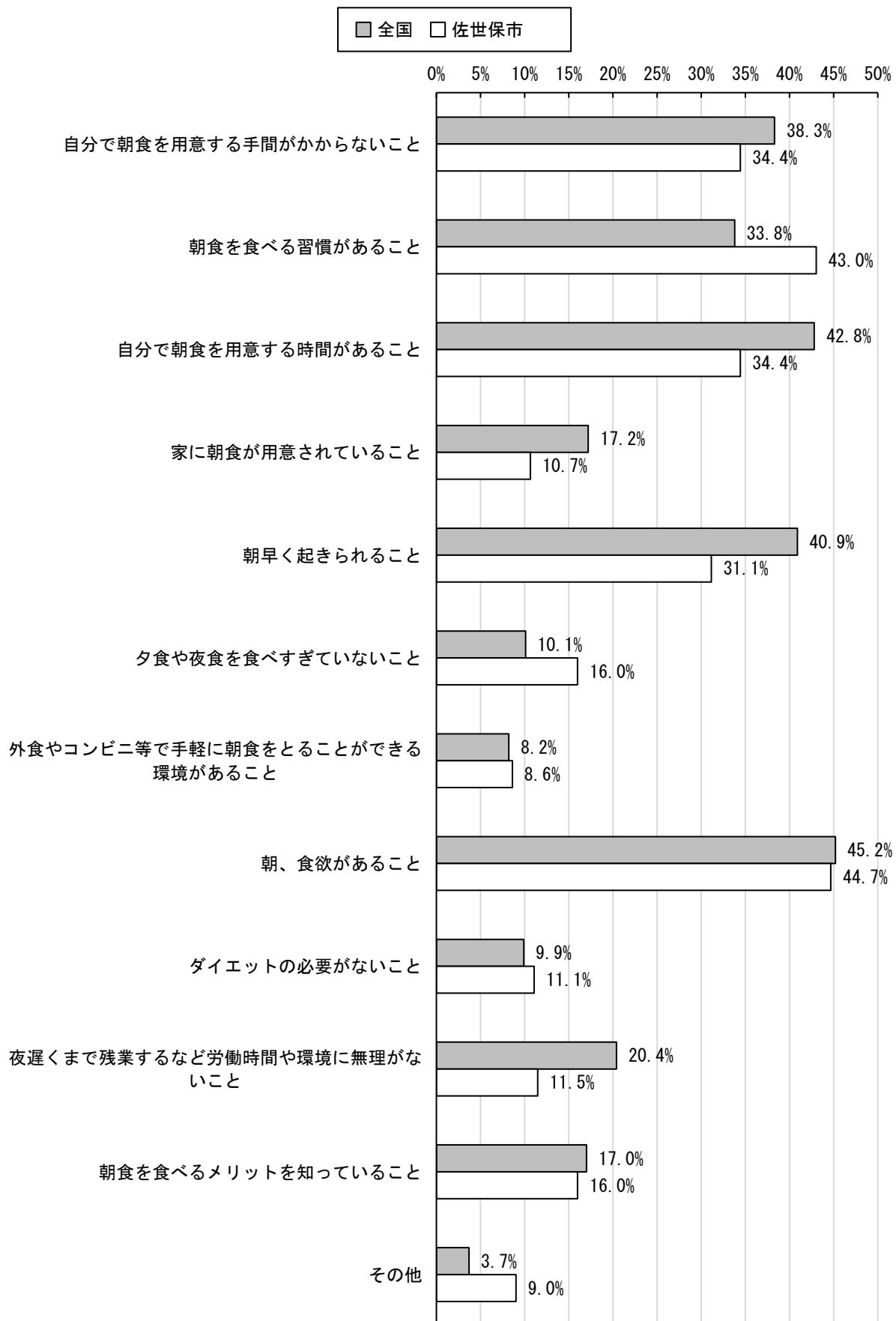


図 52 (成人) 朝食を食べるためには必要なこと、全国との比較

表 9 全国と佐世保市における「朝食を食べるためには必要なこと」

項目	全国	佐世保市
自分で朝食を用意する手間がかからないこと	38.3%	34.4%
朝食を食べる習慣があること	33.8%	43.0%
自分で朝食を用意する時間があること	42.8%	34.4%
家に朝食が用意されていること	17.2%	10.7%
朝早く起きられること	40.9%	31.1%
夕食や夜食を食べすぎていないこと	10.1%	16.0%
外食やコンビニ等で手軽に朝食をとることができる環境があること	8.2%	8.6%
朝、食欲があること	45.2%	44.7%
ダイエットの必要がないこと	9.9%	11.1%
夜遅くまで残業するなど労働時間や環境に無理がないこと	20.4%	11.5%
朝食を食べるメリットを知っていること	17.0%	16.0%
その他	3.7%	9.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 2 現在の食生活について P26

D. 基本目標3 栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす

(1) (成人) 栄養バランス

(成人) 10 あなたは、主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが、1日に2回以上ある日は週に何日ありますか。(○はひとつ)

「ほとんど毎日」と回答した割合は、52.6%だった。

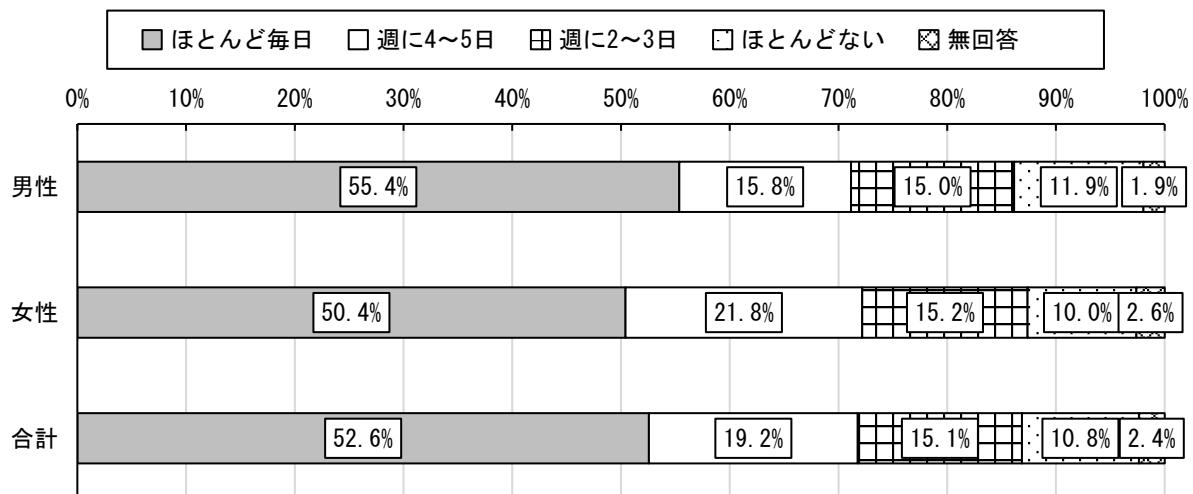


図 53 (成人) 栄養バランス、性別

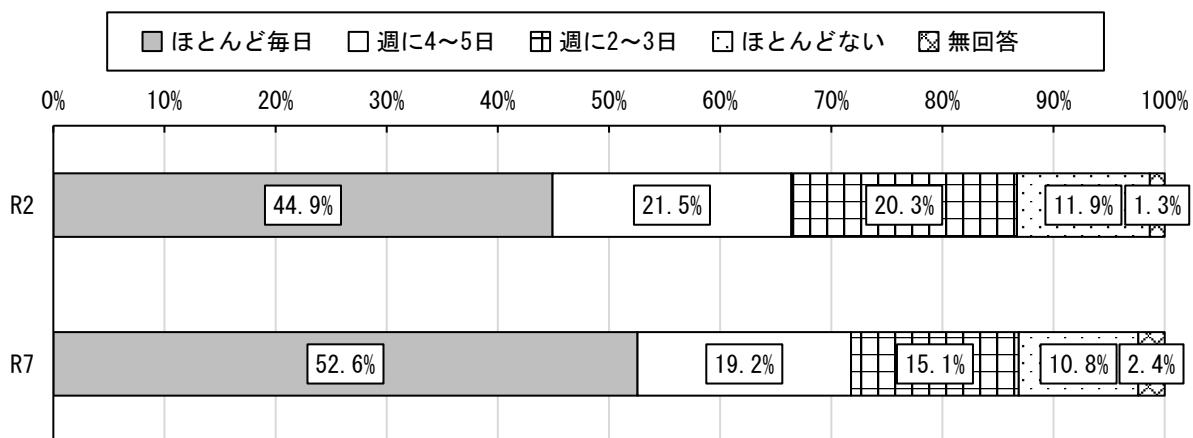


図 54 (成人) 主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる頻度、
前回調査結果(令和2年度)との比較

主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる頻度（前回調査結果[令和2年度]との比較）

基本目標3栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす

【推進項目】主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合

<算出方法>

(成人) 10 「あなたは、主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが、1日に2回以上ある日は週に何日ありますか。」で「ほとんど毎日」の回答数／アンケート全回答数×100

<結果>

	R2	R7	目標
割合 (%)	44.9	52.6	60.0

今回の調査結果は、全世代で7.7%増加したが、目標を達成できていない。

「ほとんど毎日」と回答した割合を年代別に見ると、「70代」が最も高く、続いて「60代」そして「40代」だった。

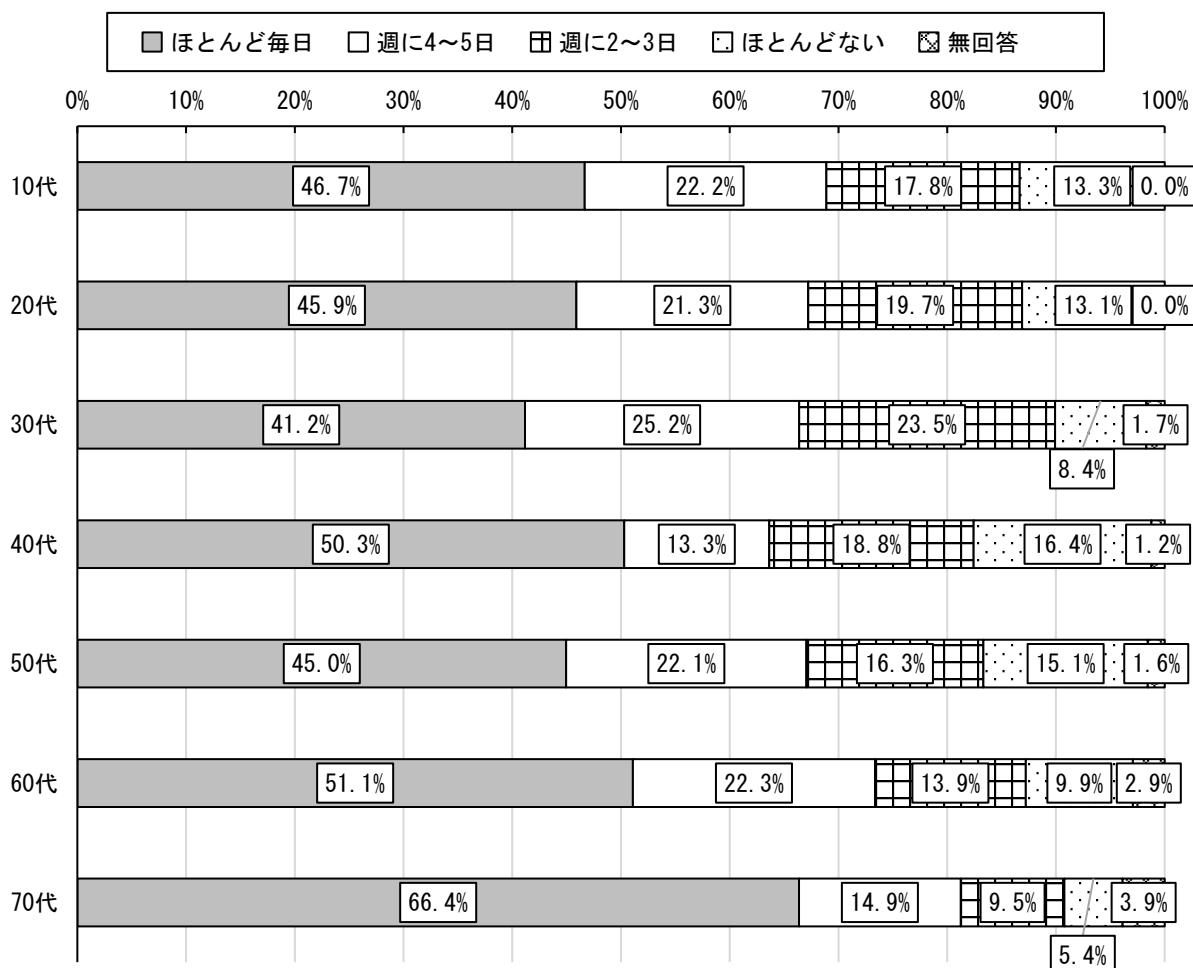


図 55 (成人) 栄養バランス、年代

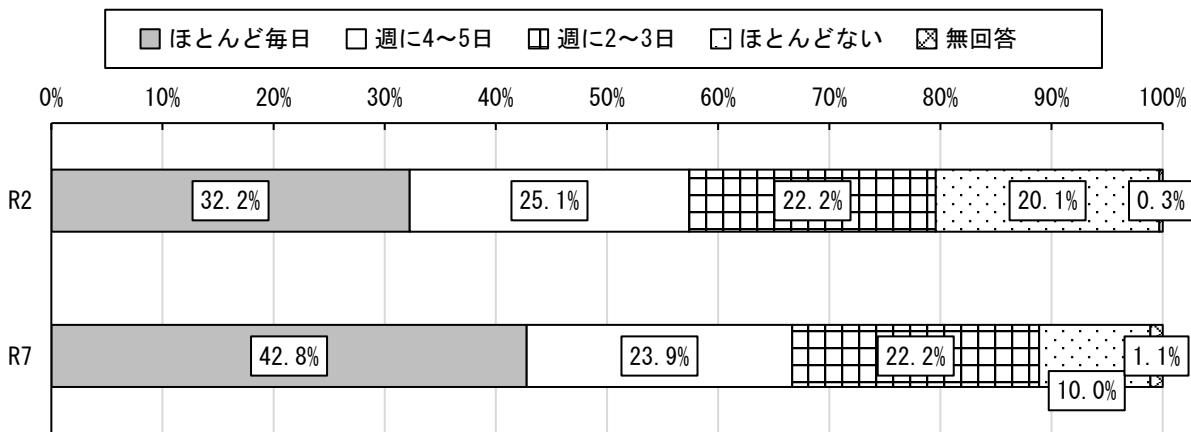


図 56 (成人) 若い世代 (20~30 代) の主食・主菜・副菜を 3 つそろえて食べる頻度、前回調査結果 (令和 2 年度) との比較

若い世代 (20~30 代) の主食・主菜・副菜を 3 つそろえて食べる頻度 (前回調査結果 [令和 2 年度] との比較)

基本目標 3 栄養バランスに配慮した食生活を実践する市民を増やす

【推進項目】主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を 1 日 2 回以上ほぼ毎日食べている市民の割合

＜算出方法＞

(成人) 10 「あなたは、主食・主菜・副菜を 3 つそろえて食べることが、1 日に 2 回以上ある日は週に何日ありますか。」で「ほとんど毎日」の回答数 (若い世代 [20~30 代]) / アンケート全回答数 × 100

＜結果＞

	R2	R7	目標
割合 (%)	32.2	42.8	40.0

今回の調査結果は、10.6% 増加した事により、目標値を上回り達成した。

<全国との比較>

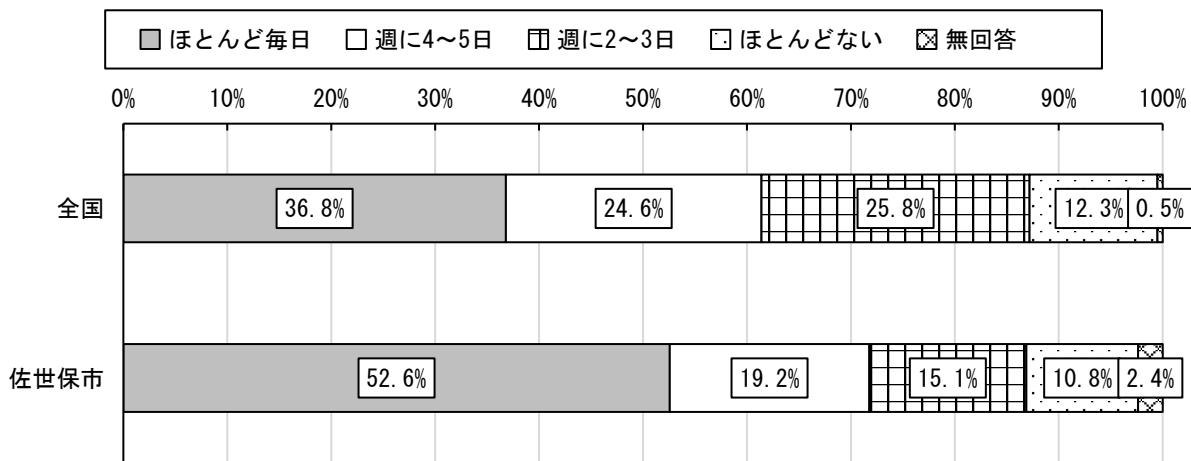


図 57 (成人) 栄養バランス (全世代)、全国との比較

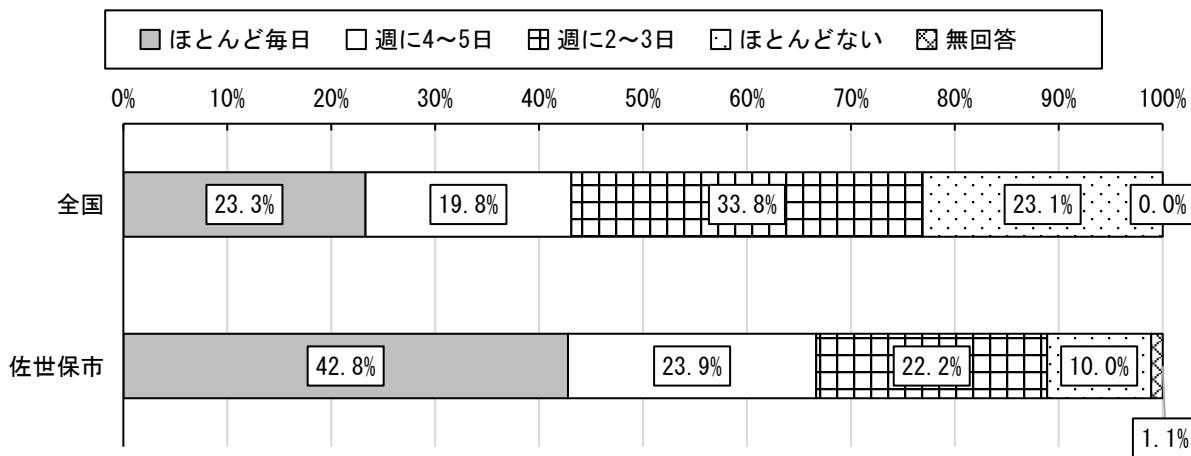


図 58 (成人) 栄養バランス (若い世代 [20~30 代])、全国との比較

表 10 全国と佐世保市における「栄養バランス」

		ほとん ど毎日	週に 4~ 5 日	週に 2~ 3 日	ほとん どない	無回答	合計
全世代	全国	36.8%	24.6%	25.8%	12.3%	0.5%	100.0%
	佐世保市	52.6%	19.2%	15.1%	10.8%	2.4%	100.0%
若い世代 (20~30 代)	全国	23.3%	19.8%	33.8%	23.1%	0.0%	100.0%
	佐世保市	42.8%	23.9%	22.2%	10.0%	1.1%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 2 現在の食生活について P18

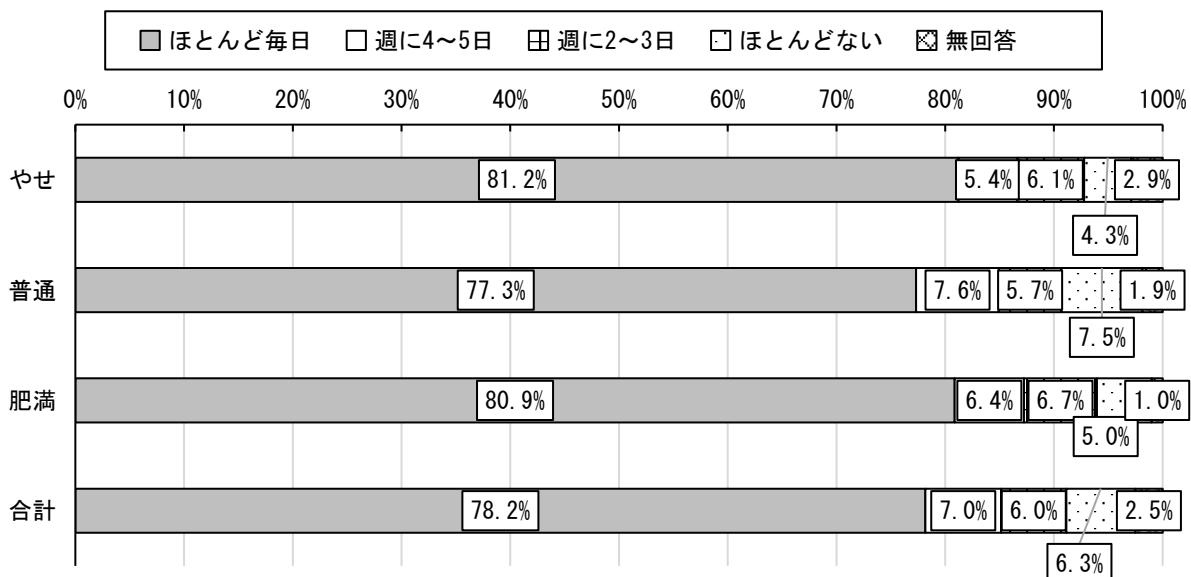


図 59 (成人) 栄養バランス、体格

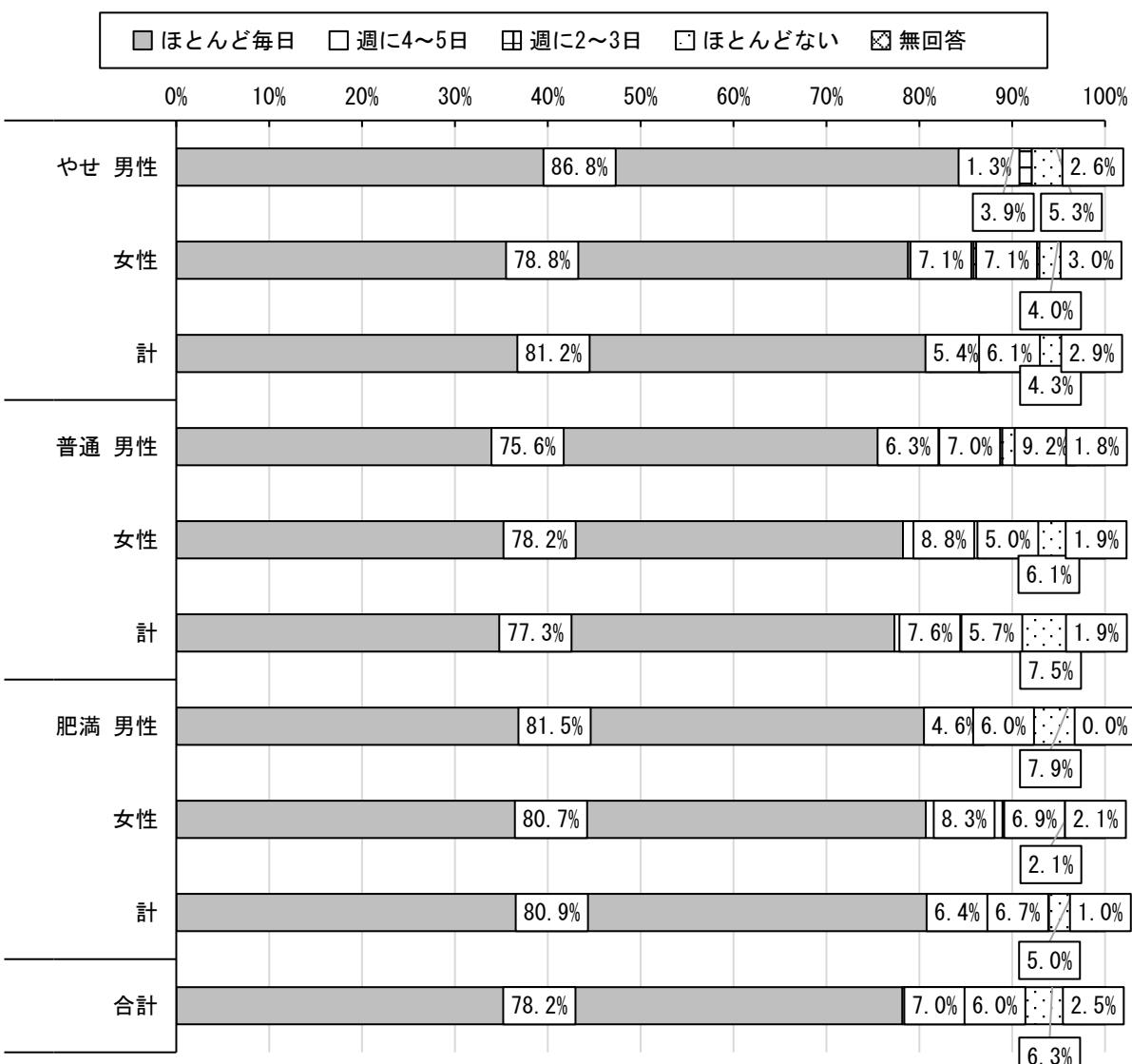


図 60 (成人) 栄養バランス、体格、性別

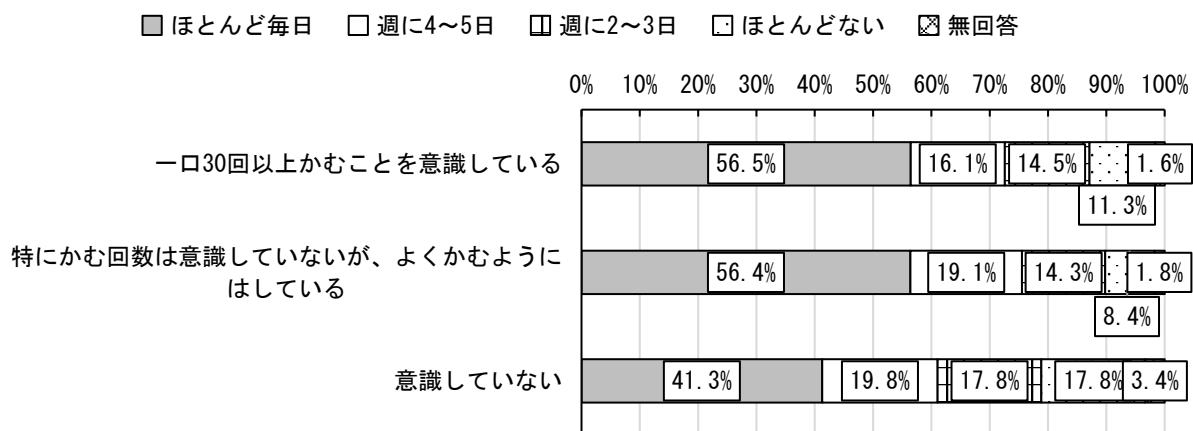


図 61 (成人) 栄養バランス、かむことへの意識

(2) (成人) 主食、主菜、副菜のうち食べられていないもの

(成人) 10-1 主食・主菜・副菜のうち、組み合わせて食べられていないのはどれですか。
(○はいくつでも)

10「栄養バランス」で、「週に4～5日」「週に2～3日」「ほとんどない」を選択した人のみ

主食・主菜・副菜のうち、最も多く回答があったのが「副菜」であった。

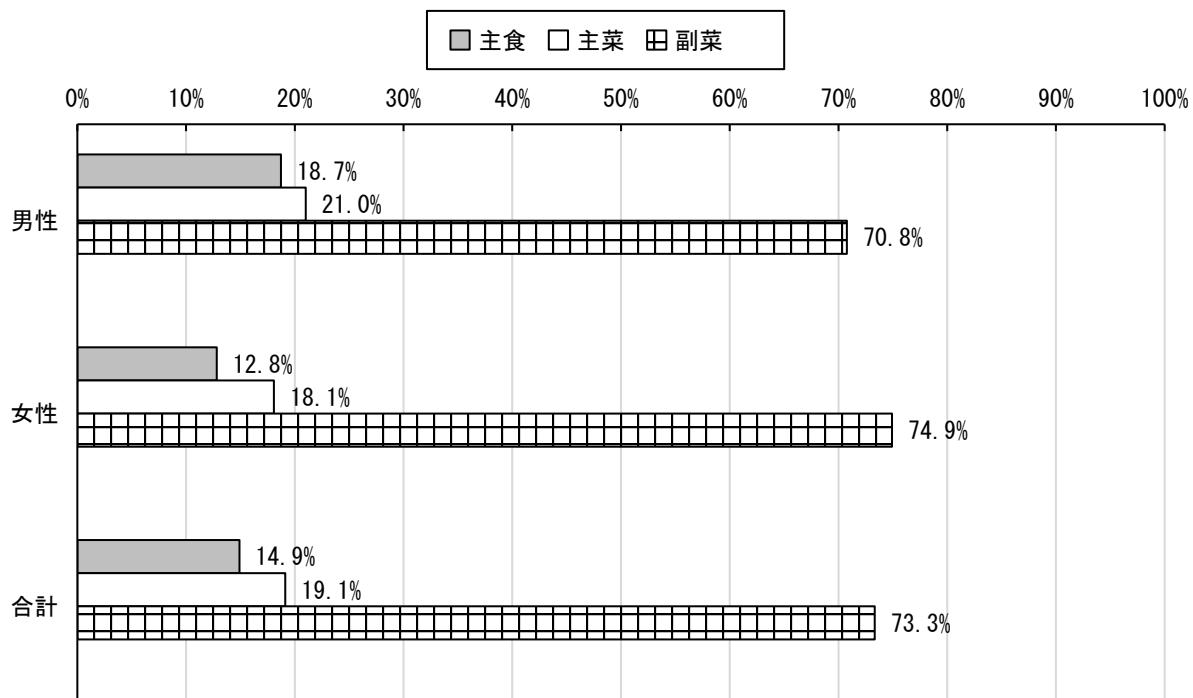


図 62 (成人) 主食、主菜、副菜のうち食べられていないもの、性別

<全国との比較>

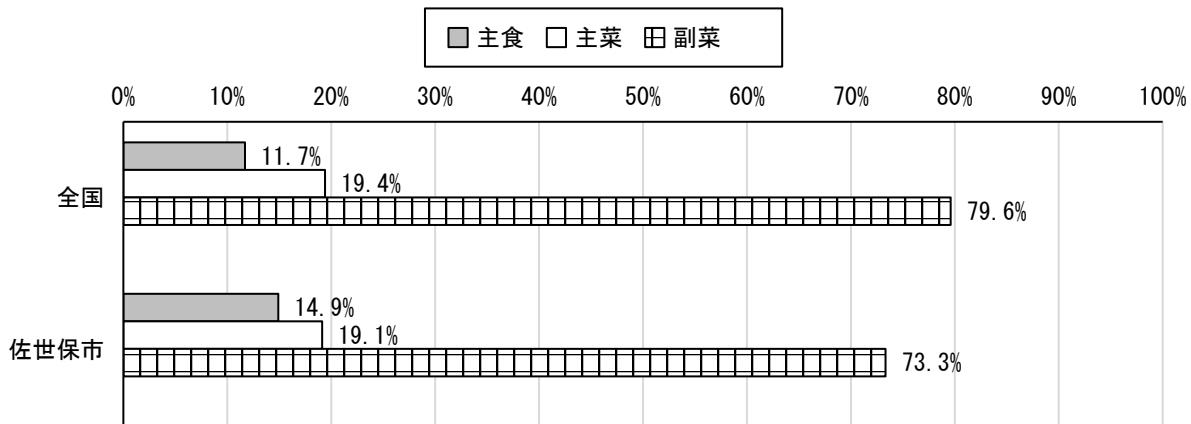


図 63 (成人) 主食、主菜、副菜のうち食べられていないもの、全国との比較

表 11 表 全国と佐世保市における「主食、主菜、副菜のうち食べられていないもの」

割合	主食	主菜	副菜
全国	11.7%	19.4%	79.6%
佐世保市	14.9%	19.1%	73.3%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 2 現在の食生活について P20

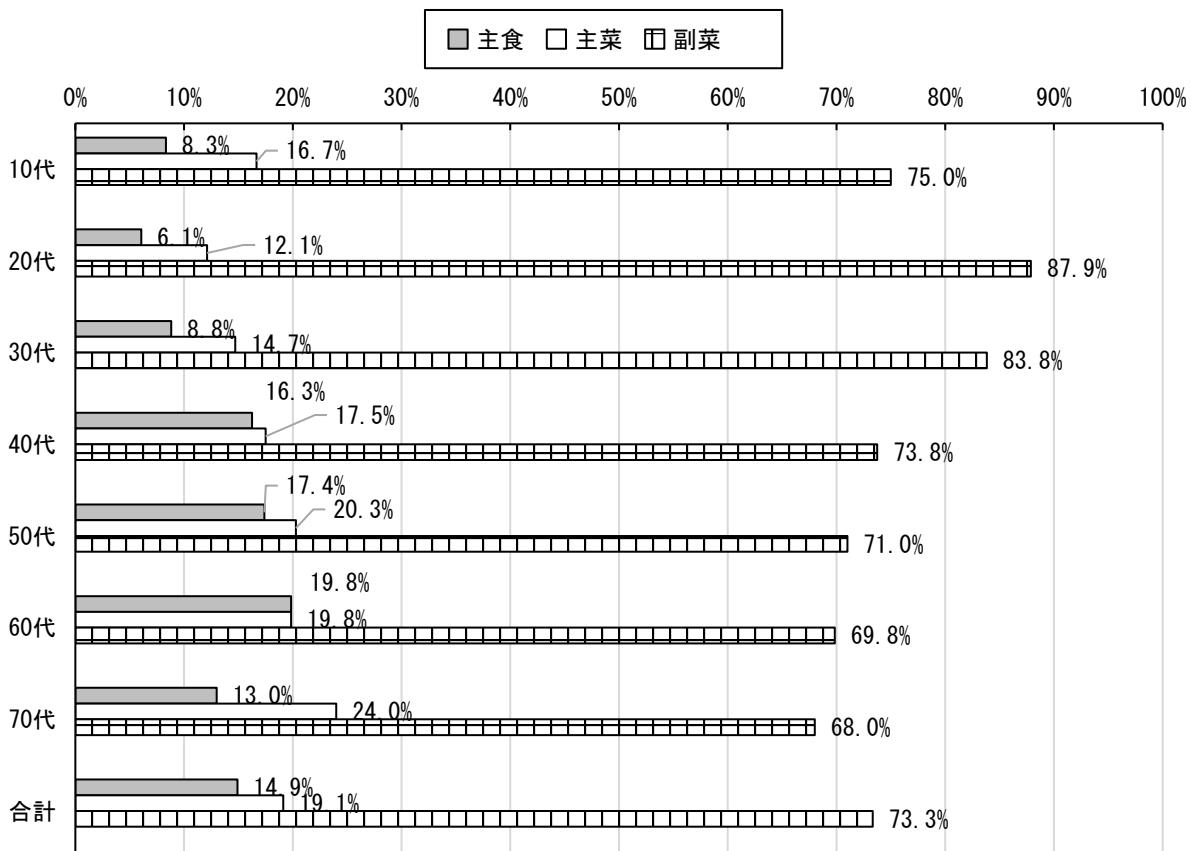


図 64 (成人) 主食、主菜、副菜のうち食べられていないもの、年代

(3) (成人) 栄養バランスに配慮した食事を増やすために必要なこと

(成人) 主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる回数を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

10「栄養バランス」で、「週に4～5日」「週に2～3日」「ほとんどない」を選択した人のみ

「主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる回数を増やすためには」という質問に対し、最も多く回答されたのが男女ともに「手間がかからないこと」であった。

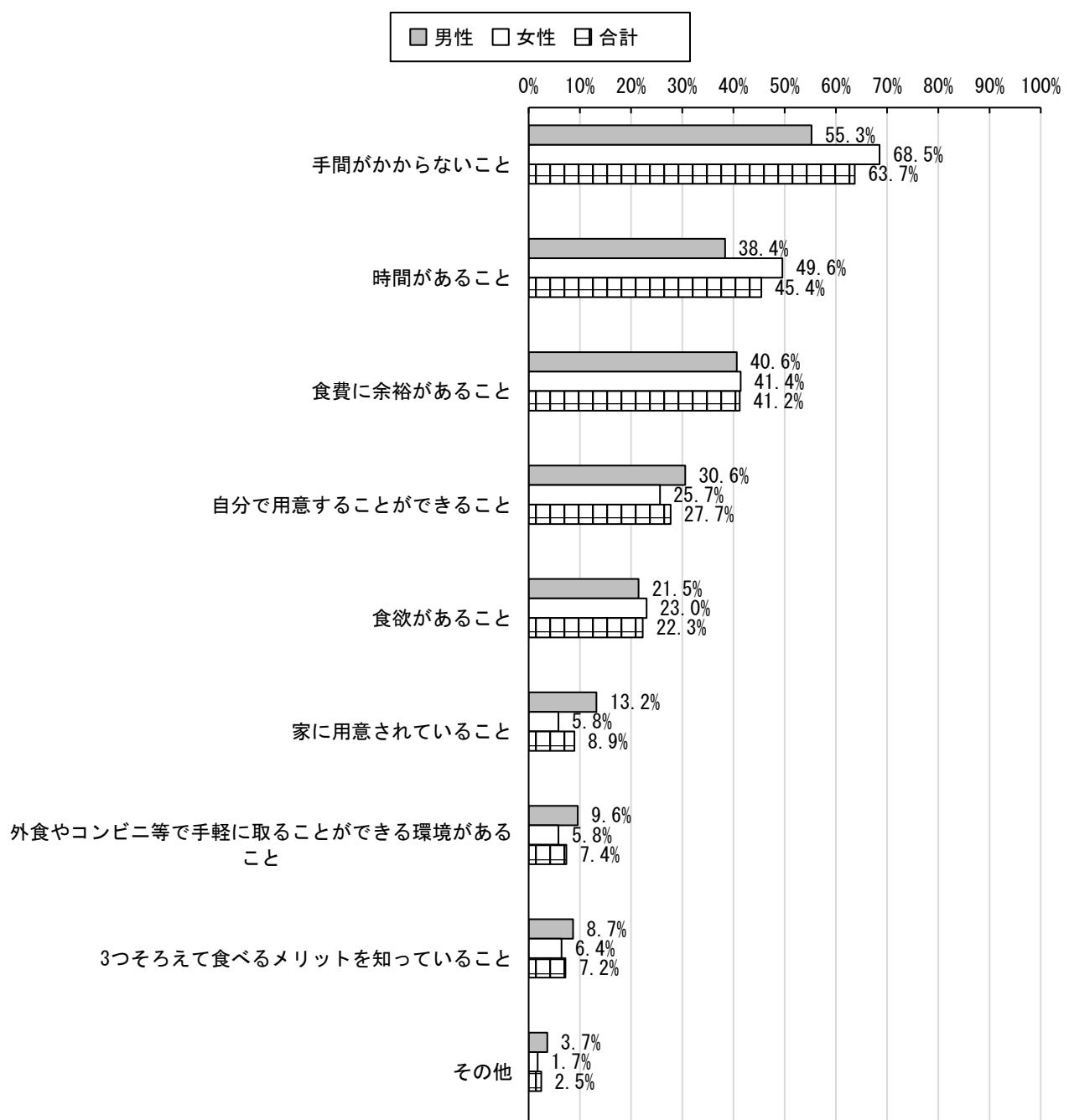


図 65 (成人) 栄養バランスに配慮した食事を増やすために必要なこと、性別

＜全国との比較＞

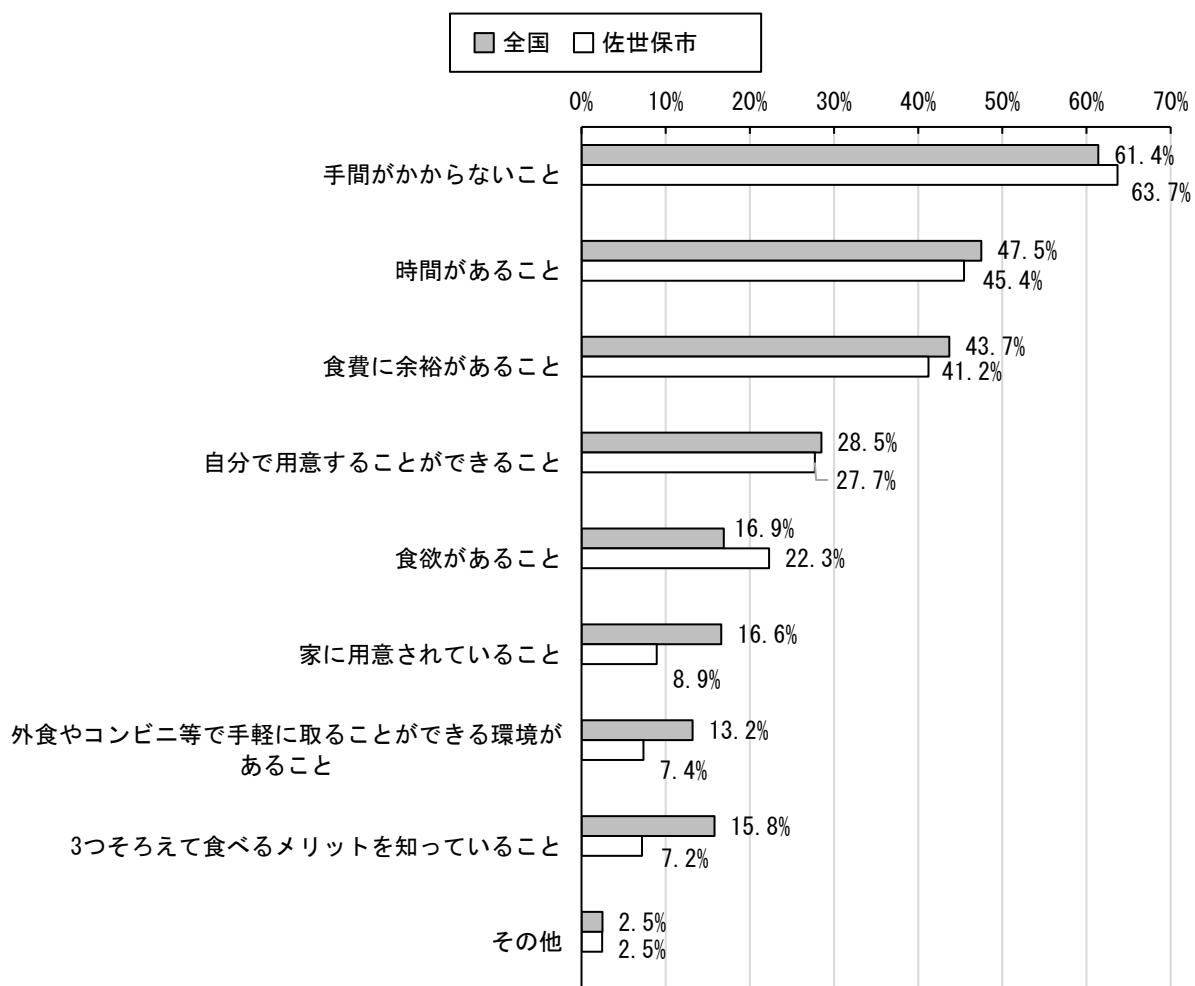


図 66 (成人) 栄養バランスに配慮した食事を増やすために必要なこと、全国との比較

表 12 全国と佐世保市における「栄養バランスに配慮した食事を増やすために必要なこと」

項目	全国	佐世保市
手間がかからないこと	61.4%	63.7%
時間があること	47.5%	45.4%
食費に余裕があること	43.7%	41.2%
自分で用意することができること	28.5%	27.7%
食欲があること	16.9%	22.3%
家に用意されていること	16.6%	8.9%
外食やコンビニ等で手軽に取ることができる環境があること	13.2%	7.4%
3つそろえて食べるメリットを知っていること	15.8%	7.2%
その他	2.5%	2.5%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 2 現在の食生活について P22

表 13 (成人) 栄養バランスに配慮した食事を増やすために必要なこと（その他コメント）

コメント内容	件数
すききらいをなくす	1
ダイエットの必要がないこと	1
タクシー代が掛かる	1
ほぼ毎日飲酒するので主食はその後になる	1
一人暮らしなので、あるもので済ませてしまおうという考えが一番大きいかなと	1
習慣を変容させる	1
食事を作る人が、家族で増えるとできると思う	
作り手が「私」のみだと、食事の準備が辛い	1
食費の節約	1
洗いものが少ないこと	1
土、日曜日は軟式野球連盟で球場に早く行くので	1
晩酌を減らす	1

(4) (成人) 食事指針の認知度

(成人) 4 あなたは次のうち知っているものがありますか。(○はいくつでも)

「食事指針の認知度」で最も知られているのが、「3色分類」そして「6つの基礎食品群」「食事バランスガイド」と続く。また、全ての項目に対して女性の方が知っている割合が高くなる傾向にある。

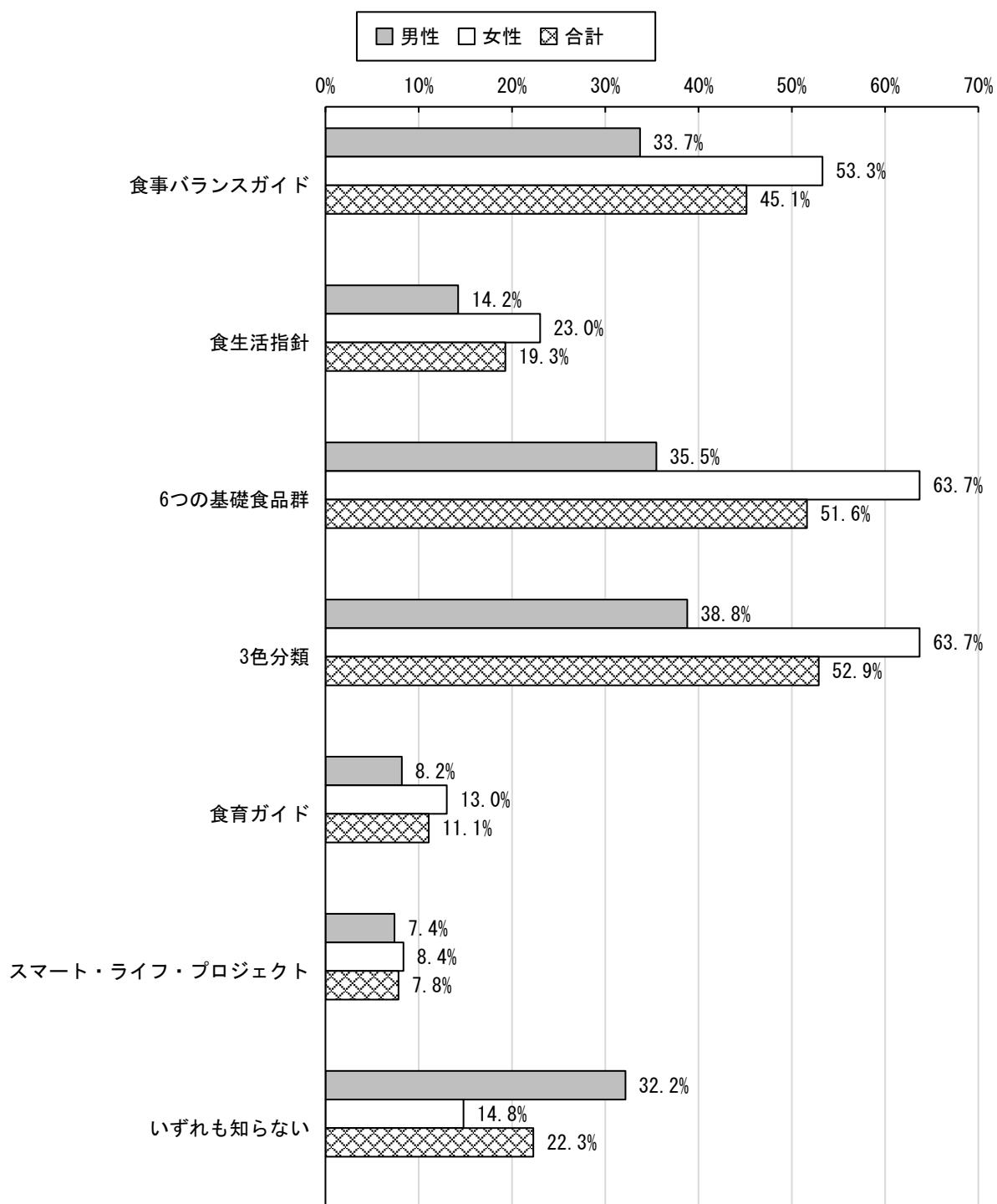


図 67 (成人) 食事指針の認知度、性別

年代別に見ると、年代が上がるにつれ、知っている割合は減少する傾向がみられる。ただし、「食事バランスガイド」だけは、「10代」で低い割合になっている。

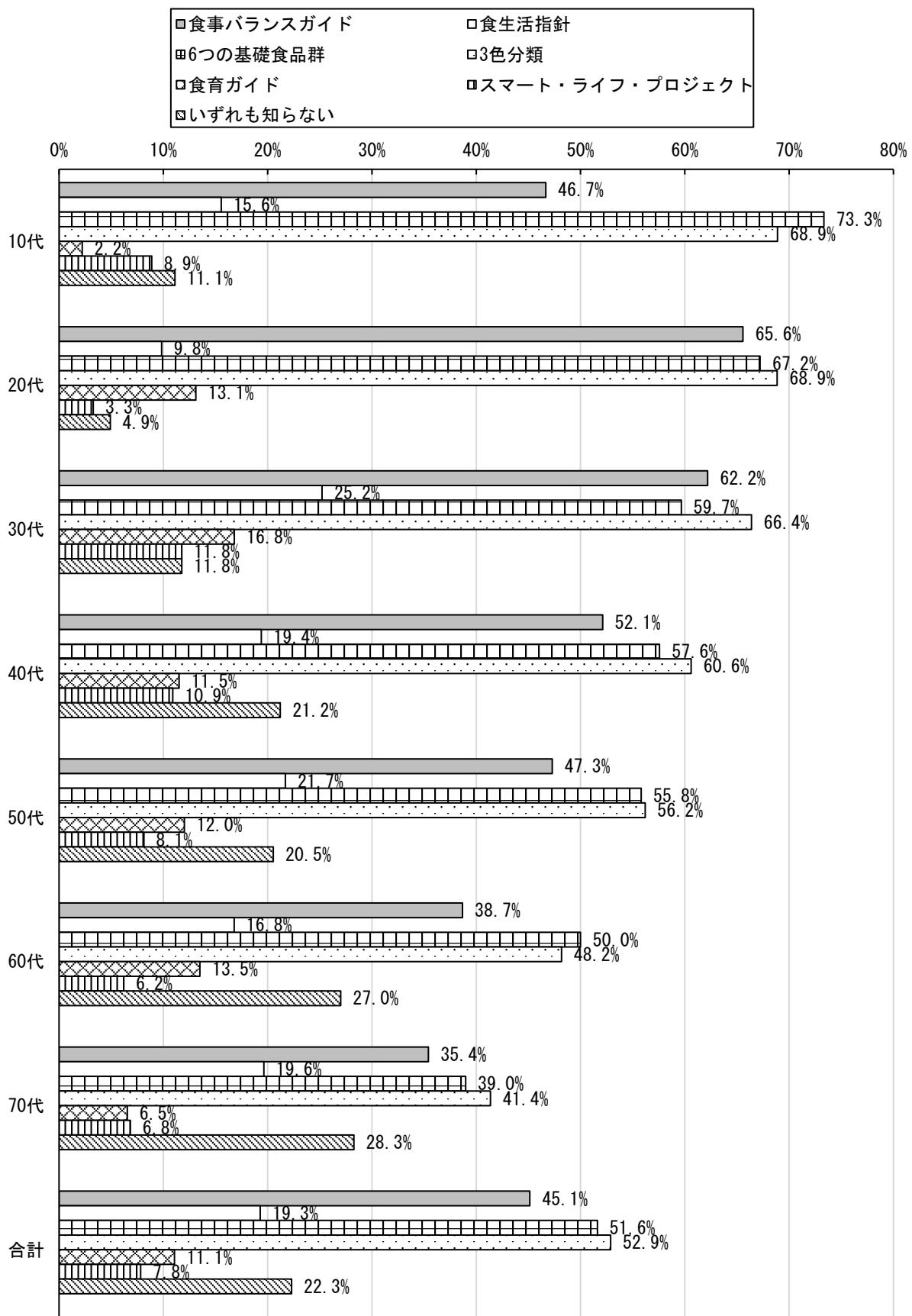


図 68 (成人) 食事指針の認知度、年代

(5) (小児) 魚摂取状況

(未就学児) 問5 お子様は家で主菜に魚を食べていますか。

(小学2年生、小学5年生、中学2年生) 問5 あなたは家で魚のおかずを食べていますか。

「ほとんど毎日」と回答した学年は、「小学2年生」だが、同時に「ほとんど食べない」と回答した割合も最も高い。

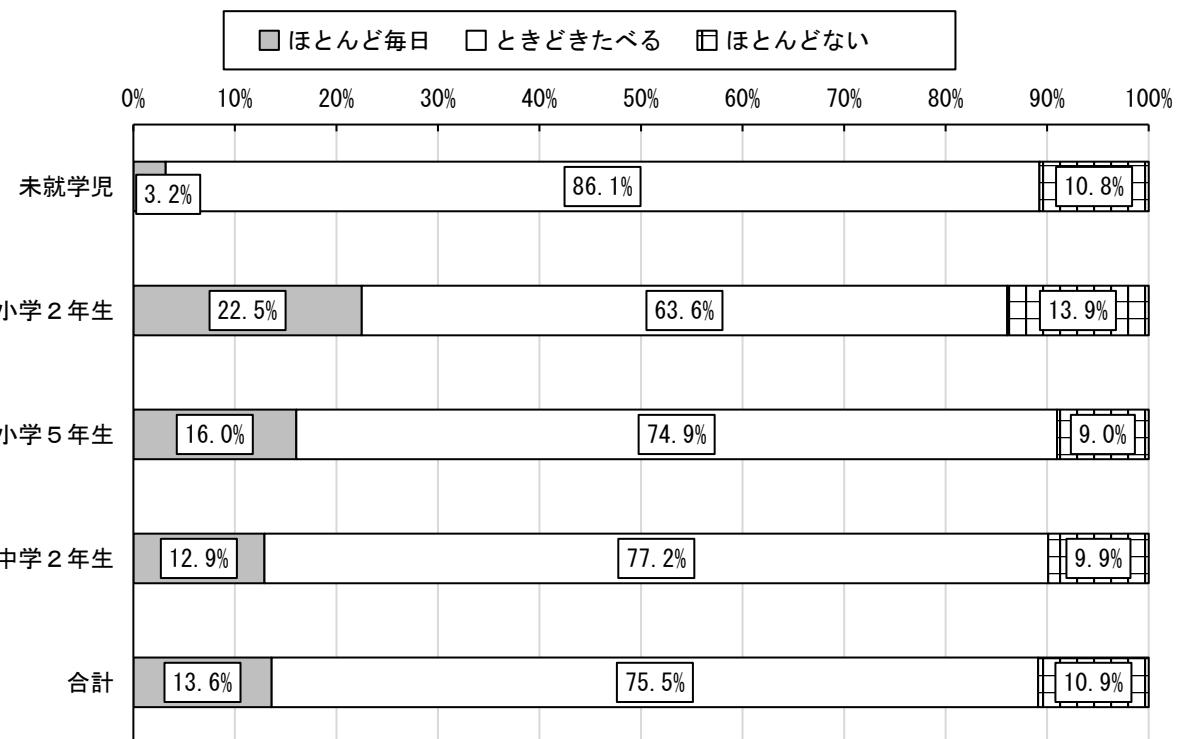


図 69 (小児) 魚摂取状況、学年別

(6) (小児) 野菜摂取状況

(未就学児) 問6 お子様は、朝食や夕食で野菜を食べていますか。

(小学2年生、小学5年生、中学2年生) 問6 あなたは、朝食や夕食で野菜を食べていますか。

「毎日朝食でも夕食でも食べる」と回答した学年は、「小学2年生」だが、同時に「時々食べる」「ほとんど食べない」と回答した割合も最も高い。

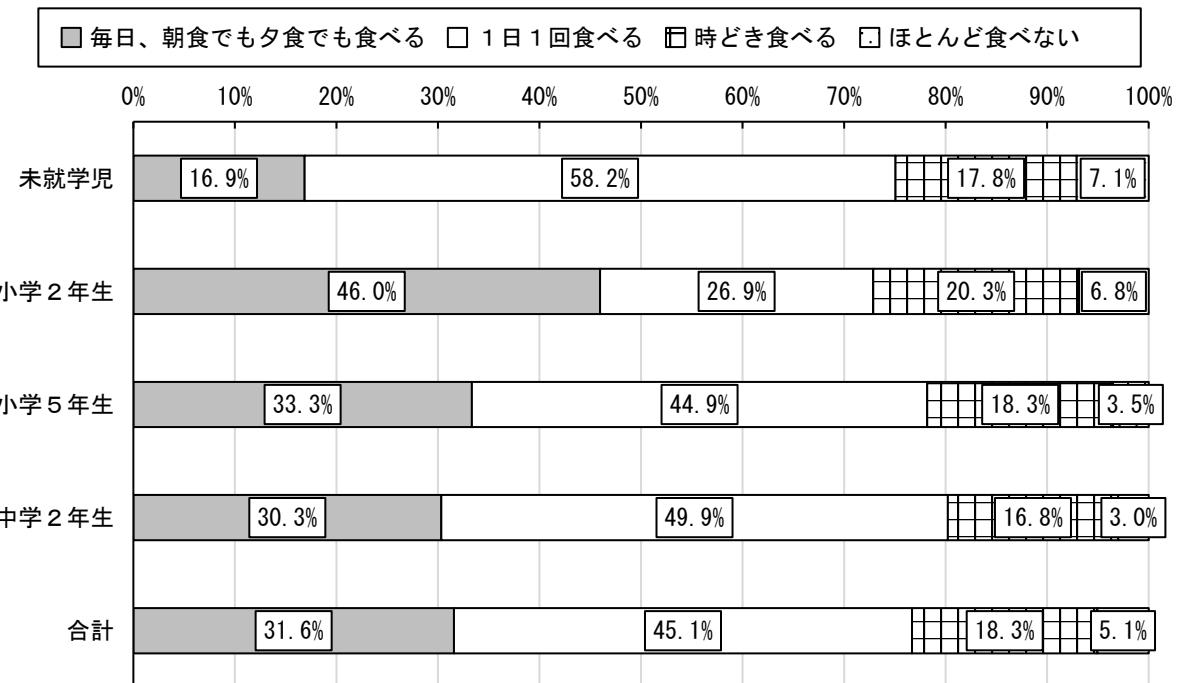


図 70 (小児) 野菜摂取状況、学年別

(7) (小児) 野菜摂取不足の理由

(未就学児) 問6-1 お子様が野菜を毎食食べない理由は何ですか。

(小学2年生、小学5年生、中学2年生) 問6-1 朝食や夕食で野菜を食べない理由は何ですか。

「味がきらいだから」「見た目がきらいだから」は、「未就学児」「小学2年生」が、これに対して「食事の時に出てこないから」は、「小学5年生」「中学2年生」が他の学年と比較して高い割合を示している。

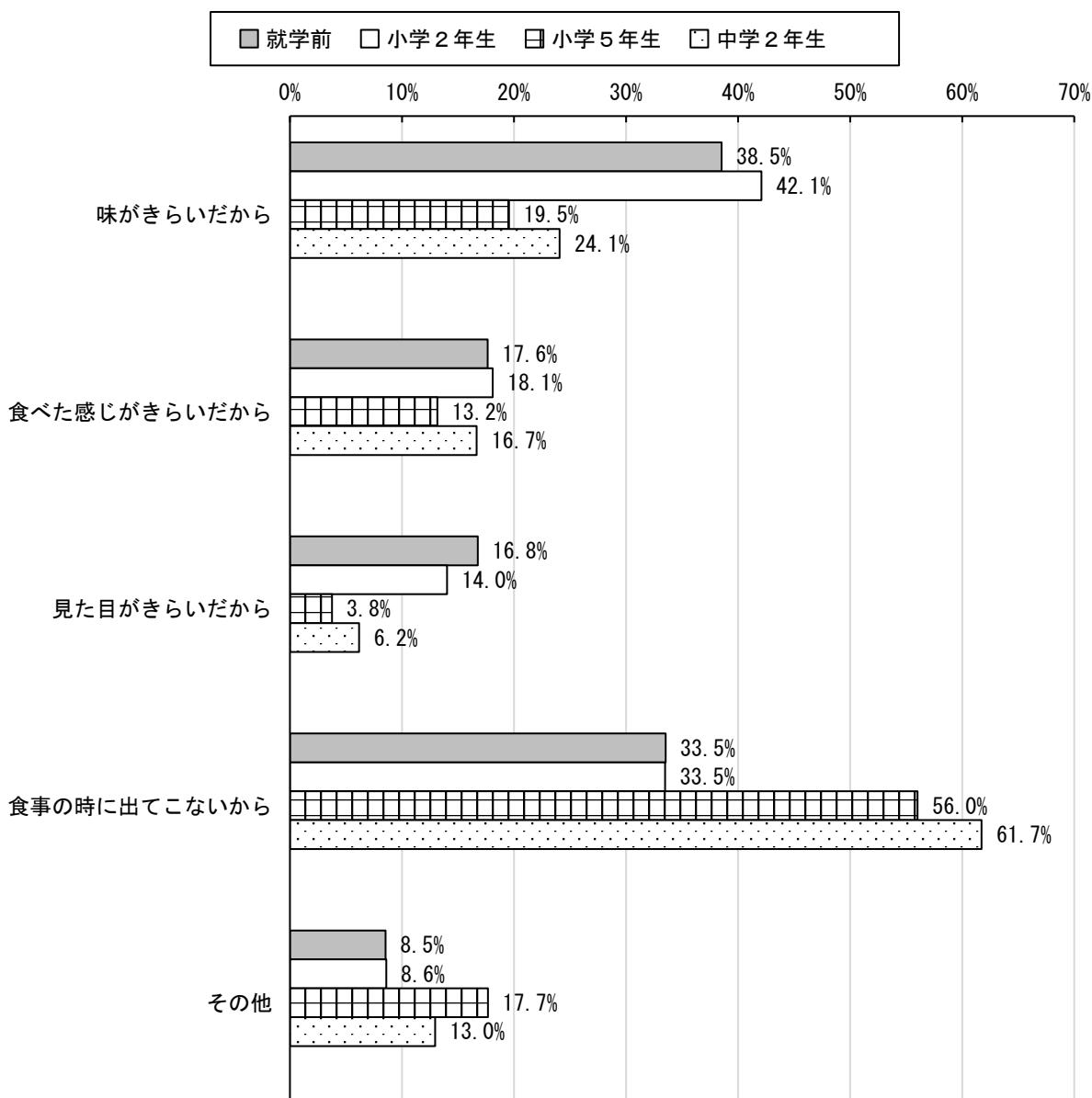


図 71 (小児) 野菜摂取不足の理由、学年別

表 14 (小児) 野菜摂取不足の理由 (その他コメント)

カテゴリ	意見	件数
出ない・出さない		21
	1日に、1回でてくるから	1
	朝から野菜を出すと夜食べるからと言い…朝からは果物を食べたがります (昼や夜は、野菜はほとんど食べます)	1
	朝食で野菜が出ない	18
	野菜を食べたいけど、毎回パンとかお米とかでてくるから時々食べる	1
嫌い・苦手		11
	苦手な野菜がある、苦手、たまねぎがきらいだから	3
	嫌いな野菜以外は食べる	4
	食わず嫌い、偏食	4
朝食欠食		8
	朝食は食べてないし、食べるとしても野菜ではなくパンだから	1
	朝食欲がないから、朝食べれていない	5
	調理が面倒くさい。料理が大嫌いすぎて調理を行う気力も起きない (出しても食べない)	1
	母親が仕事で忙しくあまり食べる機会がないから	1
気分		7
	気分による	7
時間がない		6
	朝は時間がなく、簡単に食べられるもので済ませている	4
	たまに寝坊してしまうから	1
	時間がない	1
購入していない		3
	野菜が高い	1
	野菜は好きなのに野菜が冷蔵庫にない	1
	野菜を買わないときもあるから	1
親が出さない		3
	お母さんが嫌いだから	3
おなかがいっぱい・すかない		3
	野菜を食べるときには、もうお腹がいっぱいだから	3
面倒		1
	わざわざ皿に持っていくのが面倒くさいから	1
興味がない		1
	おいしいともおもわない (ふつうとおもっている)	1
その他		3
	とくに意味はない	1
	学校でしか野菜とかでないから	1
	動物性の食品のほうが栄養を取りやすいから	1
肯定		43
	ありません	3
	野菜が好きだから、美味しい	17
	野菜は食べる	23
総計		110

(8) (成人) 外食・中食の頻度

(成人) 11 あなたは、外食や調理済み食品（弁当・総菜など）を食べることが週に何日ありますか。（○はひとつ）

「ほとんど毎日」「週に4～5日」と回答した割合は、15.8%だった。性別で見ると「ほとんど毎日」「週に4～5日」と回答した割合は、「男性」の方が高かった。

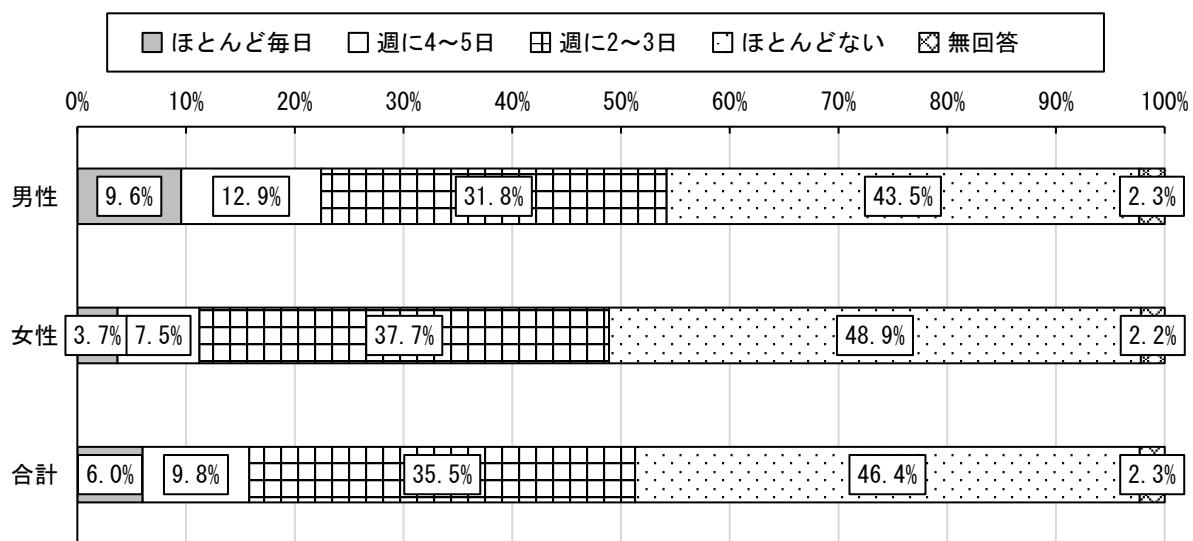


図 72 (成人) 外食・中食の頻度、性別

「ほとんど毎日」「週に4～5日」と回答した割合を年代・性別で見ると、男性では「60代」、女性では「10代」で最も割合が高くなっている。続いて、男性では「10代」、女性では「50代」となる。

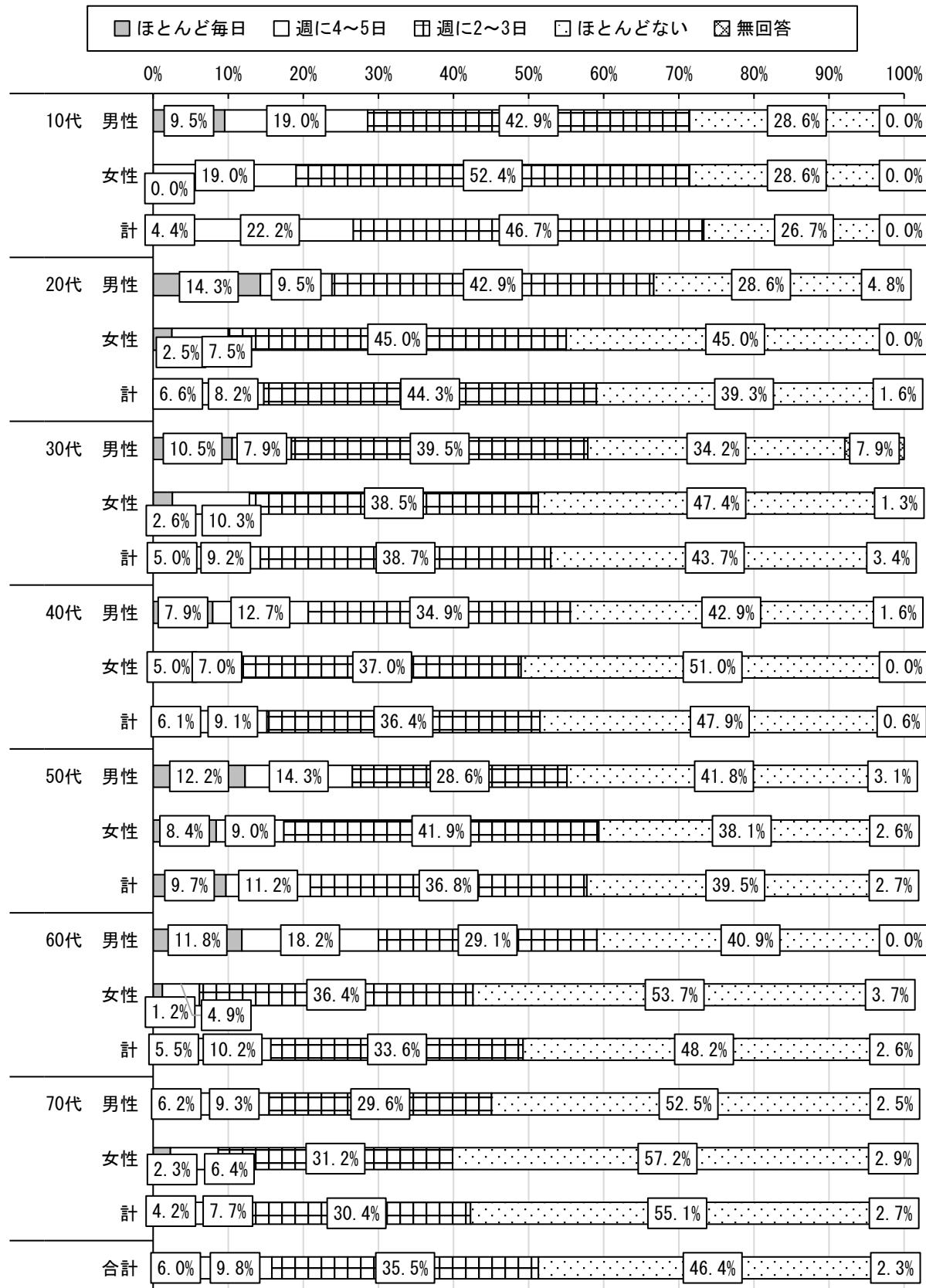


図 73 (成人) 外食・中食の頻度、年代、性別

同様に職業別・性別で見ると、男性、女性ともに「会社や団体の役員」で最も割合が高くなっている。続いて、男性では「学生・専業主婦（主夫）」、女性では「農林漁業」となる。

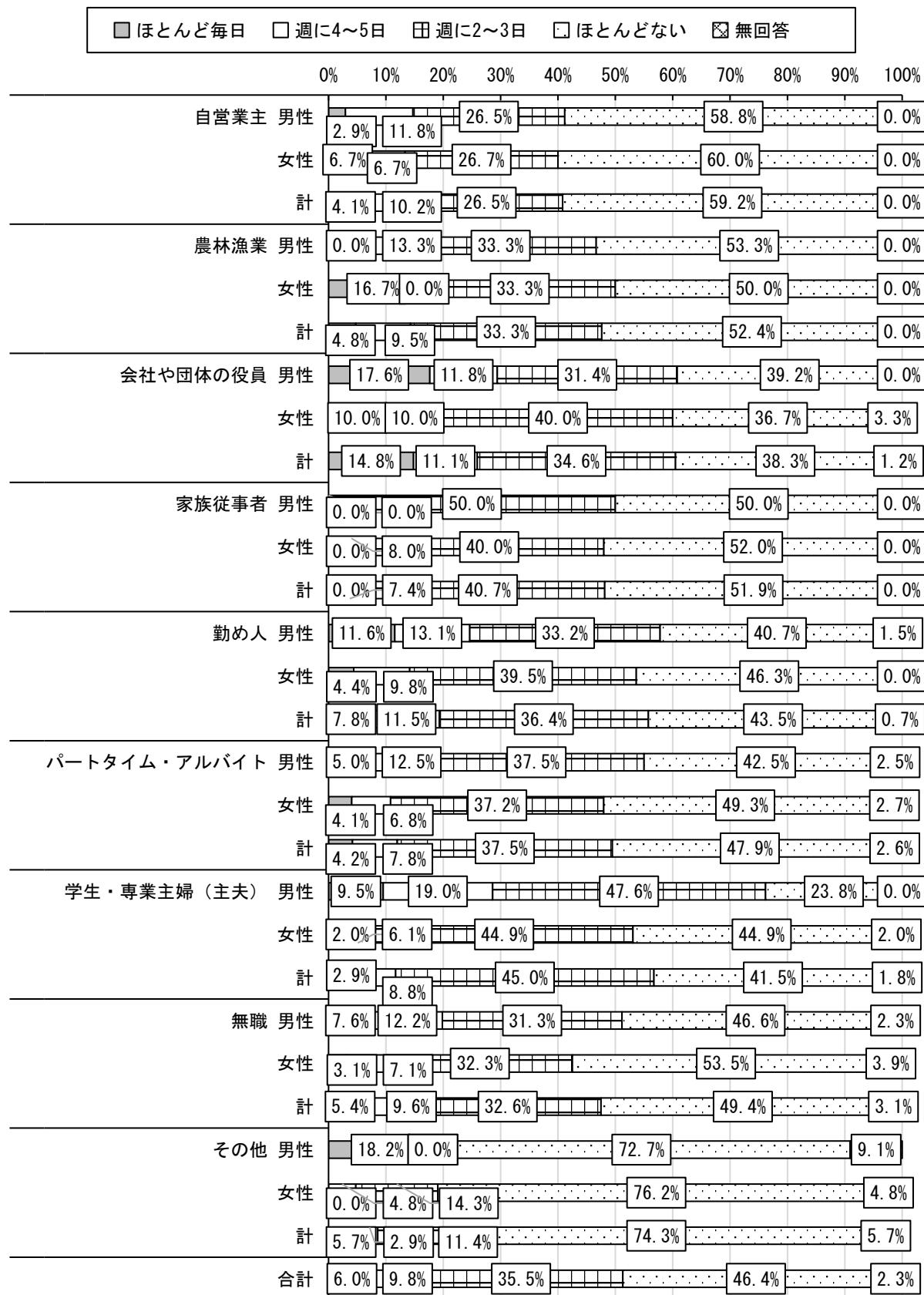


図 74 (成人) 外食・中食の頻度、職業別、性別

さらに、体格・性別で見ると、最も割合が高かったのが「やせ」の「男性」であり、続いて「肥満」の「男性」となった。しかし、女性の場合、「やせ」は最も少ない割合となっている。

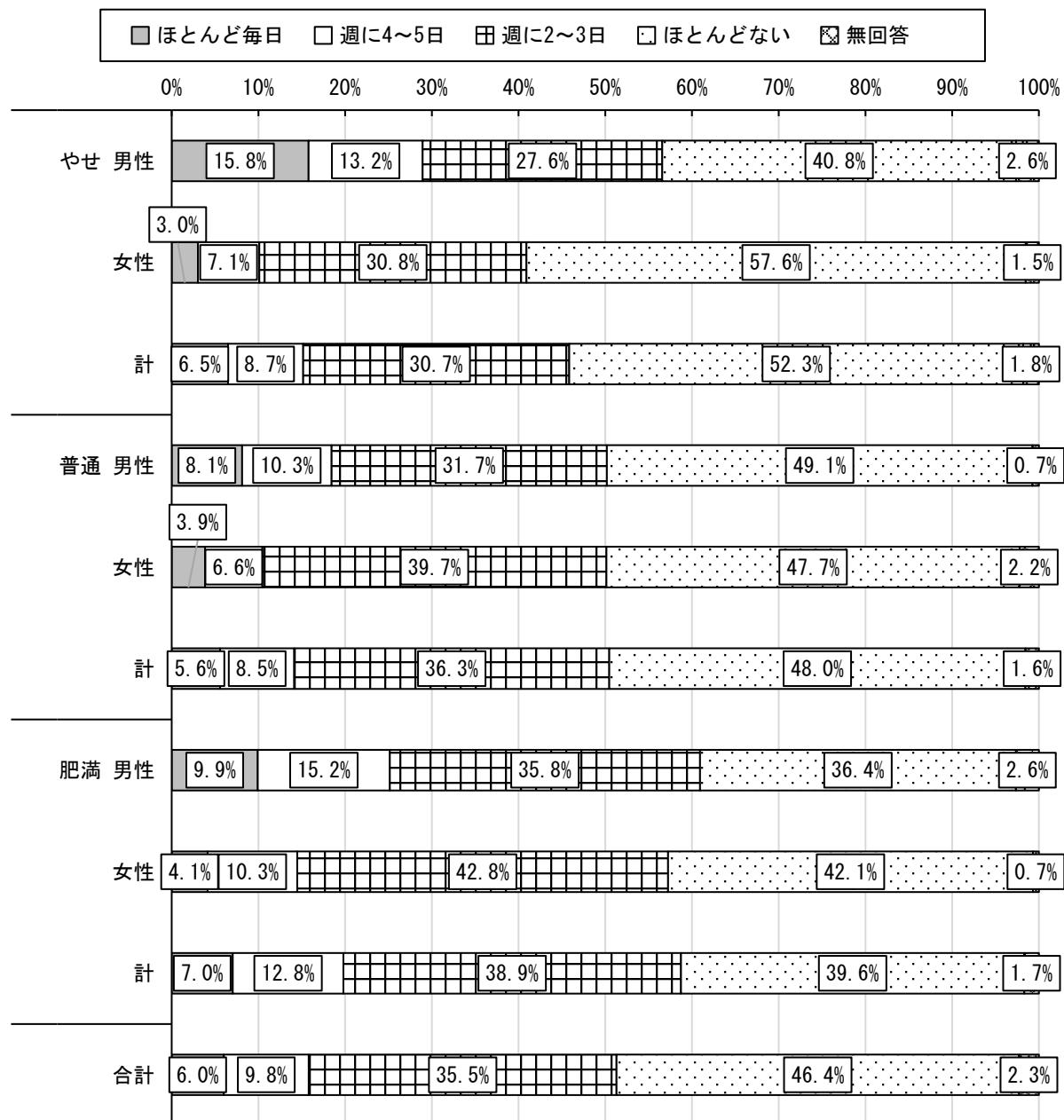


図 75 (成人) 外食・中食の頻度、体格、性別

(9) (成人) メニュー選択の条件

(成人) 11-1 外食や調理済み食品（弁当・総菜など）でメニューを選ぶ際に気をつけていらっしゃいますか。（○はいくつでも）

11 「あなたは、外食や調理済み食品（弁当・総菜など）を食べることが週に何日ありますか。」で、「ほとんど毎日」「週に4～5日」「週に2～3日」を選択した人のみ

メニュー選択の条件として最も高いのが、男女ともに「栄養バランスがいいものを選ぶ」であった。また、女性の方が男性より選ぶ割合は高い傾向にある。

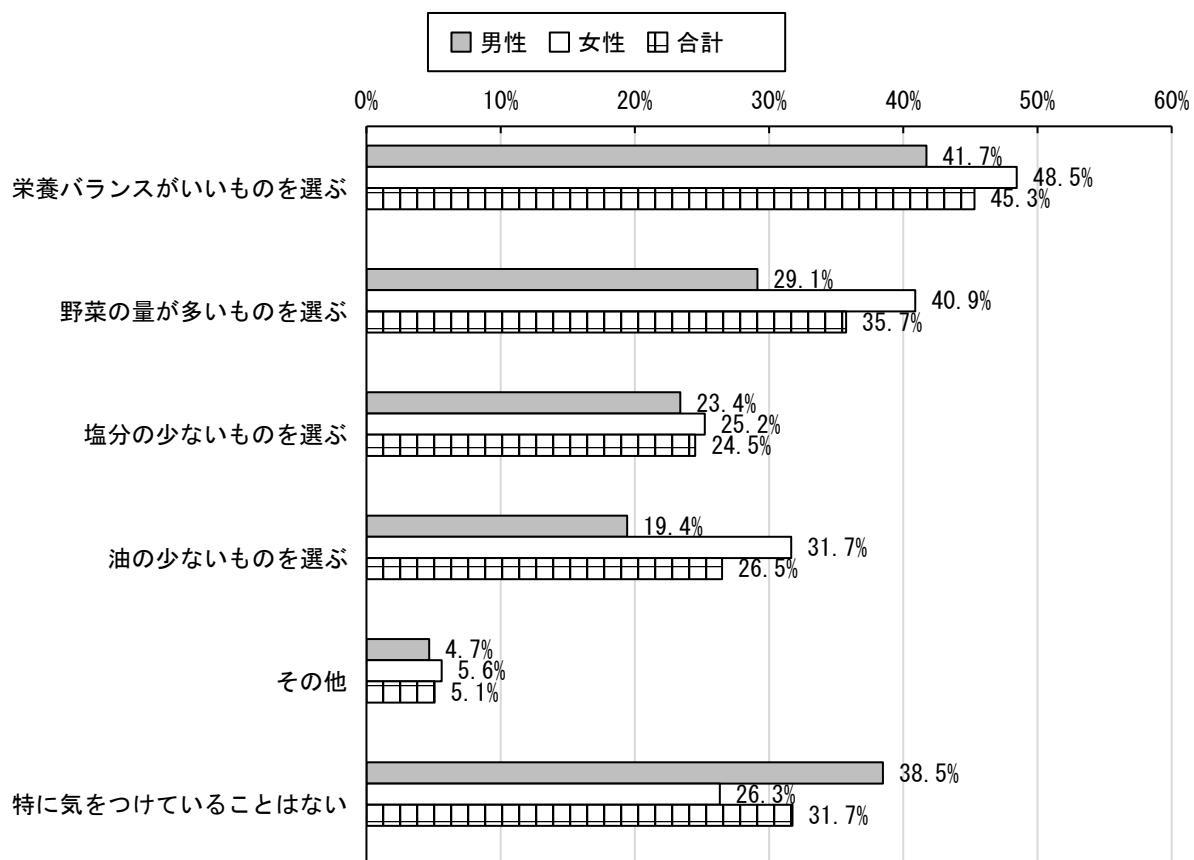


図 76 (成人) メニュー選択の条件、性別

年代別にみると、「栄養バランスがいいものを選ぶ」「野菜の量が多いものを選ぶ」で最も高い割合となったのが、「60代」であった。「塩分の少ないものを選ぶ」「油の少ないものを選ぶ」では「70代」、そして「特に気をつけていることはない」は「10代」が最も高い割合となった。

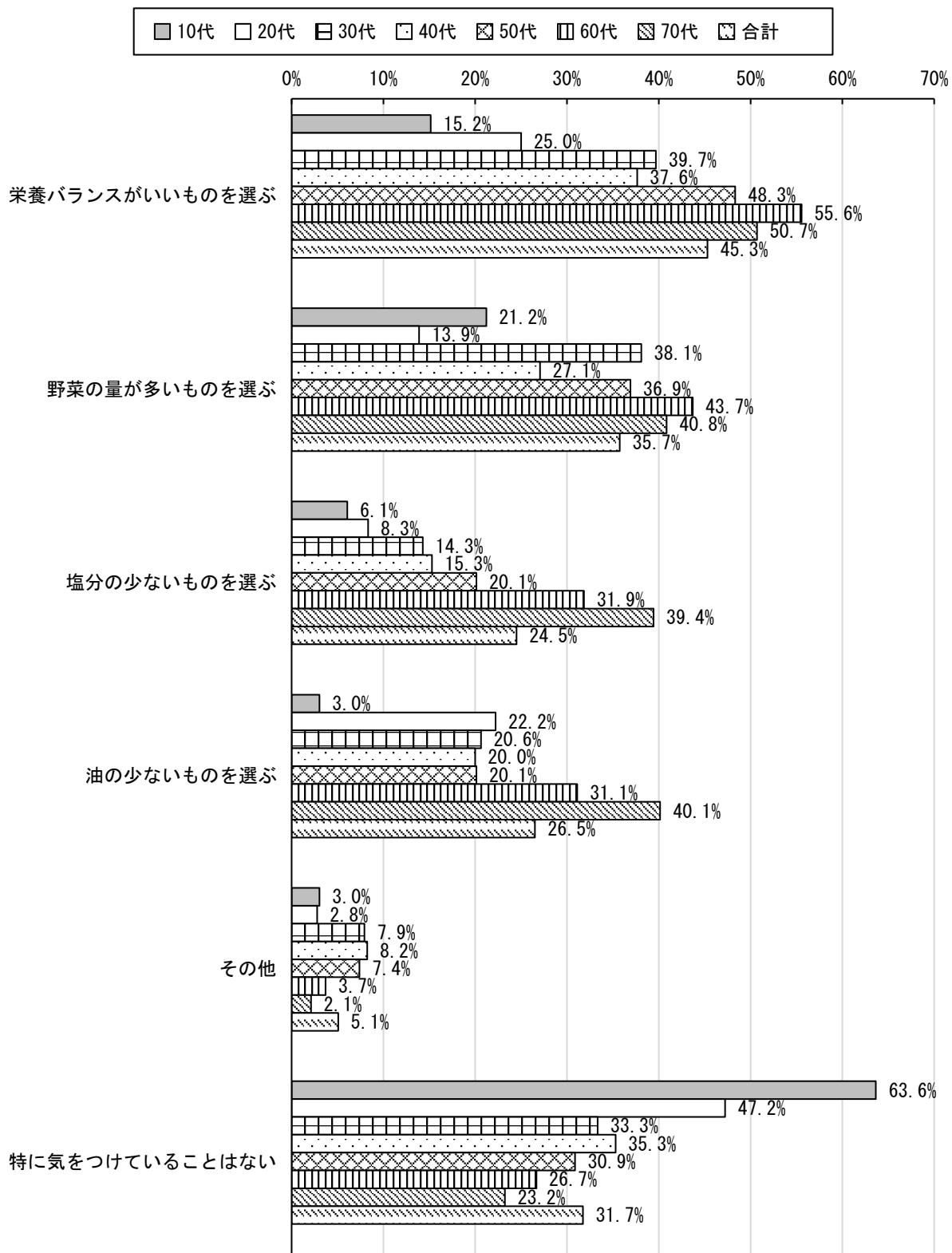


図 77 (成人) メニュー選択の条件、年代別

体格別では、「肥満」の方が、他の体格と比較して高い割合を示している。その一方、「特に気をつけていることはない」も、「肥満」が最も高い割合となっている。

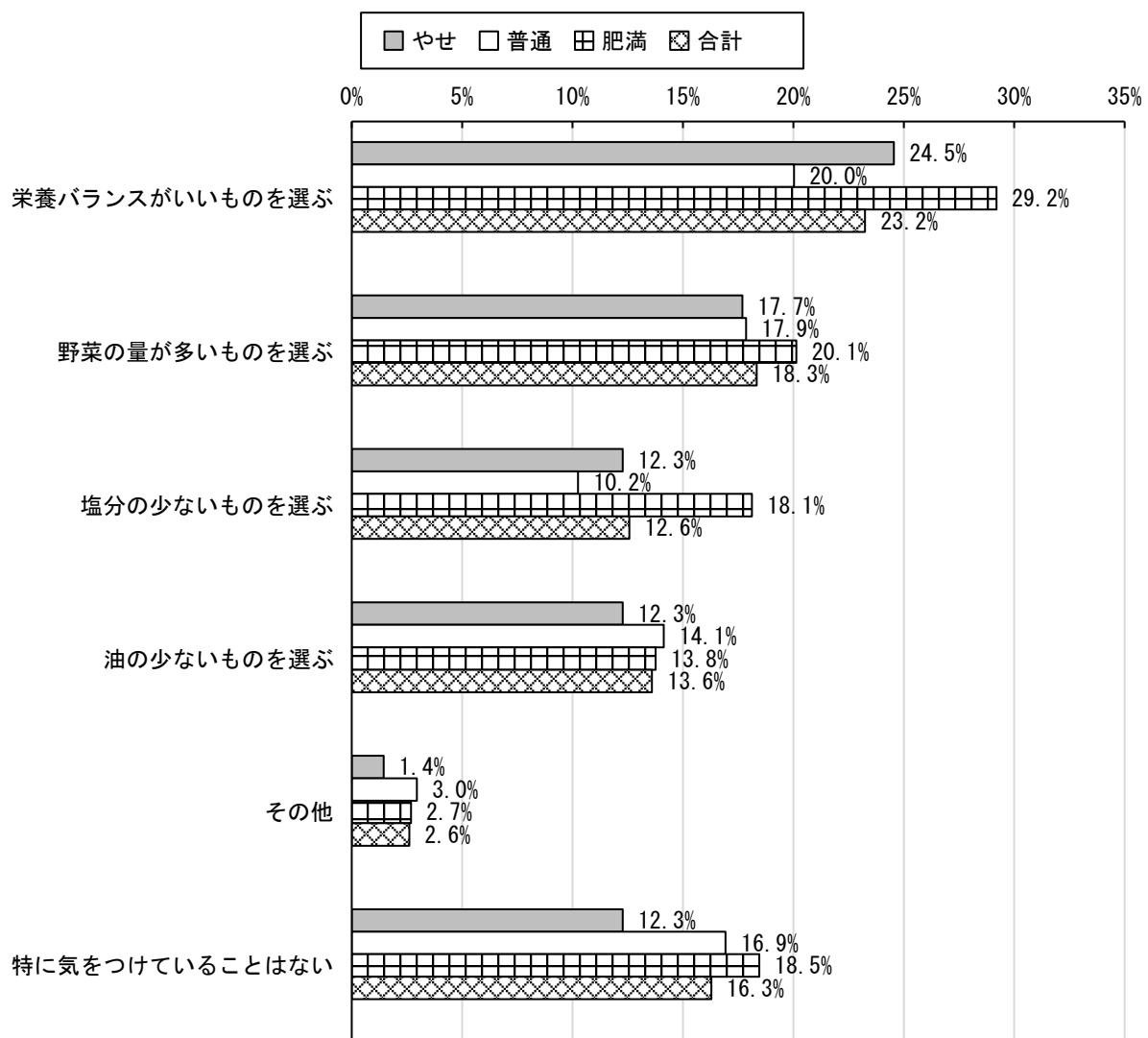


図 78 (成人) メニュー選択の条件、体格

表 15 (成人) メニュー選択の条件 (その他コメント)

カテゴリ	コメント内容	件数
費用		9
	なにはともあれ値段。自分で作った場合の材料費、手間費、時間がかかるか、自分にその実力があるかなどを考える。だいたい買う結論になる	1
	金額が安いもの	8
栄養		7
	タンパク質を意識して摂取する	2
	メニューに偏りがないこと。例えば、昨日は魚、今日は肉など	1
	魚介類を選ぶ	1
	国産の食材を使用している店	1
	食品添加物、人口甘味料の有無	2
嗜好		7
	おいしいもの	3
	家族の好ききらい	1
	食べたい物	3
追加		4
	家でしにくい揚げ物を一品	1
	家の食事にプラスアルファで加えた時に、全体のバランスがよくなるもの、食べたい物を選ぶ。あとは、内容と値段で決めていく。	1
	自宅で作れないようなものを選ぶ	1
	他にもう一品の感じで（作った以外で）	1
カロリー		3
	カロリー	3
満腹		2
	おなかいっぱいになること	1
	腹もちが良いもの	1
職場等		2
	昼食のみ会社の弁当	2
その他		1
	家内が料理した物を食べる	1
総計		35

E. 基本目標4 生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけ、実践する市民を増やす

(1) (成人) 生活習慣病の予防や改善に関する実践

(成人) 12 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践していますか。(○はひとつ)

男性、女性ともに7割近くが「いつも実践している」「ときどき実践している」と回答した。

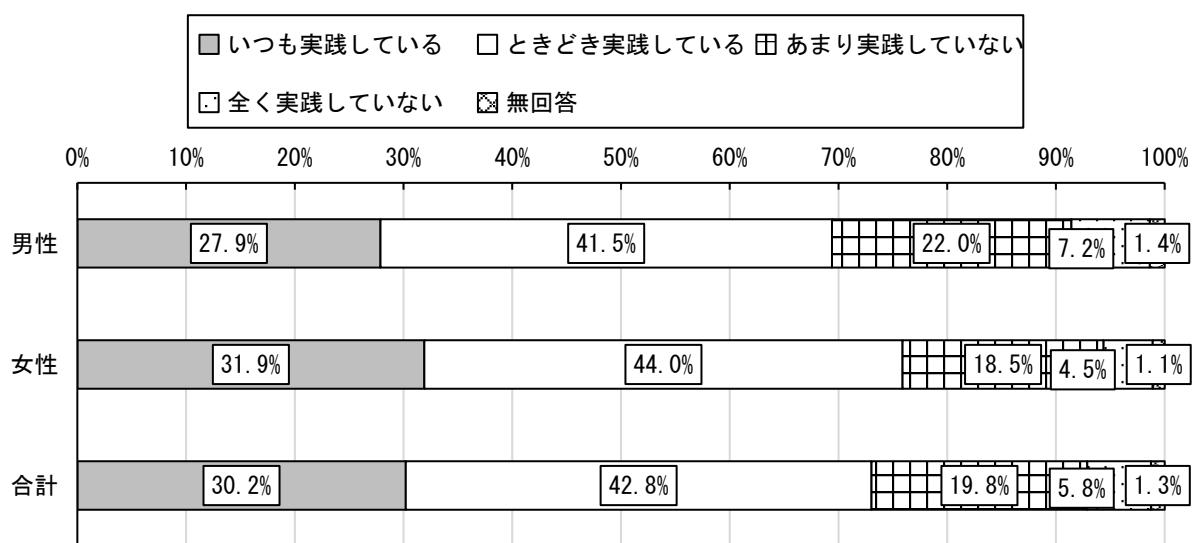


図 79 (成人) 生活習慣病の予防や改善に関する実践、男女別

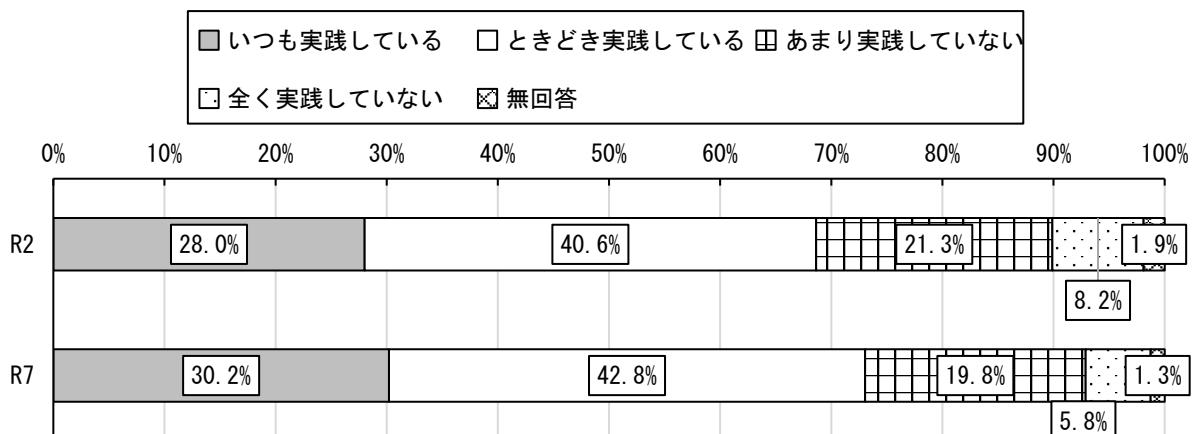


図 80 (成人) 生活習慣病の予防や改善に関する実践、前回調査結果(令和2年度)との比較

生活習慣病の予防や改善に関する実践（前回調査結果[令和2年度]との比較）

基本目標4 生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけ、実践する市民を増やす

【推進項目】生活習慣病の予防や改善のために、普段から適正体重の維持や減塩に気をつけた食生活を実践する市民の割合

＜算出方法＞

（成人）12 「生活習慣病の予防や改善のために、あなたはふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践していますか。」で「いつも実践している」「ときどき実践している」の回答数／アンケート全回答数×100

＜結果＞

	R2	R7	目標
割合 (%)	68.6	73.0	75.0

今回の調査結果は、前回調査結果より4.4%増加したものの、目標を達成できなかつた。

<全国との比較>

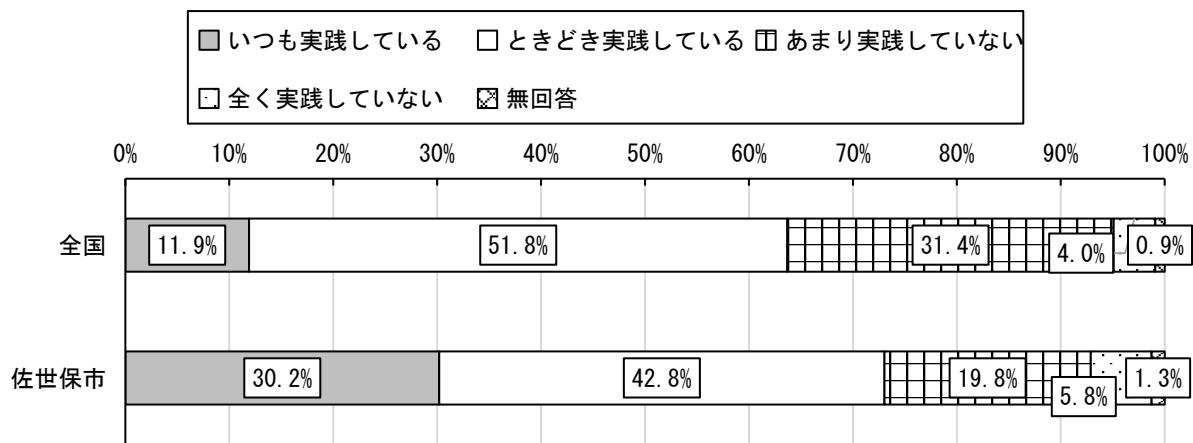


図 81 (成人) 生活習慣病の予防や改善に関する実践、全国との比較

「いつも実践している」「ときどき実践している」のなんらかの実践を行っている割合は、全国の 63.7%に対し、佐世保市は 73.0%と 10%近く上回った。

表 16 全国と佐世保市における「生活習慣病の予防や改善に関する実践」

	いつも実践している	気をつけて実践している	あまり気をつけて実践していない	まったく気をつけて実践していない	無回答	合計
全国	11.9%	51.8%	31.4%	4.0%	0.9%	100.0%
佐世保市	30.2%	42.8%	19.8%	5.8%	1.3%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 4 生活習慣病の予防や改善に関する実践状況について P46

年代別に見ると、年代が上がるにつれ「いつも実践している」と回答する割合が増加する傾向がある。しかし、「20代男性」は、同年代の女性、隣接する年代と比較すると高い割合となっている。

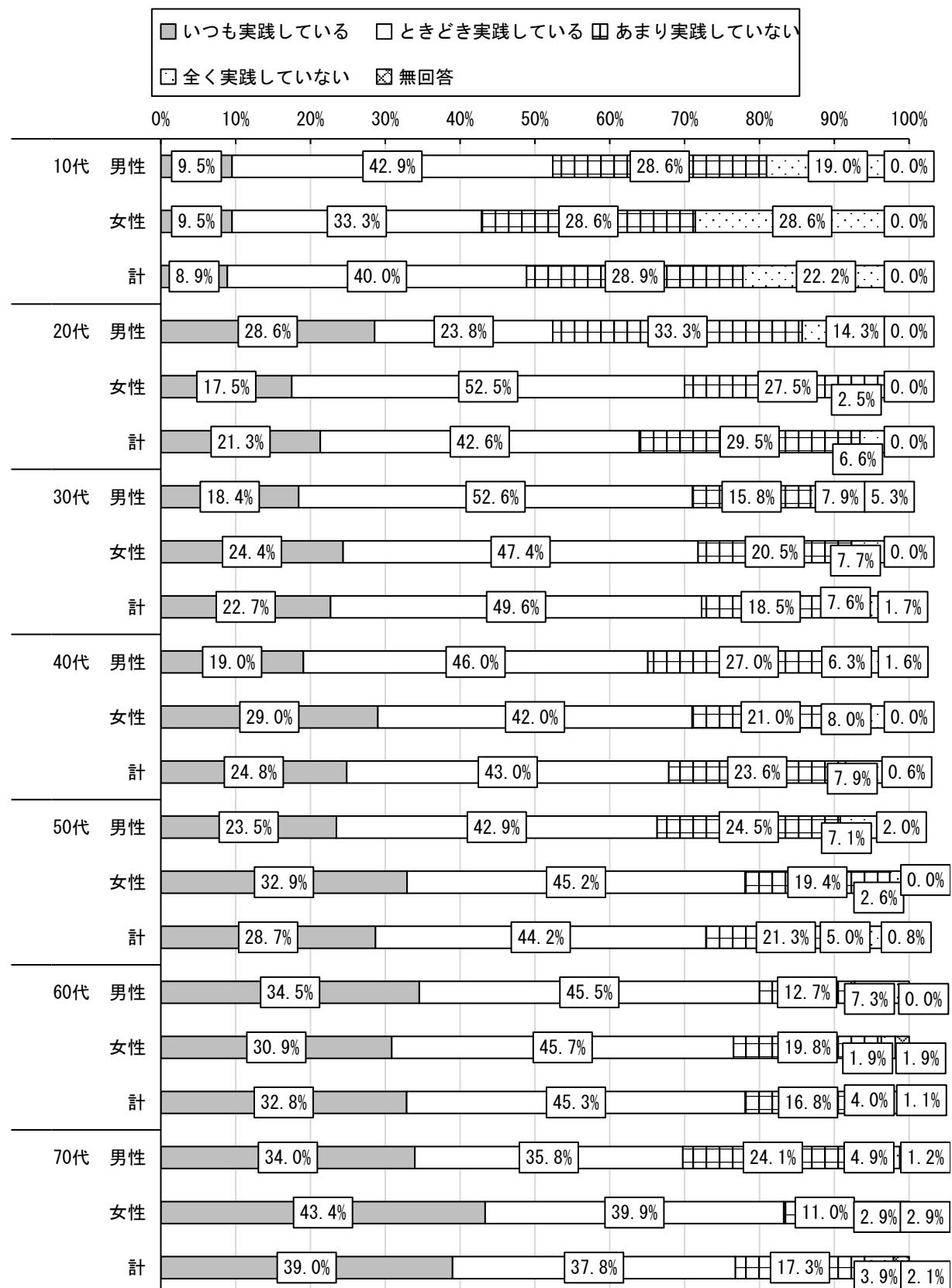


図 82 (成人) 生活習慣病の予防や改善に関する実践、年代、性別

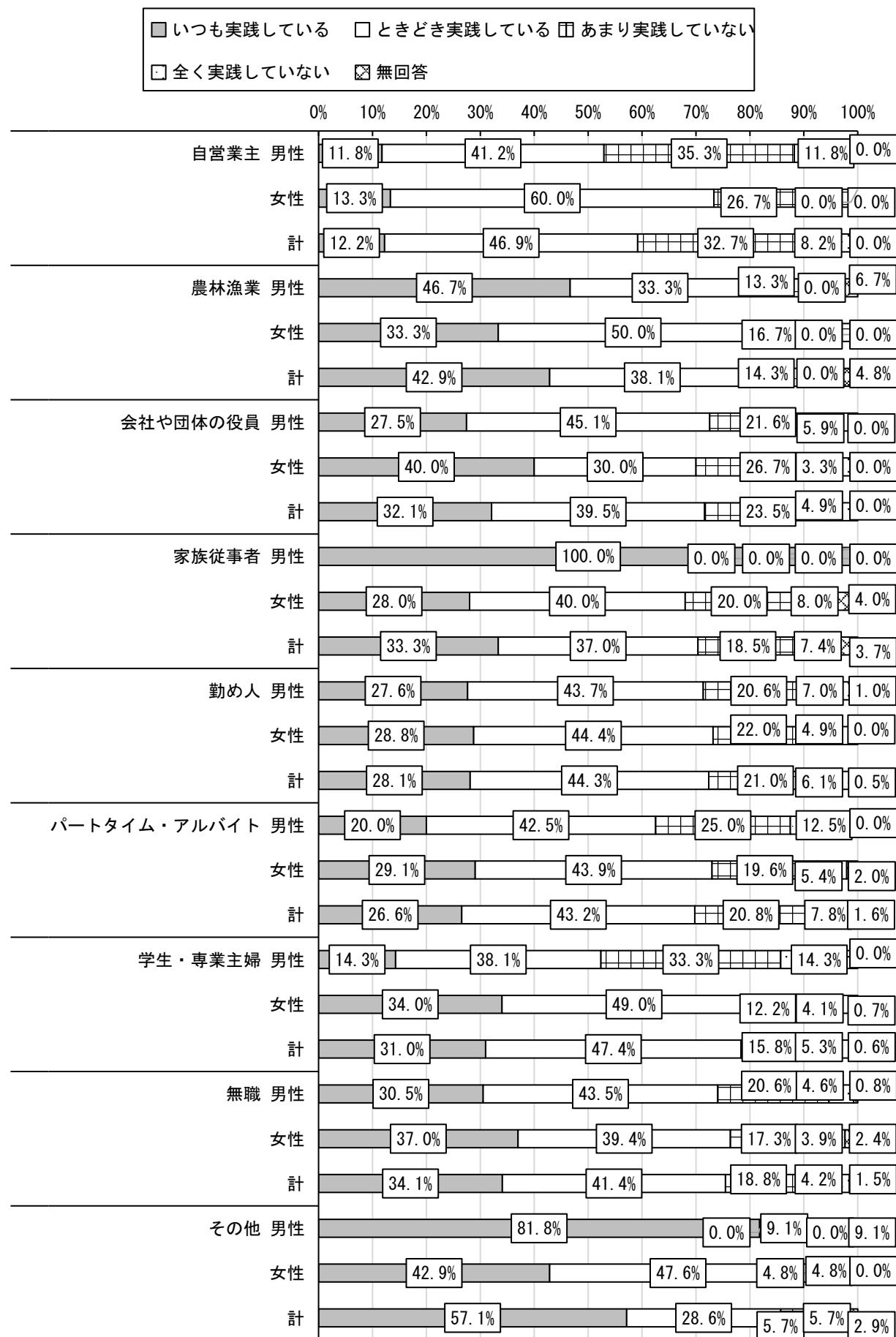


図 83 (成人) 生活習慣病の予防や改善に関する実践、職業別、性別

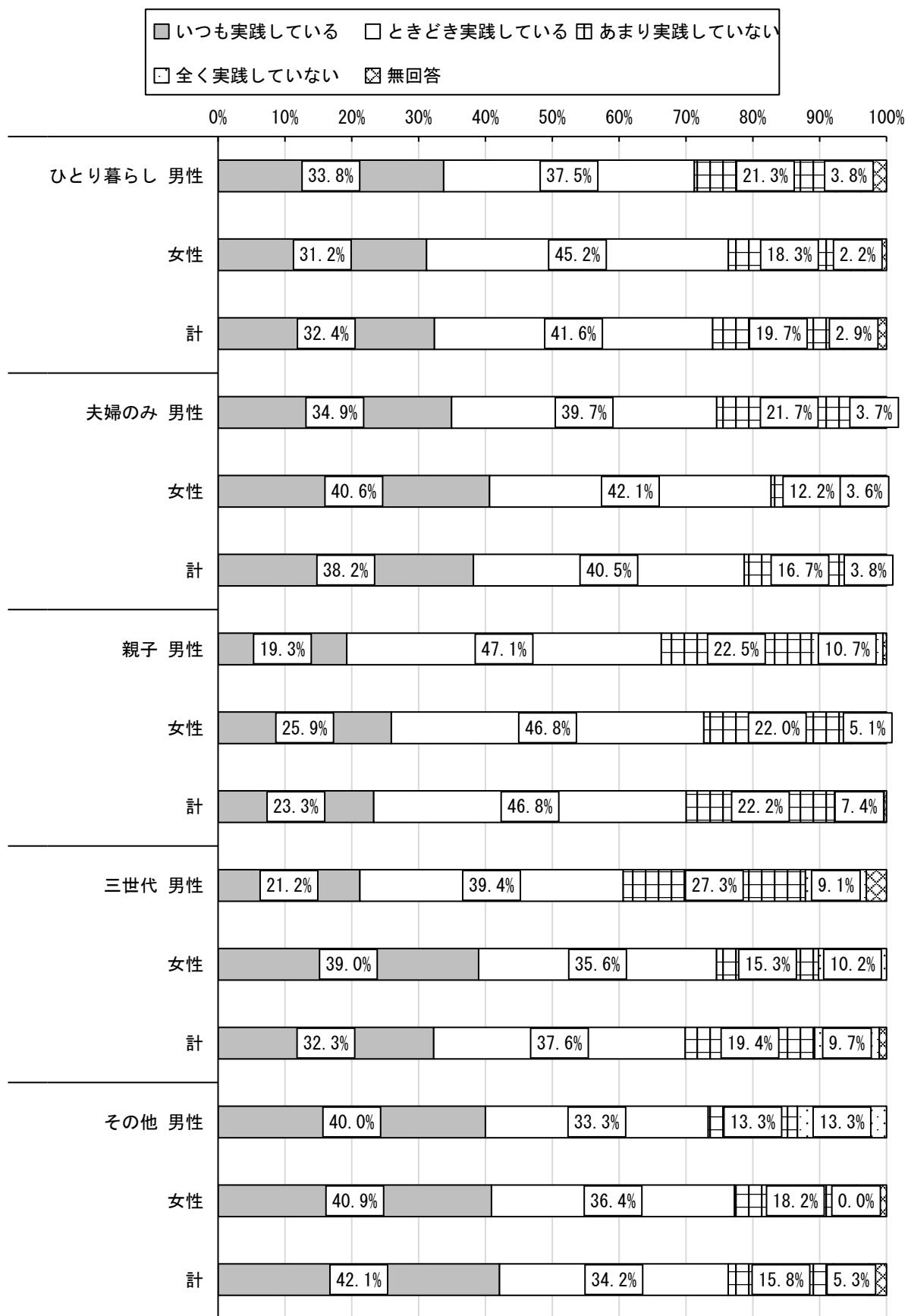


図 84 (成人) 生活習慣病の予防や改善に関する実践、世帯構成、性別

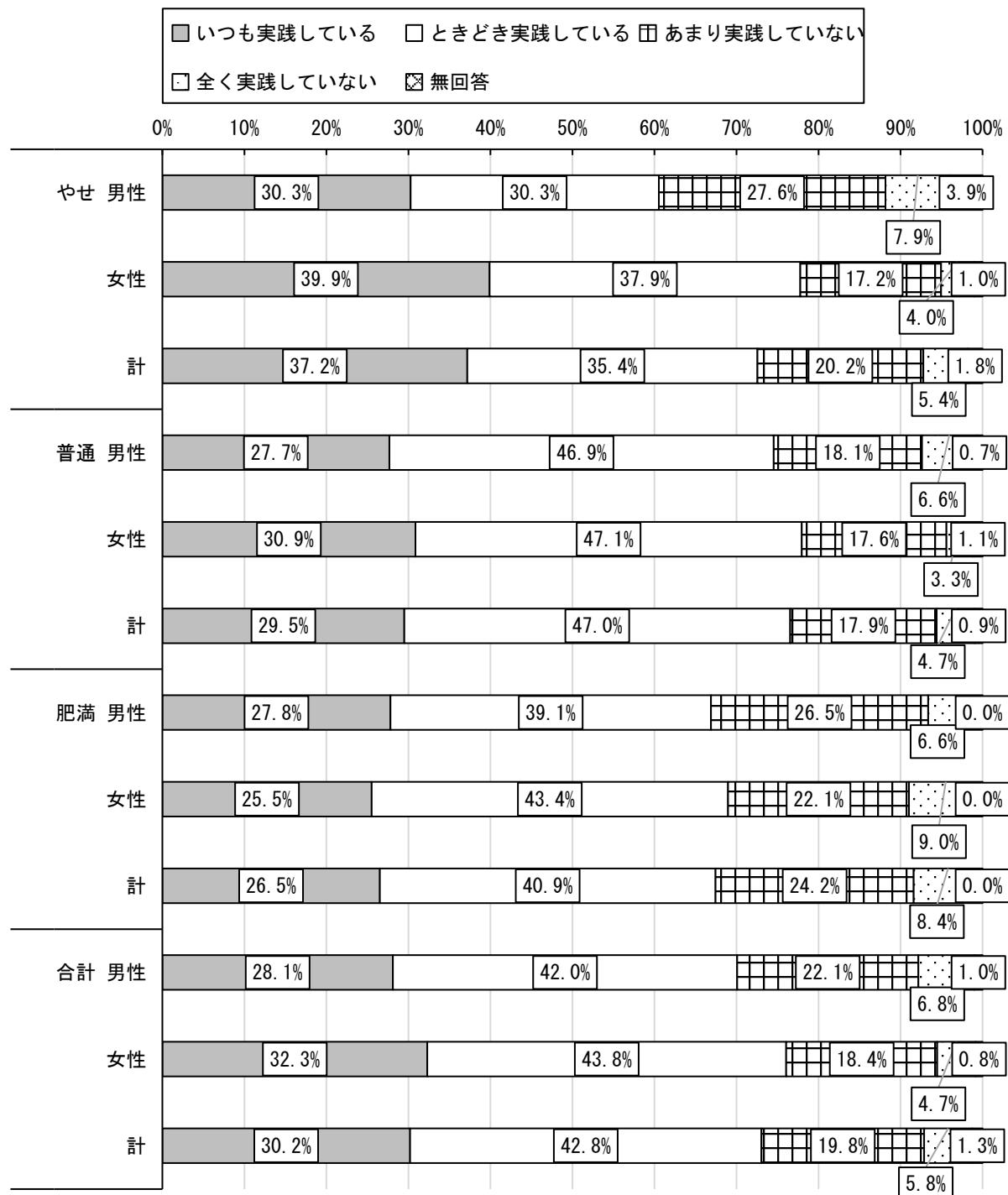


図 85 (成人) 生活習慣病の予防や改善に関する実践、体格、性別

(2) (小学5年生、中学2年生) 体型を気にする割合

(小学5年生、中学2年生) 問13 あなたは体型を気にすることはありますか

体型を気にする割合で、両学年とも「男性」より「女性」の方が「ある」と回答した割合は高くなっている。また、「女性」は学年が上がると割合も高くなるが、「男性」はあまり変わらない。

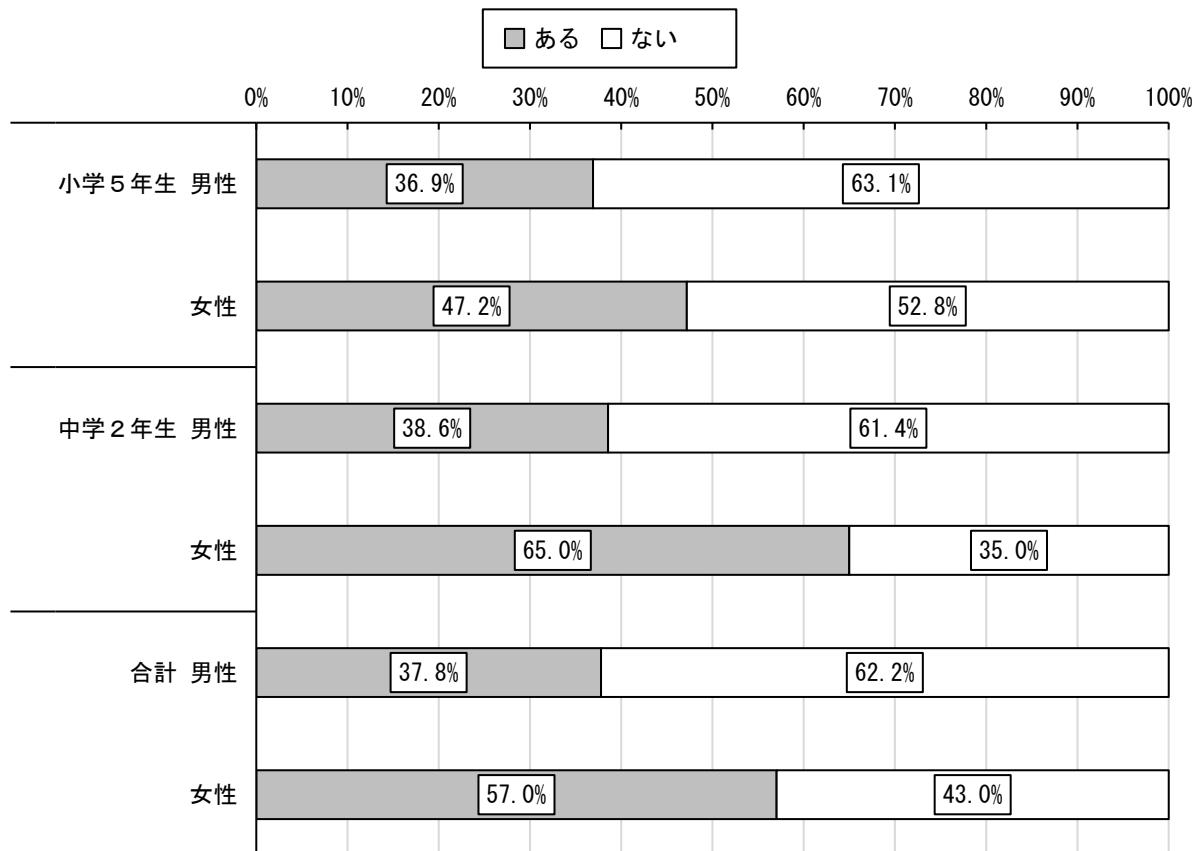


図 86 (小学5年生、中学2年生) 体型を気にする割合、学年別、性別

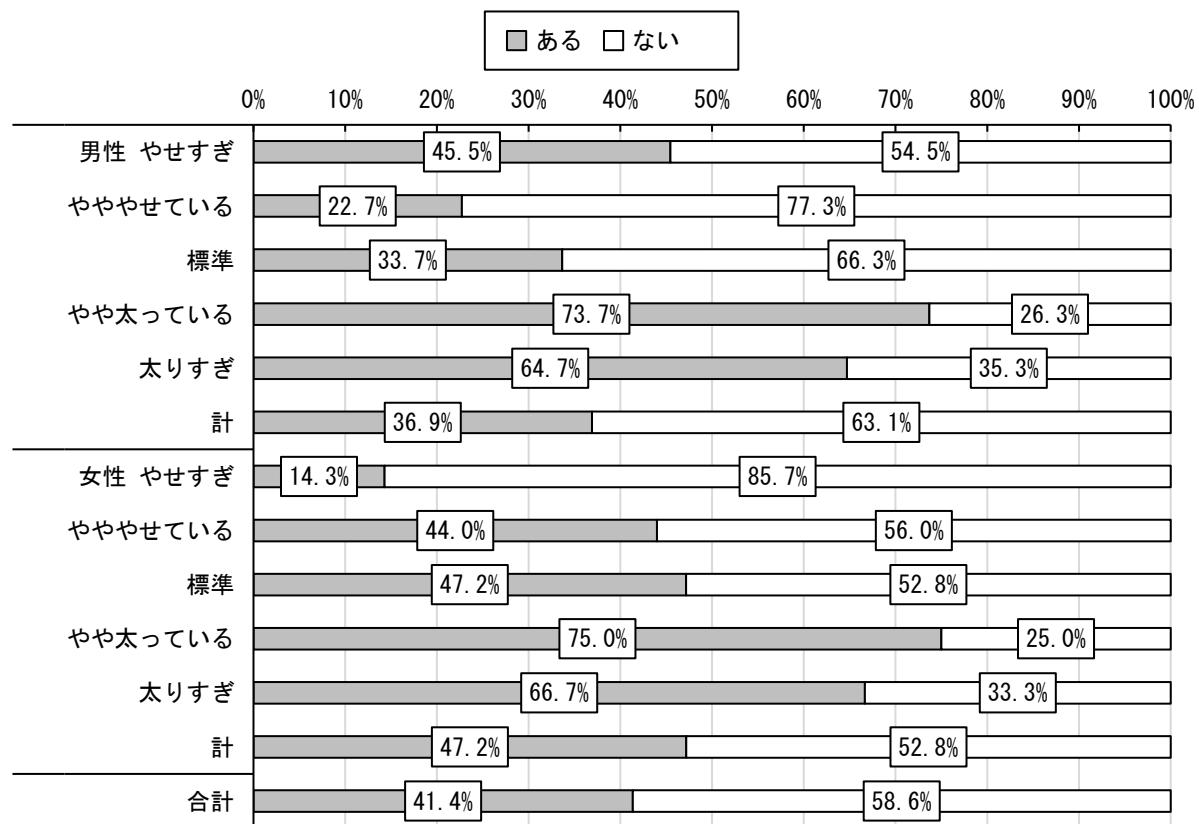


図 87 (小学5年生) 体型を気にする割合、性別、体型

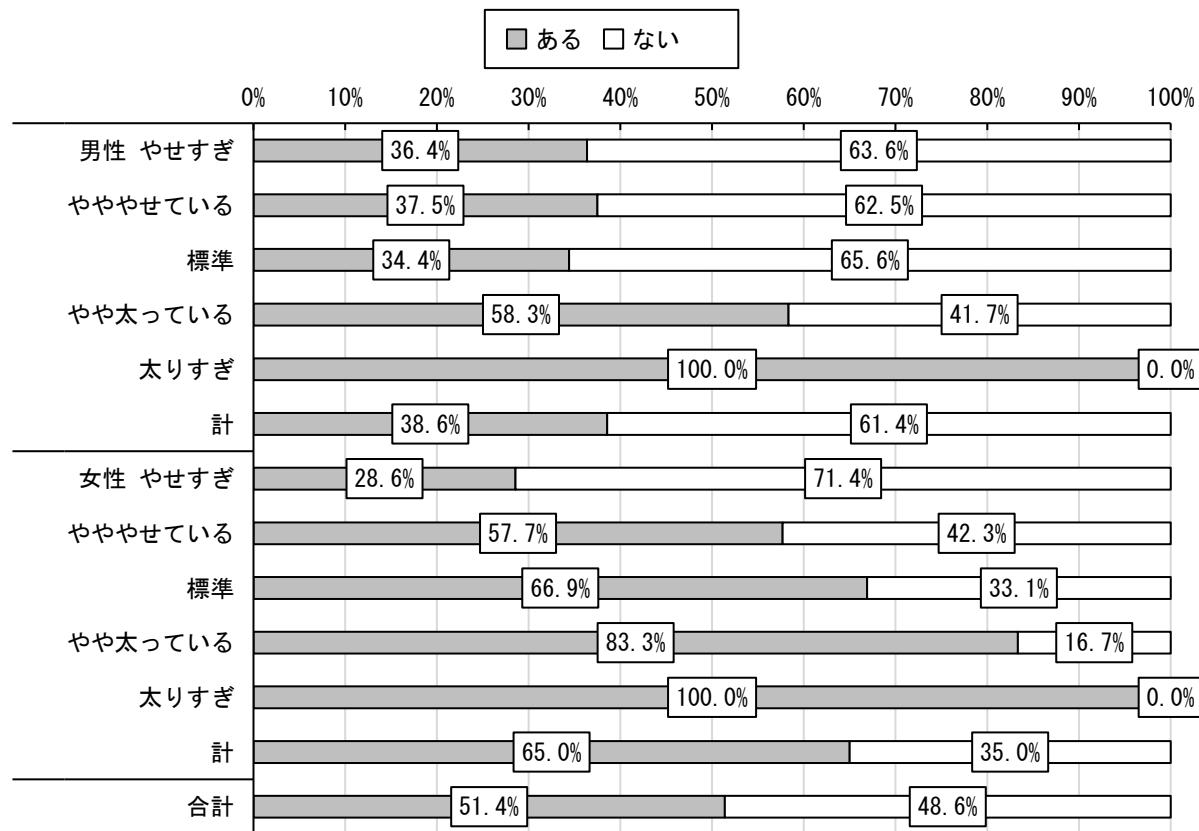


図 88 (中学2年生) 体型を気にする割合、性別、体型

(3) (小学5年生、中学2年生) ふだんの生活に気をつけている割合

(小学5年生、中学2年生) 問14 あなたは、ふだんの生活で気をつけていることはありますか。

ふだんの生活に気をつけている割合で、「小学5年生」では男女ともに半数が「ある」と回答した。「中学2年生」では、「男性」は同じ傾向であるが、女性は65.0%と高い割合を示している。

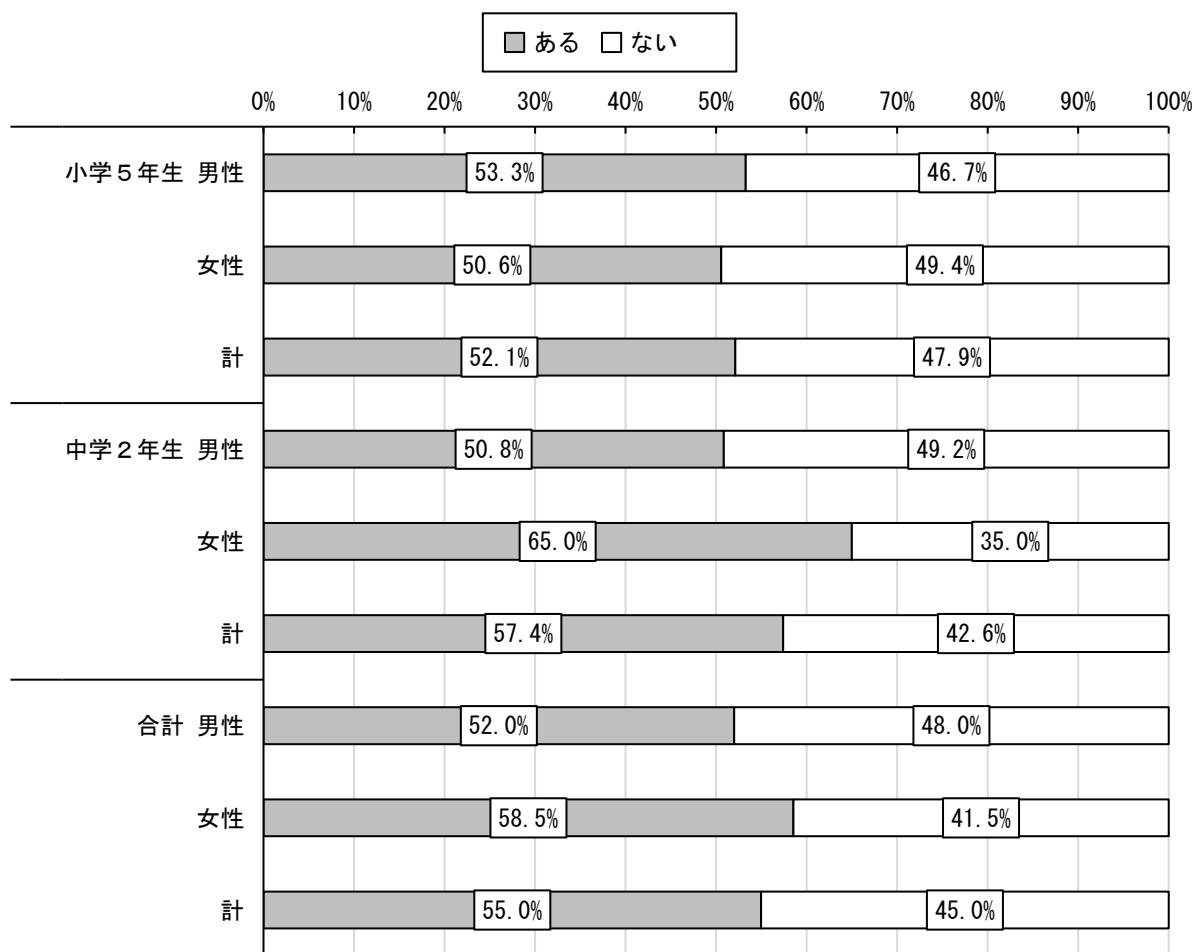


図 89 (小学5年生、中学2年生) ふだんの生活に気をつけている割合、学年別、性別

(4) (小学5年生、中学2年生) ふだんの生活で気をつけている内容

(小学5年生、中学2年生) 問14-1 ふだんの生活でどのような事に気をつけていますか。

ふだんの生活で気をつけている内容で、最も高い割合だったのが、男女ともに「運動をする」であった。男女に大きな差があったのが「間食に気をつける」であり、女性は男性より11.6%上回っている。

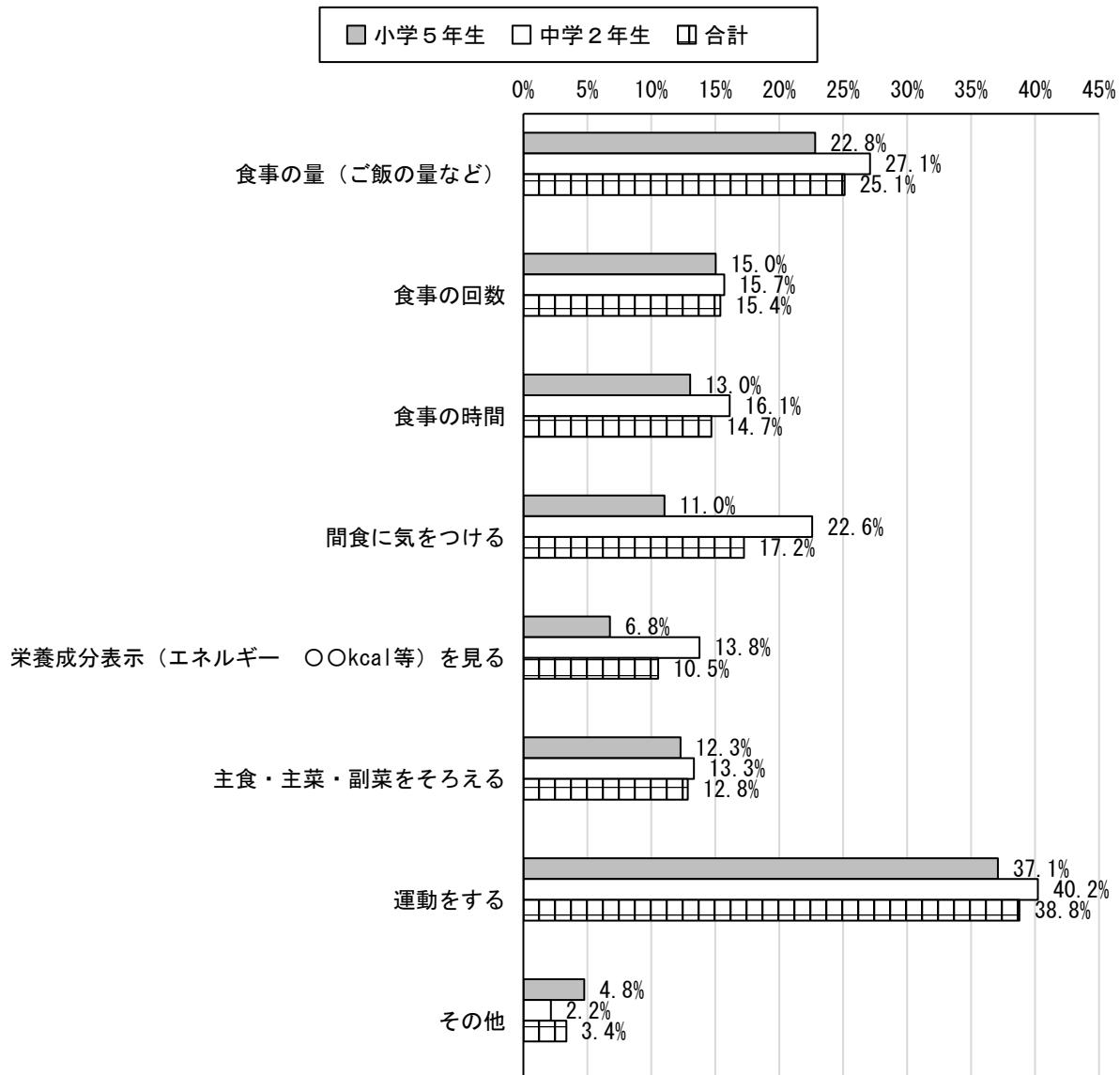


図90 ふだんの生活で気をつけている内容、学年別

その他のコメントとして最も多かったのが、小学5年生では「食べすぎない」などの「食事」に関して6件、中学2年生では「早寝・早起き」などの「生活」に関して4件であった。

(5) (未就学児) お子様の生活で気をつけている内容

(未就学児) 問9 お子様の生活で気をつけている事はありますか。

お子様の生活で気をつけている内容で最も多く回答されたのが「食事の量」、そして「食事回数は1日3食とおやつ」「体を動かす遊びをさせている」が続く。

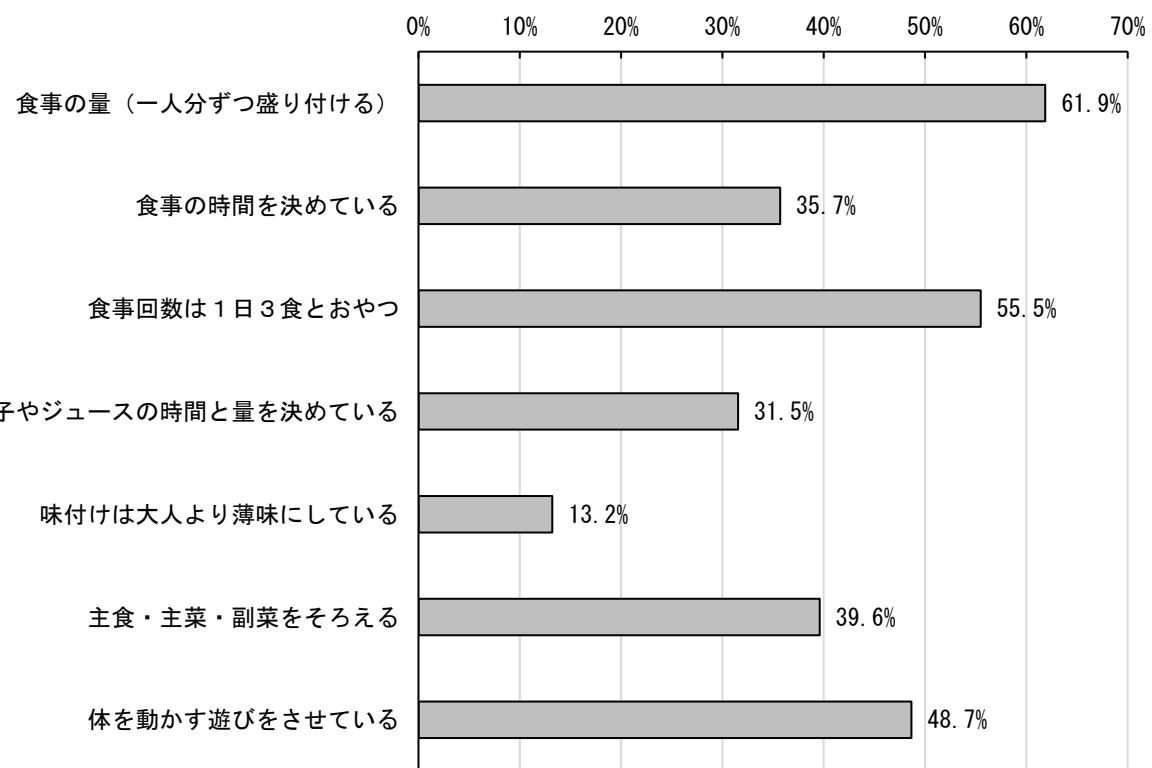


図 91 (未就学児) お子様の生活で気をつけている内容

(6) (成人) 栄養成分表示を見ている人

(成人) 2 あなたは下記の「食育」に関する項目に取り組んでいますか。各質問項目にあてはまる番号を記入してください。

- ・買い物の際に栄養成分表示（エネルギー〇〇kcal）等を見る

「継続して取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」の合計した割合では、男性より女性の方が高い割合を示している。

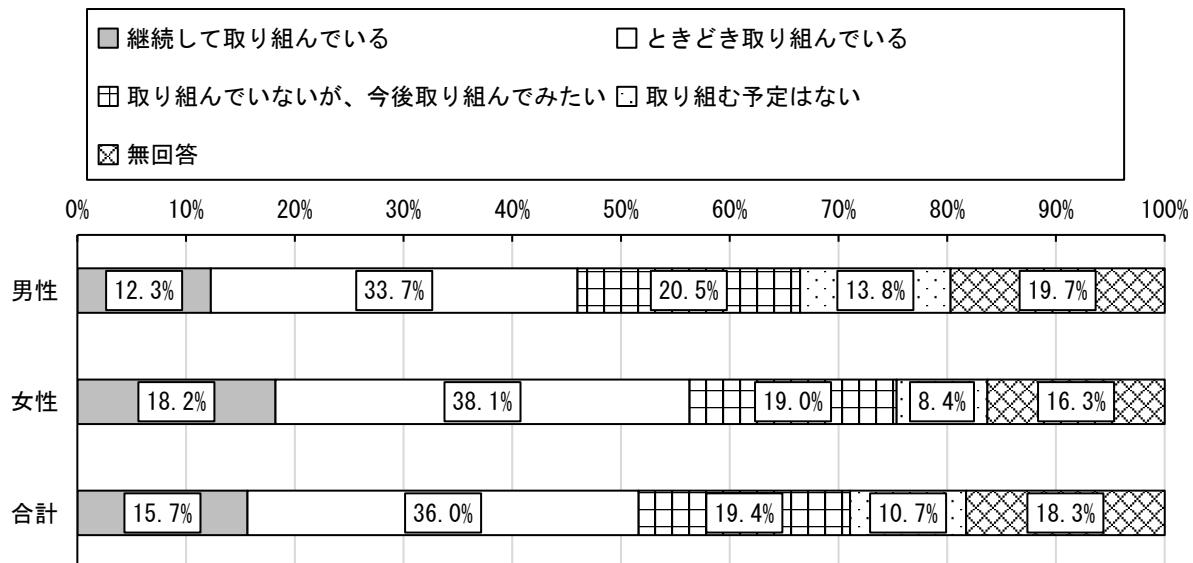


図 92 (成人) 食育の取り組み (栄養成分表示を見ている人)、性別

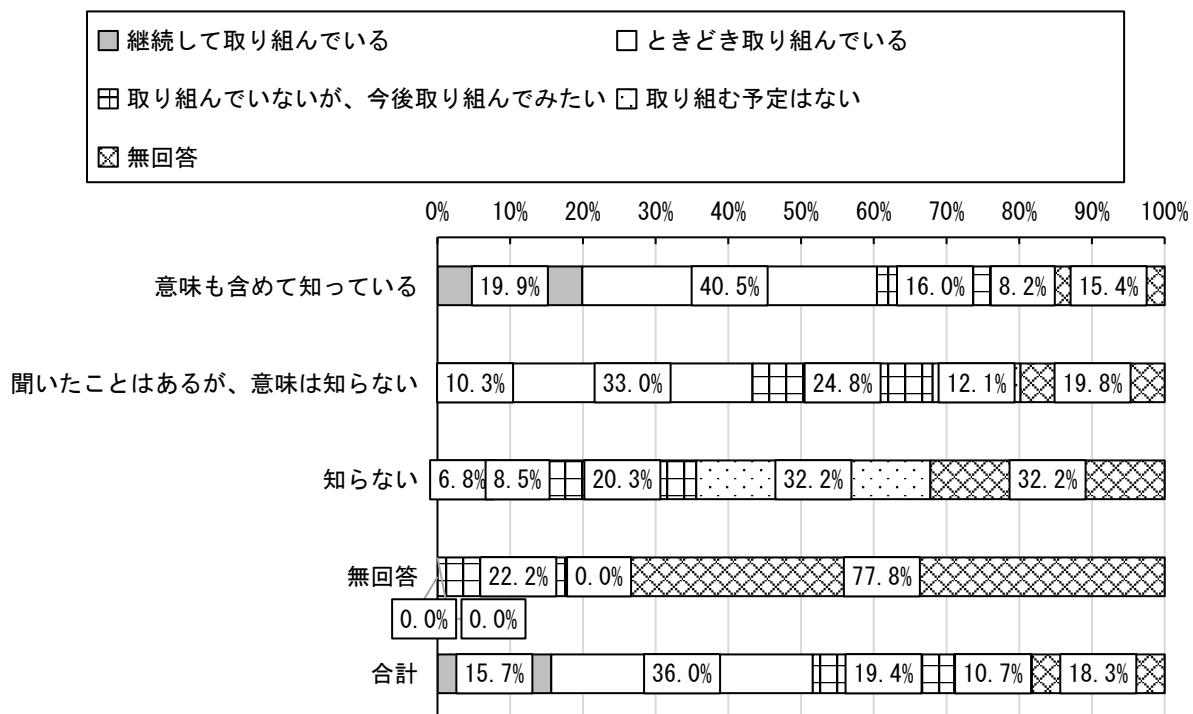


図 93 (成人) 食育の取り組み (栄養成分表示を見ている人)、食育の認知度

（成人）食育の取り組み（栄養成分表示を見ている人）（前回調査結果[令和2年度]との比較）

基本目標4 生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけ、実践する市民を増やす

【推進項目】栄養成分表示を確認する市民の割合

＜算出方法＞

（成人）2 「あなたは下記の「食育」に関する項目に取り組んでいますか。各質問項目にあてはまる番号を記入してください。」内の質問の一つである「買い物の際に栄養成分表示（エネルギー〇Okcal）等を見ている」で「継続して取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」の回答数／アンケート全回答数×100

＜結果＞

割合 (%)	R2	R7	目標
栄養成分表示を確認する市民の割合	32.5	51.7	45.0

今回の調査結果は、19.2%増加した。また、目標の45.0%を6.7%上回っている。これらより、目標は達成したと判断できる。

前回調査では、同じ質問はされていない。

類似した質問としては、問19（成人）食品表示の確認状況の中に「栄養成分表示を見ている」という質問があり、今回の比較は、この結果を利用した。

ところが、この質問の結果は、「はい」と「いいえ」の2択であるため、今回の調査方法の4択と多少異なっている。よって、比較には多少、曖昧さが混じっている事が予測されるため、今後の数値の推移に注力が必要な項目である。

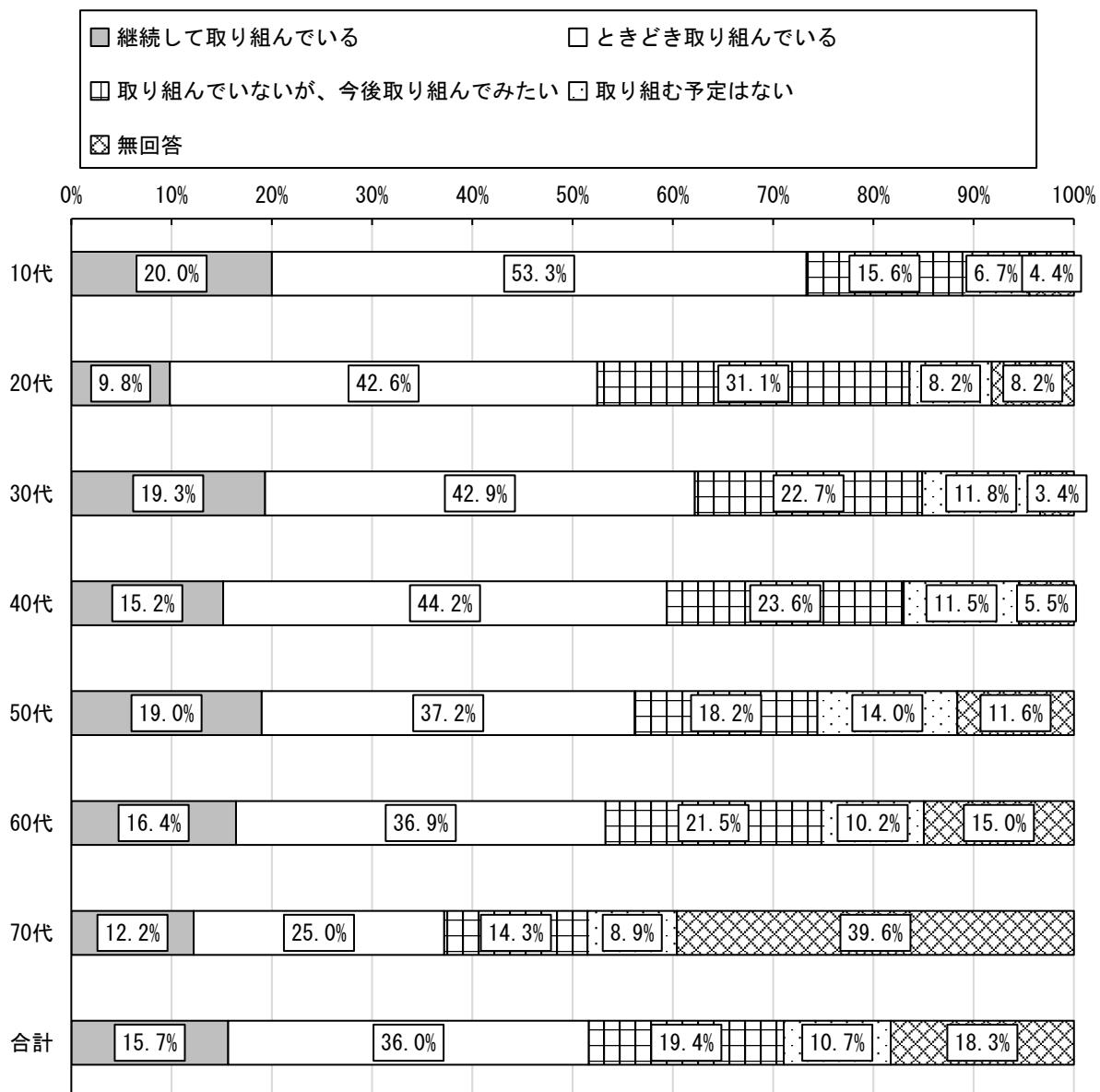


図 94 (成人) 食育の取り組み (栄養成分表示を見ている人)、年代

F. 基本目標5 噛ミング30の推進について（ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす）

(1) (成人) 噙むことへの意識

(成人) 22 あなたは、食べるときによくかむことを意識していますか。(○はひとつ)

噛むことに意識して行動している割合は74.7%であり、女性の方が高かった。

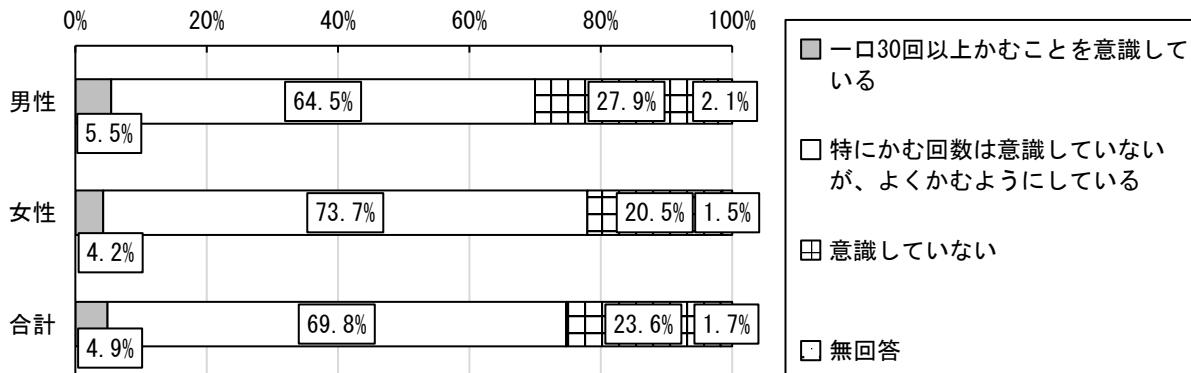


図 95 (成人) 噙むことへの意識、性別

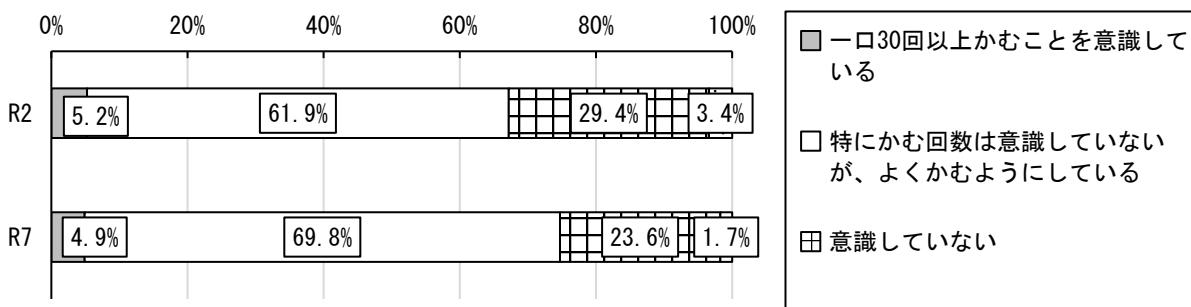


図 96 (成人) 噙むことへの意識、前回調査結果(令和2年度)との比較

(成人) かむことへの意識（前回調査結果[令和2年度]との比較）

基本目標5 噙ミング30の推進について（ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす）

【推進項目】成人

<算出方法>

(成人) 22 あなたは、食べるときによくかむことを意識していますか。(○はひとつ)で「一口30回以上かむことを意識している」「特にかむ回数は意識していないが、よくかむようにしている」の回答数／アンケート全回答数×100

<結果>

	R2	R7	目標
割合 (%)	67.1	74.7	80.0

今回の調査結果は、前回調査結果より7.6%増加したが、目標値を達成できなかった。

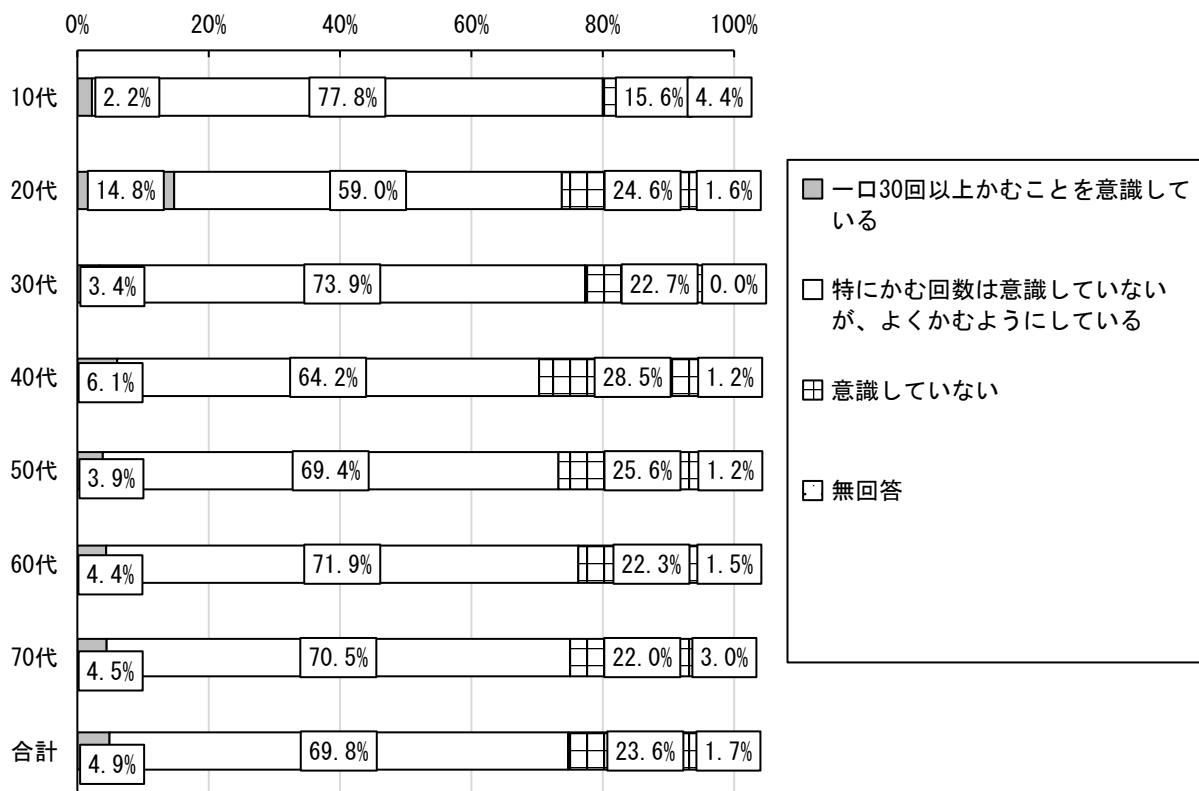


図 97 (成人) 噛むことへの意識、年代

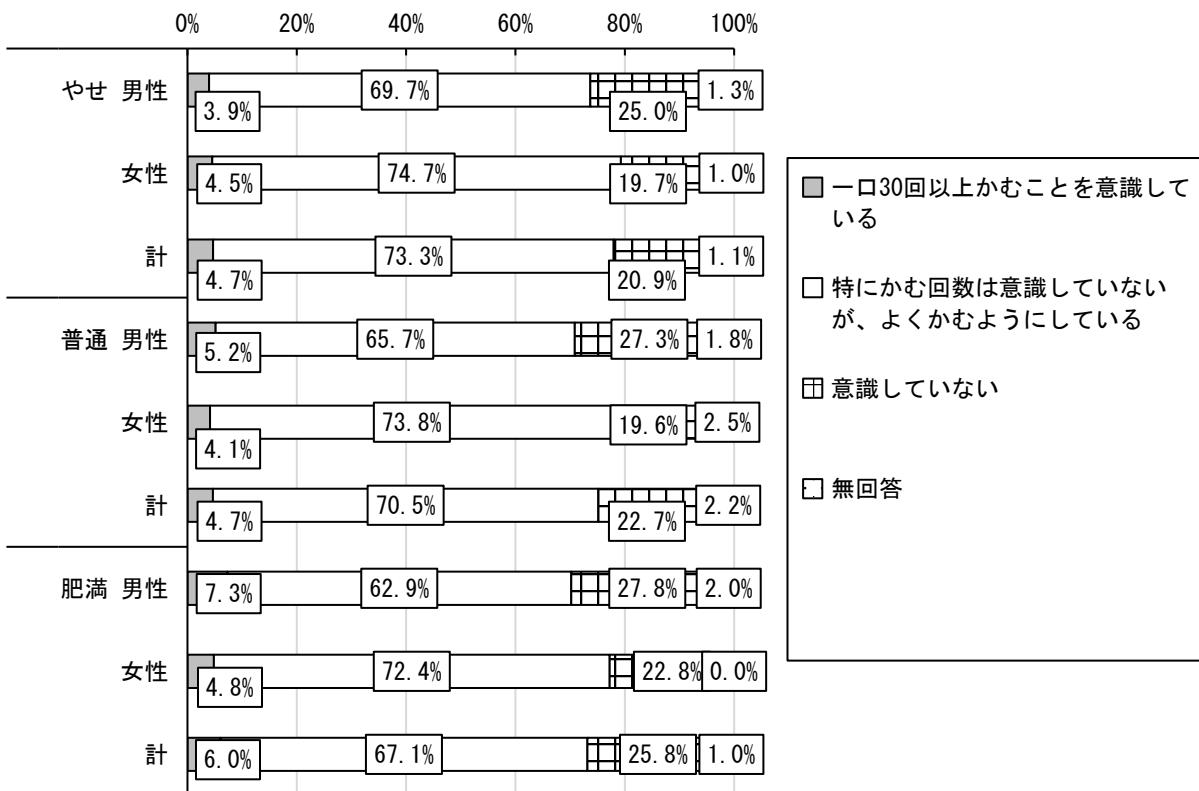


図 98 (成人) 噛むことへの意識、体格、性別

(2) (小児) 噙むことへの意識

(未就学児) 問8 お子様に食べさせる時、よくかませる事に気をつけていますか。

(小学2年生) 問8 あなたはたべるとき、よくかむことに気をつけていますか。

(小学5年生、中学2年生) 問10 あなたは、食べる時、よくかむことに気をつけていますか。

「一口30回以上かむことに気をつけている」「かむ回数は数えていないが、よくかむように気をつけている」と回答した割合を学年別に見ると、最も高かったのは「小学2年生」で85.6%だった。

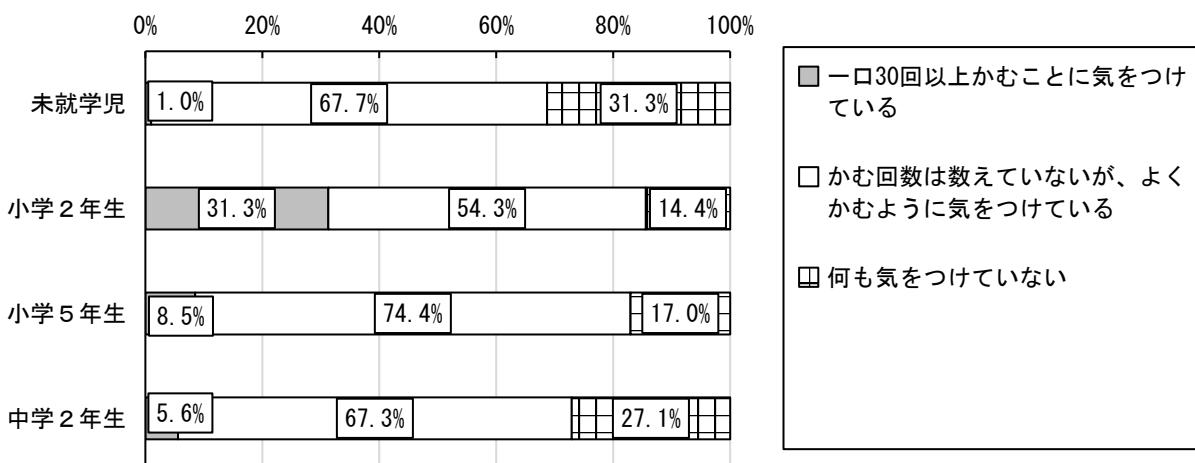


図99 (小児) 噙むことへの意識、学年別

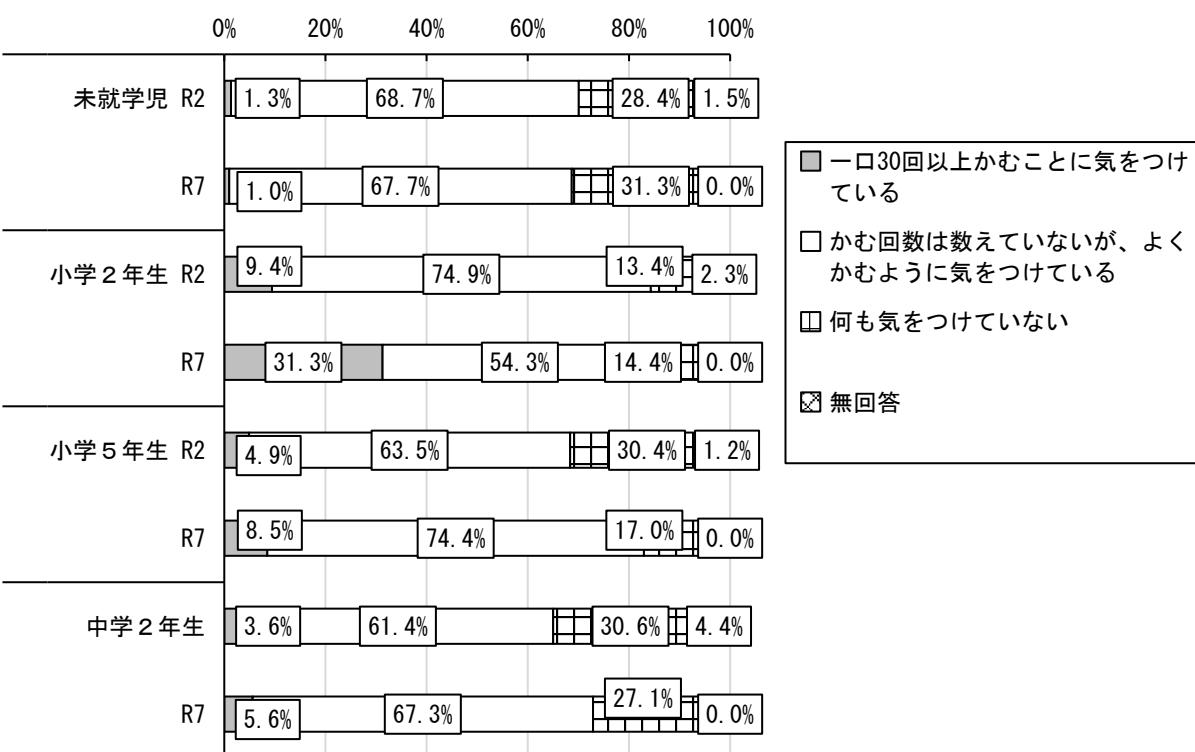


図100 (小児) 噙むことへの意識、前回調査結果（令和2年度）との比較

(小児) かむことへの意識（前回調査結果[令和2年度]との比較）

基本目標5 噛ミング30の推進について（ゆっくりよく噛んで食べる市民を増やす）

【推進項目】未就学児、小学2年生、小学5年生、中学2年生

＜算出方法＞

(未就学児) 問8 お子様に食べさせる時、よくかませる事に気をつけていますか。

(小学2年生) 問8 あなたはたべるとき、「よくかむこと」に気をつけていますか。

(小学5年生、中学2年生) 問10 あなたは、食べる時、「よくかむこと」に気をつけていますか。

各質問で「一口30回以上かむことに気をつけている」「かむ回数は数えていないが、よく噛むように気をつけている」の回答数／アンケート全回答数×100

＜結果＞

割合 (%)	R2	R7	目標
未就学児	70.1	68.7	80.0
小学2年生	84.3	85.6	90.0
小学5年生	68.4	82.9	80.0
中学2年生	65.0	72.9	80.0

(未就学児) 今回の調査結果は、前回調査結果より1.4%減少し、目標値を達成できなかった。

(小学2年生) 今回の調査結果は、前回調査結果より1.3%増加したが、目標値を達成できなかった。

(小学5年生) 今回の調査結果は、前回調査結果より14.5%増加し、目標値を達成できた。

(中学2年生) 今回の調査結果は、前回調査結果より7.9%増加したが、目標値を達成できなかった。

これらの事から、目標を達成できたのは、(小学5年生)のみという結果となった。

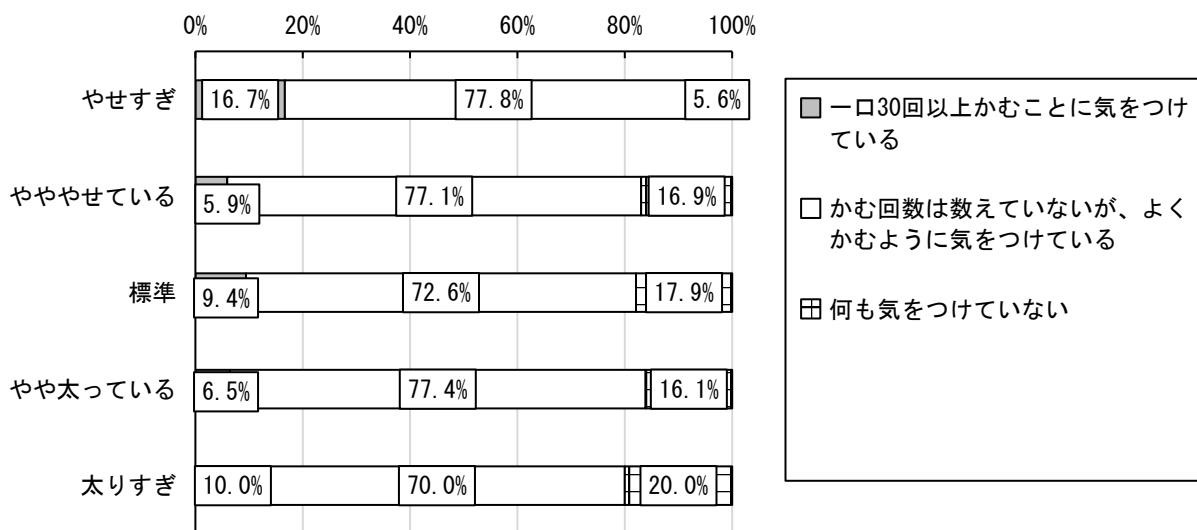


図 101 (小学 5 年生) 噉むことへの意識、体格

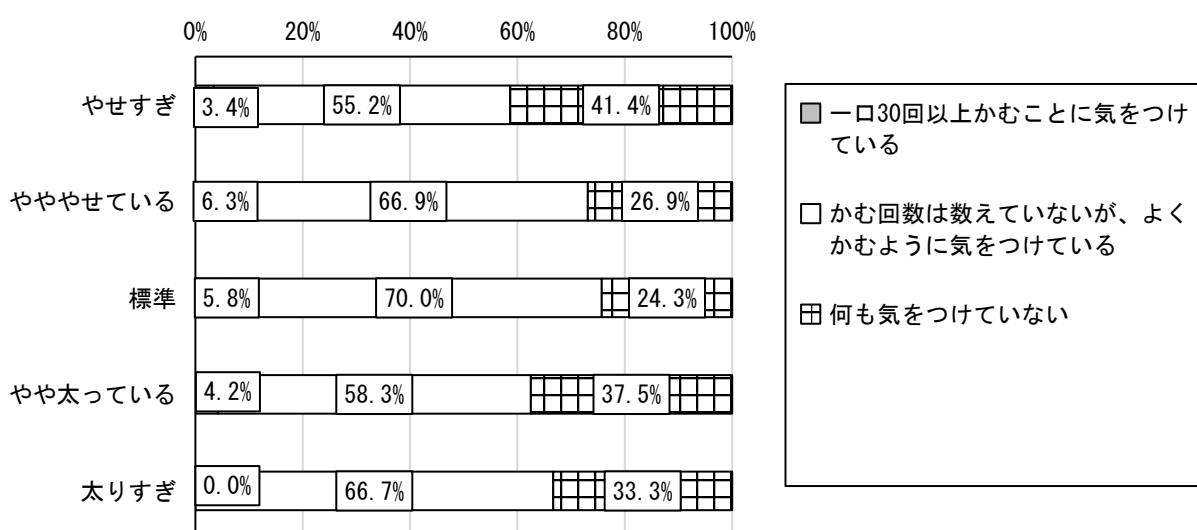


図 102 (中学 2 年生) 噉むことへの意識、体格

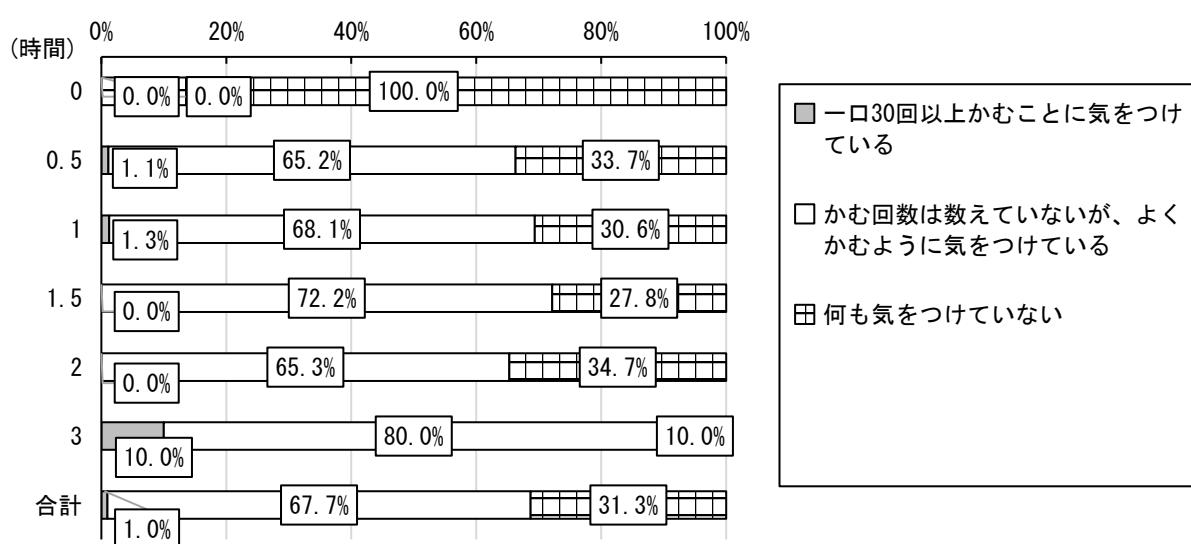


図 103 (未就学児) 噉むことへの意識、準備時間

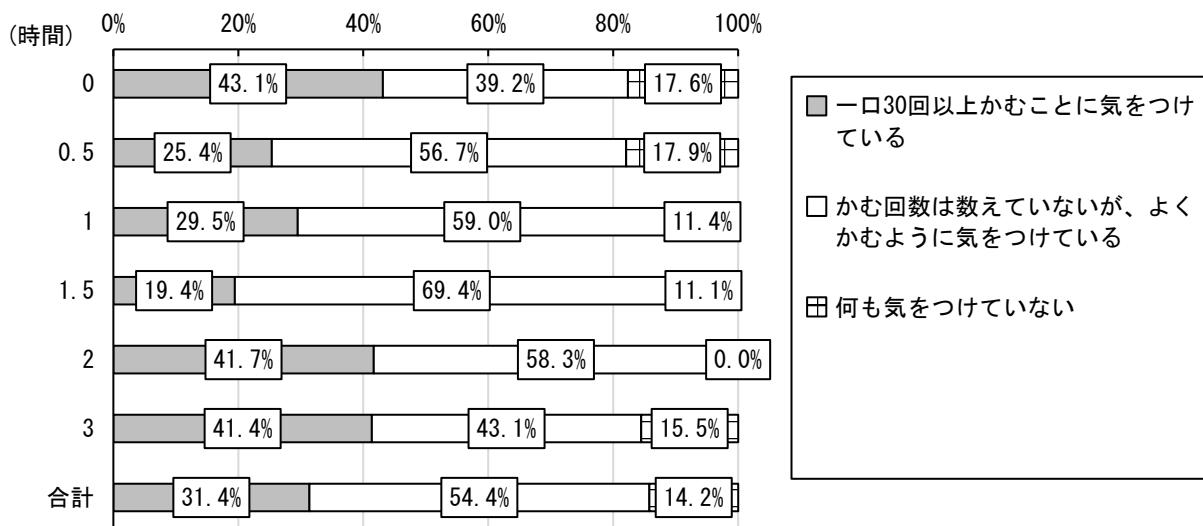


図 104 (小学 2 年生) 噉むことへの意識、準備時間

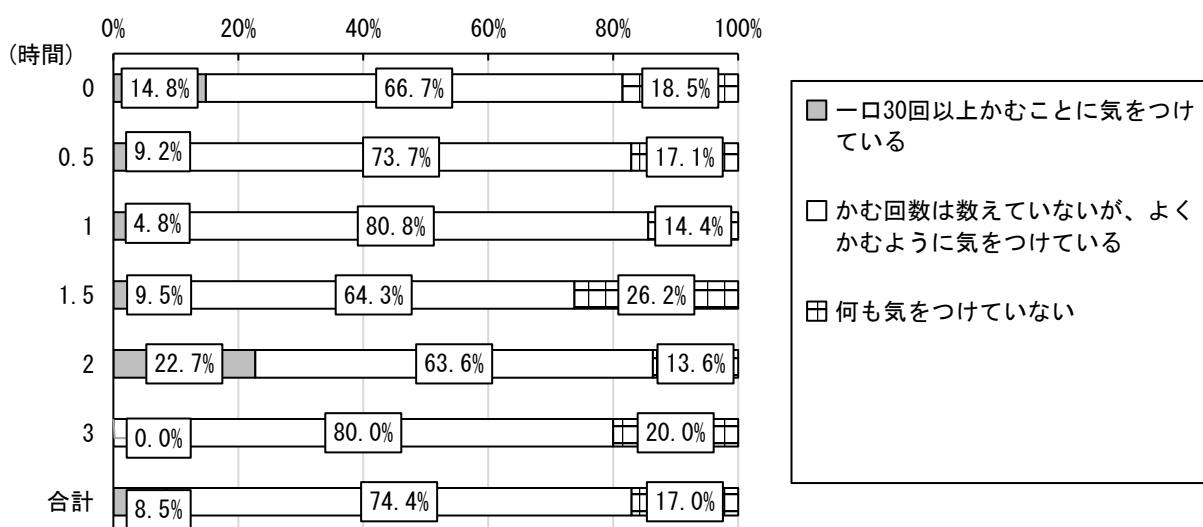


図 105 (小学 5 年生) 噉むことへの意識、準備時間

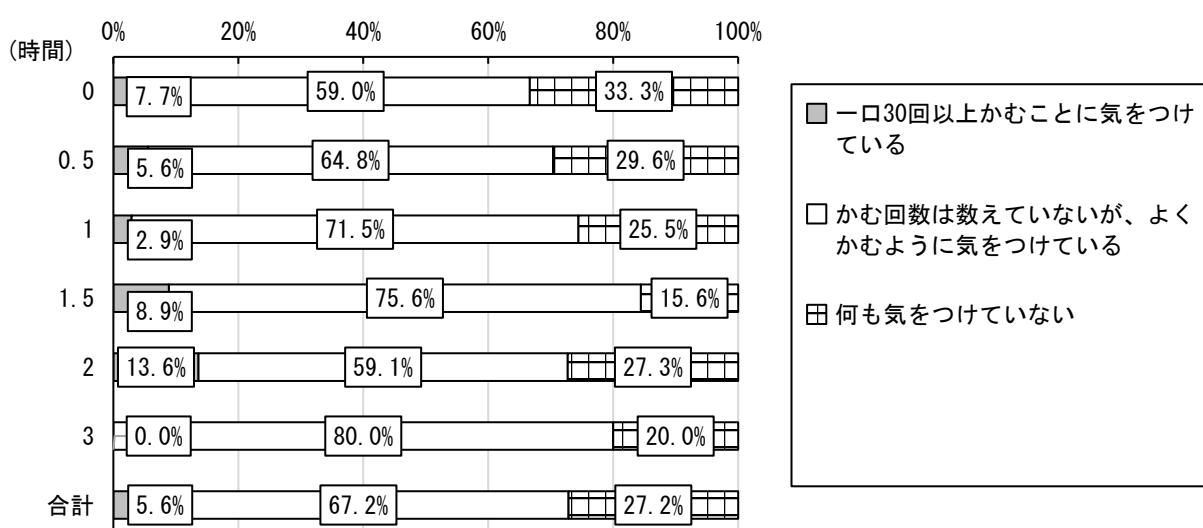


図 106 (中学 2 年生) 噉むことへの意識、準備時間

G. 基本目標6 家族そろっての食事の機会を増やす

(1) (成人) 共食の頻度

(成人) 13 あなたが、家族と一緒に食事をする日は、週に何日くらいありますか。(○はひとつ)

「3日」以上と回答した割合は、80.3%だった。これを性別でみると、女性の方が高い。

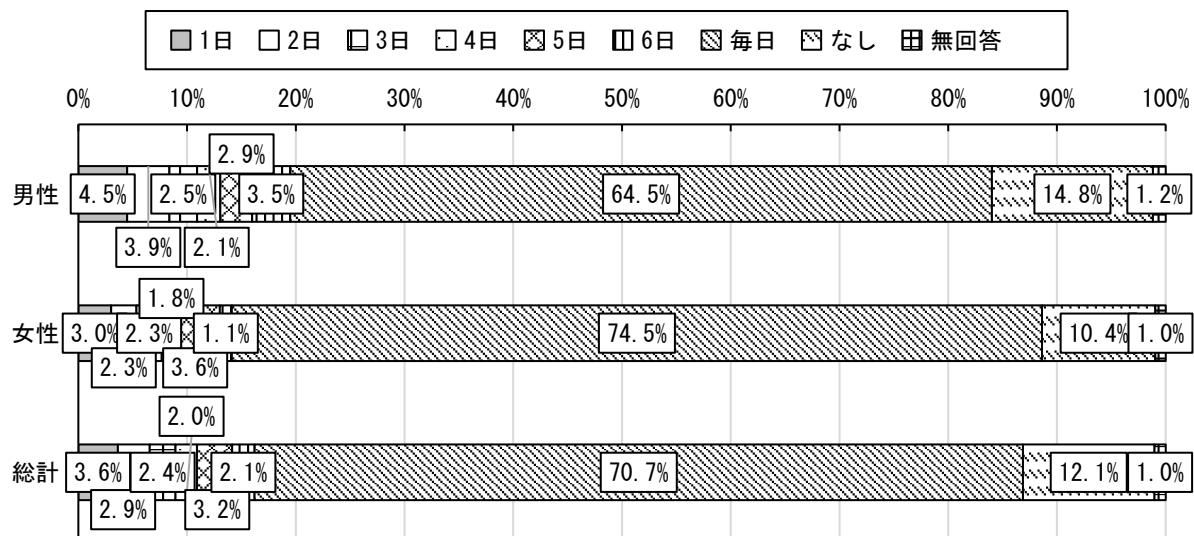


図 107 (成人) 共食の頻度、性別

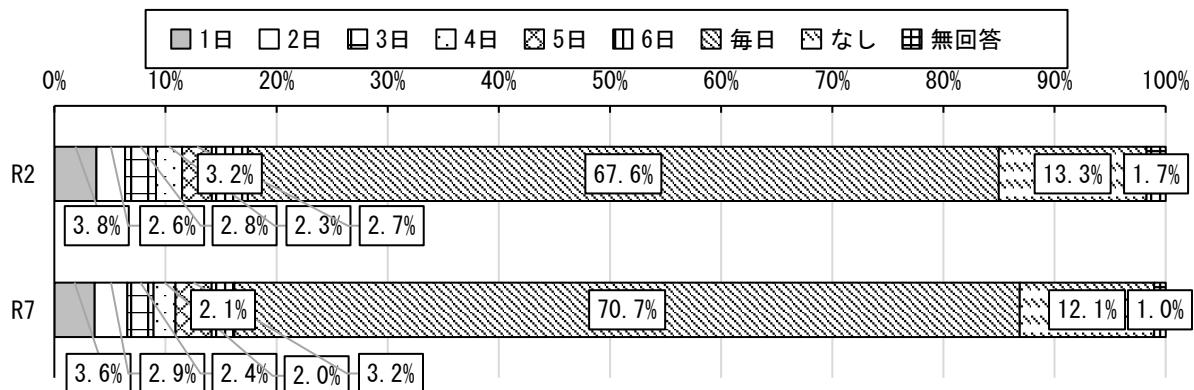


図 108 共食の頻度、前回調査結果（令和2年度）との比較

(成人) 共食の頻度 (前回調査結果[令和2年度]との比較)

基本目標6 家族そろっての食事の機会を増やす

【推進項目】1週間のうち家族がそろって食事をする日が3日以上ある市民の割合

<算出方法>

(成人) 13「あなたが、家族と一緒に食事をする日は、週に何日くらいありますか。」で「3日」「4日」「5日」「6日」「毎日」の回答数／アンケート全回答数×100

<結果>

	R2	R7	目標
割合 (%)	78.6	80.3	90.0

今回の調査結果は、前回調査結果より1.7%増加したが、目標値を達成できなかった。

<全国との比較>

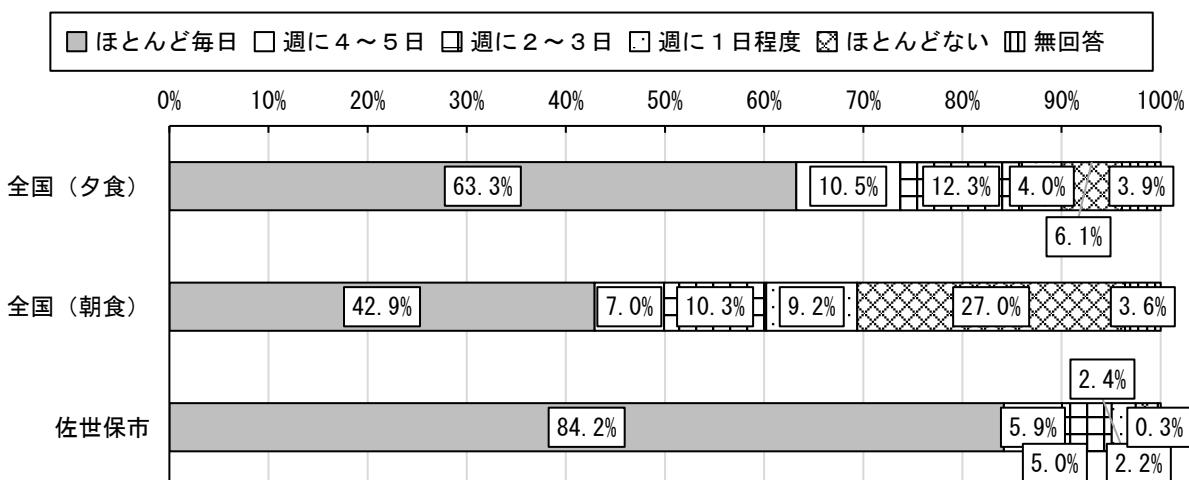


図 109 (成人) 共食の頻度、全国との比較

表 17 全国と佐世保市における「共食の頻度」

割合	ほとん ど毎日	週に4 ~5日	週に2 ~3日	週に1 日程度	ほとん どない	無回答	合計
全国 (夕食)	63.3%	10.5%	12.3%	4.0%	6.1%	3.9%	100.0%
全国 (朝食)	42.9%	7.0%	10.3%	9.2%	27.0%	3.6%	100.0%
佐世保市	84.2%	5.9%	5.0%	2.4%	2.2%	0.3%	100.0%

佐世保市の割合：「ひとり暮らし」と回答した人以外を対象

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 3 共食の状況について P34、P38

「3日」以上と回答した割合を年代別に見ると、最も高かったのは「40代」で86.7%、次いで「30代」で85.7%だった。性別で見ると、「女性」の方が高く最も高い割合は「10代」で95.2%だった。これに対し「男性」で最も高い割合は「40代」で79.4%だった。

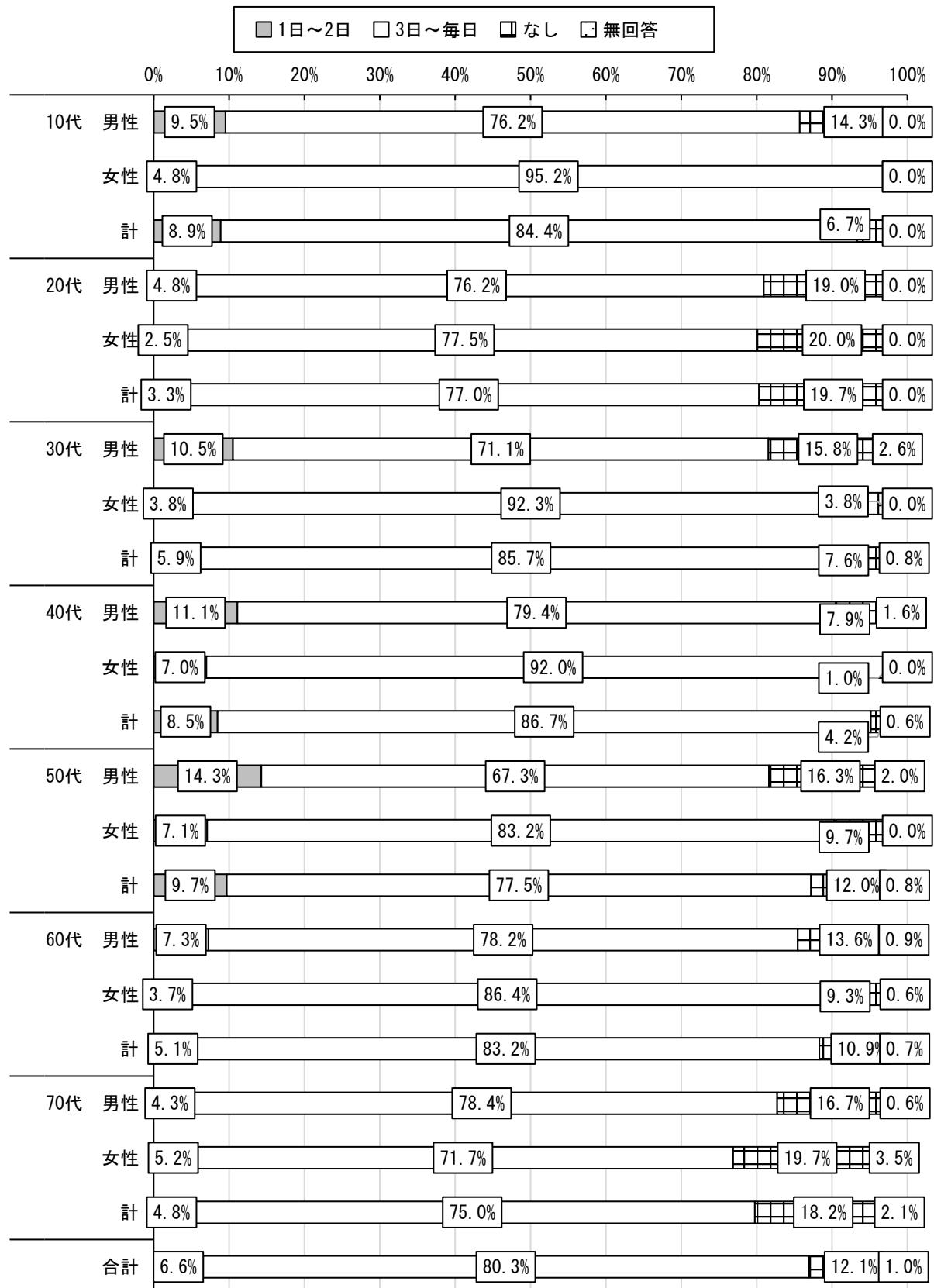


図 110 (成人) 共食の頻度 (基本目標に従って編集)、年代、性別

(2) (小児) 孤食の頻度

(未就学児、小学2年生) 問7 お子様は、朝食または夕食を一人で食べる事がありますか。

(小学5年生、中学2年生) 問9 あなたは朝食または夕食を一人で食べることがありますか。

「ときどきある」「ほとんど毎日」と回答した割合を学年別に見ると、中学2年生が最も高く49.1%だった。

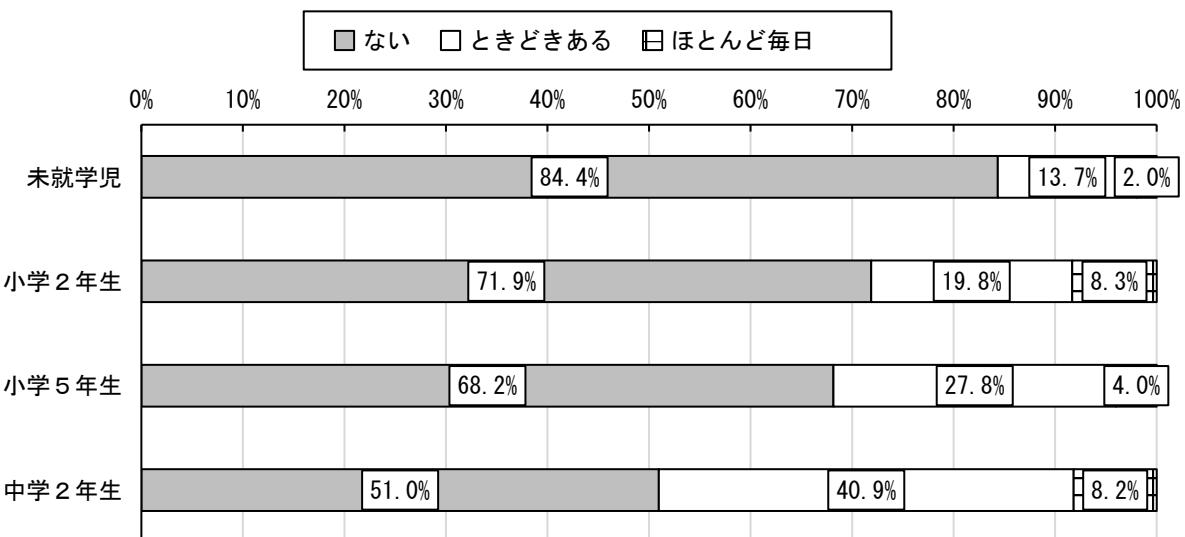


図 111 (小児) 孤食の頻度、学年別

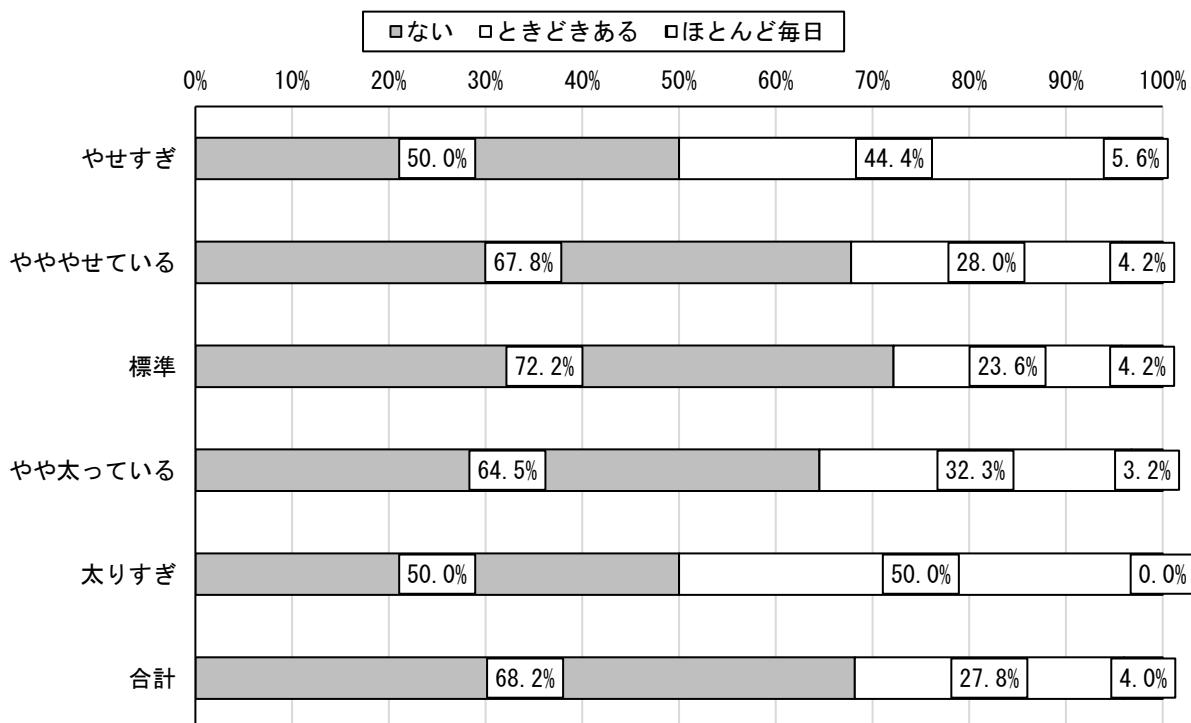


図 112 (小児) 孤食の頻度、体格

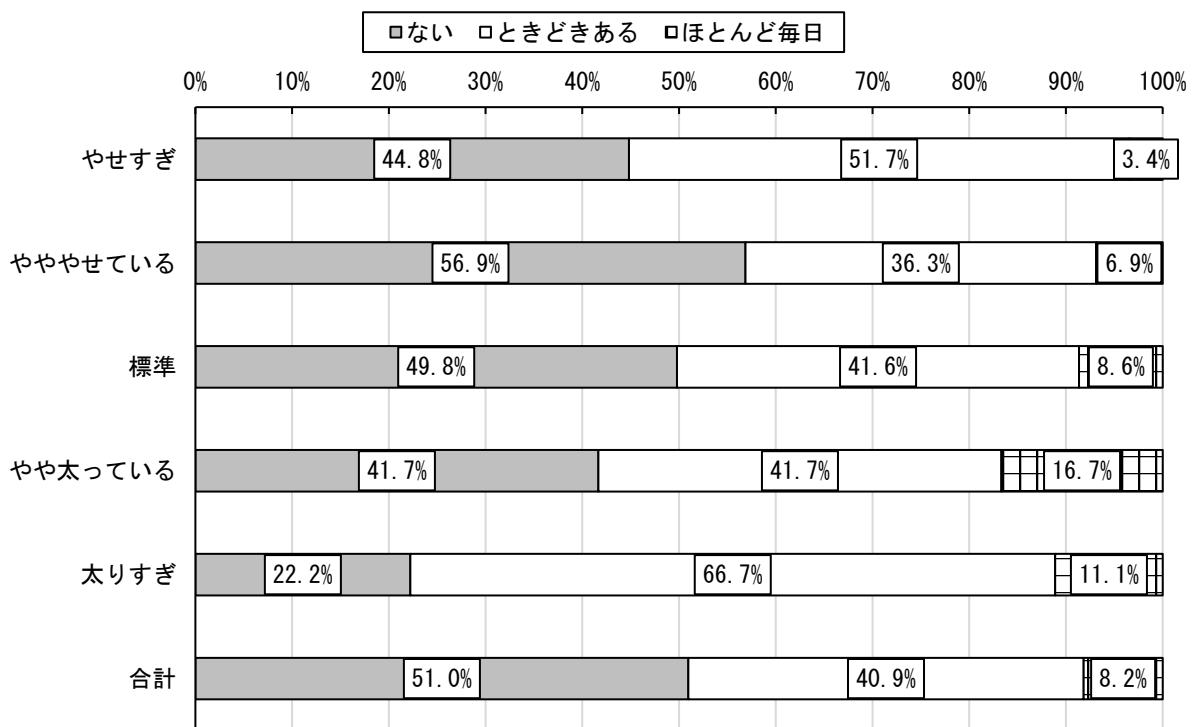


図 113 (中学2年生) 孤食の頻度、体格

(3) (小学5年生、中学2年生) 孤食の頻度 (ご飯の調理)

(小学5年生、中学2年生) 問7 あなたは自分で食事を作つて食べることがありますか。

「よくある」と回答した割合を学年別に見ると、「小学5年生」の方が高く、前回調査とは逆の結果となった。

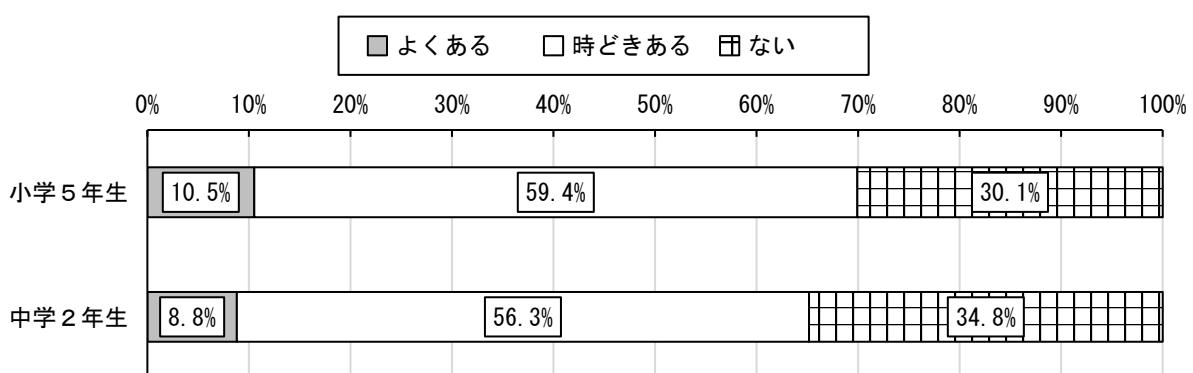


図 114 (小学5年生、中学2年生) 孤食の頻度 (ご飯の調理)、学年別

(4) (小学5年生、中学2年生) 孤食の頻度（購買）

(小学5年生、中学2年生) 問8 あなたは家でお総菜やお弁当などを食べることがありますか。

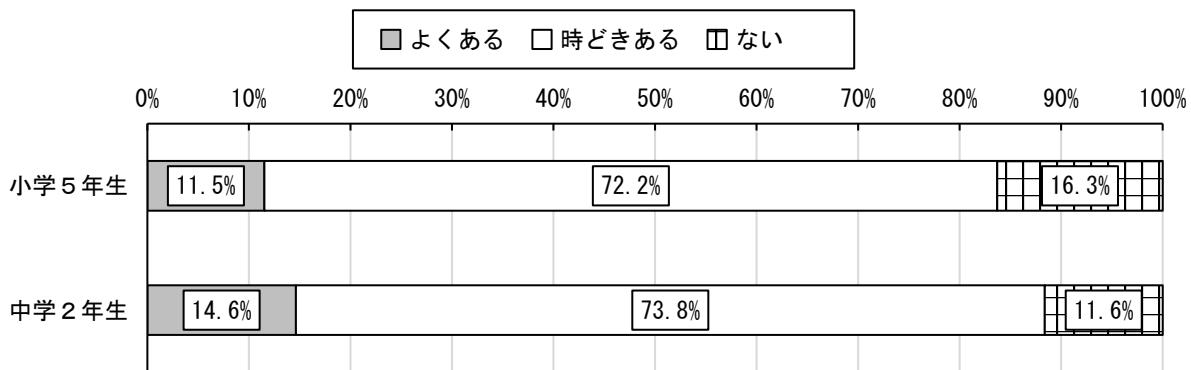


図 115 (小学5年生、中学2年生) 孤食の頻度（購買）、学年別

前回の調査でも同様な質問はされているが、質問の設定が異なっており、結果を比較する場合は注意が必要である。

- ・令和7年度 問8 あなたは家でお総菜やお弁当などを食べることがありますか。
- ・令和2年度 問9 あなたは、自分で弁当を買って食べることができますか。

表 18 (小学5年生、中学2年生) 孤食の頻度（購買）前回調査、学年別

	よくある	時どきある	ない	無回答
小学5年生	3.7%	32.7%	62.4%	1.2%
中学2年生	5.9%	42.4%	49.7%	1.9%

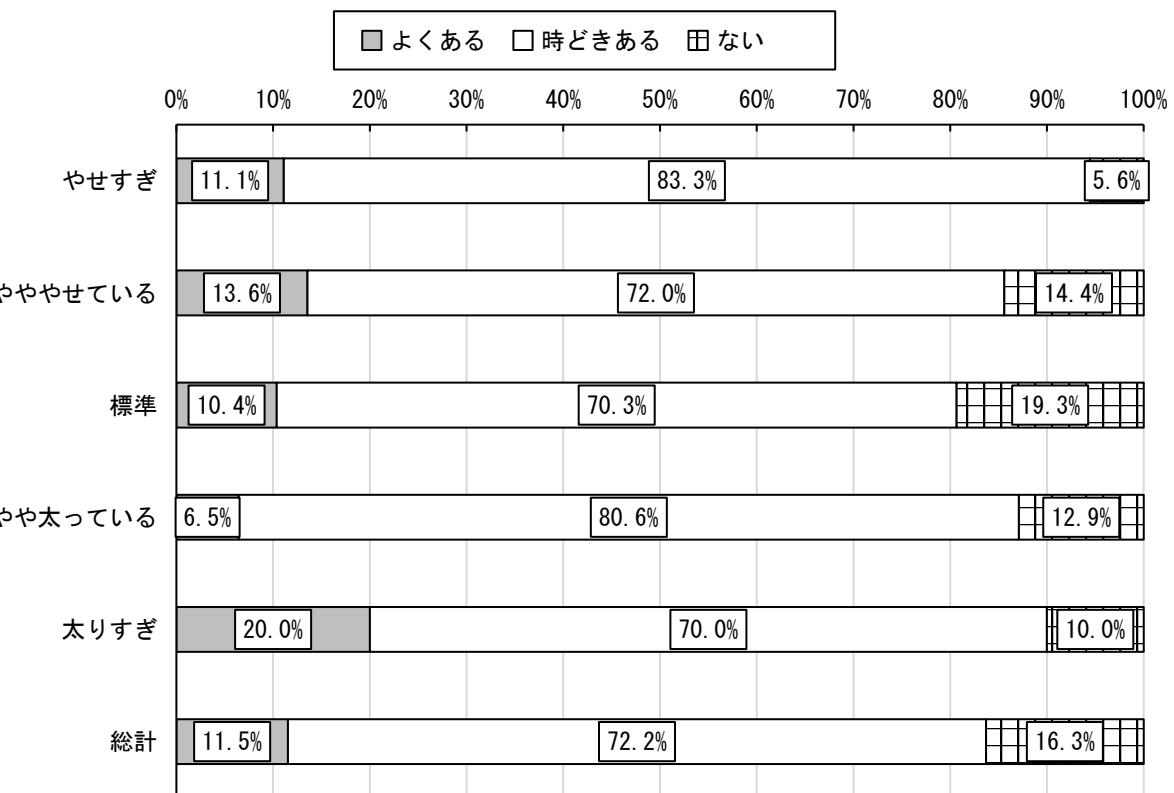


図 116 (小学 5 年生) 孤食の頻度 (購買)、体格

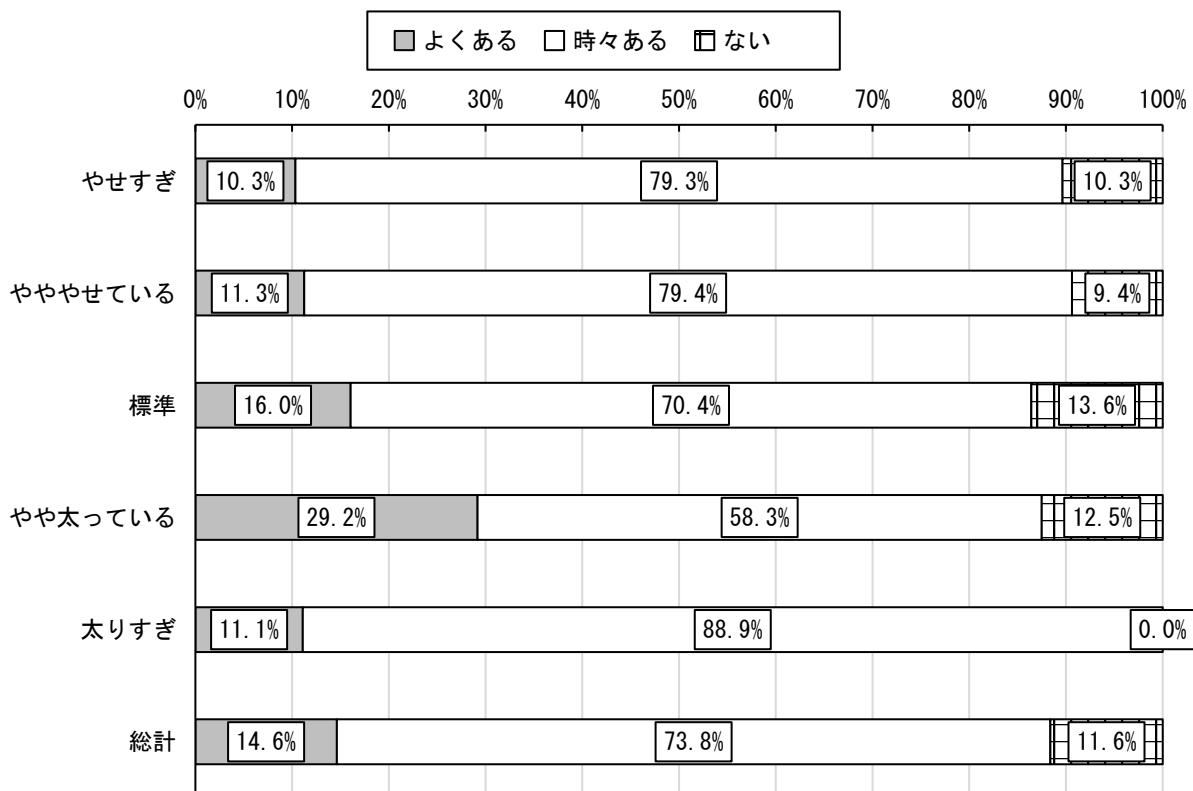


図 117 (中学 2 年生) 孤食の頻度 (購買)、体格

H. 基本目標8 食育の推進にかかるボランティアの数を増やす

(1) (成人) ボランティアの参加

(成人) 8 あなたは、食育の推進にかかるボランティア活動やイベントに参加したことがありますか。(○はひとつ)

<全国との比較>

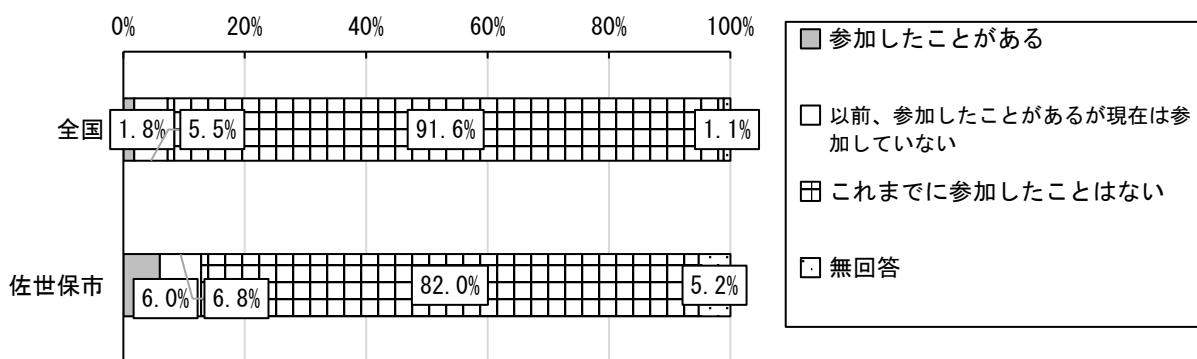


図 118 (成人) ボランティアの参加、全国との比較

表 19 全国と佐世保市における「ボランティアの参加」

	参加したことある	以前、参加したことあるが現在は参加していない	これまでに参加したことない	無回答	合計
全国	1.8%	5.5%	91.6%	1.1%	100.0%
佐世保市	6.0%	6.8%	82.0%	5.2%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 5 食育の推進にかかるボランティア活動 P50

(2) (成人) 食育の推進に関わるボランティア活動に参加していない理由

(成人) 8-1 あなたが、現在、食育の推進に関わるボランティア活動やイベントに参加していない理由は何ですか。(○は3つまで)

8「ボランティアの参加」で、「以前、参加したことがあるが現在は参加していない」「これまでに参加したことない」と回答した人のみ。

食育の推進に関わるボランティア活動に参加していない理由で、最も割合が高かったのが「活動の存在を知らなかったから」、続いて「他の事で忙しいから」、そして「特に理由はない」であった。

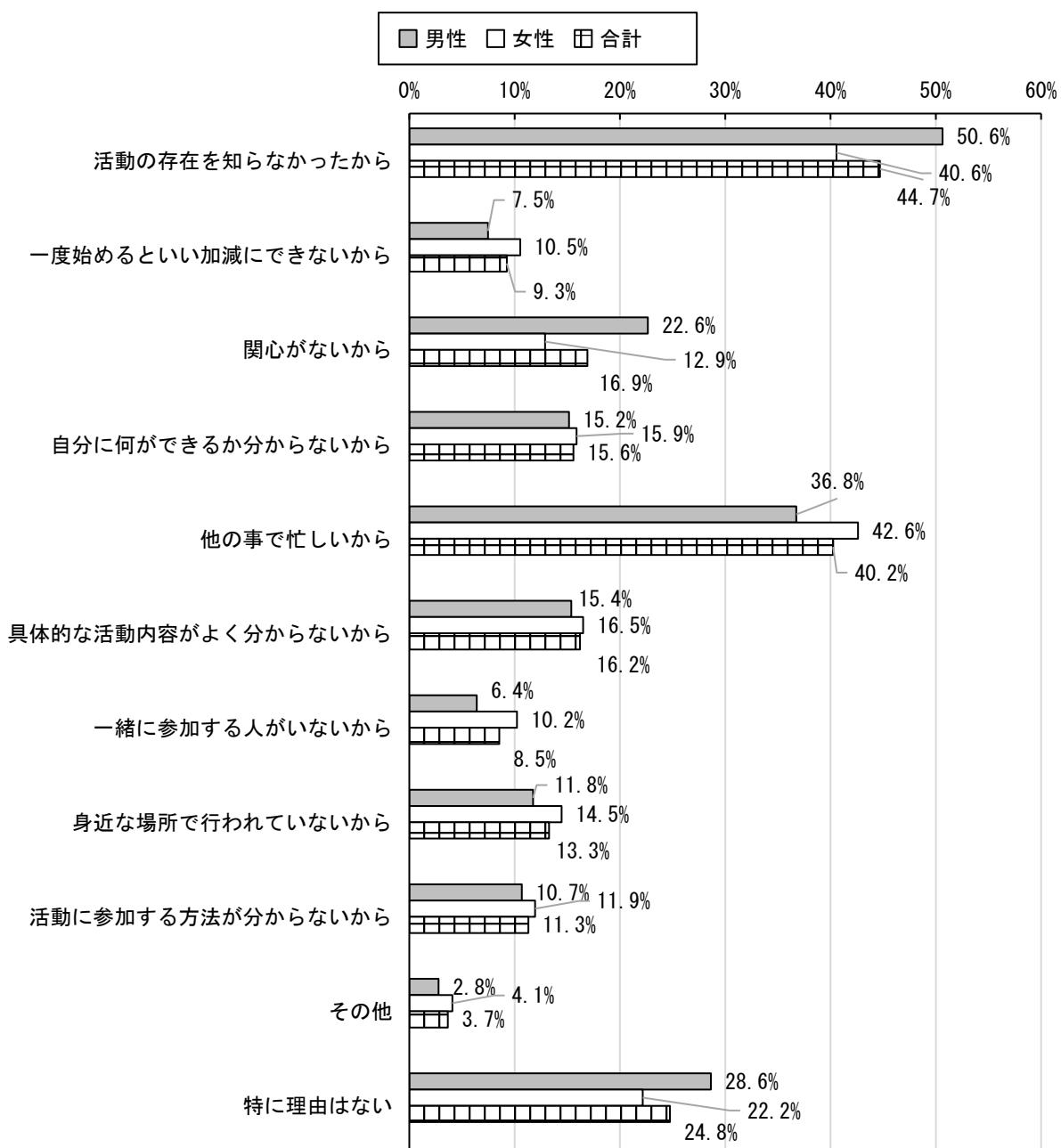


図 119 (成人) 食育の推進に関わるボランティア活動に参加していない理由、性別

<全国との比較>

全国と比較して、「特に理由がない」が大きく異なり、全国より 20.4% 佐世保市の方が高い割合となっている。

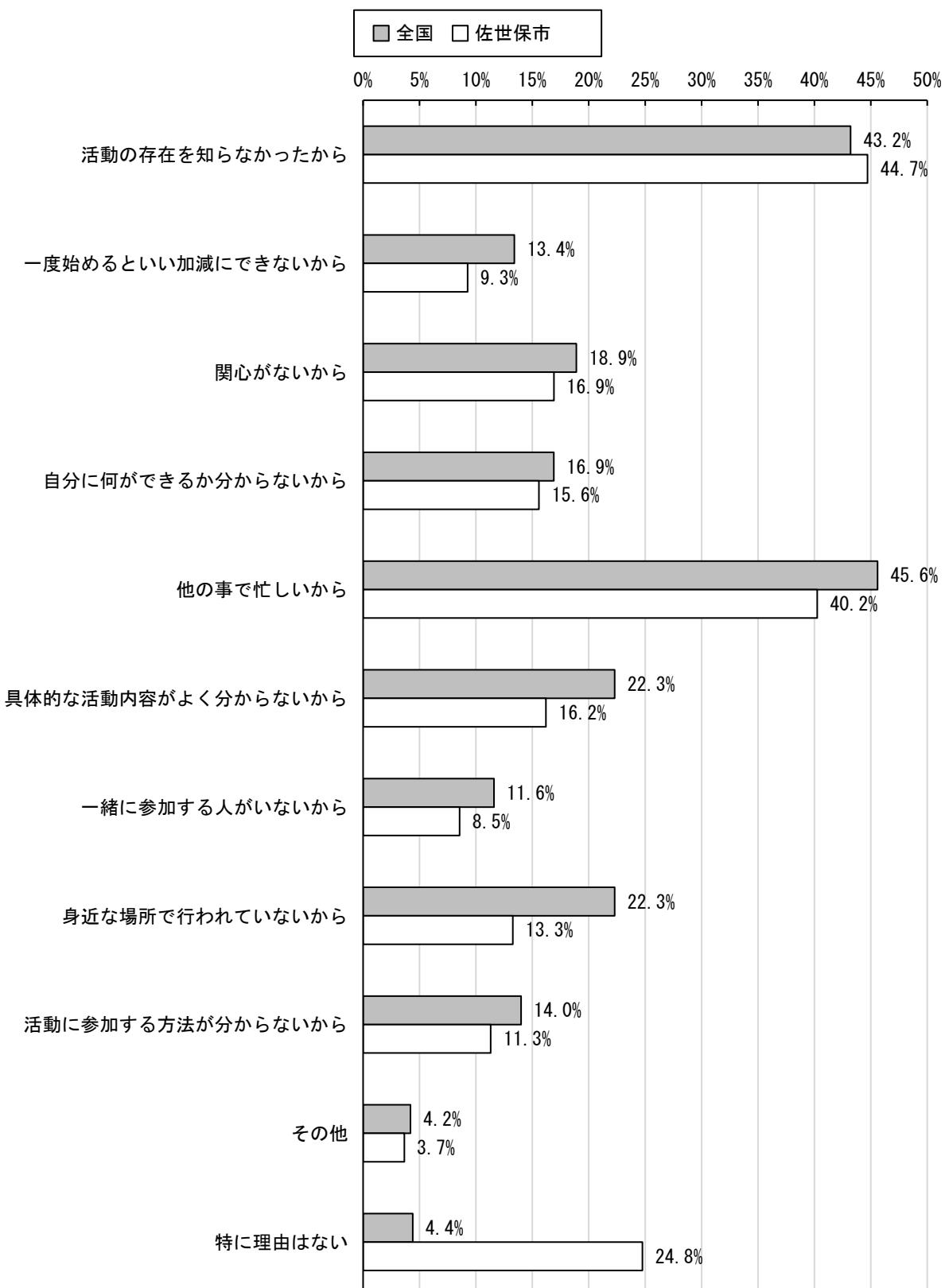


図 120 (成人) 食育の推進に関するボランティア活動に参加していない理由、全国との比較

表 20 全国と佐世保市における「食育の推進に関わるボランティア活動に参加していない理由」

項目	全国	佐世保市
活動の存在を知らなかったから	43. 2%	44. 7%
一度始めるといい加減にできないから	13. 4%	9. 3%
関心がないから	18. 9%	16. 9%
自分に何ができるか分からなから	16. 9%	15. 6%
他の事で忙しいから	45. 6%	40. 2%
具体的な活動内容がよく分からなから	22. 3%	16. 2%
一緒に参加する人がいないから	11. 6%	8. 5%
身近な場所で行われていないから	22. 3%	13. 3%
活動に参加する方法が分からなから	14. 0%	11. 3%
その他	4. 2%	3. 7%
特に理由はない	4. 4%	24. 8%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 5 食育の推進に関わるボランティア活動 P52

項目ごとに「20代」「40代」「70代」で比較すると、「活動の存在を知らなかったから」では「20代」が、「他の仕事で忙しい」では「40代」が、「特に理由はない」では「70代」の割合が最も高くなっている。

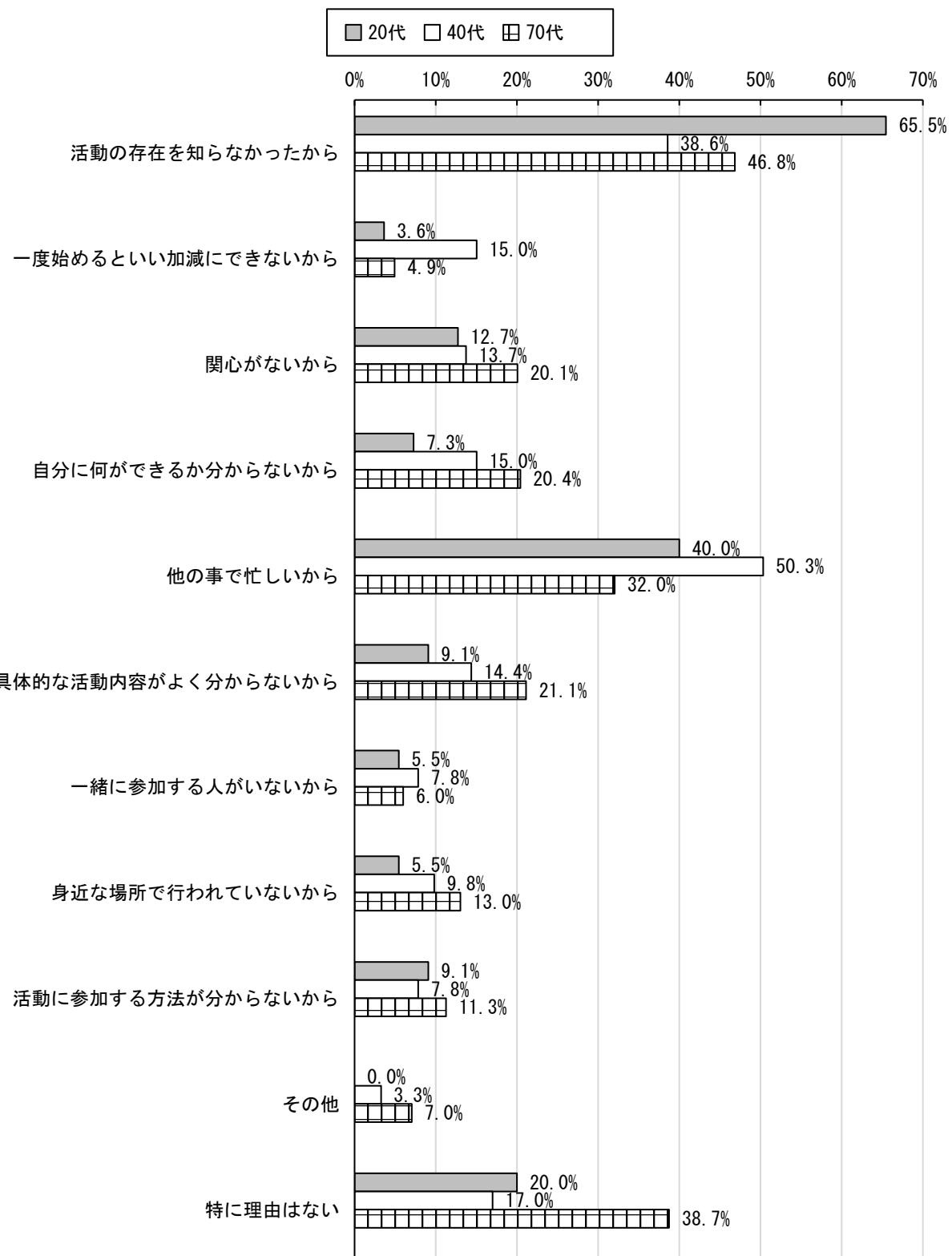


図 121 (成人) 食育の推進に関わるボランティア活動に参加していない理由、年代
(20代、40代、70代)

表 21 (成人) 食育の推進に関わるボランティア活動に参加していない理由 (その他コメント)

カテゴリ	コメント	件数
気力・体力がない		21
	気力、体力がない、体調不良	8
	身体障がい者のため、車イスで行けない、足が不自由の為、要介護	7
	人づきあいが苦手	1
	年令的に	1
	病気だから	4
時間がない		11
	時間が合わないから	5
	現時点では継続した活動ができないから	1
	仕事で忙しいから	2
	子どもの習い事でいけない事が多い	1
	親の介護で時間がない (参加したいが)	1
	忙しくて情報を集めることができない	1
機会がない		4
	PTA から卒業したから	1
	参加する機会がないから	2
	昔アルカスで食育祭というイベントがあっていたが今はなくなったので	1
興味がない		3
	イベントには興味ない	1
	施設に入っているため	1
	食に興味がないから	1
知らない		2
	どこでどんな活動が行われているかわからない、近場でやってるか不明	2
金銭的に余裕がない		2
	金銭的に余裕が無い	1
	働かないと佐世保は生きていけないから	1
交通の便		1
	わざわざバスに乗って行かないといけないから	1
その他		4
	まじめに行うこと	1
	子ども3人が保育士なので話をよく聞く	1
	自分で野菜を育てている	1
	自分に必要な情報は入手できている	1
総計		48

I. 基本目標9 地産地消の推進について（地場産物を認知している市民を増やす）

(1) (小学5年生、中学2年生、成人) 地場産物を認知している市民の割合

(小学5年生、中学2年生) 問11 佐世保市や長崎県産の農畜産物・水産物についての質問です。あなたは、佐世保市や長崎県産の農畜産物・水産物にどのようなものがあるか知っていますか。

(成人) 5 あなたは、地場産物にどのようなものがあるか知っていますか。(○はひとつ)

小学5年生、中学2年生、成人いずれも「知っている」と回答した割合が50%を超えてい。一方、「知らない」と回答した割合が最も高かったのは、「中学2年生」だった。

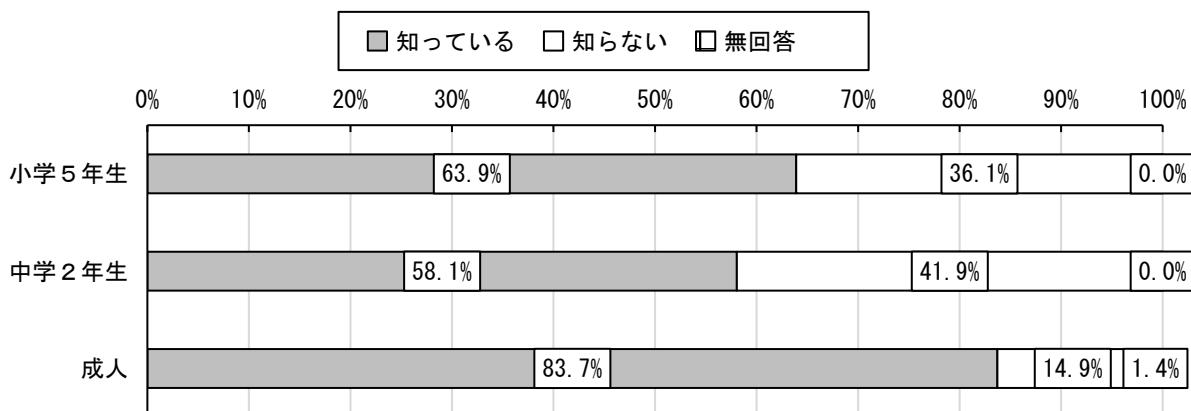


図122 (小学5年生、中学2年生、成人) 地場産物を認知、学年・成人別

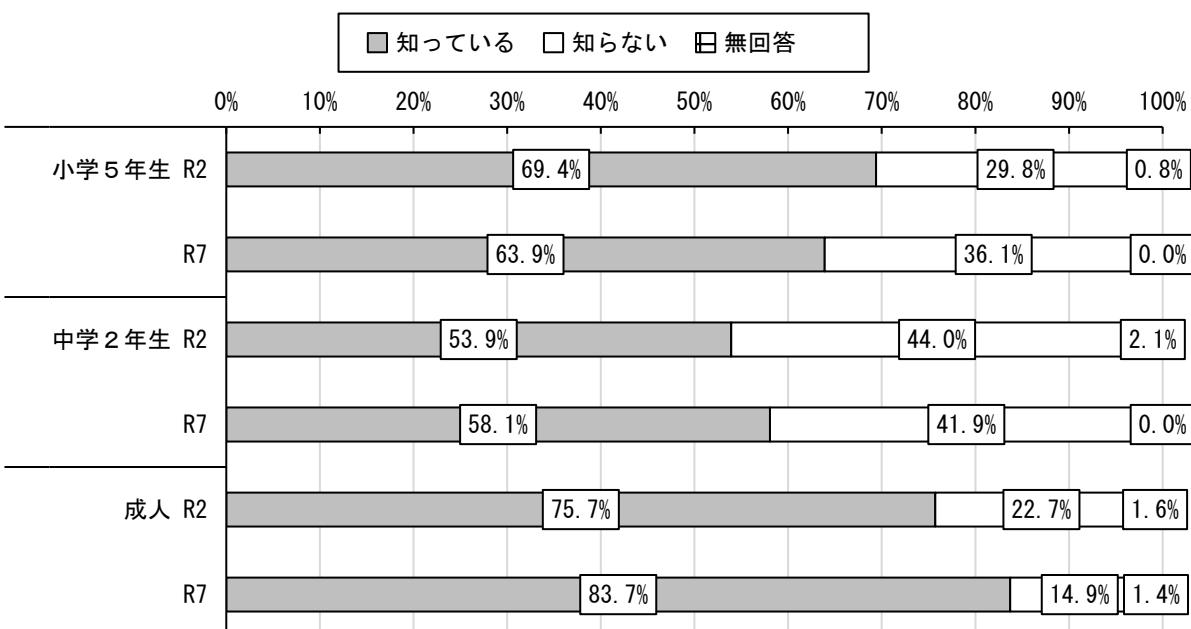


図123 (小学5年生、中学2年生、成人) 地場産物を認知、前回調査結果との比較

(成人) 地場産物を認知（前回調査結果[令和2年度]との比較）

基本目標9 地産地消の推進について（地場産物を認知している市民を増やす）

【推進項目】佐世保市や長崎県産の農畜産物・水産物を認知している市民の割合

<算出方法>

(小学5年生、中学2年生) 問11 佐世保市や長崎県産の農畜産物・水産物についての質問です。あなたは、佐世保市や長崎県産の農畜産物・水産物にどのようなものがあるか知っていますか。

(成人) 5 あなたは、地場産物にどのようなものがあるか知っていますか。(○はひとつ)

各質問で「知っている」の回答数／アンケート全回答数×100

<結果>

割合 (%)	R2	R7	目標
小学5年生	69.4	63.9	76.0
中学2年生	52.5	58.1	57.0
成人	75.7	83.7	83.0

(小学5年生) 今回の調査結果は、前回調査結果より5.5%減少し、目標値を達成できなかった。

(中学2年生) 今回の調査結果は、前回調査結果より5.6%増加し、目標値を達成できた。

(成人) 今回の調査結果は、前回調査結果より8.0%増加し、目標値を達成できた。

これらの事から、小学5年生以外は、目標値を達成できた。

(2) (成人) 地場産物を選択する市民の割合

(成人) 6 あなたは、地場産物を意識して選んでいますか。(○はひとつ)

地場産物を選択する割合は、「女性」の方が高かった。また、年代別では、「50代」が最も高い割合だった。

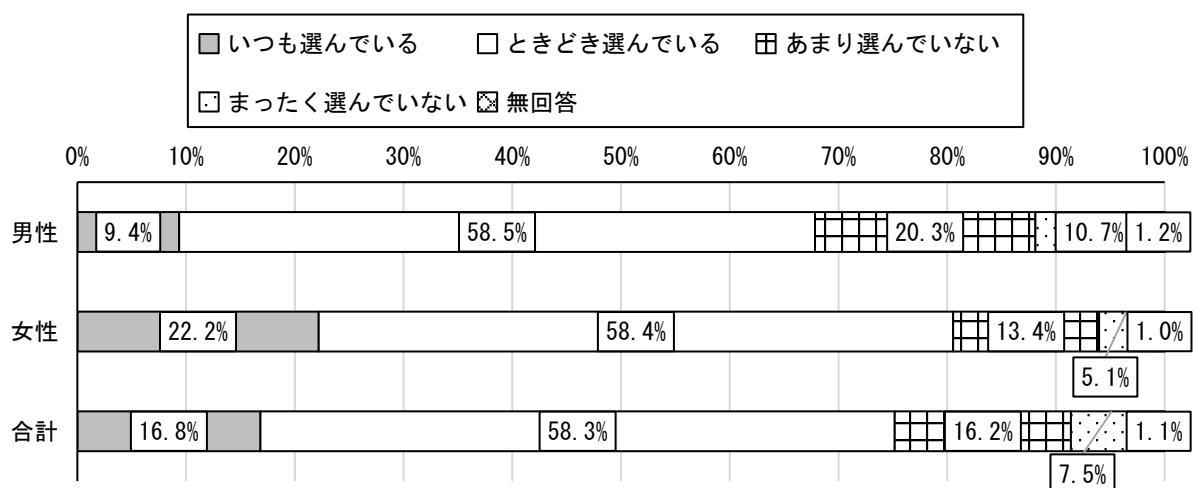


図 124 (成人) 地場産物の選択、性別

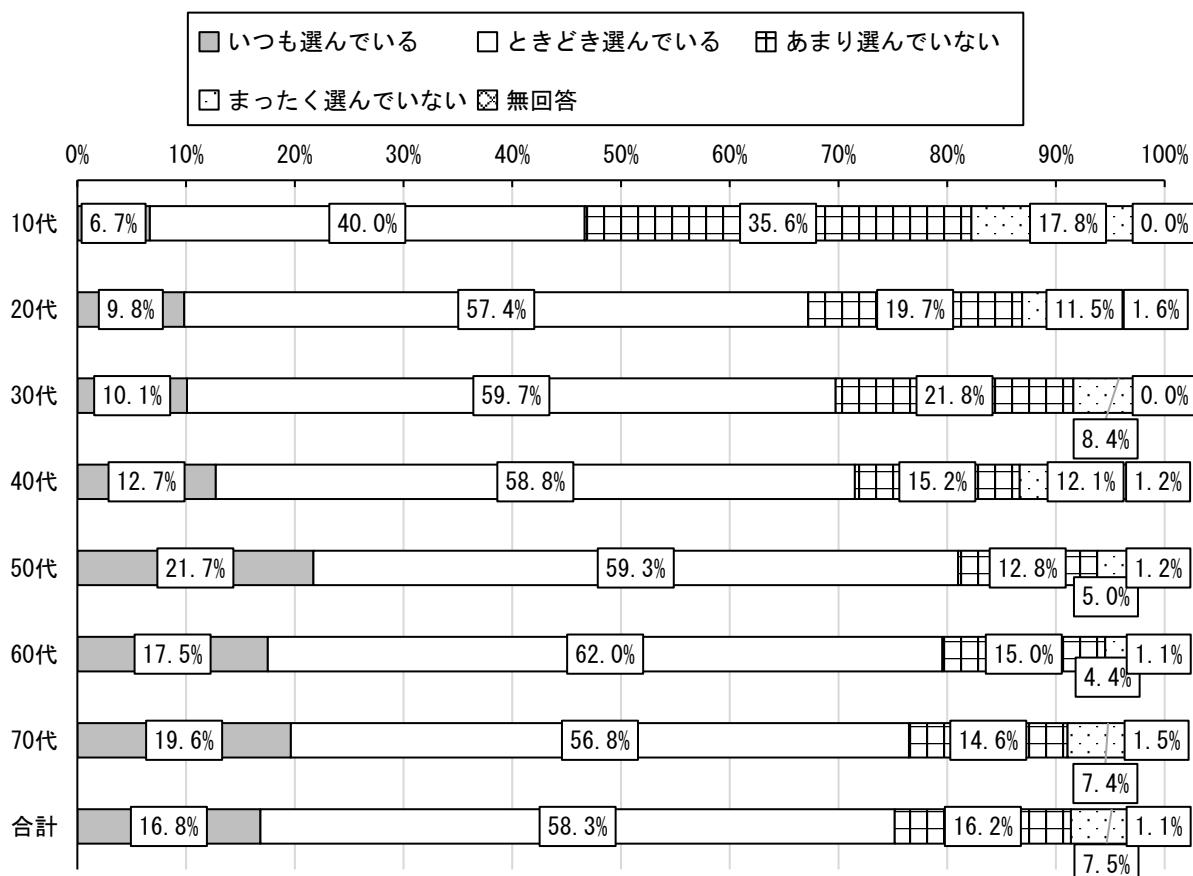


図 125 (成人) 地場産物の選択、年代

<全国との比較>

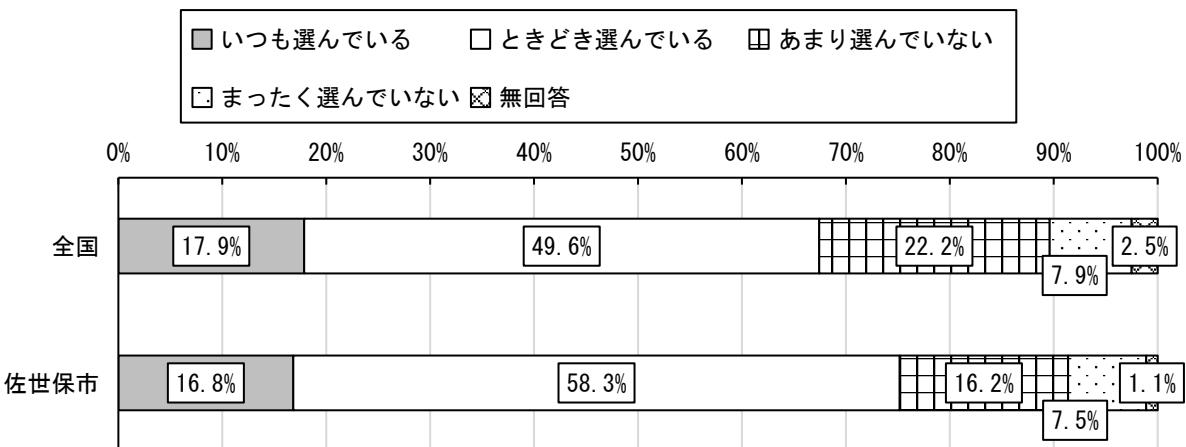


図 126 (成人) 地場産物の選択、全国との比較

表 22 全国と佐世保市における「地場産物の選択」

	いつも選んでいる	ときどき選んでいる	あまり選んでいない	まったく選んでいない	無回答	合計
全国	17.9%	49.6%	22.2%	7.9%	2.5%	100.0%
佐世保市	16.8%	58.3%	16.2%	7.5%	1.1%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 8 環境への配慮や産地・生産者を意識することについて P99

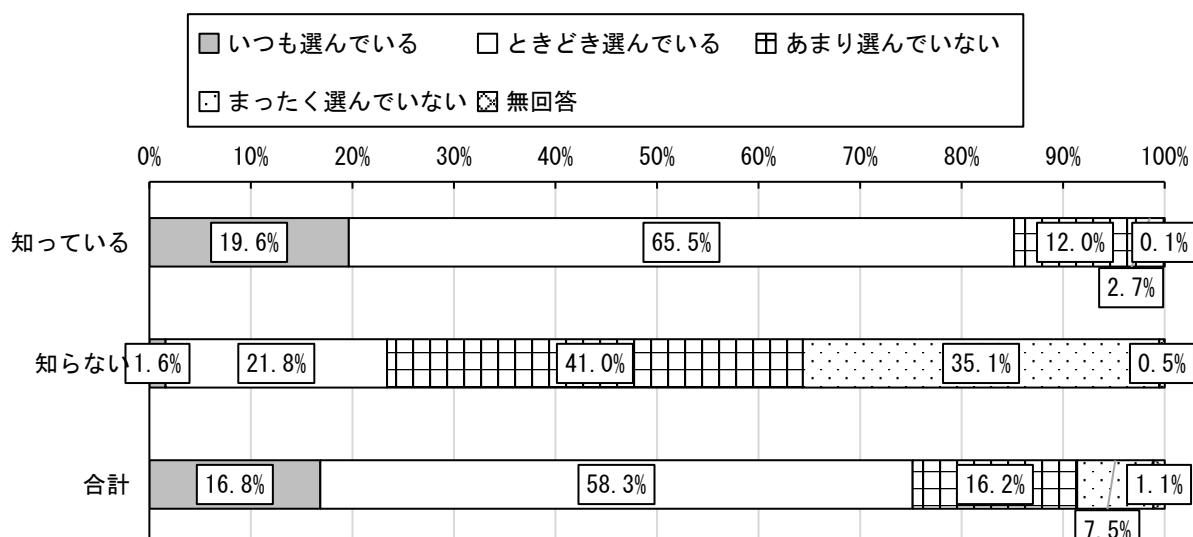


図 127 (成人) 地場産物の選択、地場産物を認知

(3) (中学2年生、成人) 特産品の認知状況

(中学2年生) 問11-1 あなたは、次のうち知っているものがありますか。

(成人) 7 あなたは下記の佐世保市や長崎県産の特産物で知っているものがありますか。

(○はいくつでも)

最も割合が高かったのは、「西海みかん」であり、続いて「世知原茶」「長崎和牛」だった。また、「中学2年生」より「成人」の方が各品目とも割合が高かった。

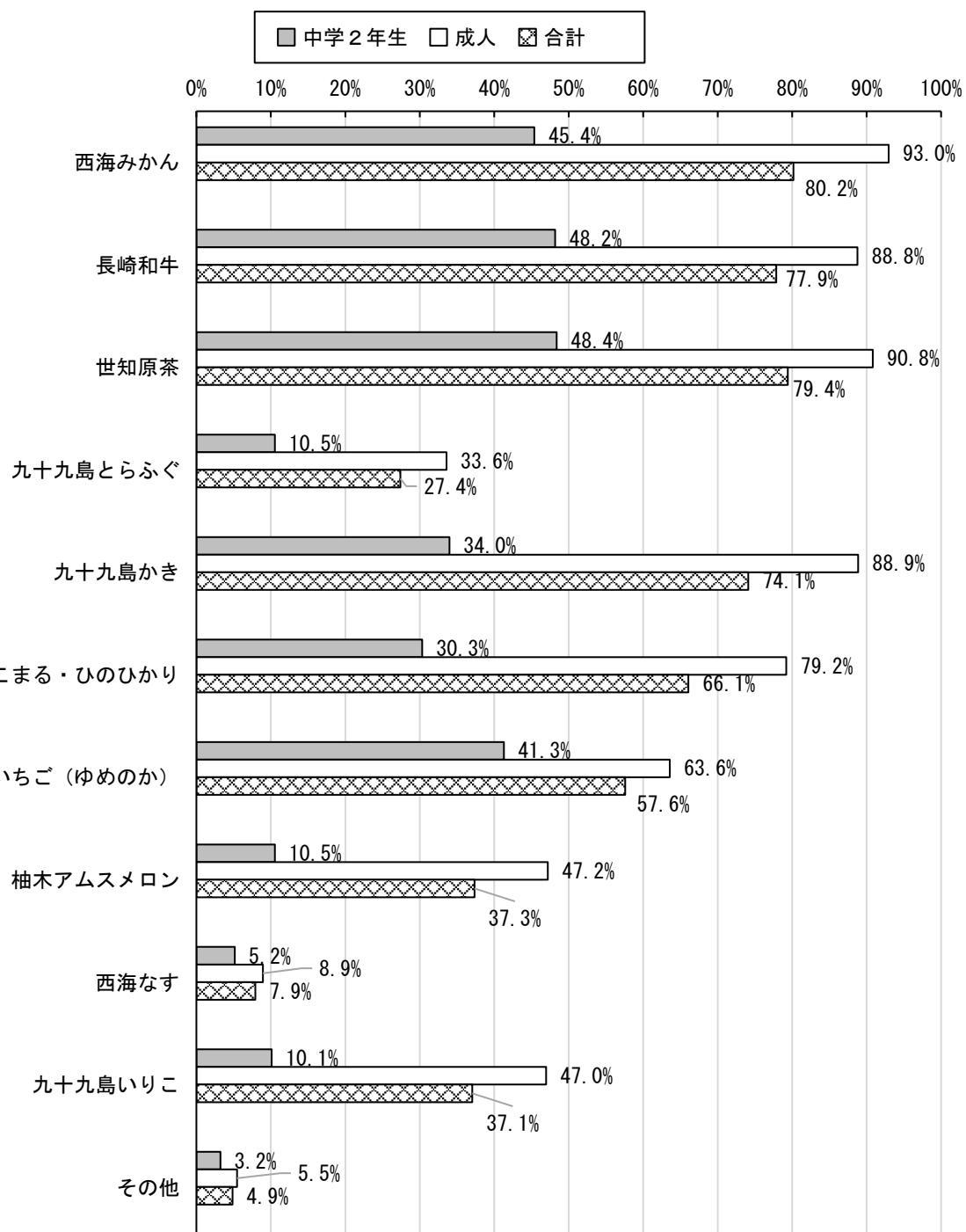


図128 (中学2年生、成人) 特産品の認知状況

表 23 (中学2年生、成人) 特產品の認知状況 (その他コメント)

カテゴリ	コメント	件数
果物	びわ(14)、茂木びわ(7)、江上文旦(4)、御厨ぶどう(2)、あいあいの雫、ぶどう、伊木力みかん、吉井メロン、三川内みかん、時津の巨峰、西海みかん、大村のマンゴー、長浦すいか、長与みかん、味美レモン	38
魚介類	アジ(13)、松浦アジ(4)、鯛(3)、ハーブ鯖(2)、ヒラマサ(2)、島原わかめ(2)、ごんあじ、サバ、ハマチ、ヒラス、西海ブリ、アオサ、めかぶ、九十九島ヒラマサ、飛魚、養殖マグロ	36
野菜	大島トマト(8)、小串トマト(5)、じゃがいも(4)、大村人参(2)、島原じゃがいも(2)、柚木トマト(2)、きゅうり、高島トマト、江上れんこん、生椎茸(平戸)、西海トマト、川棚アスパラ、対馬しいたけ、面高きゅうり	31
食品	松浦アジフライ(4)、平戸アゴ(4)、五島うどん(3)、ちゃんぽん(2)、カステラ、かまぼこ、かんころモチ、黒島ちくわ、佐世保バーガー、小佐々いりこ、切り干し大根、大島ちくわ、豆乳(あまいやつ)、平戸すばかまぼこ	23
お茶		12
彼杵茶(12)		12
畜産	西海ポーク(2)、雲仙あかね豚、牛乳、川棚和牛、諫美豚	6
その他		2
塩、電照菊		
総計		148

J. 基本目標 10 食文化（伝統的な料理や作法など）を継承し、伝えている市民を増やす

(1) (小児) おはしの持ち方

(未就学児) 問2 お子様は、食事の時、図1のように「はし」を持っていますか。

(小学2年生、小学5年生、中学2年生) 問2 あなたは食事の時に図1のように「はし」を持っていますか。

「持っている」と回答した割合が最も高かったのは、「中学2年生」
低かったのは、「未就学児」だった。

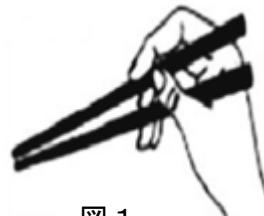


図1

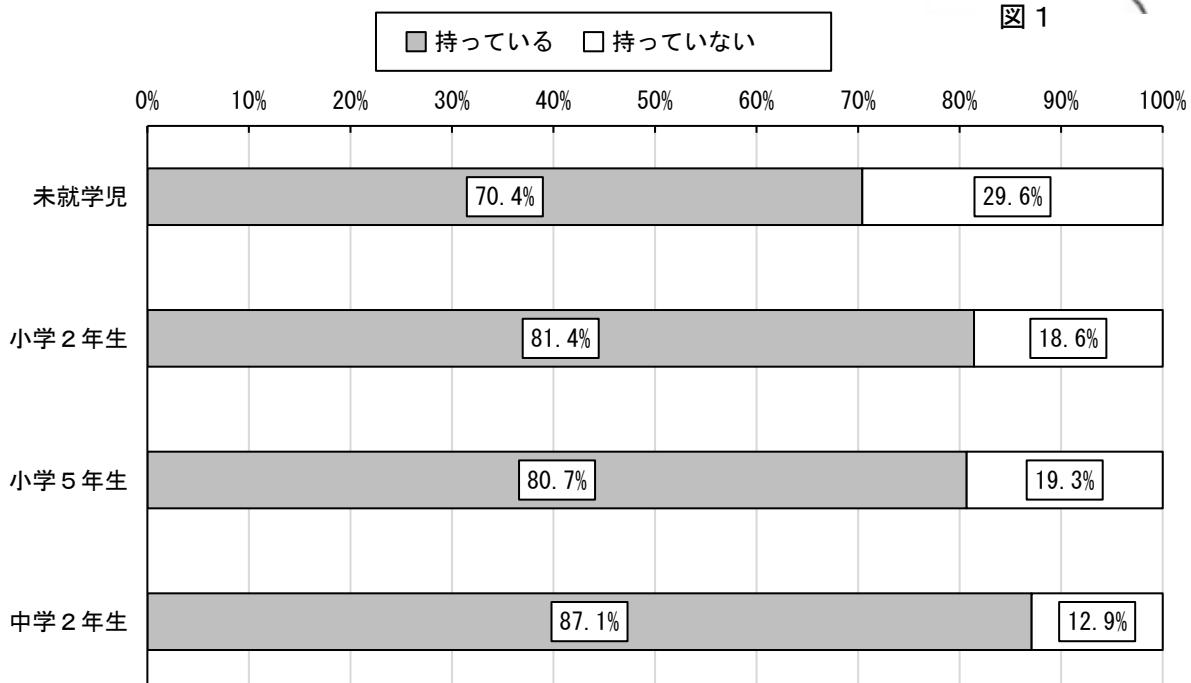


図129 (小児) おはしの持ち方、学年別

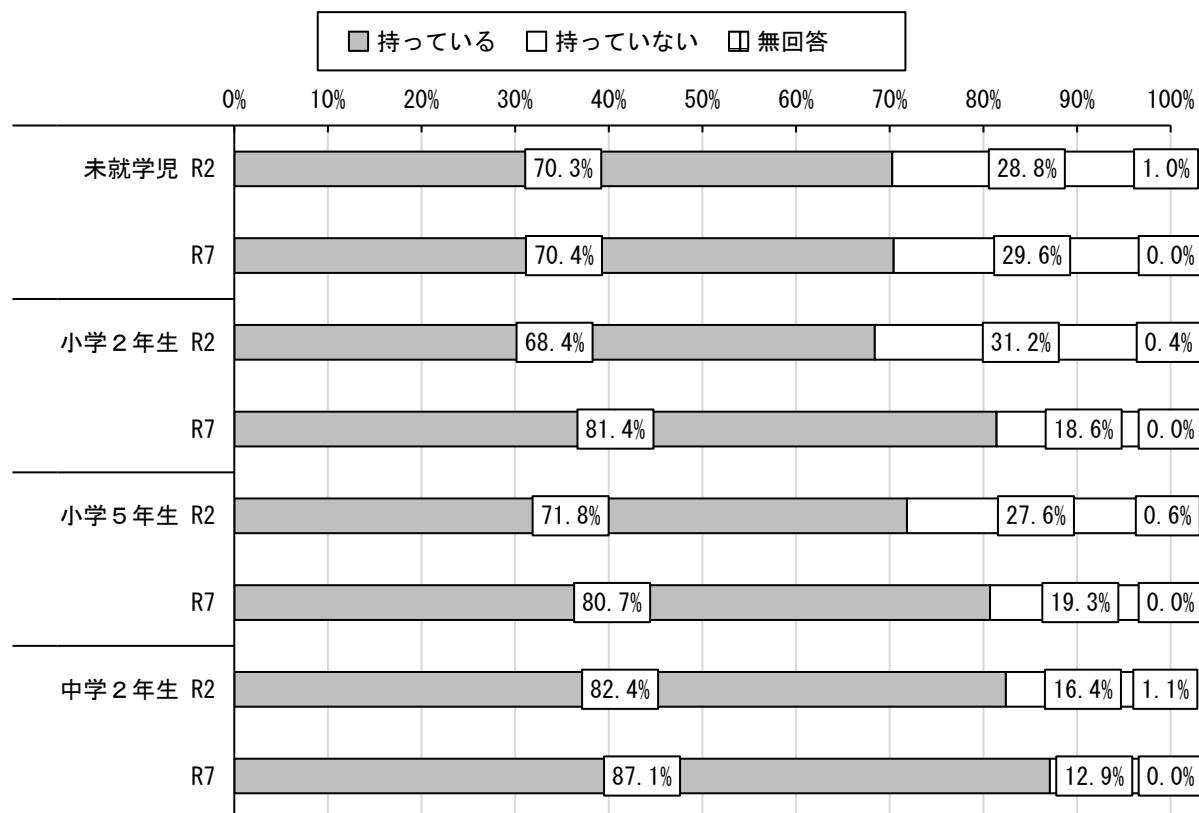


図 130 (小児) おはしの持ち方、前回調査結果(令和2年度)との比較

(小児) おはしの持ち方 (前回調査結果[令和2年度]との比較)

基本目標10 食文化（伝統的な料理や作法など）を継承し、伝えている市民を増やす

【推進項目】正しい箸の持ち方ができる子どもの割合

＜算出方法＞

(小学2年生、小学5年生、中学2年生) 問2 「あなたは食事の時に図1のように『はし』を持っていますか。」で「持っている」の回答数／アンケート全回答数×100

＜結果＞

割合 (%)	R2	R7	目標
小学2年生	68.4	81.4	75.0
小学5年生	71.8	80.7	80.0
中学2年生	82.4	87.1	90.0

(小学2年生) 今回の調査結果は、前回調査結果より13.0%増加し、目標値を達成できた。

(小学5年生) 今回の調査結果は、前回調査結果より8.9%増加し、目標値を達成できた。

(中学2年生) 今回の調査結果は、前回調査結果より4.7%増加したが、目標値を達成できなかった。

これらの事から、中学2年生以外は、目標値を達成できた。

(2) (小児) 食事の際の習慣

(小児) 問3 普段食事の際に、習慣にしている事はありますか。

全学年とも「『いただきます』『ごちそうさま』と言う」が最も高い割合だった。また、「未就学児」では「ひじをつかない」、「小学2年生」では「食事の前に必ず手を洗う、または、アルコール消毒をする」、「小学5年生」では「食事中にマンガ本を見ない」「食事中にけい帯電話を見ない」、「中学2年生」では「食べ残さない」「茶碗やお椀を持って食べる」などの割合が他の学年より高かった。

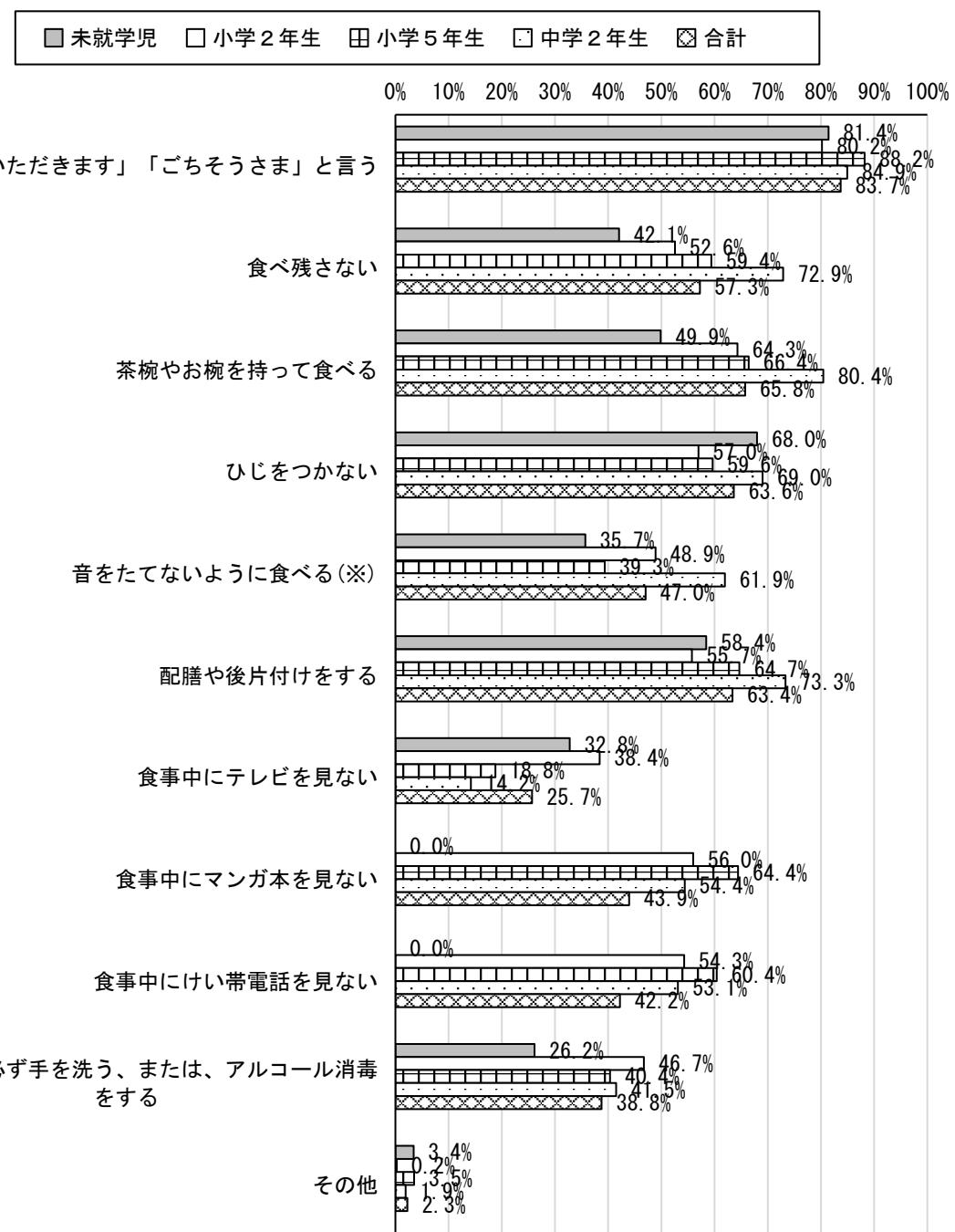


図 131 (小児) 食事の際の習慣、学年別

(※) (未就学児) 口の中に物を入れたまま話さない

表 24 (小児) 食事の際の習慣 (その他コメント)

カテゴリ	コメント内容	件数
マナー		20
	ねぶりばしをしない	1
	汚く食べない	1
	音 (くちゃくちゃ) しない	1
	急いで食べない	1
	口のなかを相手に見せない、喋らない	8
	食べながら携帯見ない	1
	食事中は楽しく食べる (前向きな気持ち) 、怒って食べない	2
	食事途中に立たない	3
	毎回はこちらも意識していなかつたり忘れたりしているので習慣といえないため回答できない。時々はすることもある (ごちそうさまなど)	1
	落ち着いて食べる	1
食べ方		10
	おかわりをする	1
	飲み物も一緒に摂る	1
	左手も使う	1
	残してもいいが、嫌いなものでも一口は必ず食べること	1
	食べるお皿を手前に持ってくる。遠くから箸で挟んで持ってくると落とすので	1
	食べる順番に気をつける	1
	先に、汁物から食べている、野菜から食べる	1
	良く噛んで食べる	3
姿勢		9
	ひざをたてない	1
	椅子に座って食べる、座り方をきちんとする、せいざで食べる	3
	姿勢を正して食べる	4
	足をたてない	1
好き嫌い		1
	好き嫌いをしない	1
準備・後片付け		1
	食器を片付ける	1
肯定		2
	特になし	2
総計		43

(3) (成人) 郷土料理に関心を持つ人

(成人) 2 あなたは下記の「食育」に関する項目に取り組んでいますか。各質問項目にあてはまる番号を記入してください。

- ・郷土料理などに関心を持つこと

「継続して取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」と回答した割合は、46.1%だった。性別では「女性」の方が高い割合だった。

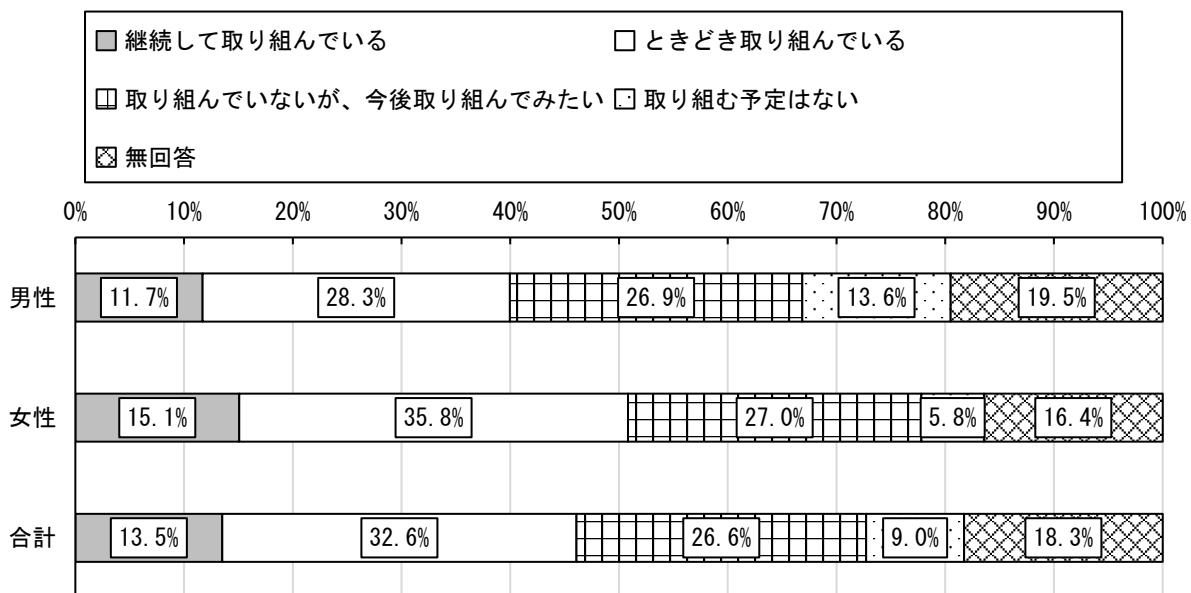


図 132 (成人) 郷土料理に関心を持つ人、性別

(成人) 食育の取り組み（郷土料理に関心を持つ人）（前回調査結果[令和2年度]との比較）

基本目標 10-2 食文化（伝統的な料理や作法など）を継承し、伝えている市民を増やす（郷土料理に関心を持つ人）

【推進項目】郷土料理などに関心を持つ市民の割合

＜算出方法＞

(成人) 2 「あなたは下記の『食育』に関する項目に取り組んでいますか。各質問項目にあてはまる番号を記入してください。」内の質問の一つである「郷土料理などに関心を持つこと」で「継続して取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」の回答数／アンケート全回答数×100

＜結果＞

割合 (%)	R2	R7	目標
郷土料理に関心を持つ人	43.7	46.1	50.0

今回の調査結果は、2.4%増加したが、目標値を達成できなかった。

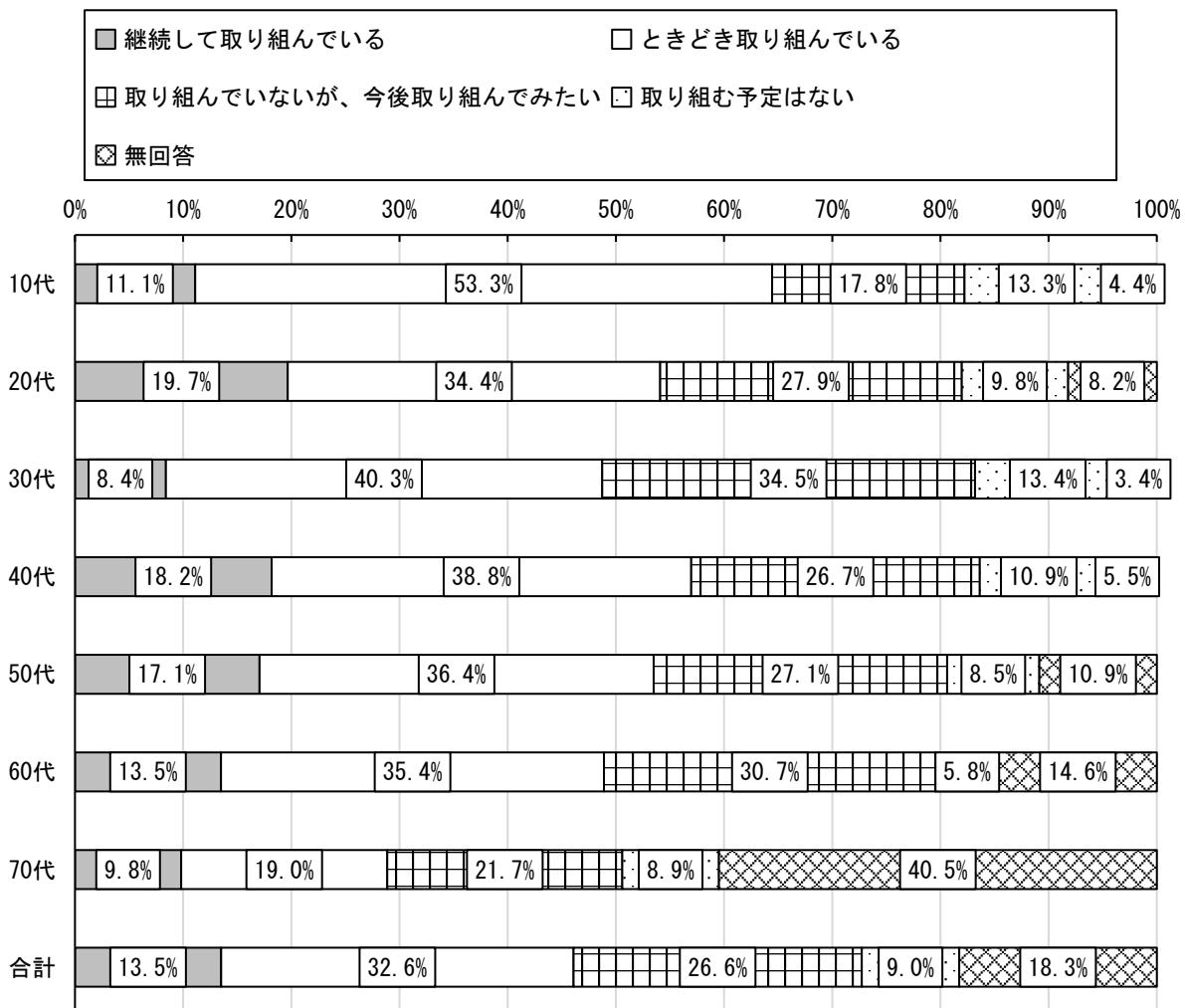


図 133 (成人)郷土料理に関心を持つ人、年代

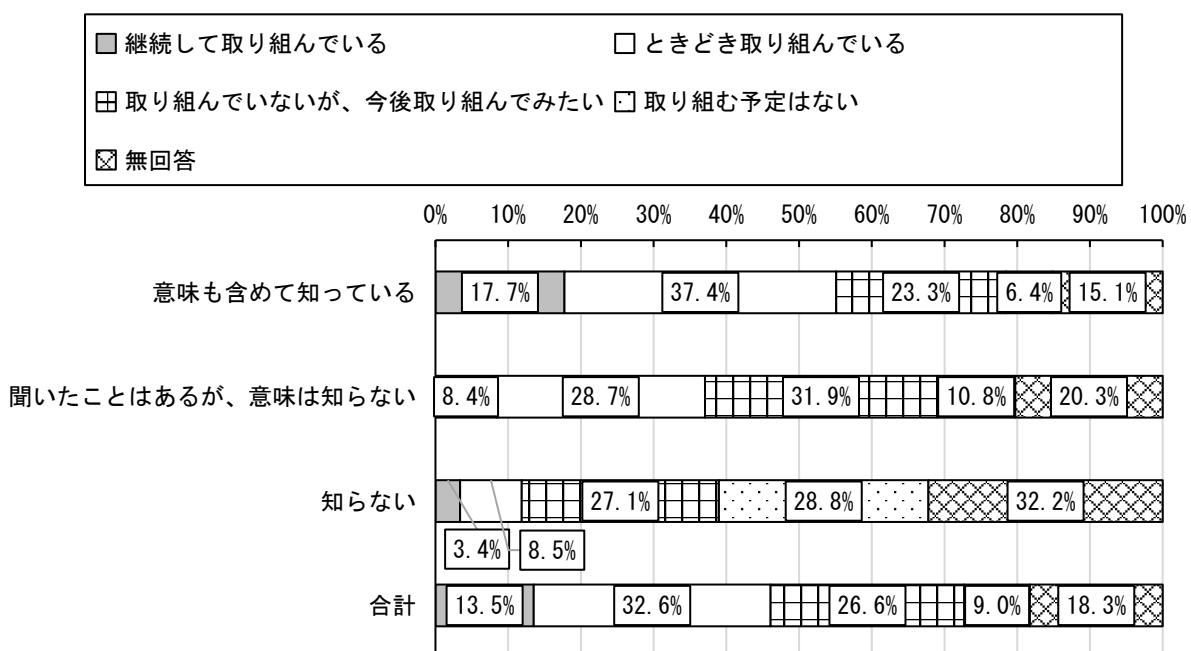
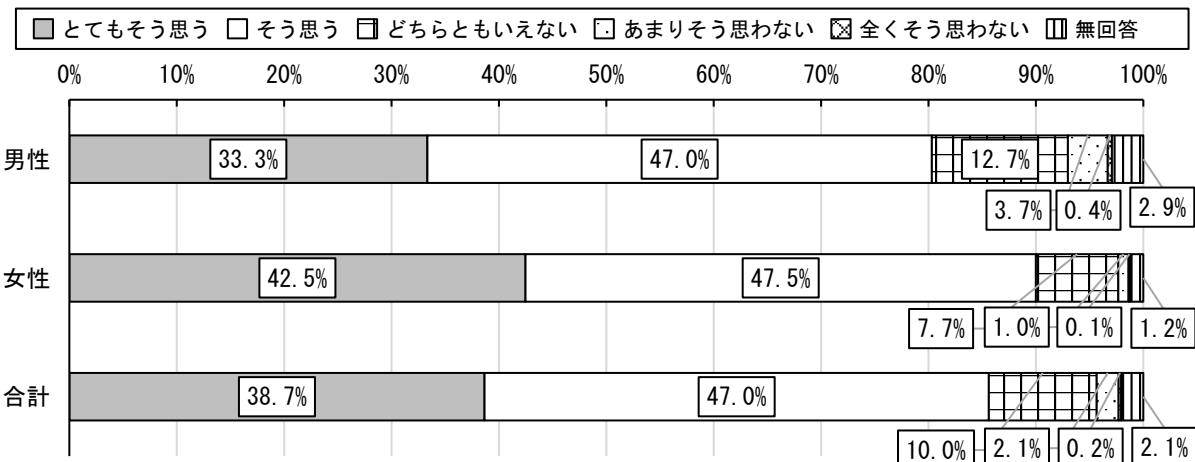


図 134 (成人)郷土料理に関心を持つ人、食育の認知度

(4) (成人) 食文化を受け継ぐことの意識

(成人) 18 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、簪づかいなどの食べ方・作法を受け継ぐことは大切だと思いますか。(○はひとつ)

「とてもそう思う」「そう思う」の合計の割合は、85.7%となる。性別では、「女性」の方が高い割合となった。



<全国との比較>

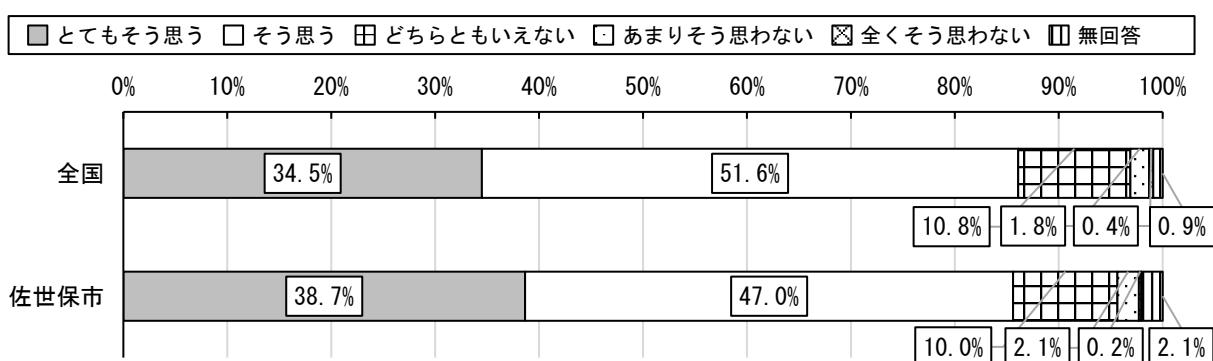


表 25 全国と佐世保市における「食文化を受け継ぐことの意識」

	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	無回答	合計
全国	34.5%	51.6%	10.8%	1.8%	0.4%	0.9%	100.0%
佐世保市	38.7%	47.0%	10.0%	2.1%	0.2%	2.1%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 6 食文化について P54

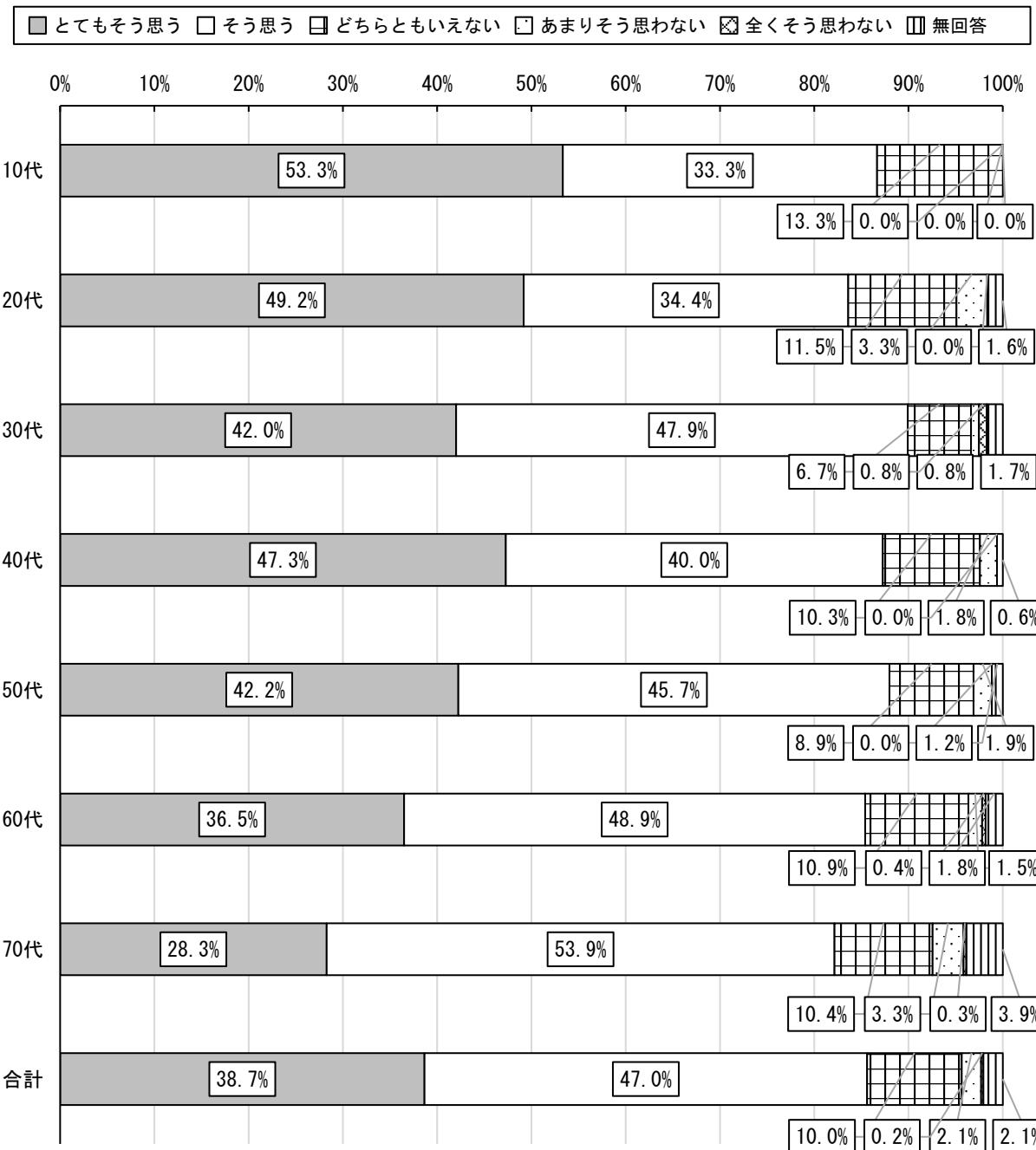


図 137 (成人) 食文化を受け継ぐことの意識、年代

(5) (成人) 食文化を受け継いでいるか

(成人) 19 あなたは、郷土料理や伝統料理など地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸づかいなど食べ方・作法を受け継いでいますか。(○はひとつ)

「受け継いでいる」と回答した割合は、女性の方が高かった。

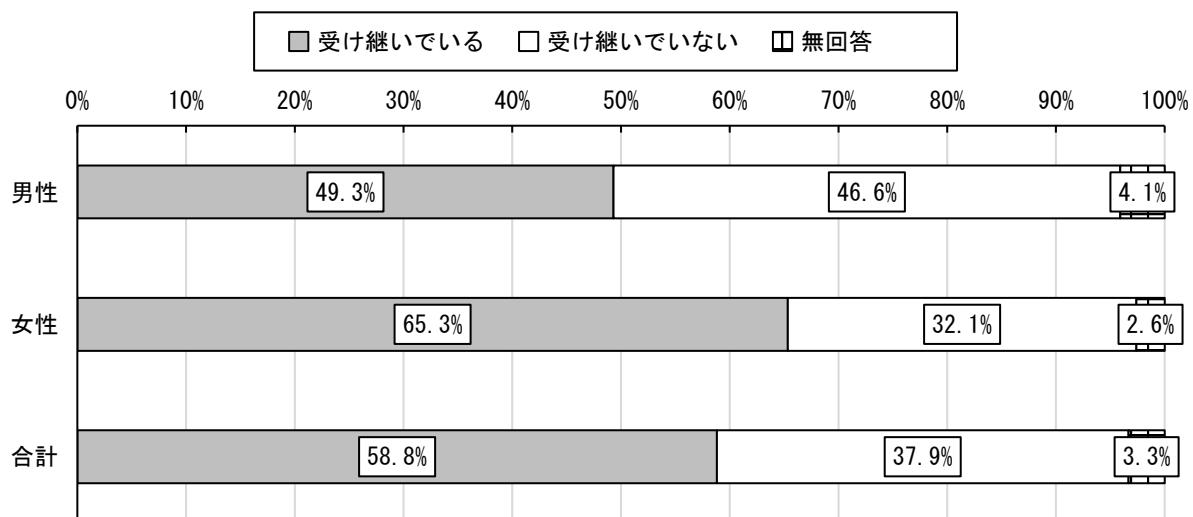


図 138 (成人) 食文化を受け継いでいるか、性別

<全国との比較>

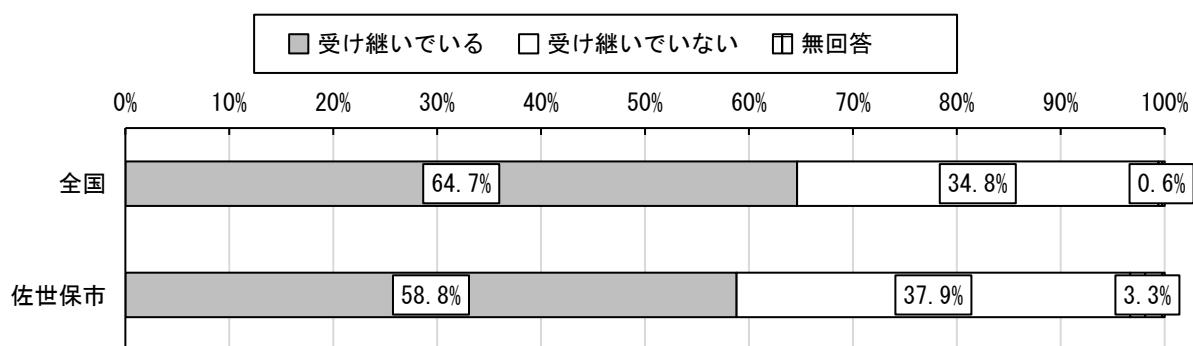


図 139 (成人) 食文化を受け継いでいるか、全国との比較

表 26 全国と佐世保市における「食文化を受け継いでいるか」

	受け継いでいる	受け継いでいない	無回答	合計
全国	64.7%	34.8%	0.6%	100.0%
佐世保市	58.8%	37.9%	3.3%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 3 食文化について P56

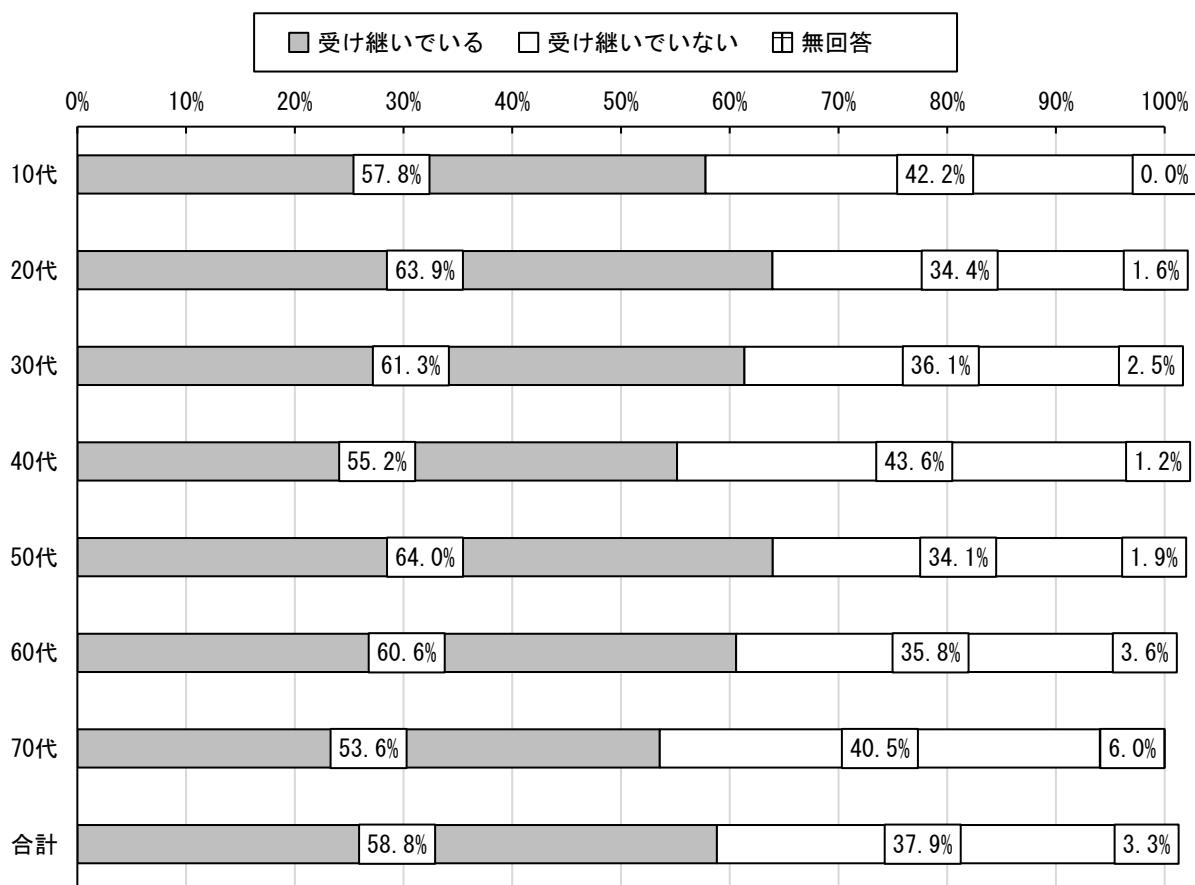


図 140 (成人) 食文化を受け継いでいるか、年代

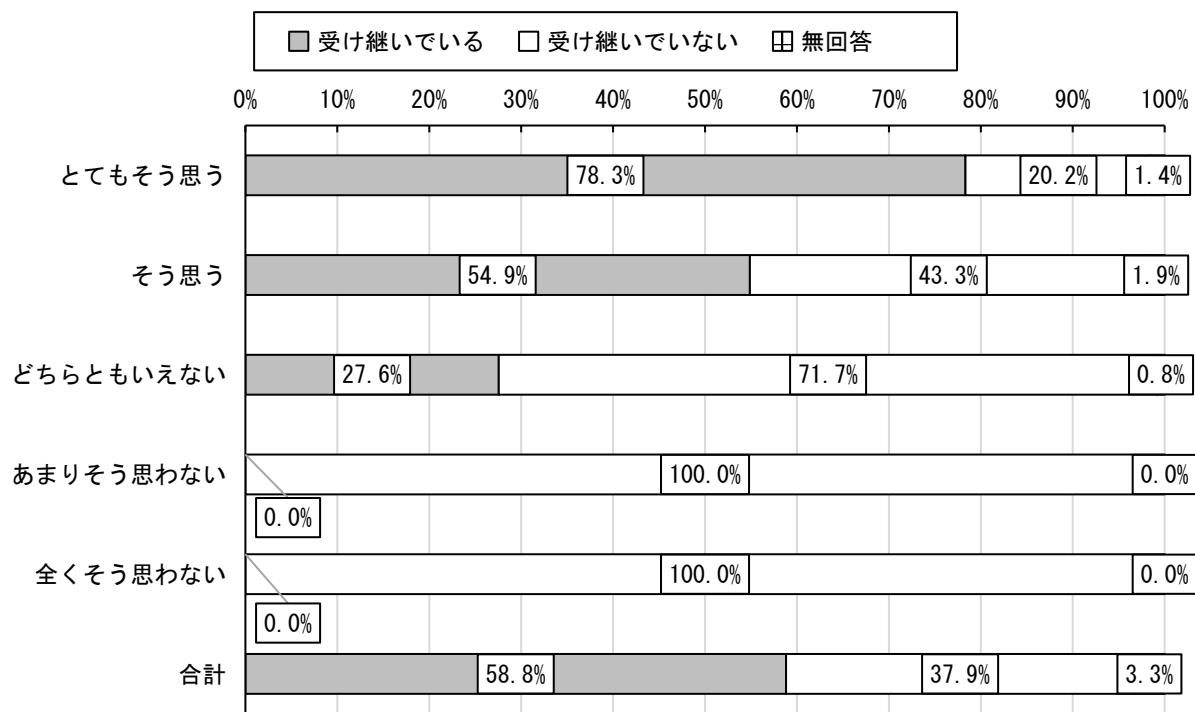


図 141 (成人) 食文化を受け継いでいるか、郷土料理に関心を持つ人

(6) (成人) 食文化を伝えているか

(成人) 19-1 あなたは郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、簪づかいなどの食べ方・作法を、地域や次世代（子どもやお孫さん等を含む）に対し伝えていますか。（○はひとつ）

「『受け継いでいる』を選択した」と回答した人のみ

7割の方が「伝えている」と回答した。性別では、「女性」の方が高い割合となった。

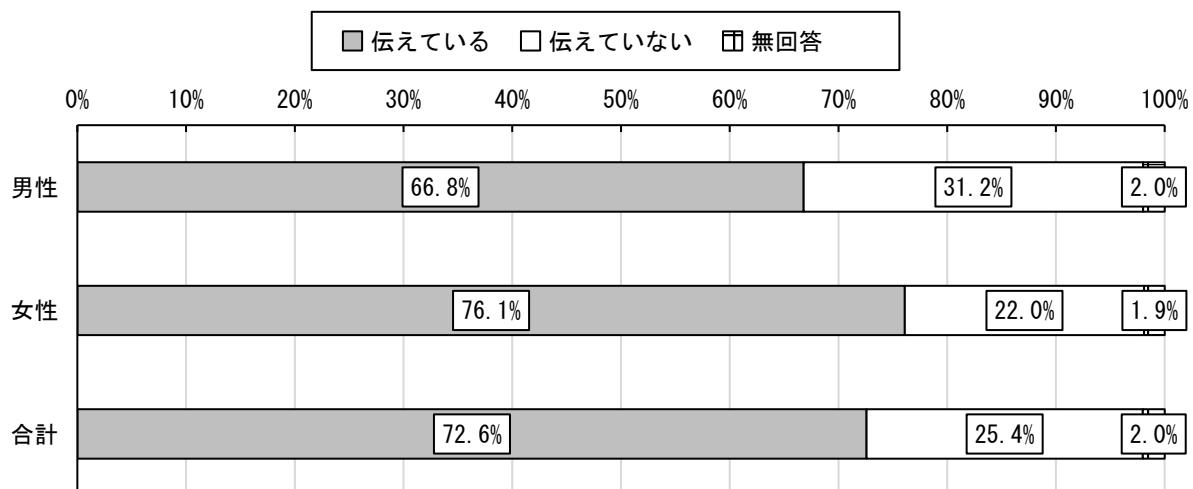


図 142 (成人) 食文化を伝えているか、性別

<全国との比較>

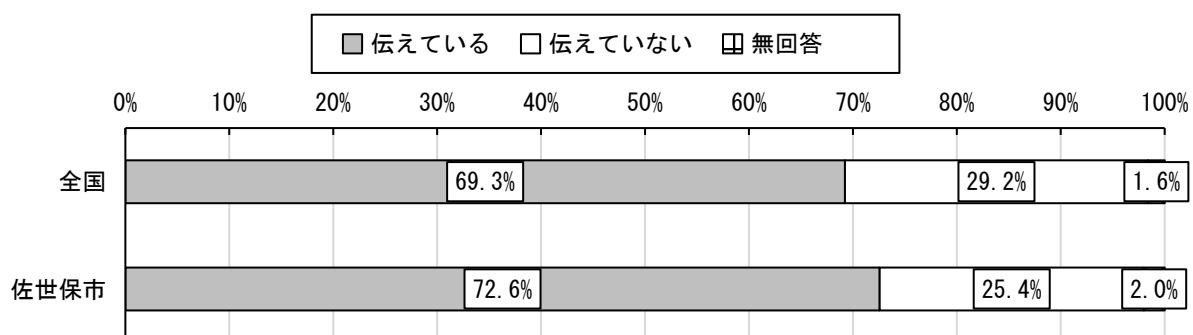


図 143 (成人) 食文化を伝えているか、全国との比較

表 27 全国と佐世保市における「食文化を伝えているか」

	伝えている	伝えていない	無回答	合計
全国	69.3%	29.2%	1.6%	100.0%
佐世保市	72.6%	25.4%	2.0%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

Ⅲ 調査結果の詳細 3 食文化について P64

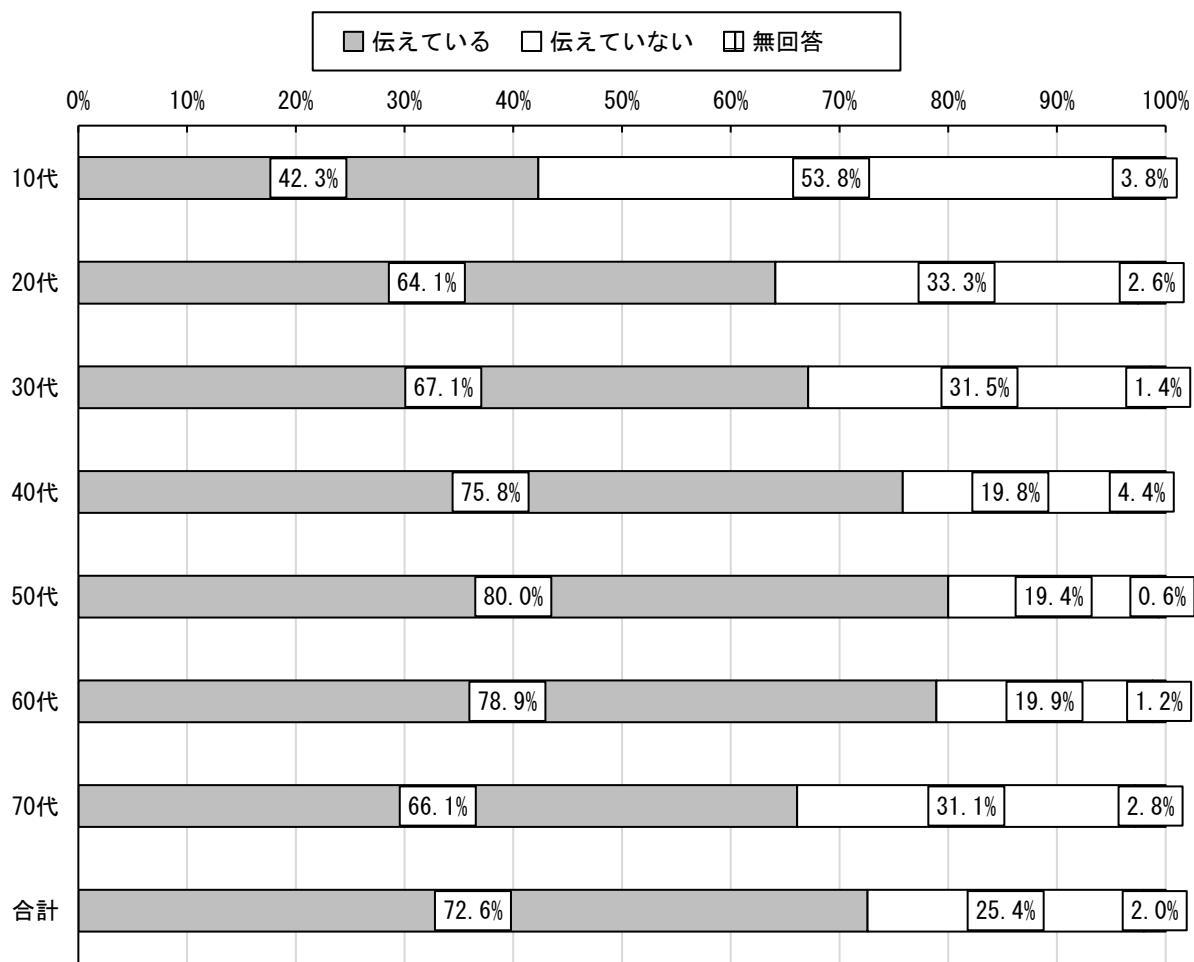


図 144 (成人) 食文化を伝えているか、年代

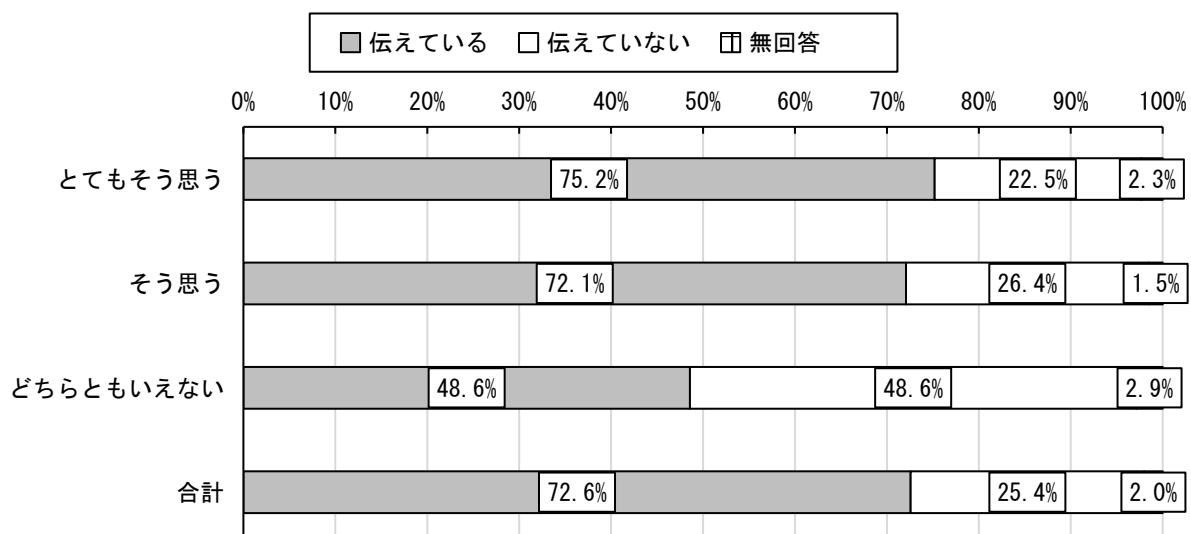


図 145 (成人) 食文化を伝えているか、郷土料理に関心を持つ人

(7) (成人) 食文化を受け継ぐために必要なこと

(成人) 20 あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、簪づかいなどの食べ方・作法を受け継ぐためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

最も割合が高かったのは、「親等から家庭で教わる」であった。

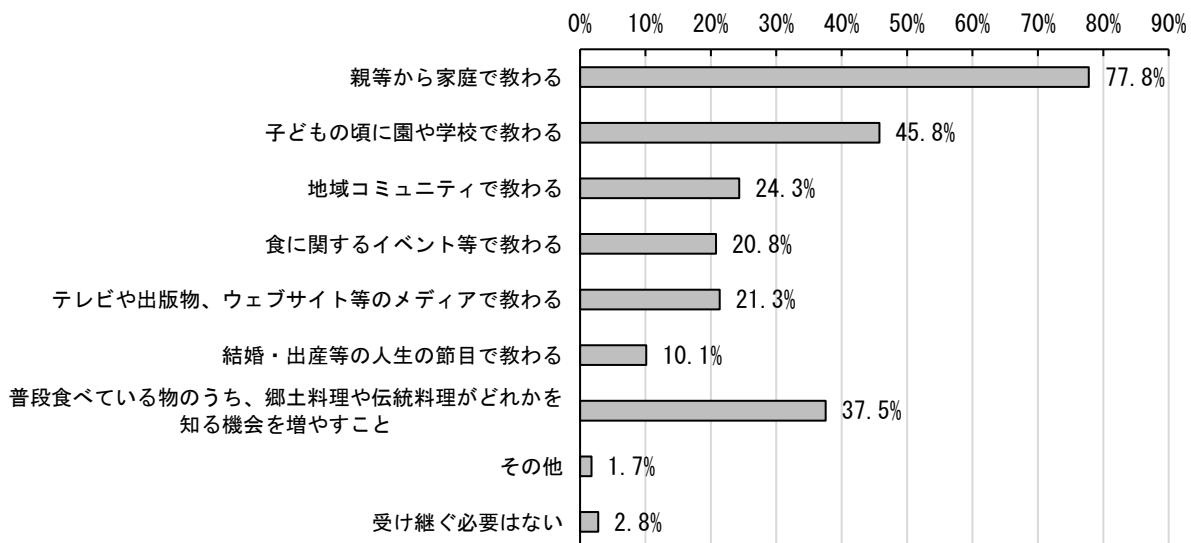


図 146 (成人) 食文化を受け継ぐために必要なこと

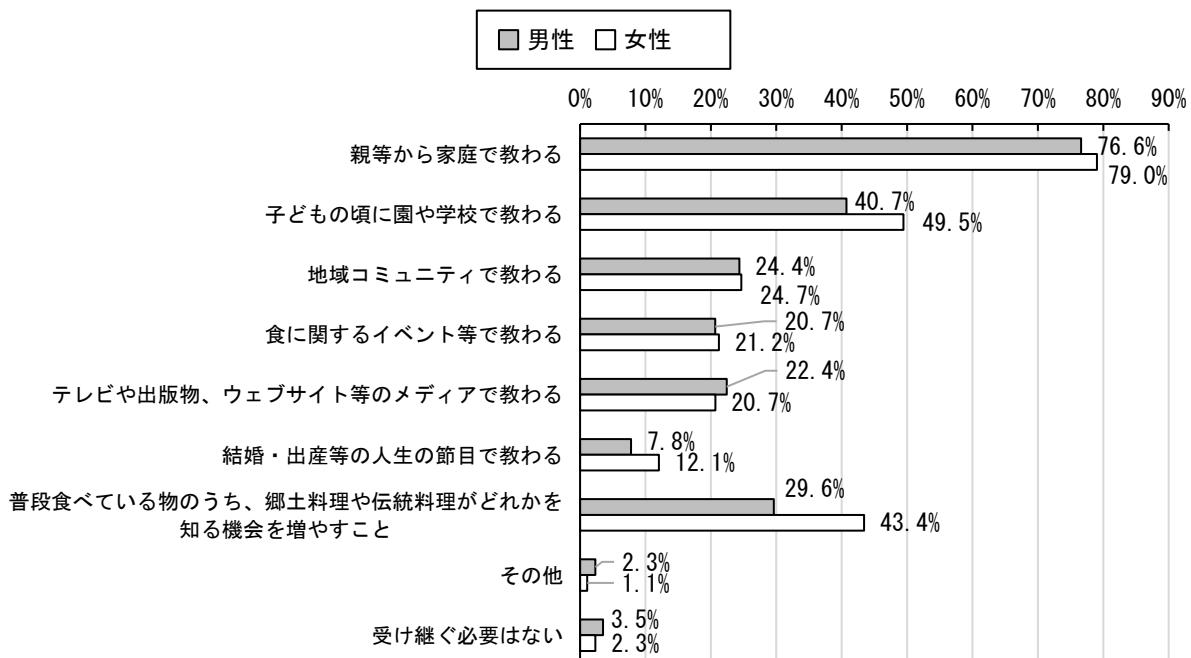


図 147 (成人) 食文化を受け継ぐために必要なこと、性別

<全国との比較>

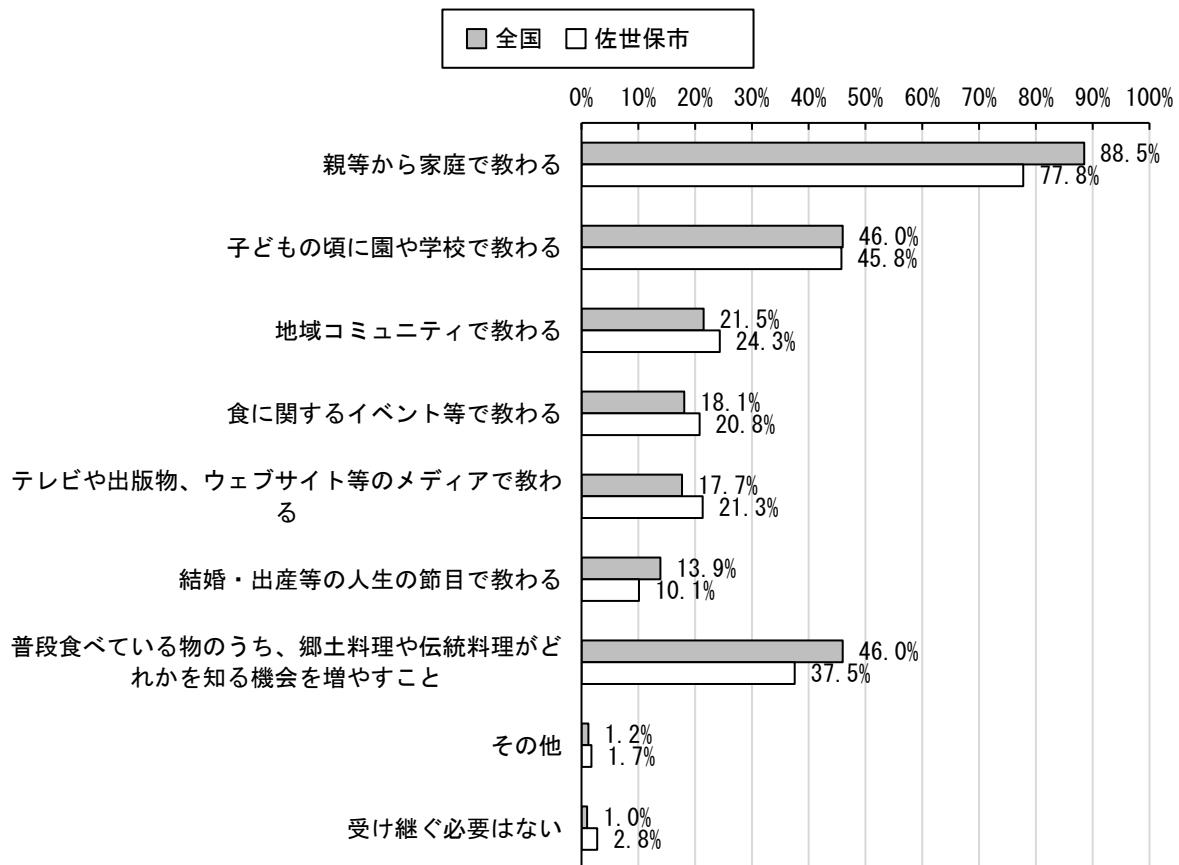


図 148 (成人) 食文化を受け継ぐために必要なこと、全国との比較

表 28 全国と佐世保市における「食文化を受け継ぐために必要なこと」

項目	全国	佐世保市
親等から家庭で教わる	88.5%	77.8%
子どもの頃に園や学校で教わる	46.0%	45.8%
地域コミュニティで教わる	21.5%	24.3%
食に関するイベント等で教わる	18.1%	20.8%
テレビや出版物、ウェブサイト等のメディアで教わる	17.7%	21.3%
結婚・出産等の人生の節目で教わる	13.9%	10.1%
普段食べている物のうち、郷土料理や伝統料理がどれかを知る機会を増やすこと	46.0%	37.5%
その他	1.2%	1.7%
受け継ぐ必要はない	1.0%	2.8%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 3 食文化について P58

表 29 (成人) 食文化を受け継ぐために必要なこと (その他コメント)

コメント内容
YouTube で発信
それらの料理が地域活性につながるセットの取り組みがないと意味がない
学ぶ時間
郷土料理など〈約 50 年〉他県にいたため、わからない
郷土料理は意識して受けつがなくて良いと思うが、作法は大事だと思う
今の若い人は、知るきっかけがないし時間もない。それが子どもにひきつがれて、全く接触がなくなっている
受け継ぐか否かは、個人判断では
食べさせる事ができない家が多くなっている、キレイ事を言っても伝統は伝えられない、「家庭の収入が増える必要がある」
親が早く亡くなり家庭環境のため親から受け継いでいない
親の言うことは聞かないがやることはまねをするとある方から聞きましたそのとおりだと思います
人生は、すべて礼に始まり礼で終わる事を教えたらですか！？
昔からのしつけによって
他の地域へ行くことも気づきになる
面接対面でのおばあちゃんおふくろの味として伝えていけたら思います！
料理を作らないので受け継いでいない

K. 基本目標 1.1 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民を増やす

(1) (成人) 食品ロス問題の認知度

(成人) 14 あなたは「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。(○はひとつ)

「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した方は、96.2%だった。

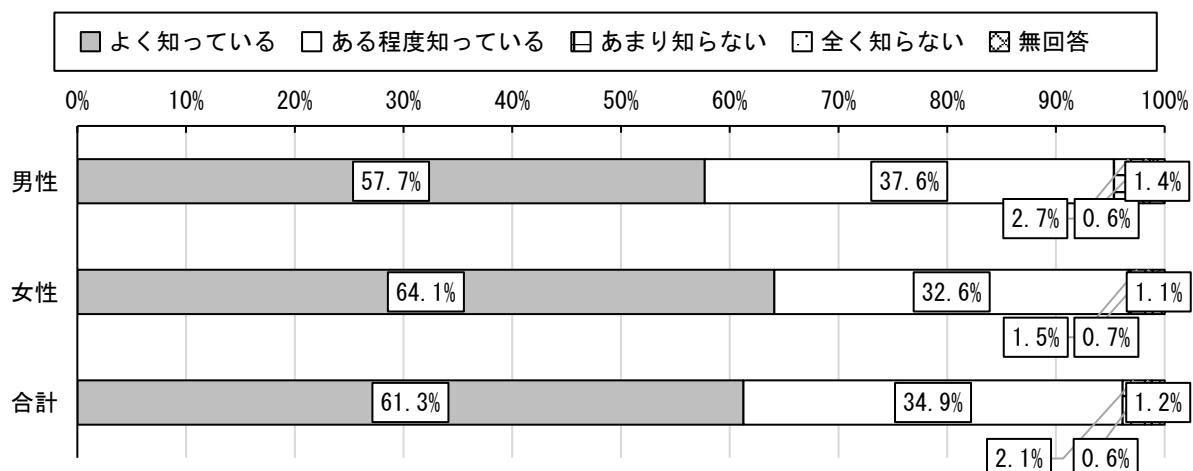


図 149 (成人) 食品ロス問題の認知度、性別

<全国との比較>

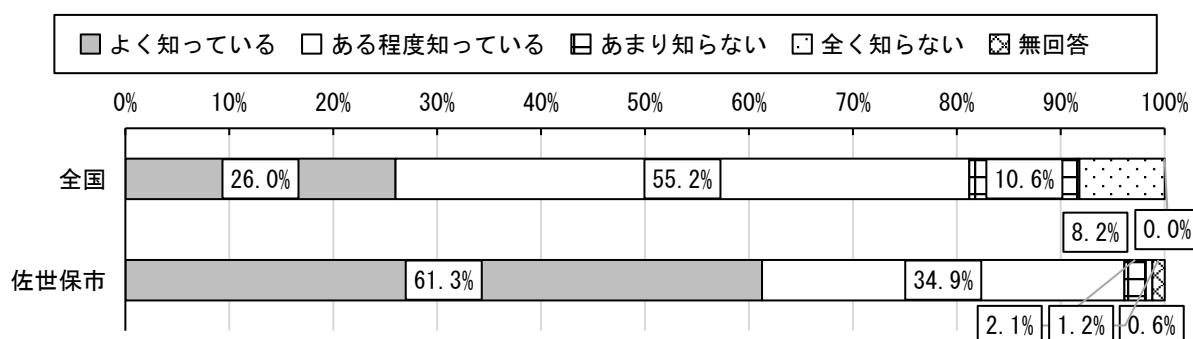


図 150 (成人) 食品ロス問題の認知度、全国との比較

表 30 全国と佐世保市における「食品ロス問題の認知度」

	よく知っている	ある程度知っている	あまり知らない	全く知らない	無回答	合計
全国	26.0%	55.2%	10.6%	8.2%	0.0%	100.0%
佐世保市	61.3%	34.9%	2.1%	0.6%	1.2%	100.0%

出典元：令和7年度 消費生活意識調査 消費者庁 P2

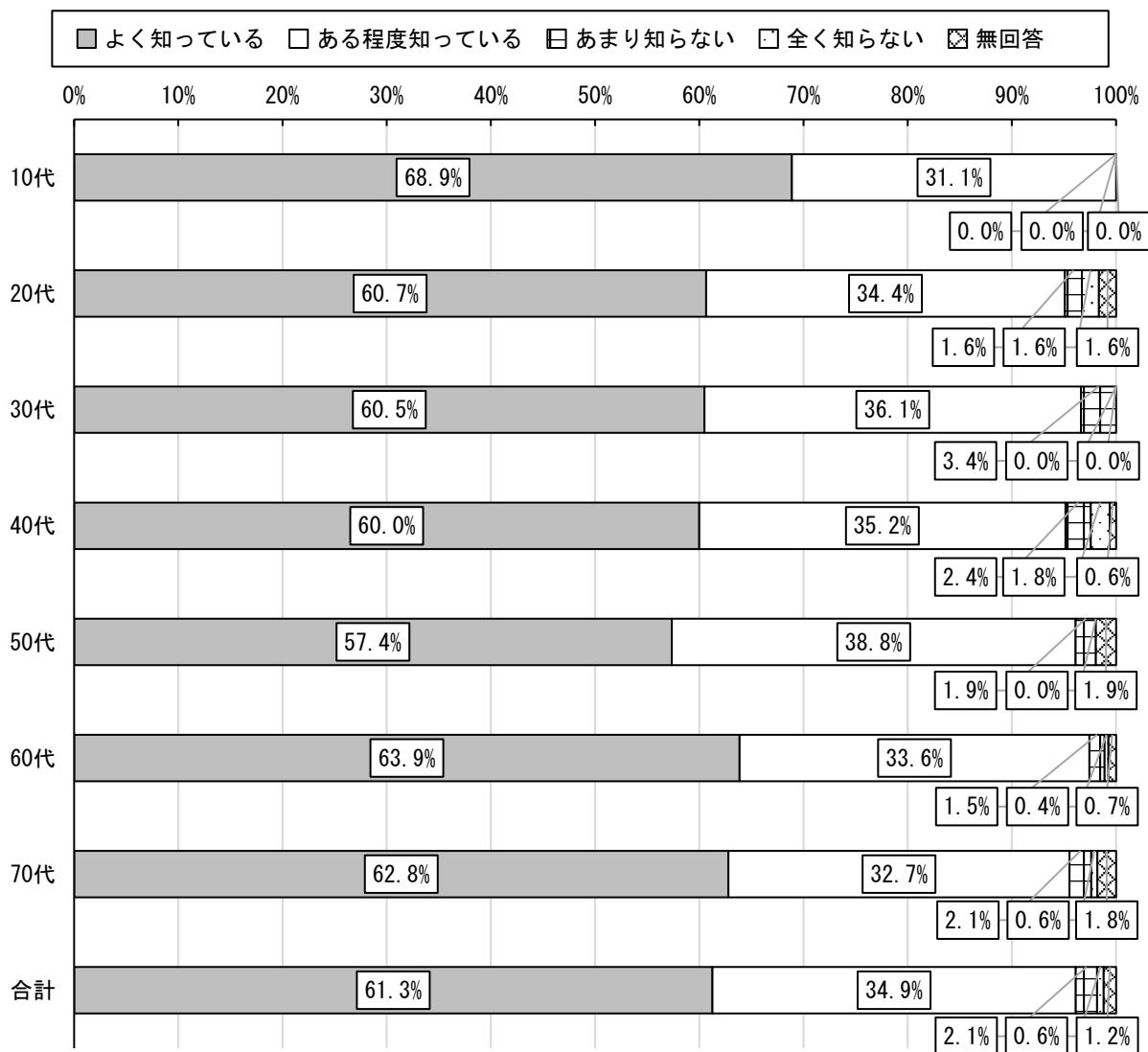


図 151 (成人) 食品ロス問題の認知度、年代別

(2) (成人) 食品ロスの取り組み

(成人) あなたは「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。
(○はいくつでも)

最も割合が高かったのが「残さず食べる」で、続いて「料理を作り過ぎない」だった。性別で見ると、女性の方が高い割合となるが、「残さず食べる」のみ男性の方が高い。

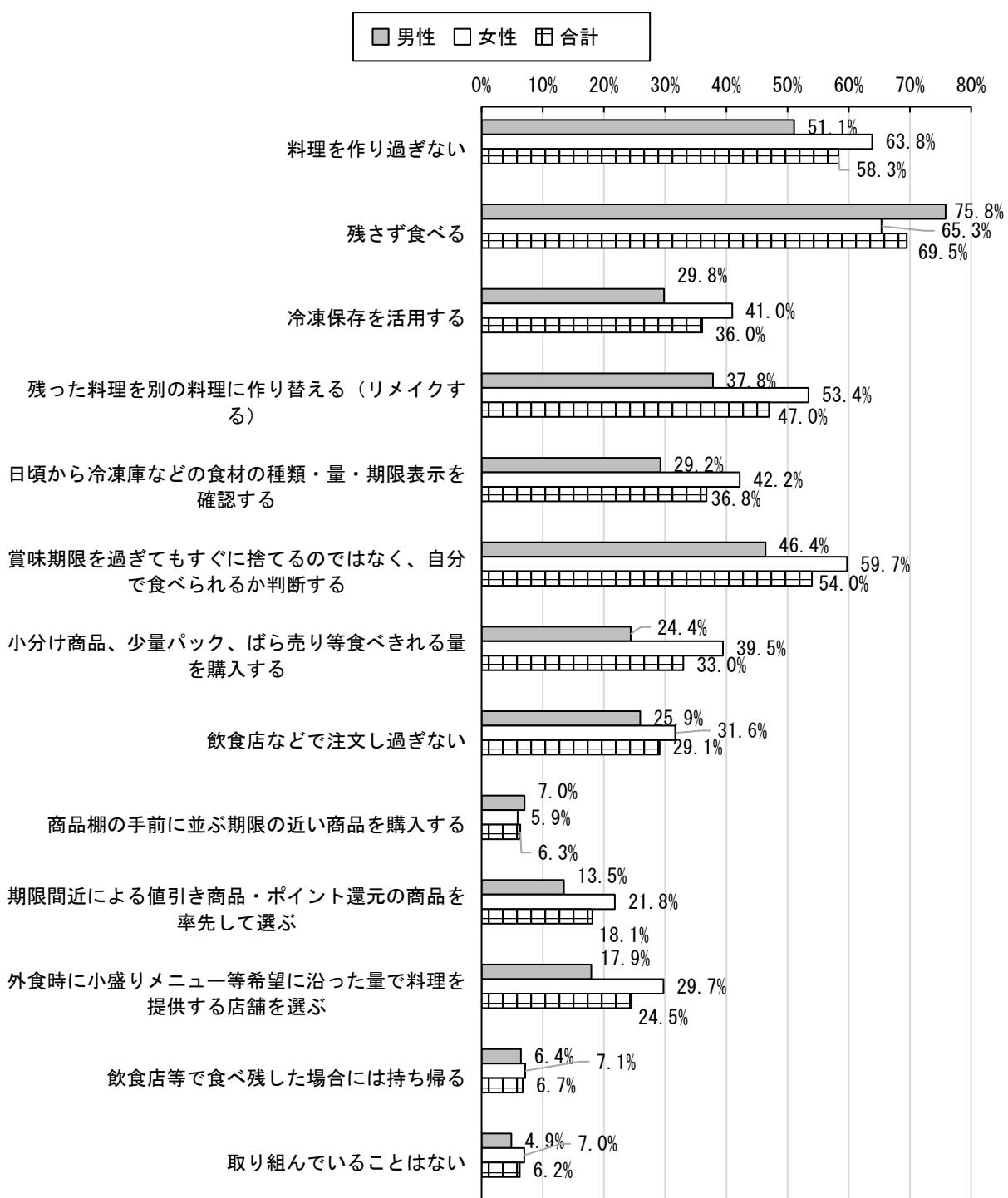


図 152 (成人) 食品ロスの取り組み、性別

<全国との比較>

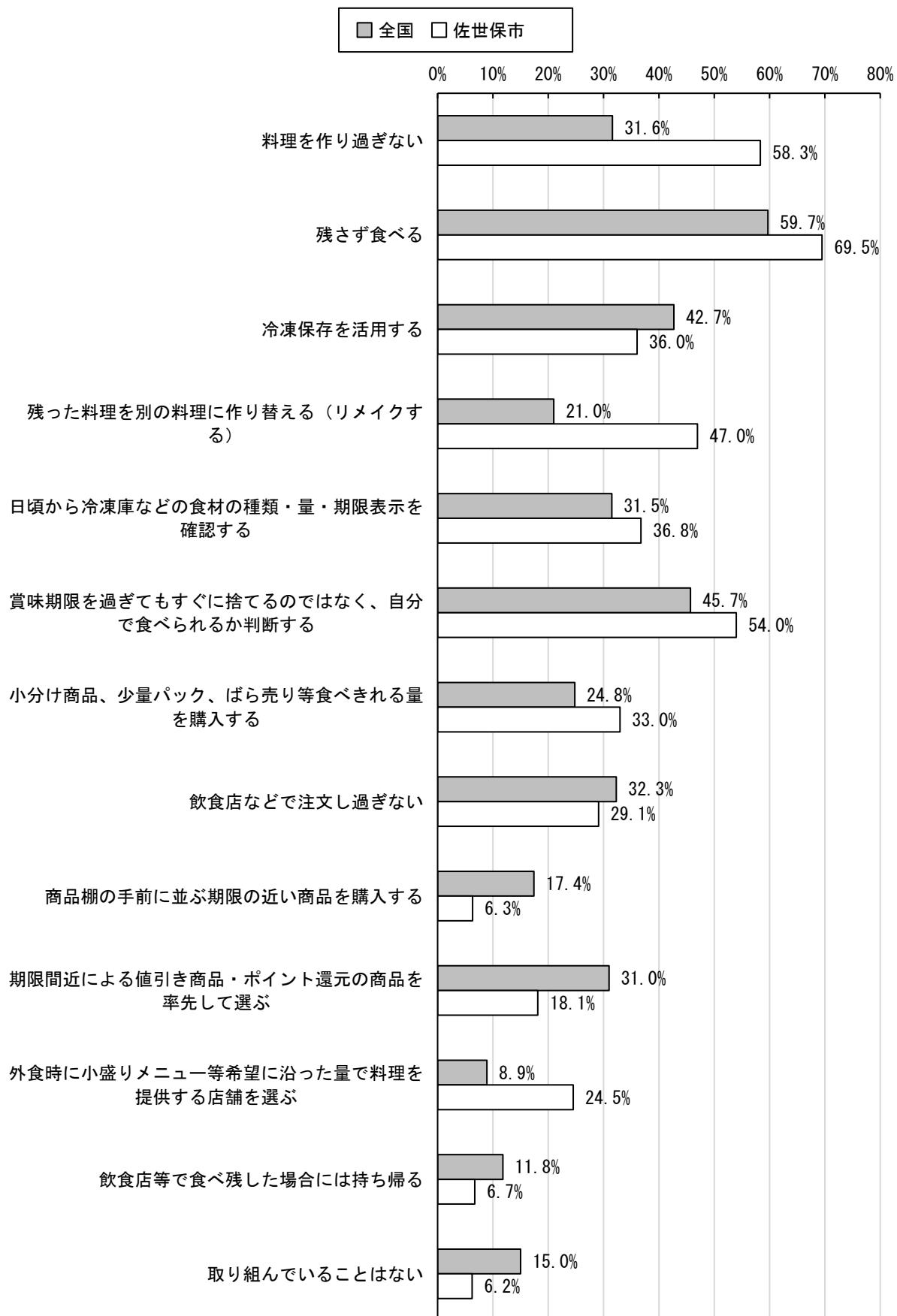


図 153 (成人) 食品ロスの取り組み、全国との比較

表 31 全国と佐世保市における「食品ロスの取り組み」

項目	全国	佐世保市
料理を作り過ぎない	31.6%	58.3%
残さず食べる	59.7%	69.5%
冷凍保存を活用する	42.7%	36.0%
残った料理を別の料理に作り替える（リメイクする）	21.0%	47.0%
日頃から冷凍庫などの食材の種類・量・期限表示を確認する	31.5%	36.8%
賞味期限を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	45.7%	54.0%
小分け商品、少量パック、ばら売り等食べきれる量を購入する	24.8%	33.0%
飲食店などで注文し過ぎない	32.3%	29.1%
商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する	17.4%	6.3%
期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ	31.0%	18.1%
外食時に小盛りメニュー等希望に沿った量で料理を提供する店舗を選ぶ	8.9%	24.5%
飲食店等で食べ残した場合には持ち帰る	11.8%	6.7%
取り組んでいることはない	15.0%	6.2%

出典元：令和7年度 消費生活意識調査 消費者庁 P4

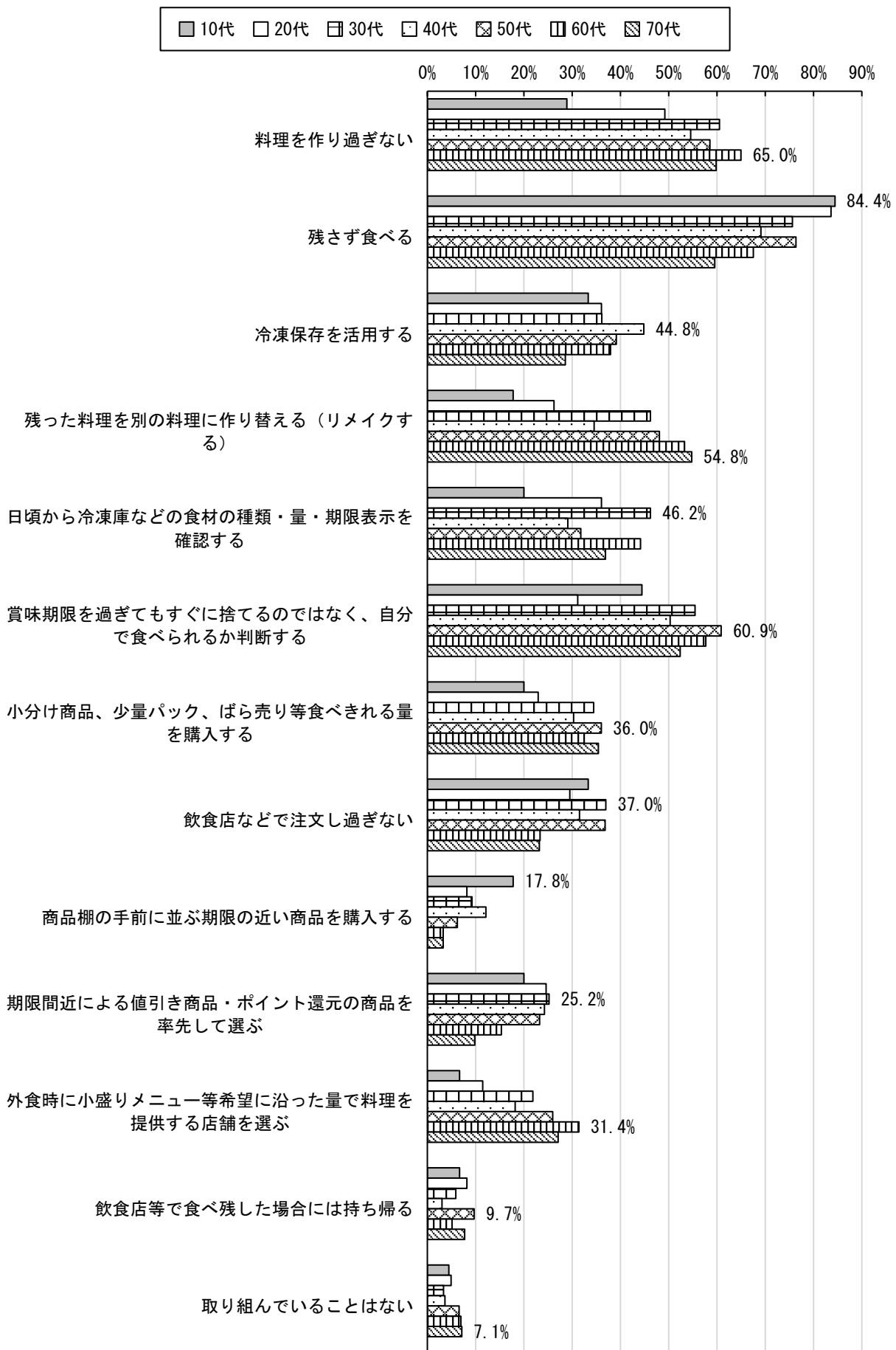


図 154 (成人) 食品ロスの取り組み、年代

(3) (成人) 何らかの行動をしている人

(成人) 14 「あなたは『食品ロス』が問題となっていることを知っていますか。」で、「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した人の中で、

(成人) 15 「あなたは『食品ロス』を減らすために取り組んでいることはありますか。」で、「取り組んでいることはない」と回答した人以外の人（＝何らか取り組んだ人）を、アンケート全回答者数で割った割合

<算出方法>

何らか取り組んだ人数 = (「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した人数) -

(「取り組んでいることはない」と回答した人数)

何らか取り組んだ人の割合 = 何らか取り組んだ人数 ÷ アンケート全回答者数

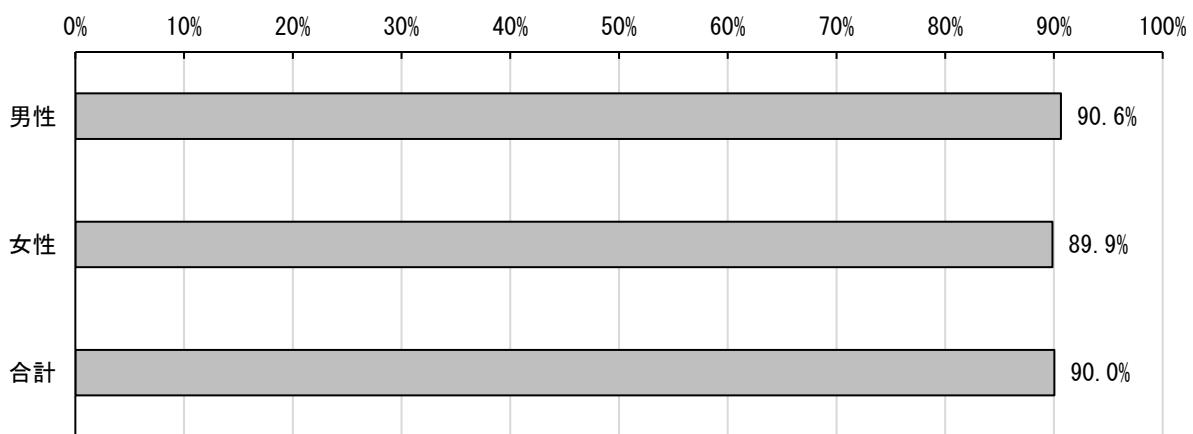


図 155 (成人) 何らかの行動をしている人、性別

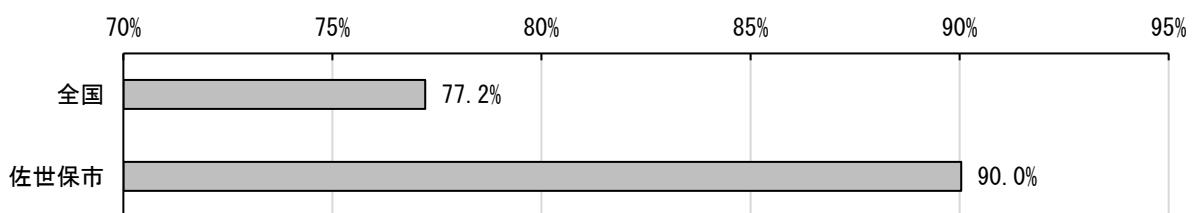


図 156 (成人) 何らかの行動をしている人、全国との比較

表 32 全国と佐世保市における「何らかの行動をしている人」

	何らかの行動をしている人
全国	77.2%
佐世保市	90.0%

出典元：令和7年度 消費生活意識調査 消費者庁 P5

(成人) 何らかの行動をしている人（前回調査結果[令和2年度]との比較）

基本目標 1.1 食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民を増やす

【推進項目】食品ロス削減のために何らかの行動をする市民の割合

＜算出方法＞

14 「あなたは『食品ロス』が問題となっていることを知っていますか。」で、「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した人の中で、

(成人) 15 「あなたは『食品ロス』を減らすために取り組んでいることはありますか。」で、「取り組んでいることはない」と回答した人以外の人（=何らかの行動をしている人）／アンケート全回答数×100

＜結果＞

	R2	R7	目標
割合 (%)	87.0	90.0	95.0

前回調査結果より3.0%上昇したが、目標値は達成できていない。

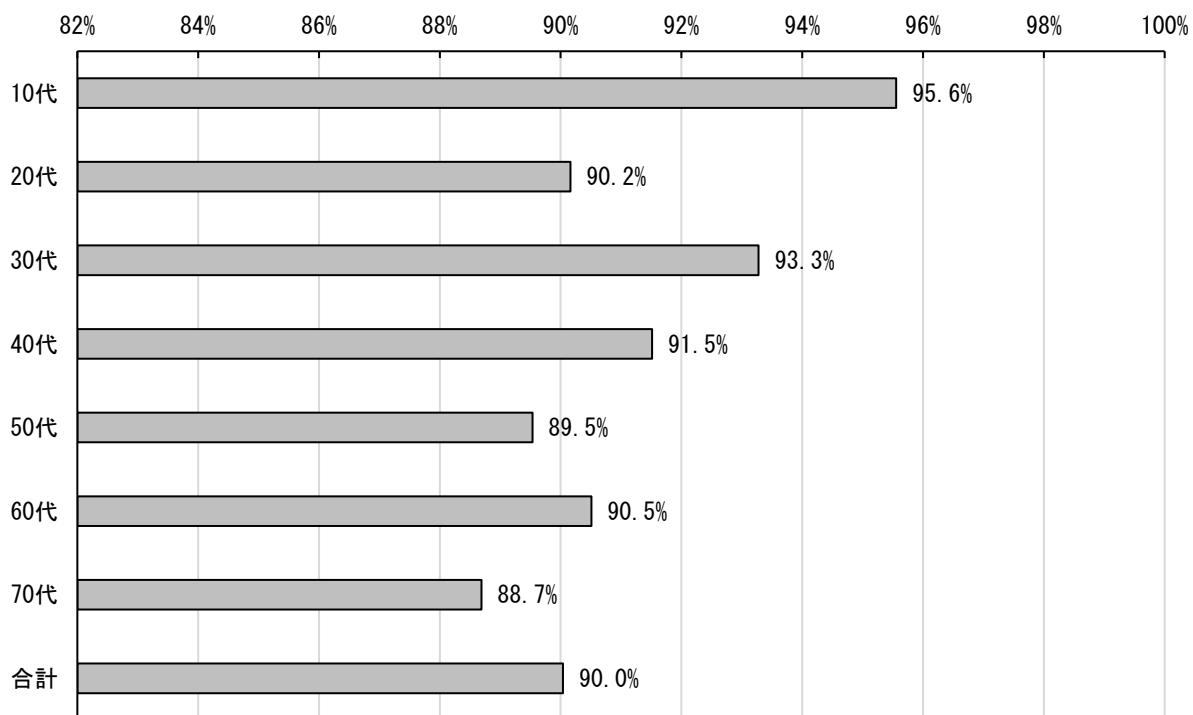


図 157 (成人) 何らかの行動をしている人、年代別

L. 基本目標 12 食品の安全性に関する基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合の増加

(1) (小児、成人) 自ら判断する市民の割合

(小児) 問3 「普段食事の際に、習慣にしている事はありますか。」で「食事の前に必ず手を洗う、または、アルコール消毒をする」を選択した人

(成人) 2 「あなたは下記の「食育」に関する項目に取り組んでいますか。各質問項目にあてはまる番号を記入してください。」で、「継続して取り組んでいる」「時々取り組んでいる」を選択した人

「食事の前に必ず手を洗う、または、アルコール消毒をする」と回答した割合は、「成人」では 66.9%だが、「小児」では 50.0%以下であり、特に「未就学児」は 26.2%にとどまっている。

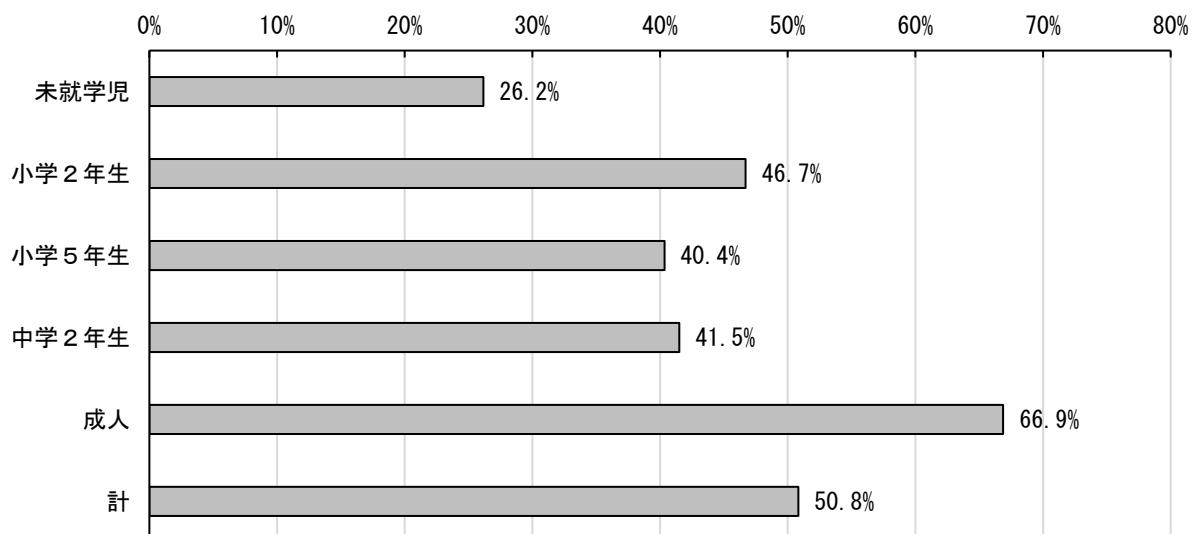


図 158 (小児、成人) 自ら判断する市民の割合、学年・成人別

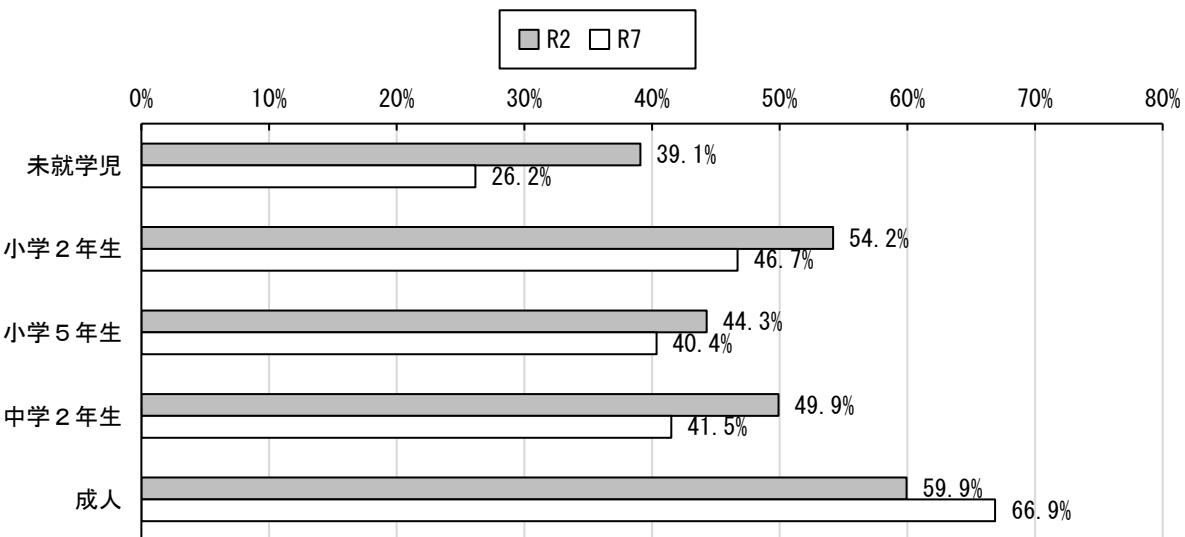


図 159 (小児・成人) 自ら判断する市民の割合、前回調査結果(令和2年度)との比較

(小児・成人) 自ら判断する市民の割合 (前回調査結果[令和2年度]との比較)

基本目標12 食品の安全性に関する基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合の増加

【推進項目】食事前の正しい手洗いを実践する市民の割合

<算出方法>

(小児) 問3 「普段食事の際に、習慣にしている事はありますか。」で「食事の前に必ず手を洗う、または、アルコール消毒をする」を選択した人

(成人) 2 「あなたは下記の「食育」に関する項目に取り組んでいますか。各質問項目にあてはまる番号を記入してください。」で、「継続して取り組んでいる」「時々取り組んでいる」を選択した人の合計／アンケート全回答数の合計×100

<結果>

	R2	R7	目標
割合 (%)	51.1	50.8	70.0

前回調査結果より0.3%減少し、目標値は達成できていない。

なお、成人では、前回調査結果より7.0%ほど上昇している。よって、小児に関しては継続した観測が必要であろう。

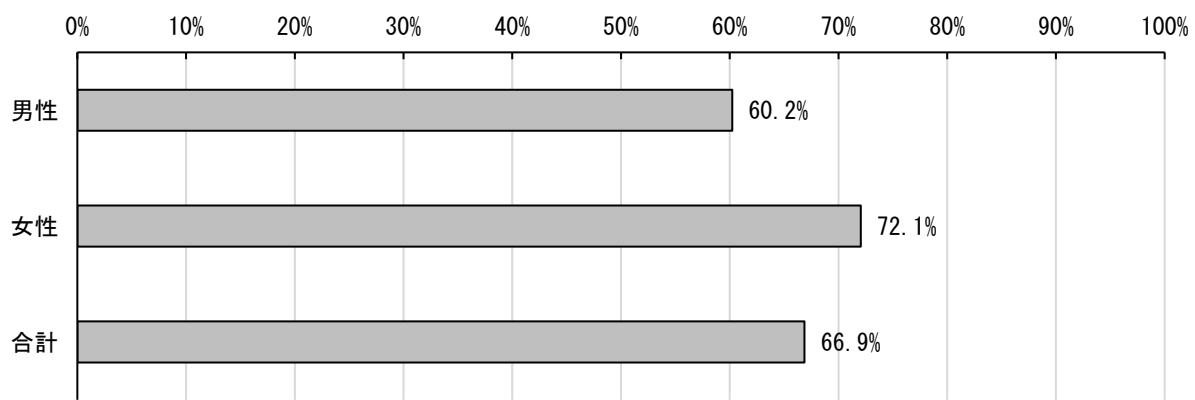


図 160 (成人) 自ら判断する市民の割合、性別

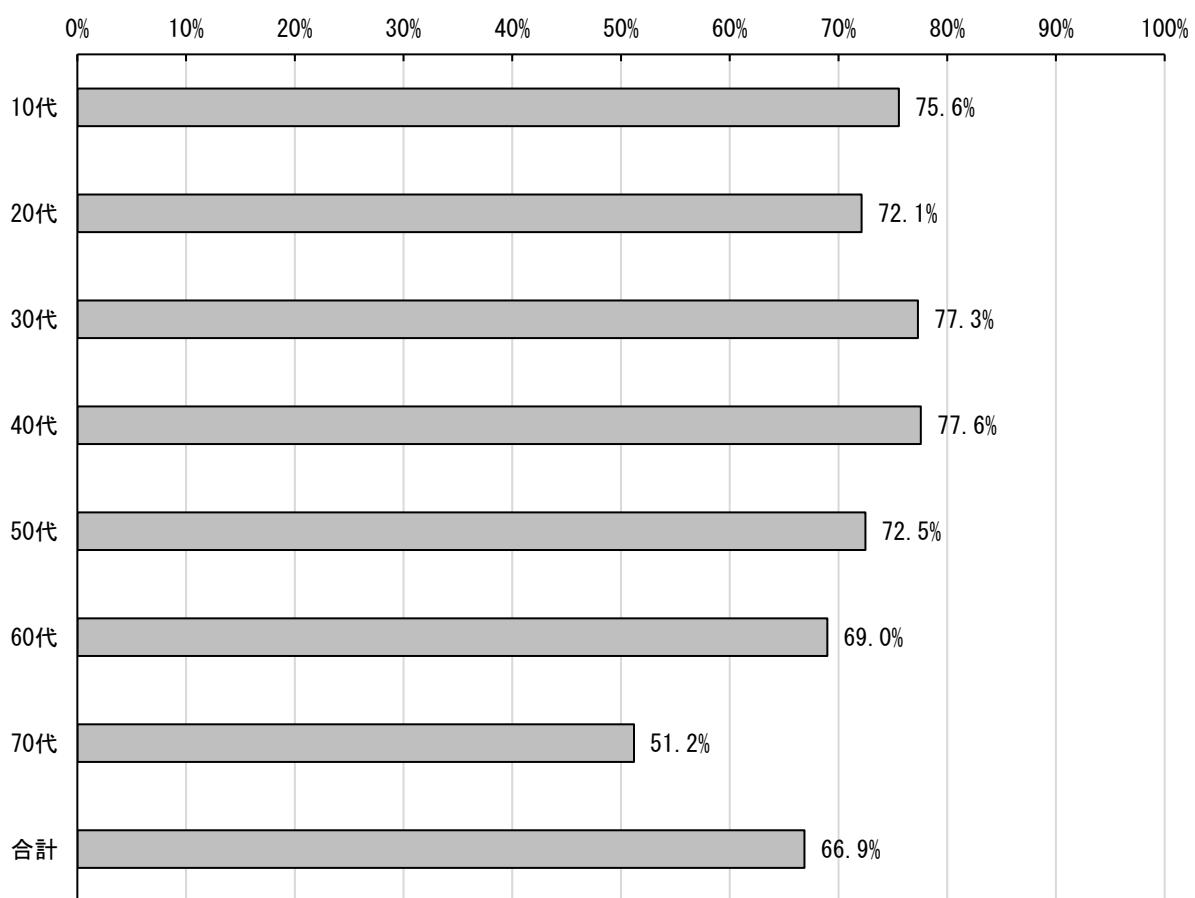


図 161 (成人) 自ら判断する市民の割合、年代

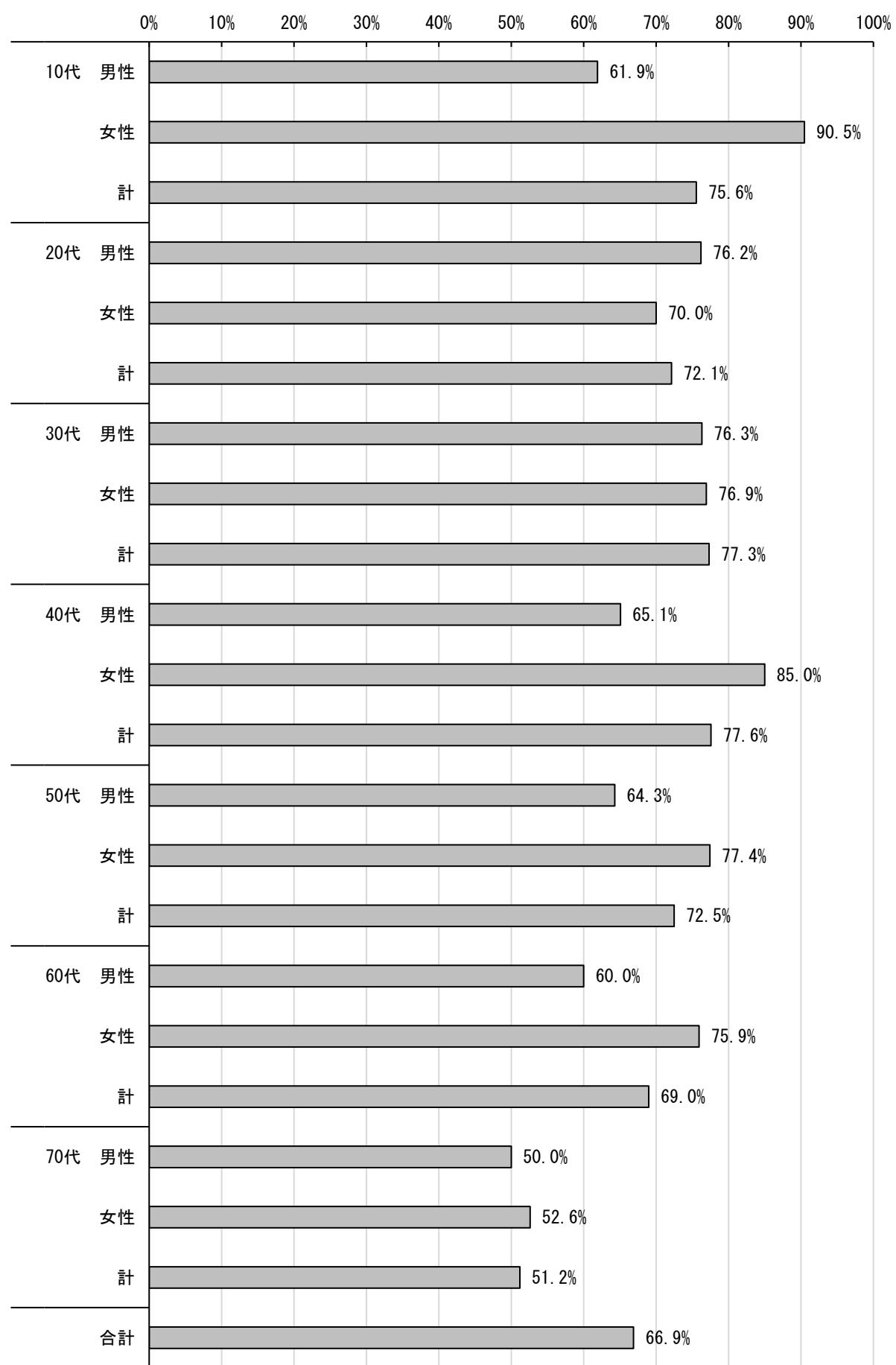


図 162 (成人) 自ら判断する市民の割合、年代、性別

(2) (成人) 食品の安全性に関する知識

(成人) 16 あなたは、安全な食生活を送るための食品の安全性に関する基礎的な知識があると思いますか。(○はひとつ)

「十分にあると思う」「ある程度あると思う」の合計の割合は、性別では「女性」の方が、年代では「30代」の方が最も高い。

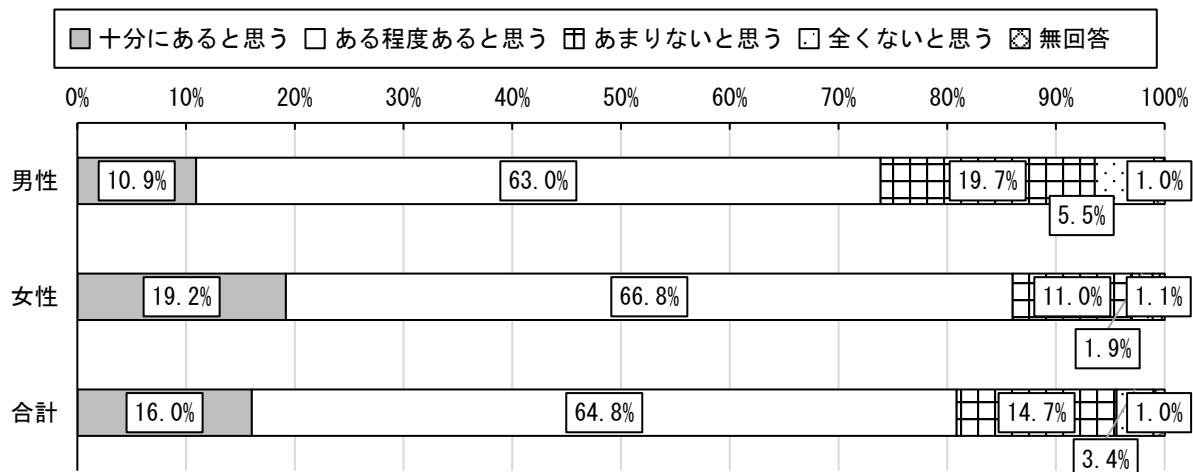


図 163 (成人) 食品の安全性に関する知識、性別

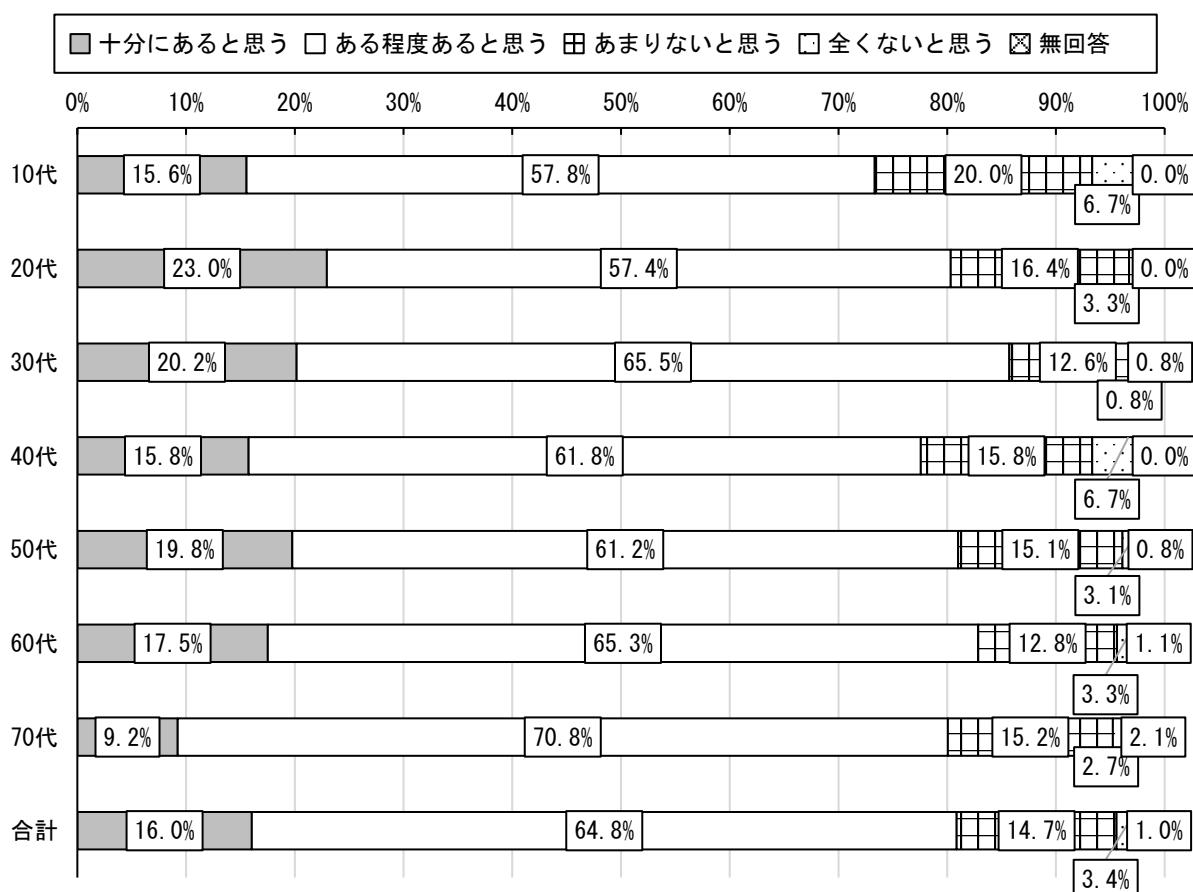


図 164 (成人) 食品の安全性に関する知識、年代

<全国との比較>

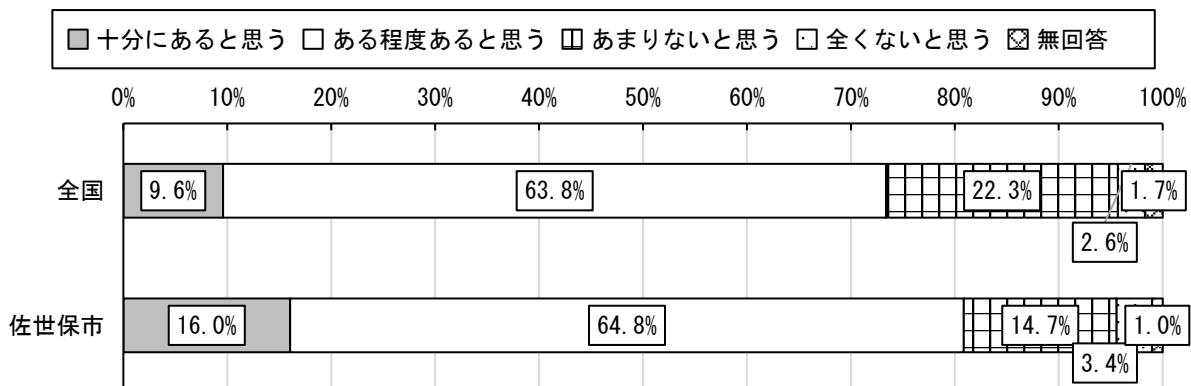


図 165 (成人) 食品の安全性に関する知識、全国との比較

表 33 全国と佐世保市における「食品の安全性に関する知識」

	十分にある と思う	ある程度あ ると思う	あまりない と思う	全くないと 思う	無回答	合計
全国	9.6%	63.8%	22.3%	2.6%	1.7%	100.0%
佐世保市	16.0%	64.8%	14.7%	3.4%	1.0%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 10 食品の安全性について P105

(3) (成人) 食品の安全性に対する判断

(成人) 17 あなたは、安全な食生活を送ることについて、どの程度判断して
いますか。(○はひとつ)

「いつも判断している」「判断している」の合計の割合は、性別では「女性」の方が、年
代では「20代」の方が最も高い。

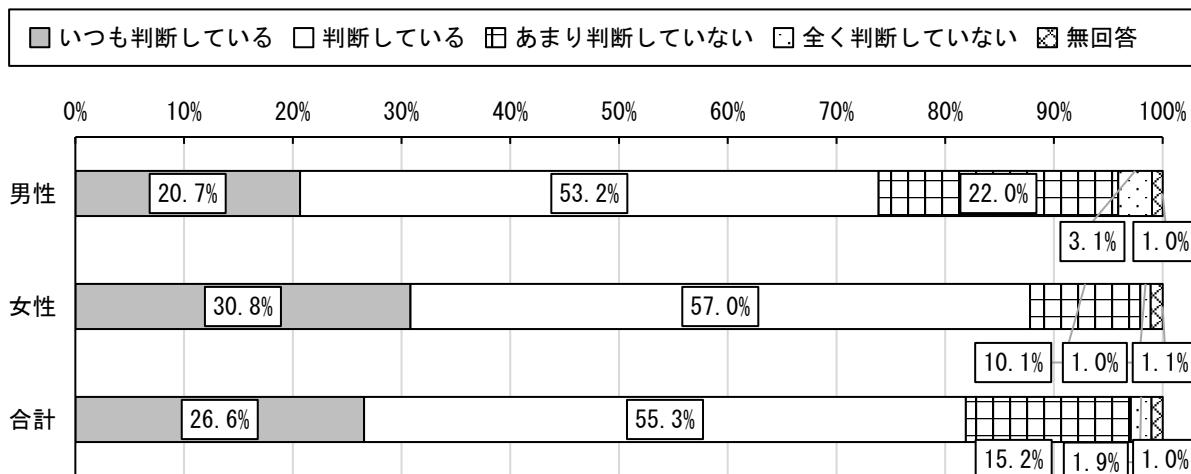


図 166 (成人) 食品の安全性に対する判断、性別

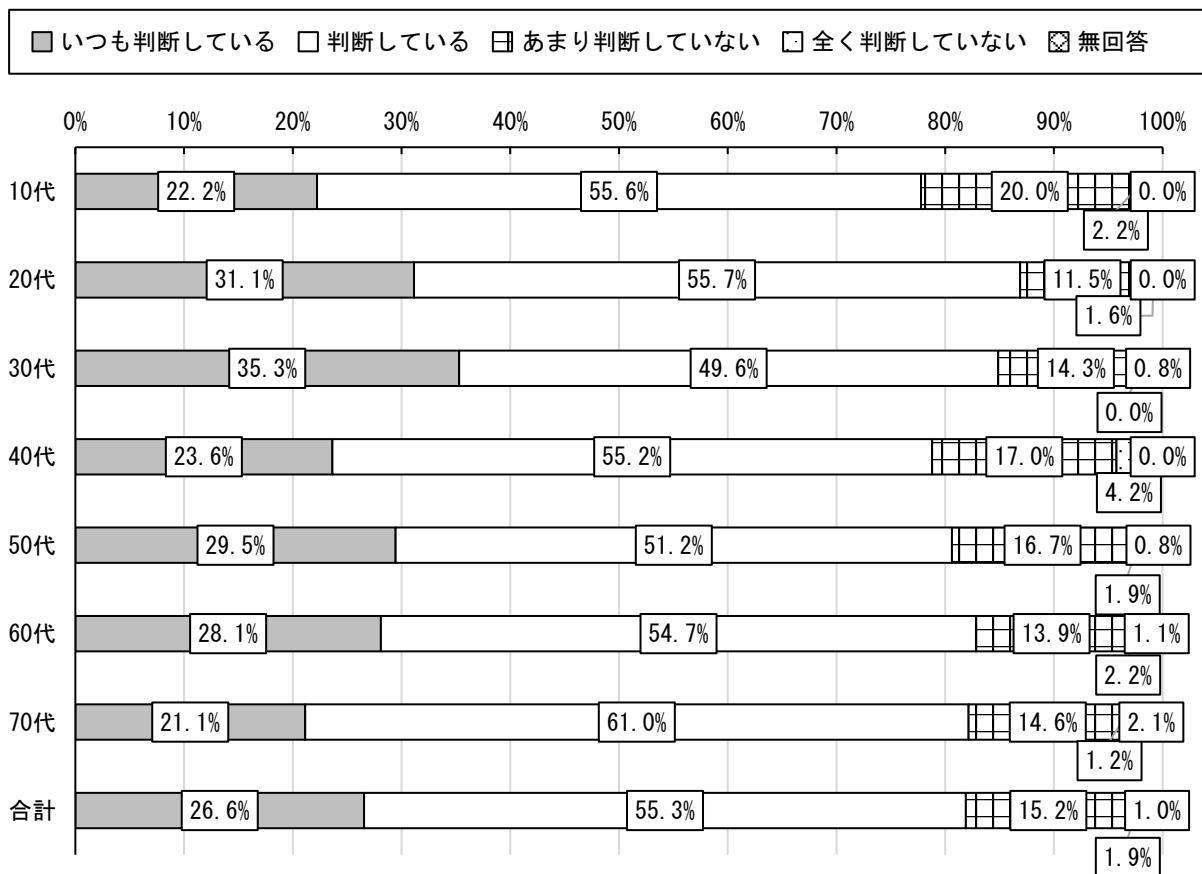


図 167 (成人) 食品の安全性に対する判断、年代

<全国との比較>

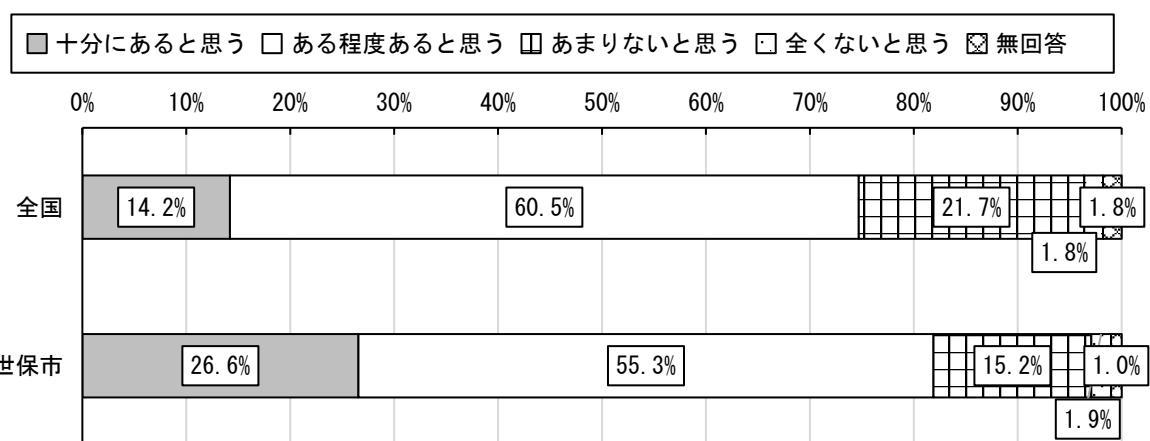


図 168 (成人) 食品の安全性に対する判断、全国との比較

表 34 全国と佐世保市における「食品の安全性に対する判断」

	十分にある と思う	ある程度あ ると思う	あまりない と思う	全くないと 思う	無回答	合計
全国	14.2%	60.5%	21.7%	1.8%	1.8%	100.0%
佐世保市	26.6%	55.3%	15.2%	1.9%	1.0%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 10 食品の安全性について P107

(4) (成人) 非常食の用意

(成人) 21 あなたの世帯では、非常食の食料は、世帯人数分として何日分を想定して用意していますか。(○はひとつ)

非常食を何らかの量を確保しているのは、「女性」の方の割合が高いが、自助の「3日分」は、「男性」の方が高い。年代別に見ると、「全く用意していない」の割合はいずれの年代でも3割程度を占めている。

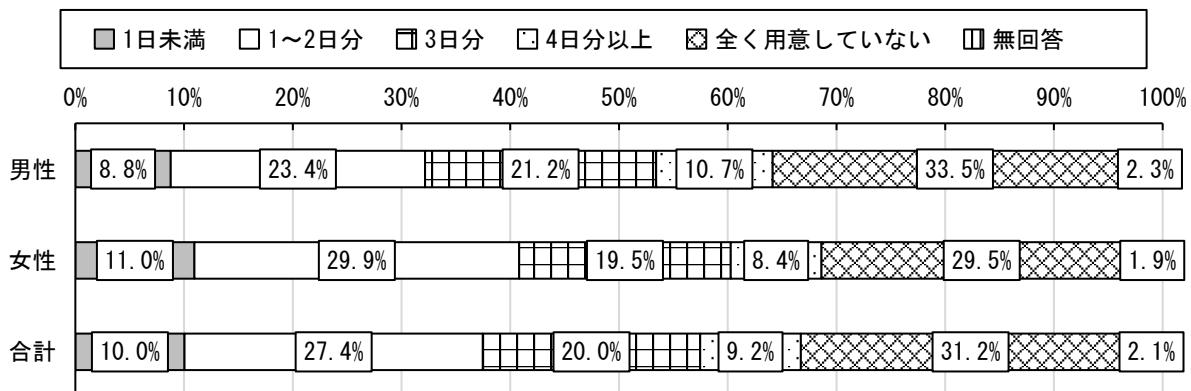


図 169 (成人) 非常食の用意、性別

問2「あなたは『食育』に関する項目（災害時の非常食を常備することに关心を持つ）に取り組んでいますか」とのクロス集計では、「継続して取り組んでいる」「ときどき取り組んでいる」と回答した人より、これ以外を回答した人（「取り組んでいないが、今後取り組んでみたい」「取り組む予定はない」）において、「全く用意していない」と回答する割合が高くなる傾向がある。

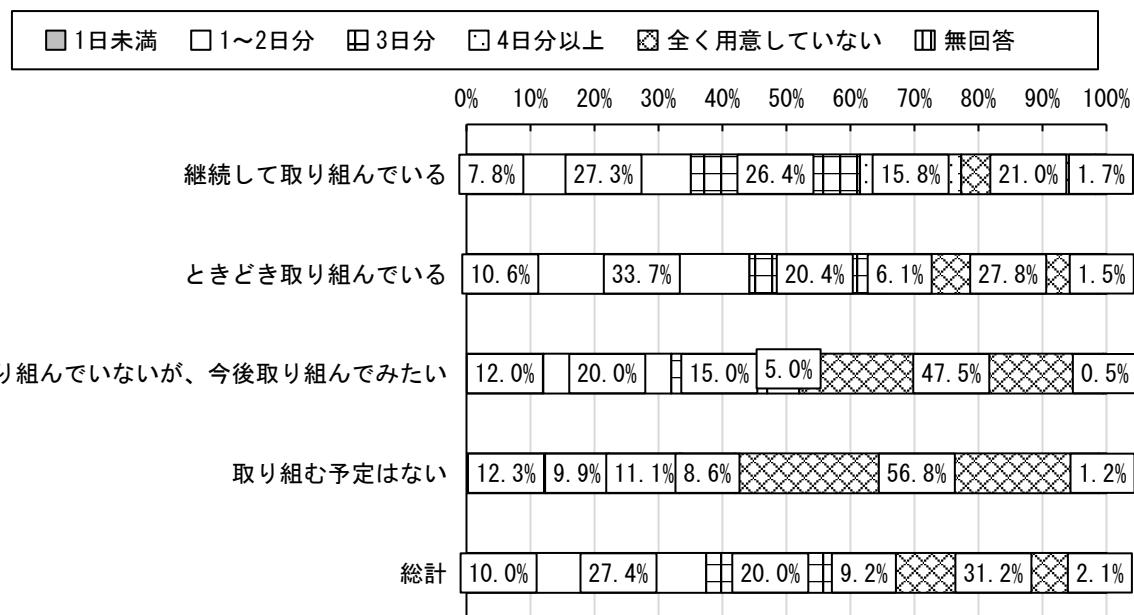


図 170 (成人) 非常食の用意、食育の取り組み(災害)

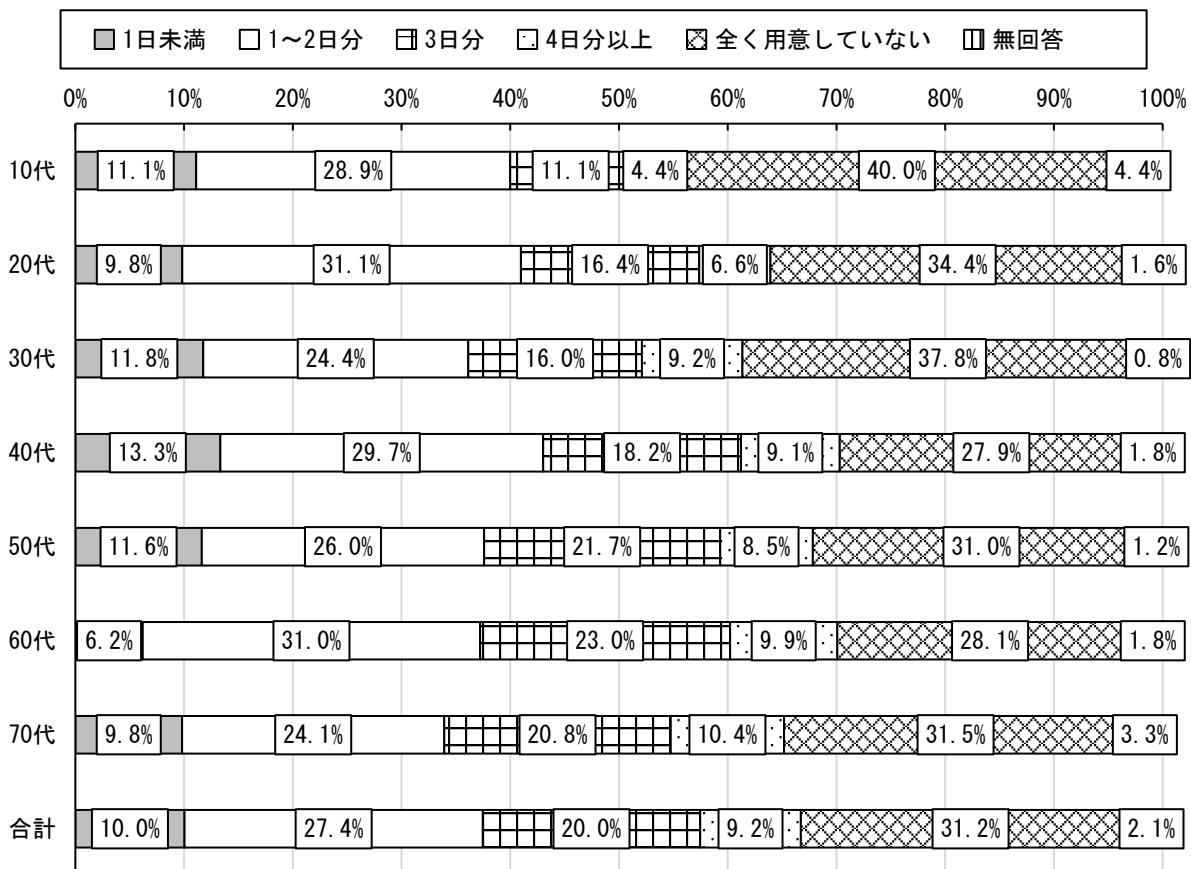


図 171 (成人) 非常食の用意、年代

<全国との対比>

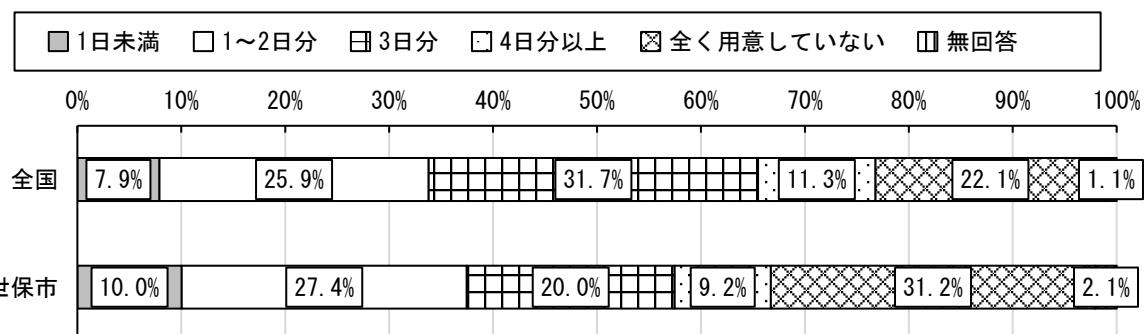


図 172 (成人) 非常食の用意、全国との比較

表 35 全国と佐世保市における「非常食の用意」

	1日未満	1~2日分	3日分	4日分以上	全く用意していない	無回答	合計
全国	7.9%	25.9%	31.7%	11.3%	22.1%	1.1%	100.0%
佐世保市	10.0%	27.4%	20.0%	9.2%	31.2%	2.1%	100.0%

出典元：食育に関する意識調査報告書 令和7年3月 農林水産省 消費・安全局

III 調査結果の詳細 9 非常食の用意について P103

III アンケート調査用紙

一般 (16~79 歳)

未就学児 (5 歳児)

小学 2 年生

小学 5 年生

中学 2 年生